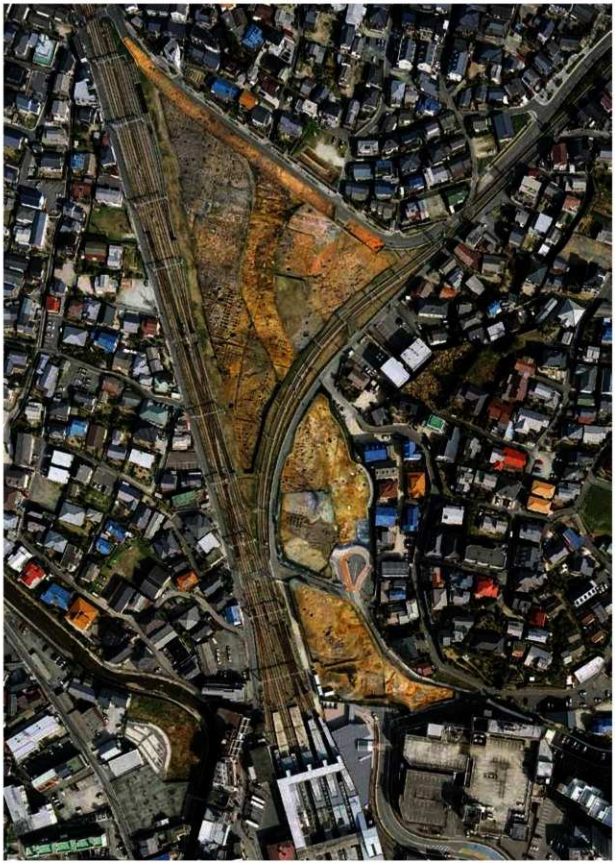
太宰府市の文化財第 124 集

大宰府跡 1

—大宰府条坊跡第 275・285 次調査—

平成 27 年
2015
太宰府市教育委員会



第 275・285 次調査および周辺調査の遺構状況（空中写真接合、上が北）

塼（第 275 次調査 SE055 ウラゴメ）

墨書土師器皿（第 285 次調査 SX030）

序

本書は、太宰府市朱雀３丁目に所在する西日本鉄道二日市操車場跡地の開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。

調査では、大宰府条坊跡内での広範囲にわたる条坊区画や、外国使節を迎えた客館と推定される遺跡が検出されました。その成果をうけて、平成26年10月には、特別史跡大宰府跡に追加指定されました。この報告書は当該地における指定後の初めての報告書となります。

本書が学術研究はもとより文化財への理解と認識を深める一助となり、広く活用され、ひいては文化財愛護の精神が高揚することを心より願っております。

最後になりましたが、本調査に対しご理解ご協力いただきました関係各位ならびに諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

平成27年３月

太宰府市教育委員会

教育長　木村　甚治

例　言

1. 本書は太宰府市朱雀３丁目で行われた特別史跡大宰府跡の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測には、国土調査法第Ⅱ座標系（旧日本座標系）を利用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り G.N.（座標北）を示し、本文中に記される遺構の角度もこれを基準としたものである。
3. 本書に掲載される遺構番号は、以下の要領で理解される。なお遺構の性格を表記する記号については、SA 柵列跡、SB 掘立柱建物跡、SD 溝、SF 道路状遺構、SI 住居跡、SK 土坑、ST 墳墓、SX その他の遺構 などであり、略号として以下のように記載している。

条　275　SA　001

遺跡名　調査次数　遺構種別　遺構番号

4. 遺構の実測は条坊跡 275 次調査については調査受託者が、条坊跡 285 次調査については担当者が行った。航空測量については写測エンジニアリングに委託をした。
5. 調査の空中写真撮影は（有）空中写真企画（代表諫山広宣）が行った。
6. 調査対象地の表土除去及び埋戻しは、（有）松田造園土木（代表松田逸宏）に委託した。
7. 遺物の実測は条坊跡 275 次調査については調査受託者が、条坊跡 285 次調査については担当者が行った他、福井円、吉富千春、久家春美、今岡一恵、山本麻里子が行った。
8. 遺物の整理接合・復元作業は馬場由美、住山景子、末永亜由子が行った。金属製品の整理接合・復元作業・保存処理業務は株式会社タクトに委託した。
9. 遺物の写真撮影は（有）システム・レコ（代表仲村定美）に委託をした。
10. 表入力・写真整理は瀬戸口みな子、市川晴美、吉村有紀、福井、吉富が行った。
11. 図の浄書は調査担当者および遺物実測者が行った。またデジタルトレースについては担当者および、瀬戸口、市川、吉村が行った。他に一部、株式会社アーキジオ九州に委託をした。
12. 本書に用いた分類は以下のとおり。

須恵器・・・『宮ノ本遺跡Ⅱ　－窯跡篇－』（太宰府市の文化財第 10 集）1992
陶磁器・・・『大宰府条坊跡 XV　－陶磁器分類－』（太宰府市の文化財 第 49 集）2000
土器・・・・『大宰府条坊跡 II』（太宰府市の文化財第７集）1983
瓦・・・・・『大宰府史跡出土軒瓦・叩打瓶文字瓦型式一覧』2000　九州歴史資料館
『宝満山遺跡４』（太宰府市の文化財第７９集）2005
瓦質・土師質土器・・・山村信榮「太宰府出土の瓦質土器」『中世土器の基礎研究 VI』1990

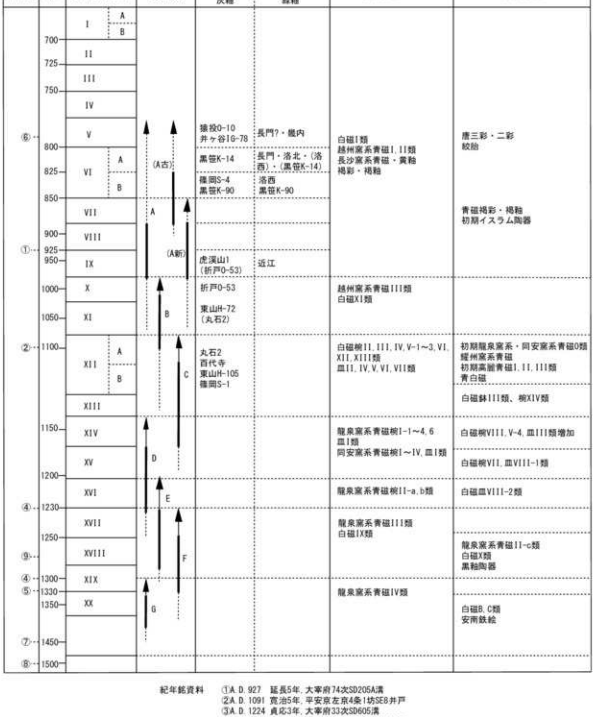
13. 調査及び整理に関して、次の方々から有益なご教示を得た。記して感謝します。

（順不同・敬称略、なお肩書きは当時のもの）
小田富士雄（福岡大学名誉教授）、西谷正（九州歴史資料館館長）、坂上康俊（九州大学院教授）、馬田弘稔（元九州歴史資料館）、山中章（元三重大学教授）、佐藤信（東京大学教授）、上原真人（京都大学教授）、木下尚子（熊本大学教授）、稲田孝司（元岡山大学教授）、近江俊秀、山下信一郎、浅野啓介、内田和伸（文化庁記念物課）、大庭康時、吉武学、中村啓太郎、比佐陽一郎、久住猛雄（福岡市文化財部）

14. 本書の執筆は目次及び各報告末尾に記す。なお編集は高橋　学が担当した。

目　次

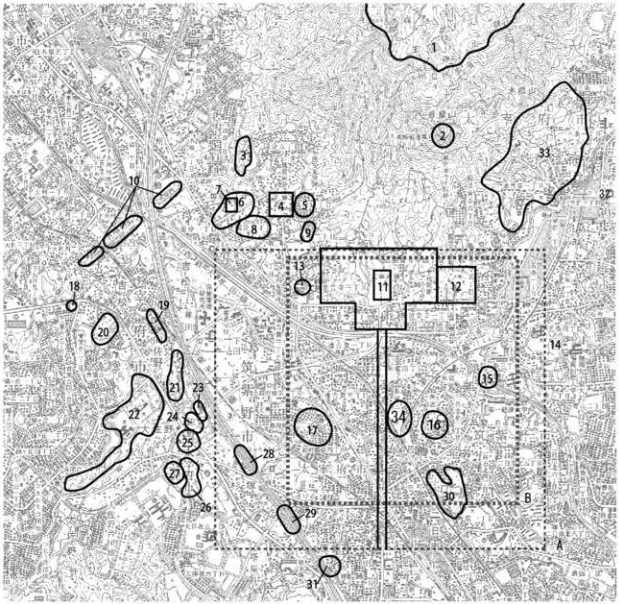
I. 遺跡の位置と歴史・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（髙橋　学）
II. 調査体制
III. 調査および整理方法
IV. 調査報告
　1. 大宰府条坊第 275 次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（中島　恒次郎）
　　(1) 調査に至る経過
　　(2) 基本層位
　　(3) 遺構
　　(4) 遺物
　　(5) 小結
　2. 大宰府条坊第 285 次調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（髙橋　学）
　　(1) 調査に至る経過
　　(2) 基本層位
　　(3) 遺構
　　(4) 遺物
　　(5) 小結
V. 調査のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（髙橋　学）



紀年銘資料　①A.D. 927　延長5年, 大宰府74次SD205A溝
②A.D. 1091　寛治5年, 平安京左京4条1坊SE8井戸
③A.D. 1224　貞応3年, 大宰府33次SD605溝
④A.D. 1304　嘉元2年, 大宰府109, 111次SD3200溝
⑤A.D. 1330　元徳2年, 大宰府45次SX1200池
⑥A.D. 784　延暦3年, 長岡京102次SD10201溝
⑦A.D. 1459・1465　長禄3・寛正5年, 福岡市井相田C11・SG16池
⑧A.D. 1501　文亀元年, 大宰府70次SD1805溝
⑨A.D. 1265　文永2年, 博多62次713土壙

文献　①九州歴史資料館　「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
②田辺昭三・吉川義彦　「平安京跡発掘調査報告左京四条一坊」1975 平安京調査会
③九州歴史資料館「大宰府史跡昭和49年度発掘調査概報」1975
④九州歴史資料館「大宰府史跡昭和63年度発掘調査概報」1989
⑤九州歴史資料館「大宰府史跡昭和52年度発掘調査概報」1978
⑥長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京市埋蔵文化財調査報告書第1集」1988
⑦福岡市教育委員会「井相田C遺跡II」「福岡市埋蔵文化財調査報告書179」1988
⑧九州歴史資料館「大宰府史跡昭和56年度発掘調査概報」1982
⑨福岡市教育委員会「博多4b」「福岡市埋蔵文化財調査報告書397」1995

Fig. 1　大宰府土器型式と国産陶器・貿易陶磁編年



1. 大野城跡
2. 岩屋城跡
3. 陣ノ尾遺跡
4. 筑前国分寺跡
5. 辻遺跡
6. 国分松本遺跡
7. 筑前国分尼寺跡
8. 国分千足町遺跡
9. 御笠団印出土地
10. 水城跡
11. 大宰府政庁跡
12. 観世音寺
13. 遠賀団印出土地
14. 五条遺跡（峯薬師）
15. 君畑遺跡
16. 般若寺跡
17. 市ノ上遺跡
18. 神ノ前窯跡
19. 原口遺跡
20. 篠振遺跡
21. 前田遺跡
22. 宮ノ本遺跡
23. 鷺川遺跡
24. フケ遺跡
25. 尾崎遺跡
26. 脇道遺跡
27. 殿城戸遺跡
28. 剣塚遺跡
29. 唐人塚遺跡
30. 峯・峯畑遺跡
31. 桶田山遺跡
32. 太宰府天満宮（安楽寺跡）
33. 原遺跡
34. 客館跡（報告地点）
A　大宰府条坊跡（鏡山案）
B　大宰府条坊跡（井上案 政庁Ⅱ・Ⅲ期）

Fig. 2　太宰府市とその周辺の遺跡（1/30000）

Fig. 3　調査地と周辺調査地点図（1/5000）

I. 遺跡の位置と環境

太宰府市は福岡県の中央部に位置し、福岡市の南東約 16km 付近に立地する。北は四王寺山、東に宝満山があり、市を縦貫する御笠川は、宝満山に源を発して市街地を通り、途中鷺田川、大佐野川と合流し、特別史跡水城跡を越えて、末は博多湾に注いでいる。地理的には福岡市から久留米に抜ける交通路の要所に位置し、南北の山稜に挟まれた峡間地である。

こうした地理的環境にある大宰府市では、後期旧石器時代以降、現在にいたるまで継続的に人類の活動があったことが考古学的資料で確認されている。とくに注目されるのは、律令官衙「大宰府」が置かれた古代、少弐氏が活躍した中世前期である。大宰府は古代における地方最大の官衙であり、大宰府条坊跡と呼称される都市空間が広がりそこでは東西・南北を碁盤の目のように区画したいわゆる条坊制が敷かれていた。また古代から中世にかけての九州の政治の中心であり、東アジア地域と日本列島を結び対外的な窓口でもあった。

さて、本書で紹介する第 275・285 次調査区は、太宰府市と筑紫野市の市境にある西鉄二日市駅の北西に所在する。古代においては先述した大宰府条坊跡内で、条坊跡の中心近くに位置し、条坊跡の中央を通る朱雀大路の東側に隣接していた。北には菅原道真の謫居地として知られる府の南館（現在の榎社）に近く、東は古代寺院般若寺が置かれた丘陵と隣接している。この土地は、元来西日本鉄道株式会社（以下、西鉄）の所有地で昭和 61 年ごろまで電車の操車場として利用されていた。その後は積極的な利用はされず、操車場関連の建物が残されていた。平成 8 年度に北側を通る市道（御垣野隈野線）の拡張、平成 17 年度の県道観世音寺二日市線の新設に伴い、操車場跡地の中央を道路が走ることになった。その後、広大な操車場跡地の利用について、西鉄から土地利用の開発計画が持ち上がり、それに伴い埋蔵文化財の緊急発掘調査を行った。発掘調査の結果、古代大宰府を理解する上で、重要な遺跡であることがわかり、保存を目的とした遺跡の内容確認調査に切り替えて、調査を終了した箇所については埋戻し保存をした。調査により広範囲にわたり大宰府条坊跡の条坊区画が良好な状態で確認され、また、出土した遺構・遺物の内容から奈良時代から平安時代の初め頃に外国使節を迎え入れた客館跡と推定される遺跡であることがわかった。遺跡の内容が、古代の外交儀礼を理解する上でも、また大宰府の都城整備の在り方を理解する上でも大宰府跡と切り離せない遺跡と考えられたため、大宰府跡と一体的に指定・保護されることを目的に、史跡の追加指定手続きをすすめた。平成 26 年 1 月、文化庁に当該地の追加指定についての意見具申を提出し、平成 26 年 10 月 6 日の文部科学省官報告示により、特別史跡大宰府跡に追加された。

参考文献

『大宰府条坊跡 44』太宰府市の文化財第 122 集　2014　太宰府市教育委員会

II. 調査組織

各年次の調査体制は以下の通りである。

(平成 20 ／ 2008 年度)

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	松田幸夫
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	菊武良一
	調査係長	永尾彰朗
	主任主査	吉原慎一
		齋藤実貴男
調査	主任主査	城戸康利
		山村信榮
		中島恒次郎（第 275 次調査監理担当）
	技術主査	井上信正（全体統括）
	主任技師	高橋　学
		宮崎亮一
	技師（嘱託）	柳　智子、下高大輔、大塚正樹

(平成 21 ／ 2009 年度)

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	山田純裕
	文化財課長	齋藤廣之
	保護活用係長	菊武良一
	調査係長	永尾彰朗（～ 6 月 30 日）
		井上　均（7 月 1 日～）
	主任主査	吉原慎一
		齋藤実貴男
調査	主任主査	城戸康利（都市整備課併任）
		山村信榮
		中島恒次郎（第 275 次調査監理担当）
		井上信正（全体統括）
	技術主査	宮崎亮一
	主任技師	高橋　学
	技師	遠藤　茜
	技師（嘱託）	柳　智子

(平成 22 ／ 2010 年度)

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	山田純裕
	文化財課長	井上　均
	保護活用係長	菊武良一

	調査係長	池本義彦
	主任主査	吉原慎一
	事務主査	橋川史典
調査	主任主査	城戸康利（都市整備課併任）
		山村信榮
		中島恒次郎
		井上信正（全体統括）
	技術主査	髙橋　学（第 285 次調査担当）
		宮崎亮一
	技師	遠藤　茜
	技師（嘱託）	白石渓冴（第 285 次調査担当）

（平成 23 ／ 2011 年度）

総括	教育長	關　敏治
庶務	教育部長	齋藤廣之
	文化財課長	井上　均
	保護活用係長	菊武良一
	調査係長	池本義彦
	事務主査	橋川史典
	主事	古川あや
調査	主任主査	山村信榮
		中島恒次郎
		井上信正（全体統括）
	技術主査	髙橋　学（第 285 次調査担当）
		宮崎亮一
	主任技師	遠藤　茜
	技師（嘱託）	白石渓冴（第 285 次調査担当）

（平成 25 ／ 2013 年度）

総括	教育長	木村甚治
庶務	教育部長	今泉憲治
	文化財課長	菊武良一
	文化財副課長	城戸康利
	保護活用係長	友添浩一
	調査係長	山村信榮
	事務主査	橋川史典（～ 6 月 30 日）
		廣見京子（7 月 1 日～）
	主事	古川あや
		有田ゆきな
調査	主任主査	井上信正
		髙橋　学（報告担当）
		宮崎亮一

	主任技師	遠藤　茜
	技師	沖田正大（10月1日～）
		中村茂央（10月1日～）
都市計画課		
景観・歴史のまち推進係		
	係長	中島恒次郎（文化財課事務取扱）（報告担当）

（平成26／2014年度）

総括	教育長	木村甚治
庶務	教育部長	堀田徹
	文化財課長	菊武良一
	文化財副課長	城戸康利
	保護活用係長	友添浩一
	調査係長	山村信榮
	事務主査	廣見京子
	主事	有田ゆきな
		久木原駿史
調査	主任主査	井上信正
		高橋　学（報告担当）
		宮崎亮一
	主任技師	遠藤　茜
	技師	沖田正大
		中村茂央
都市計画課		
景観・歴史のまち推進係		
	係長	中島恒次郎（文化財課事務取扱）（報告担当）

III. 調査および整理方法

太宰府市教育委員会では、1979（昭和54）年から現在まで市の事業の一環として、埋蔵文化財包蔵地区内の埋蔵文化財発掘調査を行ってきた。調査方針や整理方法についての詳細は参考文献に当たって頂きたい。この調査方針ならびに、太宰府市発掘調査整理指針を元に太宰府市の調査・整理方法については熟成が為されてきた。今回の調査地についての調査方針やその保存に至る経緯については『大宰府条坊跡44』にくわしいので参照して頂きたい。

【参考文献】

『大宰府条坊跡』太宰府町の文化財第5集　1982　太宰府市教育委員会
『太宰府・佐野地区遺跡群I』太宰府市の文化財第14集　1989　太宰府市教育委員会
『大宰府条坊跡44』太宰府市の文化財第122集　2014　太宰府市教育委員会

Ⅳ. 調査報告

大宰府条坊跡　第 275 次調査

1．調査に至る経緯

平成 17 年度より西日本鉄道㈱所有地について、調査原因者である西日本鉄道㈱（以下、「原因者」と記載）より委託を受け、埋蔵文化財の記録保存のために大宰府条坊跡として、順次、255 次・257 次・267 次調査として実施してきた。遺構状況については、周辺で実施してきた過去の調査情報ならびに当該地の確認調査の結果から、ある程度の想定を行い、西日本鉄道㈱との協議で 5 ヶ年の調査期間での合意を図っていた。しかし、広い面積の調査を実施するにつれ、遺構・土層が複雑に把握できることが明らかになり、当初、原因者と合意を得ていた 5 ヶ年での完了が困難となりつつあった。このことから、本市が行っていた埋蔵文化財の記録保存調査を外部へ委託する手法を取り入れ、発掘調査ならびに遺物洗浄等整理作業の一部までを委託事業として実施した。

指名競争入札の結果、㈱アーキジオが受託し、市教委の監理のもと発掘調査ならびに整理作業の一部（遺物洗浄→選別作業→報告遺物への注記、及び現場記録物の整理）を実施している。調査ならびに整理期間は、平成 20(2008) 年 8 月 6 日から平成 21(2009) 年 3 月 31 日の期間を野外での発掘調査に、その後すみやかに、平成 21(2009) 年 4 月 1 日から平成 21(2009) 年 6 月 10 日にて整理作業を実施している。

調査および整理作業を森隆・野浩一（㈱アーキジオ）が、調査および整理作業の監理を中島恒次郎（太宰府市教育委員会）が担当した。調査面積は 1,600 ㎡。

なお、太宰府市が実施する委託調査の際の取組みについては、既に記してきているため、そちらを参照いただきたい（太宰府市教育委員会、2008）。

【文献】

『大宰府条坊跡　35』太宰府市の文化財第 96 集　2008　太宰府市教育委員会

2．基本土層（Fig.4）

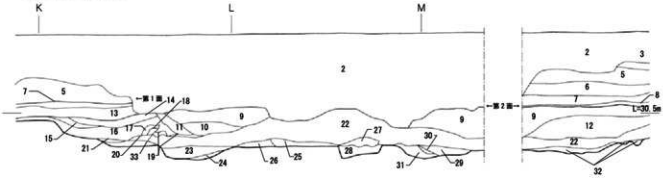
自然地形上、調査区西側から東へむけて般若寺丘陵が立ち上がり、それに伴い基盤層である花崗岩がせり上がっている。この関係から、遺構面も調査区の西約 2/3 程度は 2 面で形成されており、残る東 1/3 ほどは花崗岩基盤層が露出し、かつ操車場として機能していた時の削平によって多くの遺構が欠失してしまっている。

このような地形条件の上に、今回報告する遺構群が確認できた。

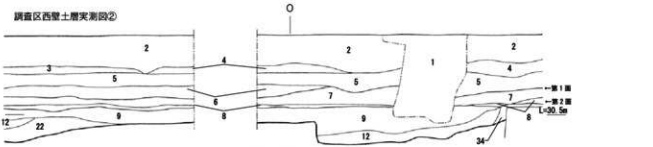
上位から述べると、表層より約 1.0m ～ 1.2m 程が旧西鉄操車場跡地の造成土で、その下に黄褐色系の遺物包含層が検出できる。その下位に今回報告する第 1 遺構面が灰色ないし茶灰色系の遺構基盤の上展開している。この第 1 遺構面下の灰色ないし茶灰色系の遺構基盤層 0.2m 程を除去すると黄茶ないしは白灰色系の砂ないしは粘質土を基盤とする第 2 遺構面が検出される。この第 2 遺構面を形成する基盤層の質の違いは、黄茶色粘質土下に砂層があり、第 2 遺構面を形成する遺構群の中で、深く掘り込む井戸などが、黄茶色粘質土下位まで掘り込んでおり、さらに下の砂層を出している。

調査区北側に検出した条路については、河川堆積様の水成堆積で、道路というよりは溝と考えた方がよいような状況を呈している。この点については、遺構解説の項にて詳述する。

調査区西壁土層実測図①



調査区西壁土層実測図②

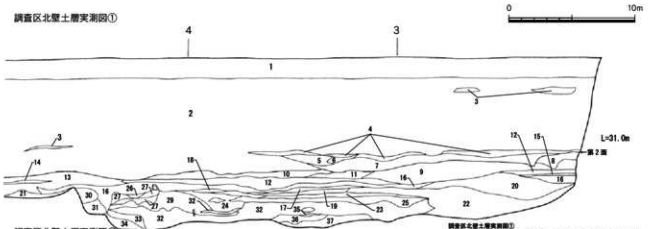


調査区西壁土層実測図①②

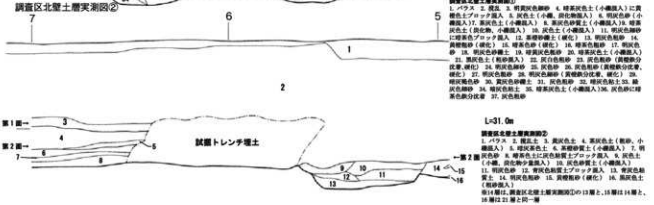
1. 盛土（コンクリート） 2. 盛土 3. 明黄灰色砂砂 4. 明灰色土（腐植） 5. 黄褐色土（粘砂混入） 6. 暗灰色土 7. 黒灰色土 8. 黒灰色土に炭化物混入 9. 灰色粘土 10. 灰色粘質土 11. 灰色粘土（黄橙色小ブロック土、炭化物混入） 12. 暗黒色土（炭化物少量混入） 13. 明黄褐土に粘砂混入 14. 灰色粘質土に炭化物、粘砂混入 15. 灰色砂質土 16. 黄橙粘質土に灰色粘質土混入 17. 黒灰色粘質土 18. 灰色粘質土に黄橙土ブロック混入 19. 暗灰色粘質土に暗黒色土混入、炭化物少量混入 20. 灰色砂質土 21. 灰色粘質土、炭化物混入 22. 暗黒灰褐質土に炭化物少量混入 23. 灰色粘土 24. 明灰色粘砂 25. 明灰色粘砂 26. 黒灰色粘砂 27. 明灰色粘砂 28. 黒灰色粘土 29. 明灰色粘砂 30. 灰色砂質土 31. 明灰色粘砂 32. 明灰色砂 33. 黒灰色粘質土 34. 黒灰色粘質土（黒褐色）

※17～19：275S3060 橋脚ならびに堆積土　23：275SD050 堆積土　24：275SD275 堆積土
27・28：275SD257 堆積土　29：275SD255 堆積土　30・31：275SD265 堆積土　32：275SD260 堆積土

調査区北壁土層実測図①



調査区北壁土層実測図②



調査区北壁土層実測図①②

1. パラス 2. 盛土 3. 明黄灰色砂砂 4. 暗黒灰色土（小礫混入）に黄橙色土ブロック混入 5. 灰色土（小礫、炭化物混入）6. 明灰色砂（小礫混入）7. 黒灰色土（小礫混入）8. 黒灰色砂質土（小礫混入）9. 暗黒灰色土（炭化物、小礫混入） 10. 灰色土（小礫混入） 11. 明灰色砂砂に暗黒色ブロック混入 12. 黒褐砂礫土（硬化） 13. 明灰色砂砂 14. 黒褐砂礫（硬化） 15. 暗黒色砂（硬化） 16. 暗黒色粘砂 17. 明灰色砂 18. 明灰色砂礫土 19. 暗黒灰色粘砂 20. 暗黒灰色土（小礫混入） 21. 黒褐色土（粘砂混入） 22. 灰白色粘砂 23. 灰色粘砂 24. 灰色粘砂（黄橙砂少量、硬化） 25. 明灰色粘砂 26. 灰色粘砂（黄橙砂少量、硬化） 27. 明灰色粘砂 28. 明灰色粘砂（黄橙砂少量、硬化） 29. 暗灰褐色砂 30. 黒灰色砂礫土 31. 灰色粘砂 32. 暗灰色粘土 33. 黒灰色粘砂 34. 暗灰色粘土 35. 暗黒灰色土（小礫混入）36. 灰色砂に暗黒色砂少量 37. 灰色粘砂

調査区北壁土層実測図①②

1. パラス 2. 盛土 3. 灰白色土 4. 黒灰色土（粘砂、小礫混入） 5. 暗灰茶色土 6. 黒褐砂質土（小礫混入） 7. 明黄色砂 8. 暗茶色土に灰色粘質土ブロック混入 9. 灰色土（小礫、炭化物少量混入） 10. 灰色砂質土（小礫混入） 11. 明灰色砂 12. 明灰色粘質土ブロック混入 13. 明灰色粘質土 14. 明灰色粘砂 15. 黄橙粘砂（硬化） 16. 黒灰色土（粘砂混入）

※14層は、調査区北壁土層実測図②の13層と、15層は14層と、16層は21層と同一層

Fig.4　条坊275次基本土層実測図（1/30）

3．遺構

(1) 第１面遺構 (Fig. 5)

1.0m ～ 1.2m 程の撹乱土を除去すると黄褐色系の遺物包含層が堆積し、それを除去すると第１面の遺構検出面が現れる。第１面として検出した主な遺構は、井戸２基、溝７条、土坑３基で、その他性格不明の小穴などが多数検出できている。調査区の東部 1/3 程は、花崗岩が露出しており、多くの遺構は欠失し操車場時代の撹乱が多く確認できている。

a. 井戸

275SE005

調査区南西部にて検出したもので、直径 2.6m ～ 2.8m を測る略楕円形で、残存する深さ 1.64m を測る。明確な井戸枠材の検出はできなかったが、完掘時の遺構形状から当該調査区で検出した他の枠材残存遺構同様に、四角形の井戸枠があったものと推定できる。遺構内堆積土は上位まで盆状堆積が観察でき、このことから井戸枠材が他所に転用された可能性がある。

275SE179

調査区北東部に検出したもので、長軸長 1.9m、短軸長 1.6m を測る楕円形を呈している。残存する深さは 1.3m を測り、最下部に直系 0.8m の円形の小土坑状を呈している。遺構内には茶灰色土 (新) ←茶灰色砂質土←黄茶色粘質土 (古) が上位より堆積している。獣骨が出土していることから生活残滓が廃棄されているものと考えられる。

b. 溝

275SD001

調査区南部を東西に検出した溝で、幅 0.53m ～ 0.6m、検出長 12m、残存する深さ 0.04m ～ 0.06m を測る。灰色土が堆積し、275SE005 を切っている。

275SD015

調査区南東部に検出した溝で、東西報告の溝が途中で南北溝へと屈曲する。幅 1.9m 前後、検出長 2.7m、残存する深さ 0.3m を測る。溝内には、粘土・砂質系の土が堆積し、いずれも自然堆積と考えられる (Fig. 6)。

275SD020

調査区中央に検出した溝で、幅 0.46m ～ 0.64m を測り、検出長 17m、残存する深さ 0.14m ～ 0.18m 程度を測る。溝内には下方粗粒化傾向の堆積物が観察でき、自然堆積と考えられる (Fig. 6)。

275SD030

調査区中央部に曲折する形で検出できた溝。275SD015 ならびに 275SD020 に切られている。幅 0.96m ～ 1.36m、検出長 17m、残存する深さ 0.24m ～ 0.34m 程を測る。灰色土←茶灰色土と上位より堆積している。

275SD035

調査区西部において南北溝として検出した。下位の遺構として坊路を検出したことを考慮すると、坊路の名残として溝が継続したと考えられる。幅 0.8m ～ 2.3m、検出長 39.6m、残存する深さ 0.12m ～ 0.32m を測る。溝内には茶灰色土が堆積している。

275SD040

調査区南端にて検出した略東西溝で、北東部から南西部へやや湾曲気味に曲がる傾向を示している。幅 2.52m ～ 3.06m、検出長 26.4m、残存深さ 0.06m ～ 0.51m を測る。茶灰色土が均質に堆積し、部分的に下位に明灰色シルトが堆積している。

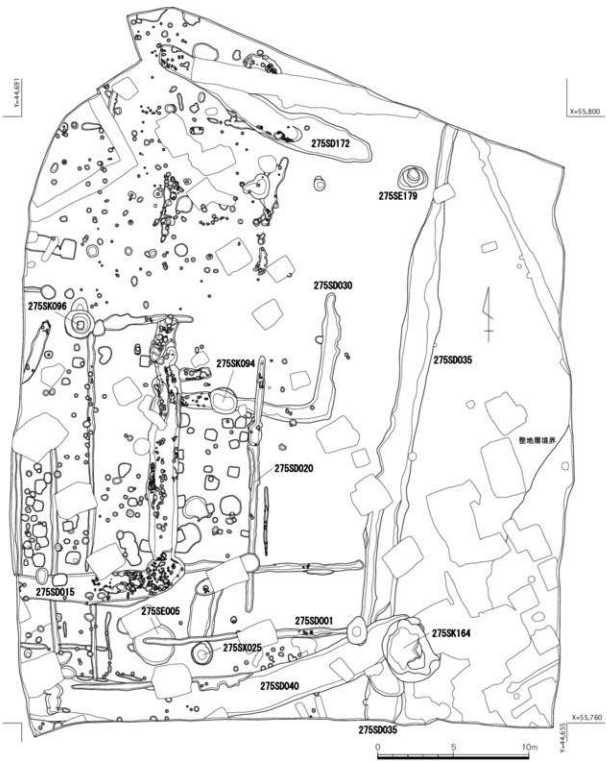


Fig. 5　条坊 275 次第 1 面遺構配置図（1/250）

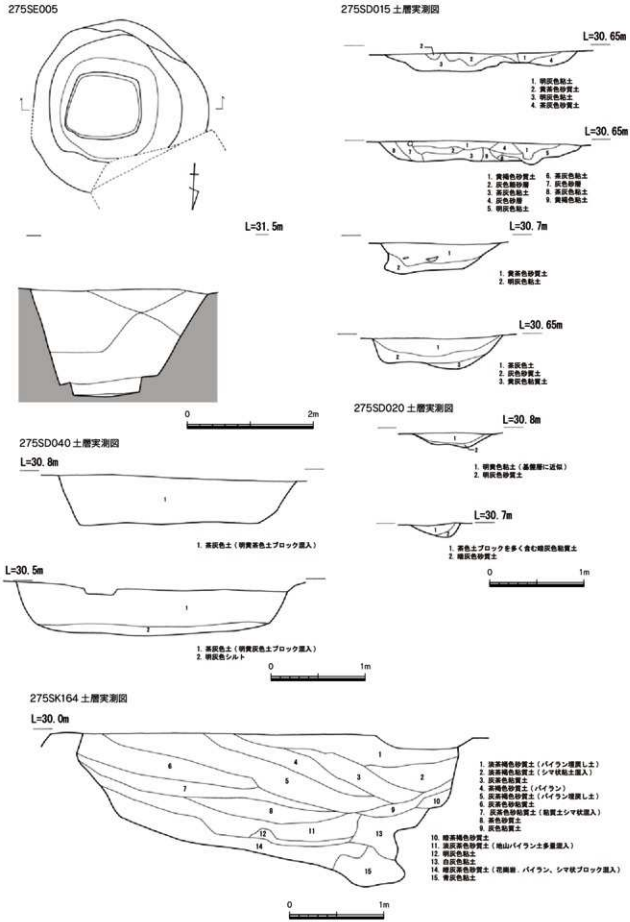


Fig.6　条坊 275 次第 1 面遺構実測図および土層実測図（1/40）

275SD172

調査区北部にて検出できた長土坑的なもの。最大幅 2.52m 程を測り、東西端で欠失している。検出長 15.8m、残存する深さ 0.27m 程を測る。溝内には暗茶色土←灰色粘質土が堆積している。

c. 土坑

275SK025

調査区南部にて検出したもので、直径 1.4m を測る略円形を呈している。残存する深さは 0.24m を測る。当初井戸ではないかと考え調査を進めたが、茶灰色土←茶色土←灰色砂質土が上位より堆積し、井戸を考慮させる枠材やその痕跡が観察できなかったため土坑と判断した。

275SK096

調査区西部中央付近に検出したもので直径 2.0m 程を測る略円形の土坑で、残存する深さは 1.67m を測る。内部から炭化物を多く混入した茶灰色土が堆積し、併せて土師器鍋、木材が投棄された状況で検出されている。完掘した結果、最下部から略方形の小穴が確認できていることから、井戸の可能性を残す。

275SK164

調査区南東部にて検出したもので、長軸長 4.56m、短軸長 3.1m を測り、残存する深さ 1.6m を測る。調査区南側から北側へ投棄したような土層が観察できている（Fig. 6）。

(2) 第 2 面遺構 (Fig.7)

a. 掘立柱建物

275SB195

調査区南西部にて検出したもので、3 間 ×5 間の東西棟で、柱穴間総距離は、梁行 6.05m、桁行 11.63m、各柱間の平均距離は梁行 2.36m、桁行 2.01m を測る。桁行方向はほぼ東西軸に沿う。柱穴掘方は、平面略方形のものが多いが、中には崩れた四角形のものもある。保存が決定されたため、北西端の柱穴 f と南東端の柱穴 m のみを土層観察を行った。柱痕跡は 1 本のみで、ウラゴメ土として黄灰色粘土ブロックを混入する灰色粘土で構成されている（Fig. 8）。

275SB225

調査区西端で検出したもので、調査区外へ展開していることから全形を明らかにし難い。3 間 ×2 間以上の総柱建物。柱穴間総距離は、確認できる南北方向で 4.56m、各柱間の平均距離は 1.52m を測る。建物の南北軸方向は N0° 15’ 16” E で、柱穴掘方は、やや大型の長方形を呈している。

275SB385

調査区中央部にて検出したもので、275SD212 に切られており、恐らく 275SB195 同様に 3 間 ×5 間の東西棟であると考えられるが、全形を明らかにし難い。柱穴間総距離は、残存する梁行 5.99m、桁行 9.34m、各柱間の平均距離は梁行 1.99m、桁行 1.86m を測る。桁行方向はほぼ東西軸に沿う。柱穴掘方は、平面略方形のものが少なく、崩れた四角形のものが多い。保存が決定されたため、北東端の柱穴 a と南西端の柱穴 g のみを土層観察を行った。柱痕跡は 1 本のみで、ウラゴメ土として灰色粘土で構成されている（Fig. 8）。

275SB390

調査区中央部で検出できたもので、先の 275SB385 の内部にて検出されている。前後関係については明らかにし得ていない。また、275SD212 に切られている。1 間 ×2 間の南北棟で、柱穴間総距離は、梁行 2.1m、桁行 3.52m、各柱間の平均距離は梁行 2.1m、桁行 1.76m を測る。桁行方向はほぼ南北

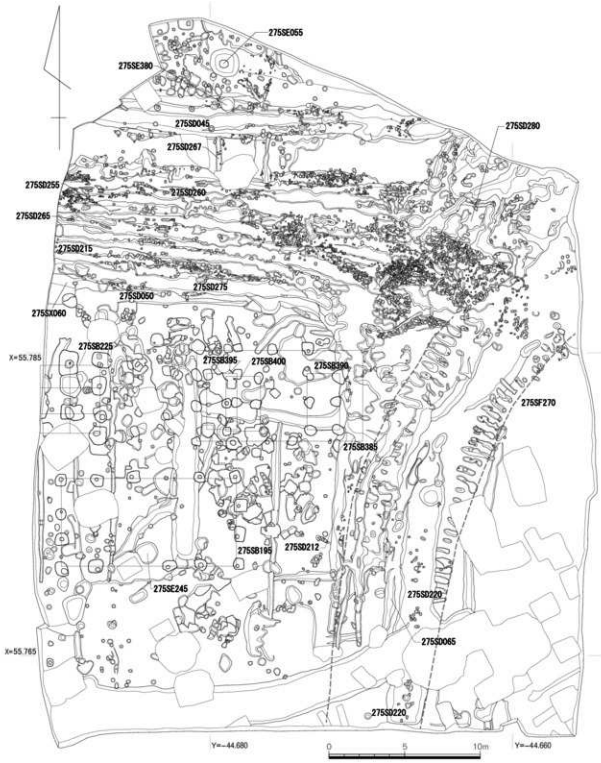


Fig. 7　条坊 275 次第 2 面遺構配置図（1/250）

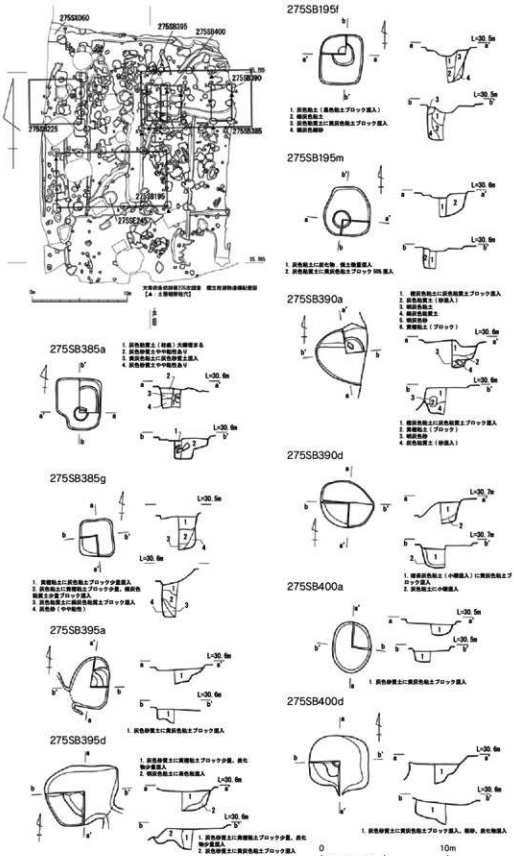


Fig. 8　条坊 275 次掘立柱建物遺構配置図（1/400）及び柱穴土層実測図（1/30）

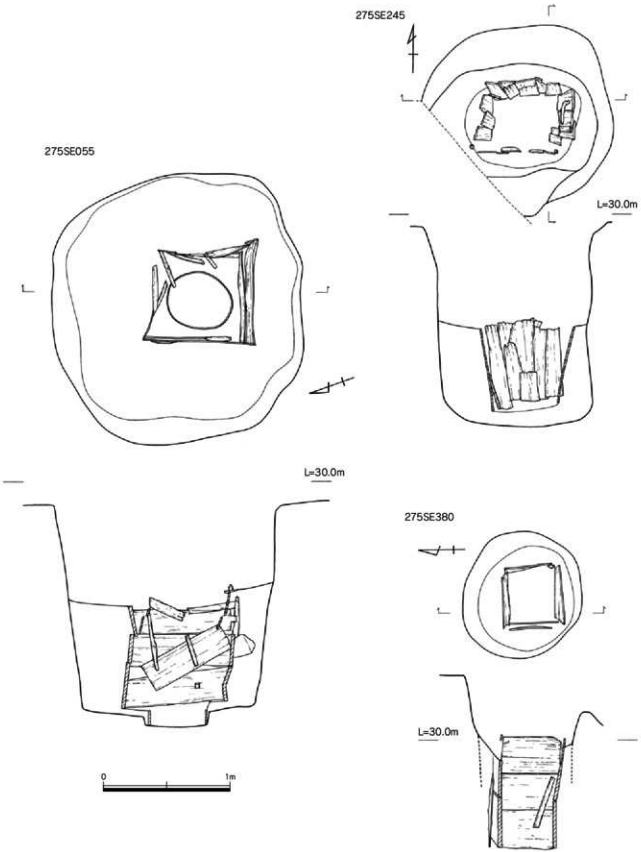


Fig.9　条坊275次第2面検出井戸遺構実測図（1/30）

軸に沿い、柱穴掘方は、不整形のものが多い。保存が決定されたため、北東端の柱穴ａと南西端の柱穴ｄのみを土層観察を行った。柱痕跡を明確に確認できていない（Fig. 8）。

275SB395

調査区中央部で検出できたもので、先の 275SB385 の内部にて検出されている。前後関係については明らかにし得ていない。また東に隣接している 275SB400 には柱ａ部分で切られている。1 間 ×2 間の南北棟で、柱穴間総距離は、梁行 2.0m、桁行 3.7m、各柱間の平均距離は梁行 2.0m、桁行 1.85m を測る。桁行方向はほぼ南北軸に沿い、柱穴掘方は、略正方形のものが多い。保存が決定されたため、北東端の柱穴ａと南西端の柱穴ｄのみを土層観察を行った。柱痕跡を明確に確認できていない(Fig. 8)。

275SB400

調査区中央部で検出できたもので、先の 275SB385 の内部にて検出されている。前後関係については明らかにし得ていない。また西に隣接している 275SB395 には柱ｂ部分で切っている。1 間 ×2 間の南北棟で、柱穴間総距離は、梁行 2.11m、桁行 3.62m、各柱間の平均距離は梁行 2.11m、桁行 1.81m を測る。桁行方向はほぼ南北軸に沿い、柱穴掘方は、不整形のものが多い。保存が決定されたため、北東端の柱穴ａと南西端の柱穴ｄのみを土層観察を行った。柱痕跡を明確に確認できていない（Fig. 8）。

b. 道路

条坊路を排水路として利用したことによる錯綜した堆積を呈している。条路ならびに坊路交差点部分について、水路堆積物とでもいえる状況で、275SD215・246・247・250・255・260・265 等は、土器様相上、同一様相下の時間差と考えられる。

また、坊路と考えられる南部分に路盤工と考えられる「波板状」の凹凸を多数検出している。

275SF075

調査区東部ならびに北部において検出した道路遺構で、坊路にあたる南北路部分については、調査区東側が自然地形の関係ならびに後世の削平によって道路側溝らしき遺構を確認できていない。ただし、「波板状」の凹凸が路盤工の痕跡とするならば、調査区東域において南北から東西へ移行するように検出できていることから、この遺構が確認できている箇所までを坊路東端と捉えることもできよう。一方坊路西端は、275SD212 とした部分が考えられ、掘立柱建物 275SB385、275SB390 を切っている。

東西路である条路については、北を 275SD045 が、南を 275SD050 が画している。しかし、埋没時期が双方異なっており、他の条坊痕跡の埋没時期が二時期あることを考慮すると道路を構成する相対した関係にあるのかは課題を残している（中島、2008）。

計測値は、坊路想定範囲は、275SD212 の西端から「波板状」凹凸の東端で 7.8m。条路想定範囲は 14.3m を測り、水路的に利用されていることを勘案すると、深さ 0.6m ほどを測る。

【文献】

中島恒次郎「居住空間史としての大宰府条坊論」『九州と東アジアの考古学』2008 九州大学考古学研究室 50 周年記念行事実行委員会

c. 井戸

275SE055（Fig. 9）

調査区北端部にて検出したもので、1.8m の略正方形の掘方に 0.8m ～ 0.7m を測る井戸枠を備えている。さらに最下部には 0.46m ～ 0.4m の曲げ物を据え付ける。残存する深さは、1.75m を測る。井戸枠材は、幅 0.25m 程度の板材を横方向に組み合わせてつくり、ホゾ穴が確認できることから転用材として再利用されていると考えられる。枠内には上位に暗灰色粘質土が、下位に黒灰色粘土が堆積しており、ウラゴメ土は灰色砂質土で構成されている。なお、ウラゴメ内から塼が出土している。

275SE245 (Fig. 9)

調査区南西部にて検出したもので、操車場コンクリート基礎にて一部破壊されている。1.45m を測る略正方形を呈しており、内部に 0.5m ～ 0.7m の長方形の井戸枠が据えられている。四角形の四隅には丸木を利用した杭が打ちこまれ、その外側に幅 0.15m 程度の板材が縦方向に置かれている。板内部には横桟が巡っている。最下部の曲げ物などは確認できていない。

275SE380 (Fig. 9)

調査区北端で検出したもので、275SD045 に切られている。0.94m ～ 1.00m を測る略円形を呈し、内部に 0.46m 内外の四角形を呈する井戸枠が据えられている。幅 0.28m の板材を横方向に組み、四角形の四隅には斜め方向に隅板として置いている。井戸枠内には上位から黒灰色粘土、暗黄灰色砂が堆積し、ウラゴメ土は白色砂が混入した灰色粘土で構成される。

d. 溝

275SD045

調査区北部にて検出した東西溝で、幅 1.0 程を測り、確認長 23.3m、残存する深さ 0.25m 程を測る。灰色粘土が堆積している。条路側溝と考えられる。

275SD050

調査区北部にて検出した東西溝で、幅 1.5m ～ 2.0m を測り、0.1m 前後の深さを測る。275SX060 を切っている。検出長は 18.9m。茶灰色粘質土が堆積している。

275SD065

調査区東部にて検出した南北溝で、溝北端で西へ屈曲している。幅 1.0m ～ 1.9m、検出長 24.5m、残存する深さ 0.25m 程を測る。上位より灰色粘質土←茶橙色土←灰色粘土←灰白色砂が堆積している。

275SD211

275SD065 の西側に検出した南北溝で、途中 275SD212 と混在してしまう。幅 0.4m、検出長 12.4m、深さ 0.04m、上位より暗茶灰色粘質土←灰色土が堆積している。

275SD212

調査区東部にて検出した南北溝で、掘立柱建物群を切るものの、他の多くの遺構に切られている。遺構西端は確認できるが、東については 275SD065、SD180、SD220 等に切られているため判然としない。また、北側は条路との交差点部分になるため、検出長も明らかにし難い状況であった。上位より暗茶灰色粘質土←茶灰色土が堆積している。

275SD220

調査区の東部、275SD065 の東に接し、当該遺構を切っている。状況から溝というよりは、275SD065 のオーバーフロー堆積土とも考えられる。最大で 7m 程を測る。

275SD246・275SD247・275SD250・275SD255・275SD260・275SD265

調査区北部、条路と考えられる帯状の空間に検出した溝状の堆積物で、降雨時の排水機能を持たせた条路内の水成堆積物と考えている。同様な状況は、大宰府条坊跡第 88 次調査で検出した条路と坊路の交差点部分でも検出しており、ここでは一括して報告しておく。

275SD045-275SD050 に挟まれた帯状の空間に確認されるもので、条路 - 坊路交差点部分で検出した 275SD246・247・250 等は定まった形をしていない。また、275SD255・260・265 は、幅 1.0m 内外の帯状の堆積物が観察でき、灰色系の砂ないしは砂質土で構成されている。

e. 土坑

275SK186

調査区北部、275SD045-275SD050 に挟まれた帯状の空間を切るように検出された遺構。径 0.8m を測る略円形を呈する。炭化物を混入する灰色粘質土が堆積している。

275SK189

調査区北部、275SD045-275SD050 に挟まれた帯状の空間を切るように検出された遺構。長軸長 2.1m、短軸長 1.6mm を測るもので。灰色粘質土が堆積している。

275SK229

調査区中央、275SB385 に近接し、275SD212 に切られている。長軸長 1.0m、短軸長 0.7m を測り、炭化物を混入する黄茶灰色土が堆積している。

275SK244

調査区北部、275SD045-275SD050 に挟まれた帯状の空間に検出されたもので、状況からみて 275SD255 等と同等な堆積物と考えられる。炭化物を混入する暗灰色粘質土が堆積している。

275SK284

調査区西端にて検出したもので、275SK284 ← 275SD050 ← 275SX060 の前後関係を有する。径 0.9m の略円形を呈し、深さ 1.27m 程を測る。灰色粘質土が堆積している。

f. 窯

275SX060 (Fig.10)

調査区西端に検出したもので、275SD050 に切られており、かつ調査区の西側へ展開していることから全形を明らかにすることができない。調査区西壁を観察すると天井への立ち上がりが観察できる(Fig. 4　17・18 層)。黄灰色に変色した壁には格子叩きの平瓦が壁補強材として転用されており、壁内部に主軸に沿うように帯状の立ち上がりが観察できることから、ロストル式の平窯である可能性が高い。壁内面ならびに窯内の床面の還元度が低いことなどから高火度焼成ではないと考えられる。いずれにして残存状況が極めて悪く、上層からの遺物の混入も多いため、壁材として転用された瓦から操業時期を判断するしかない。

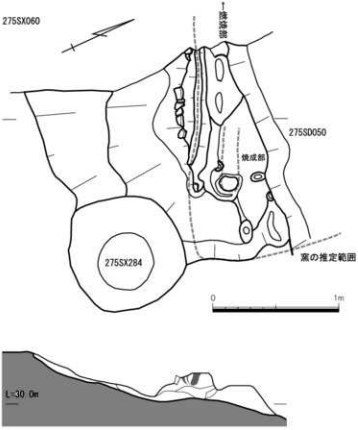


Fig. 10　条坊 275 次窯遺構実測図 (1/30)

(3) 第 3 面遺構

3 面遺構として捉えた遺構群の多くは、条路・坊路とした遺構の下位に検出できたものである。したがって、2 面目の遺構の調査未了部分を扱っている可能性もある。

a. 道路

275SF270

(Fig.11)

調査区東側にて確認したもので、275SD065など坊路とした下位から検出できたものである。小礫を最大幅4.5m、検出長11.3mの範囲に、最大で0.2mから最少0.01mの礫を敷き詰めたように検出した。ただし、検出した礫の上を不陸を整えたような状況にはないため、路盤工的な意味を持たせているのかもしれない。

b. 溝

275SD275・275SD280・275SD281

2面で検出した条路内の下位に検出した溝群で、2面目同様に条路内堆積物の時間差として捉えることができる。灰色系の砂ないしは砂質土が堆積している。

c. 土坑

275SK277・275SK278・275SK279

これらも先の275SD275などと同様に、道路内の凹み的なもので、2面目同様に条路・坊路内堆積物の時間差とし

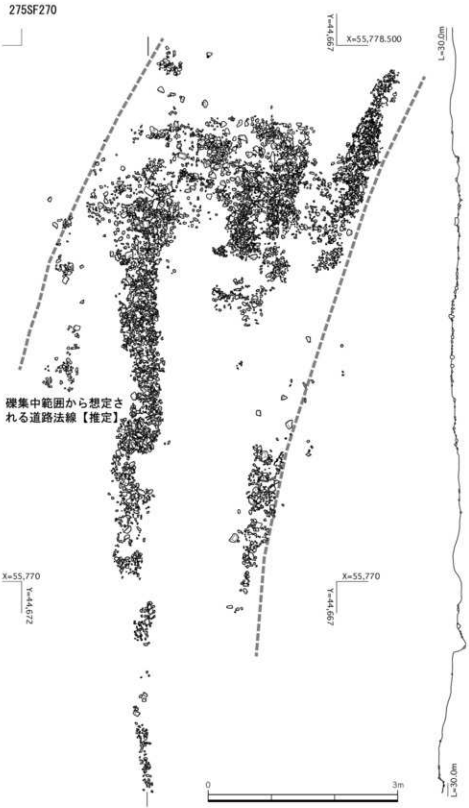


Fig.11　条坊275次舗装地業礫実測図（1/60）

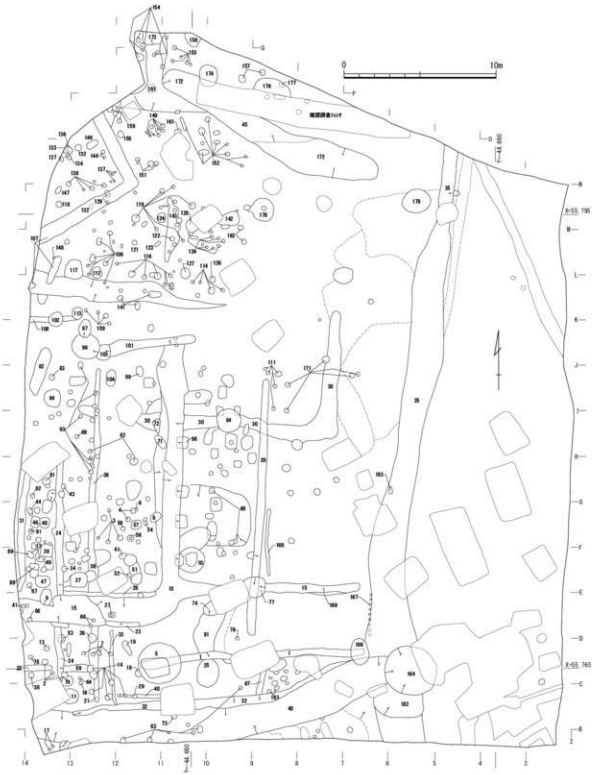


Fig. 12　条坊 275 次第 1 面遺構略測図（1/250）

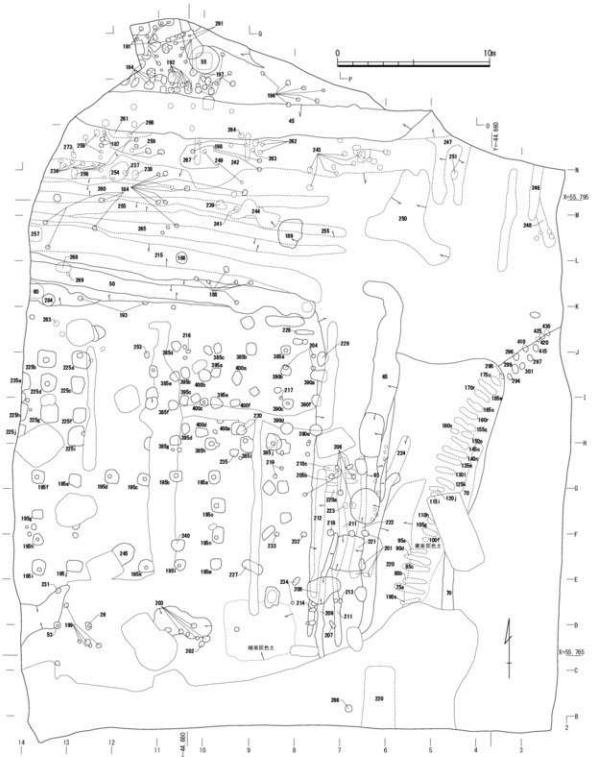


Fig. 13　条坊 275 次第２面遺構略測図（1/250）

Fig.14　条坊275次第3・4面遺構略測図（1/250）

て考えることもできる。灰色系粘土ないしは粘質土が堆積している。

4．遺物

(1) 第 1 面遺構

a. 井戸出土遺物

275SE005 灰色粘質土 (Fig.15)

土師器

丸底坏 a(1)　口径 15.0cm、器高 3.6cm、底径 10.0cm を測り、器面摩耗が著しいが底部外面に指頭圧痕をとどめている。底部外面はナデによる調整がなされているため、切り離しについては不明。

小皿 a1(2)　口径 10.1cm、器高 1.2cm、底径 7.5cm を測り、器面摩耗により成形・調整痕跡が観察できない。底部切り離しは、回転ヘラ切り。

瓦

軒平瓦 (3)　瓦当部分から平瓦まで残存率が低い破片で、辛うじて右行の偏行唐草文、上外外区に扁平化した連珠文が観察できる。565 型式（九州歴史資料館、2000）。

275SE005 茶灰色粘質土 (Fig.15)

土師器

丸底坏 a(4・5)　4 は、口径 11.0cm、器高 2.4cm、底径 8.9cm とやや小ぶりのもので、器面摩耗ながら内外面ともに回転ナデ成形、底部外面に回転ヘラ切り痕跡をとどめている。5 は、口径 14.25cm、器高 3.5cm、底径 11.05cm を測り、内外面ともに器面摩耗のため成形痕跡を観察できない。底部外面には回転ヘラ切り痕跡をとどめている。

275SE005 黒褐色土 (Fig.15)

土師器

小皿 a1(6 ～ 11)　口径 9.8cm ～ 10.4cm、器高 1.1cm ～ 2.1cm、底径 7.3cm ～ 9.3cm を測り、器面摩耗が著しく成形については不明。底部外面の処理が観察できるものは、全て回転ヘラ切り。

丸底坏 (12 ～ 18)　底部状況が分かる、12 ～ 16 は a 類。口径 15.4cm ～ 18.2cm、器高 3.1cm ～ 4.0cm、底径 9.6cm ～ 14.2cm を測り、16 は底部外面に指頭圧痕、口縁部内面にコテ当て痕跡が観察できる。17 および 18 は口縁部の破片。

275SE005 黒色土 (Fig.15)

土師器

丸底坏 (19・20)　いずれも口縁部から底部上位の破片で、口径 14.8cm ～ 16.4cm を測り、19 は、口縁部内外面が黒色化している。20 は底部外面に指頭圧痕、口縁部内面にコテ当て痕跡をとどめている。

275SE005 暗茶色土 (Fig.15)

土師器

小皿 a(21)　口径 10.0cm、器高 1.4cm、底径 8.0cm を測り、内外面器面摩耗のため成形・調整痕跡が観察できない。

坏 a× 皿 a(22)　底部の破片であることから、器種同定ができていない。底部から体部への移行が大きく開くことから皿の可能性が高い。底部外面には回転ヘラ切り痕跡が観察できる。

丸底坏 (23 ～ 27)　底部が残る 25・26 は a 類で、口径が計測できる 23 ～ 27 は、口径 15.6cm ～ 16.0cm を測る。全体的に器面摩耗のため成形・調整痕跡が観察できないが、23 ならびに 27 は底部外面に指頭圧痕、口縁部～体部内面にミガキ b 痕跡が観察できる。

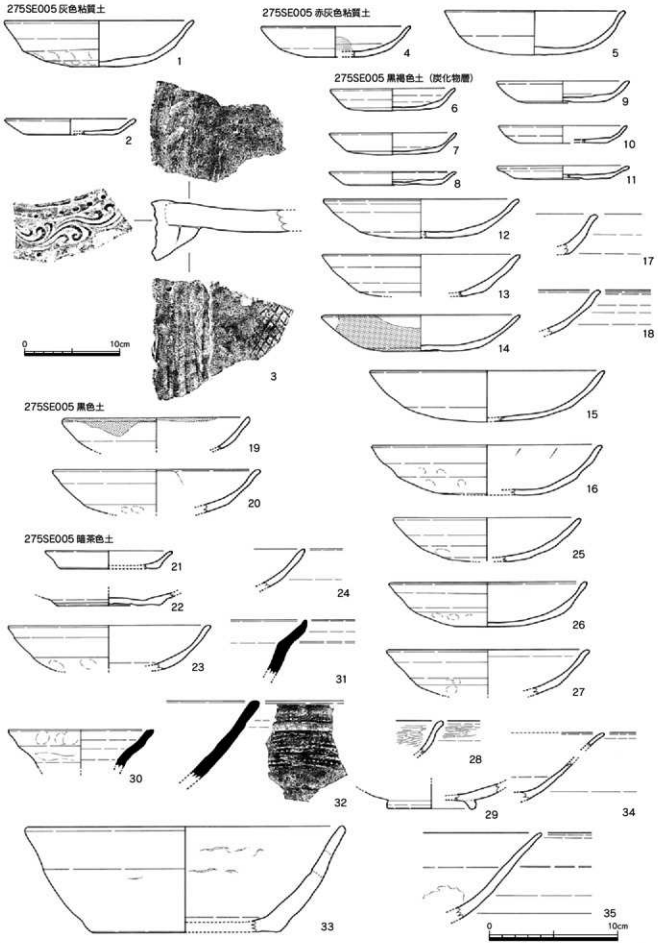


Fig. 15　井戸（275SE005）出土遺物実測図（1）（S=1/3、1/4）

鉢 (32)　平底の底部から内湾気味に外方に開くもので、体部内面に粘土紐痕跡が観察できる。器面摩耗が著しいことから、成形・調整痕跡は不明。

黒色土器 B 類

椀 (28・29)　28 は、口縁部の破片で外反する形状を持つ。内外面にミガキ a による細かい磨きが施される。29 は底部の破片で高台が貼付されていることから椀 c 類。器面摩耗のため成形・調整技法は不明。

須恵器

壺 d ×f(30)　口縁端部に平坦面を有するもので、口縁部のみの破片である。口径 11.4cm を測る。

鉢 (31・32)　31 は、口縁部が一度外方へ開き、端部を三角形に仕上げるもので、内外面ともに丁寧な回転ナデ調整。十瓶山産須恵器と考えられる。32 は、底部から直線的に外方へ開く鉢で、体部外面に格子叩き痕跡をとどめている。

灰釉陶器

鉢 (34・35)　いずれも外方へ大きく開く形態のもので、内外面共に回転ナデによる成形・調整が施され、35 については、体部下位に回転ヘラ削り痕跡が観察できる。34 は、Fig. 上で一個体としているが、別個体の可能性を残す破片資料である。

275SE005 暗灰色土 (Fig.16)

土師器

小皿 a1(36・37)　口径 9.6cm・10.6cm、器高 1.1cm・1.7cm、底径 7.2cm・7.4cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

丸底坏 (38・39)　口径が復原できる 39 は、口径 13.4cm を測る。38 は、底部外面に押し出しの際の指頭圧痕が観察できる。

275SE005 暗灰色粘土 (Fig.16)

土製品

瓦玉 (40)　文字瓦 901L 型式（九州歴史資料館、2000）の瓦を再利用したもので、打ち掻きによって略正方形に成形している。6.8cm×6.0cm を測る。

275SE005 暗青灰色粘土 (Fig.16)

土師器

小皿 a1(41 ～ 43)　法量が復原できる 42 および 43 は、両者とも口径 10.4cm、器高 1.1cm を測り、底径は 7.0cm、8.0cm をそれぞれ測る。いずれも底部外面に回転ヘラ切り痕跡をとどめ、42 の内面には黄茶色の付着物があり、43 には油たれのような付着物が観察できる。

丸底坏 (44 ～ 47)　いずれも口縁部の破片で、内面にはミガキ b、外面には指頭圧痕が観察できる。

須恵器

甕 (48)　口縁部の破片資料で、形状から甕と判断した。内外面に回転ナデ痕跡が観察できる。

瓦

丸瓦 (49)　凸面に「佐瓦?」を記す 902H 型式 (九州歴史資料館、2000) のもので、凹面には布痕跡が残る。

土製品

坩堝 (50)　内面が灰色から黒灰色に変色するもので、不定方向のナデ痕跡が観察できる。金属等の付着物は観察できない。

275SE005 青灰色粘質土 (Fig.16)

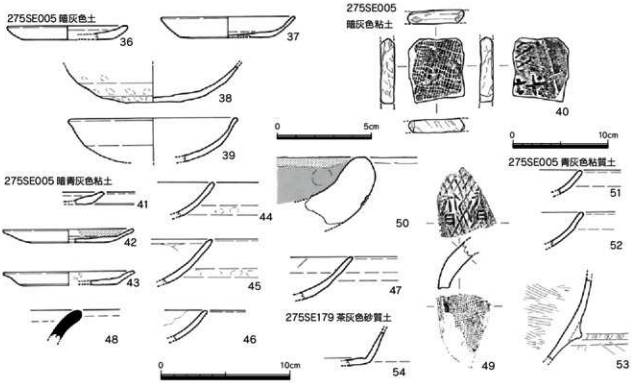


Fig. 16　井戸（275SE005、SE179）出土遺物実測図（2）（S=1/2、1/3、1/4）

土師器

丸底坏 (51・52)　口縁部の破片資料。51 は外面に回転ナデ痕跡をとどめ、52 は内面にミガキ b 痕跡が観察できる。

弥生土器

壺形土器 (53)　体部下位に凸帯を貼付し、上面に刻み目を入れている。内面にはハケ調整痕跡が観察できる。

275SE179 茶灰色砂質土 (Fig.16)

土師器

坏 (54)　平底の底部から直線的に外方にのびる体部形状を有する。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

b. 溝出土遺物

275SD001 (Fig.17)

土師器

丸底坏 a(1)　体部下位から底部の破片。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SD001 灰色土 (Fig.17)

土師器

小皿 a1(2 ～ 4)　全形が分かる 4 は、口径 9.0cm、器高 1.25cm、7.0cm を測り、いずれも器面摩耗のため成形・調整痕跡が観察できない。

丸底坏 (5 ～ 7)　いずれも底部を欠損しており、全形が定かではない。外面に指頭圧痕をとどめ、押し出し技法による成形のみ観察できる。

須恵器

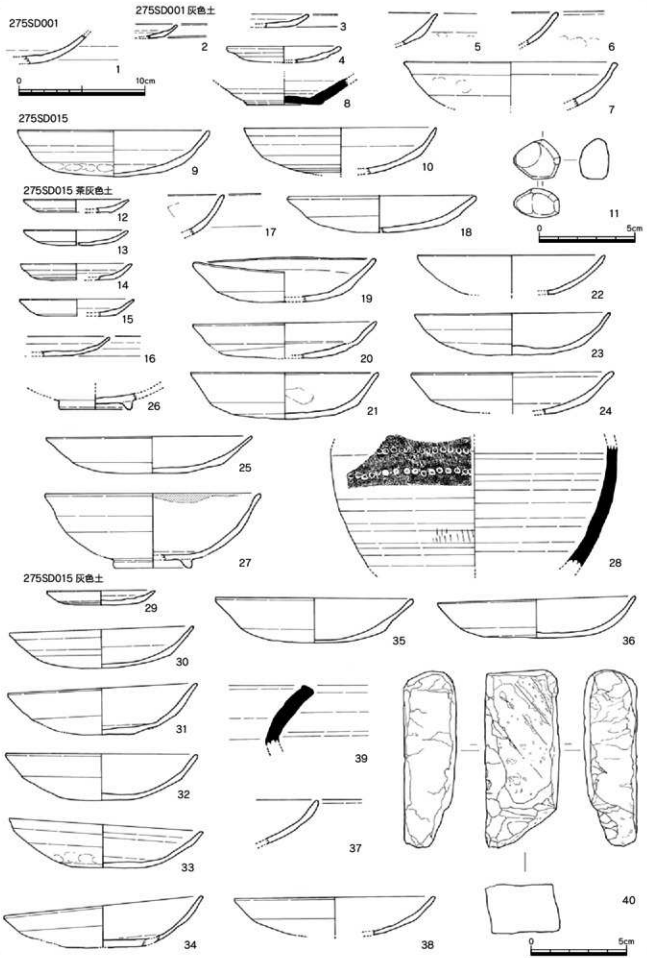


Fig. 17　溝（275SD001、SD015）出土遺物実測図（1）（S=1/2、1/3）

鉢 (8)　体部下位から底部の破片で、体部は内外面ともに回転ナデ、底部外面の処理は、回転糸切り痕跡をとどめている。産地は明らかにし難い。

275SD015 (Fig.17)

土師器

丸底坏 a(9・10)　いずれも口径 15.2cm を測り、9 は器高 3.5cm、底径 11.4cm を測り、底部外面に指頭圧痕をとどめている。

土製品

瓦玉 (11)　全ての面に成形のための擦った痕跡が観察できる。

275SD015 茶灰色土 (Fig.17)

土師器

小皿 a1(12 ～ 16)　口径計測ができない 16 を除く他の資料の法量は、口径 8.3cm ～ 9.0cm、器高 1.0cm ～ 1.35cm、底径 6.0cm ～ 7.4cm を測る。いずれも器面摩耗が著しいため成形・調整技法が判然としないが、底部外面には回転ヘラ切り痕跡をとどめている。

丸底坏 a(17 ～ 25)　破片資料である 17 を除く他の資料の法量は、口径 14.4cm ～ 16.3cm、器高 2.8cm ～ 3.0cm を測り、21 のみ内面にミガキ b の痕跡が観察できる。

瓦器

椀 (26・27)　高台部分のみの破片と全形をうかがい知ることができるものがある。全形が分かる 27 は、口径 17.0cm、器高 5.9cm、高台径 6.2cm を測る。器面摩耗が著しく、成形・調整技法については明らかにし得ていない。

新羅系土器

壺 (28)　体部上位から下位にかけての破片資料。肩部に刺突による竹管文ならびに櫛目文が施されている。体部下位は、回転ヘラ削りによって仕上げられている。

275SD015 灰色土 (Fig.17)

土師器

小皿 a1(29)　口径 8.5cm、器高 1.1cm、底径 5.9cm を測り、底部外面は回転ヘラ切りによって処理されている。

丸底坏 (30 ～ 38)　底部形状が判然としない 37 以外は、全て a 類。口径は、14.6cm ～ 15.8cm、器高 3.4 ～ 5.4cm を測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡が判然としないものの、33 は底部外面に押し出しの際残った指頭圧痕が観察できる。

須恵器

甕 (39)　頸部形状が「く」の字を呈するもので、端部に面を形成する回転ナデによって仕上げられる。

石製品

砥石 (40)　石材は、凝灰岩で、長軸面は全て砥石として使用されている。

275SD015 灰色粘質土 (Fig.18)

土師器

丸底坏 a(41)　口径 15.2cm、器高 3.7cm を測るもので、器面摩耗のため成形・調整技法については定かではない。

黒色土器 A 類

壺 (42)　内面のみ黒色化する A 類で、外に張り出すしっかりした高台から、外方に大きく開き、丸みをおびた肩部から内側に狭まる形状を有する。高台径 9.8cm を測り、内外面ともにミガキ c によっ

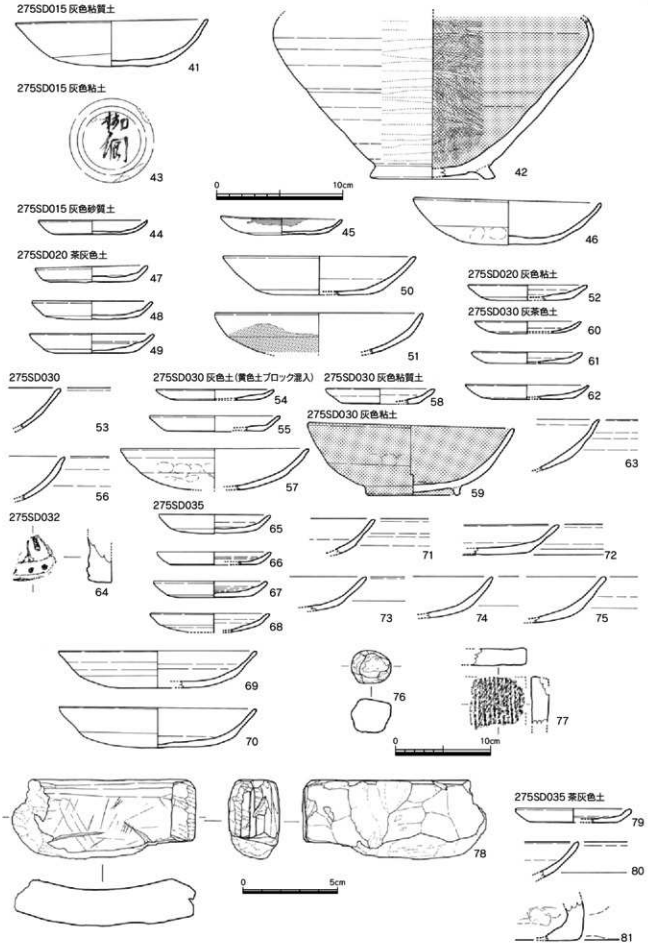


Fig. 18　溝（275SD015、SD020、SD030、SD032、SD035）出土遺物実測図（２）（S=1/2、1/3、1/4）

て処理されるものの、内面の方が外面より丁寧に磨きが処理されている。器種について大型の鉢の可能性が残る。

275SD015 灰色粘土 (Fig.18、Pla.5-1)

白磁

碗(43)　底部外面に「□綱」と墨書がある。高台と底部の境界に粘土塊が付着している。

275SD015 灰色砂質土 (Fig.18)

土師器

小皿 a1(44・45)　口径 8.6cm、9.4cm を測り、器高 1.1cm、1.5cm、底径 5.15cm、6.3cm をそれぞれ測る。底部外面は、いずれも回転ヘラ切り。

丸底坏(46)　口径 14.8cm、器高 3.8cm を測り、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難いものの、底部外面に指頭圧痕をとどめている。

275SD020 茶灰色土 (Fig.18)

土師器

小皿 a1(47 ～ 49)　口径 8.3cm ～ 9.3cm、器高 1.2cm ～ 1.5cm、底径 7.4cm ～ 7.6cm を測り、器面摩耗ながら、底部切り離しは回転ヘラ切りである。

丸底坏(50・51)　口径 15.2cm、16.6cm を測り、器高は底部まで残存する 45 で 3.1cm を測る。底部外面には回転ヘラ切り痕跡をとどめている。

275SD020 灰色粘土 (Fig.18)

土師器

小皿 a1(52)　口径 9.4cm、器高 1.2cm、底径 7.3cm を測る。底部切り離しは回転ヘラ切りと考えられる。

275SD030 (Fig.18)

土師器

丸底坏 × 坏(53)　口縁部のみの破片で、坏になる可能性もある。器面摩耗のため成形・調整技法は観察できない。

275SD030 灰色土（黄色土ブロック混入） (Fig.18)

土師器

小皿 a1(54・55)　口径 9.3cm、10.4cm、器高 0.85cm、1.2cm、底径 7.0cm、7.8cm を測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡は明らかにできない。

丸底坏 a(56・57)　口径が計測できた 57 では、口径 14.9cm を測る。底部外面に押し出しの際付けられた指頭圧痕が観察できる。

275SD030 灰色粘質土 (Fig.18)

土師器

小皿 a1(58)　口径 8.6cm、器高 1.2cm、底径 5.9cm を測り、器面摩耗のため底部切り離し処理は不明。

275SD030 灰色粘土 (Fig.18)

黒色土器 B 類

椀 c2(59)　口径 16.8cm、器高 5.8cm、高台径 7.4cm を測り、体部外面に指頭圧痕が残る。やや丸みを帯びた高台形状、丸底坏を基調とした体部形態から大宰府 XII 期（平安後期）以降にある瓦器椀と共存するものと考えられる。

275SD030 灰茶色土 (Fig.18)

土師器

小皿 a1(60 ～ 62)　口径 8.4cm ～ 9.8cm、器高 0.95cm ～ 1.15cm、底径 6.0cm ～ 7.1cm を測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡は定かではない。

丸底坏 (63)　底部上位から口縁部までの破片資料で、残存高 4.0cm を測る。器面摩耗のため成形・調整のための技法は明らかにし難い。

275SD032 (Fig.18)

瓦

軒丸瓦 (64)　瓦当のみの破片で、単弁で外縁に連珠文を配する。215 型式と考えられる（九州歴史資料館、2000）。

275SD035 (Fig.18)

土師器

小皿 a1(65 ～ 68)　口径 8.8cm ～ 9.4cm、器高 1.0cm ～ 1.3cm、底径 6.9cm ～ 7.3cm を測り、底部切り離しは回転ヘラ切りである。68 は、切り離し後に不定方向のナデによって底部が押し出されている。

丸底坏 (69 ～ 75)　71 ～ 75 は、破片資料。69 ならびに 70 が全形が同える個体で、口径はいずれも 16.6cm、器高 2.9cm ～ 3.2cm を測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡を明らかにし難いものの、底部切り離し処理が同えるものでは、全て回転ヘラ切りによって処理されている。

土製品

瓦玉 (76・77)　76 は、全面に擦痕が残り、77 は側面のみに擦痕が残っている。77 は、紐目叩きが残存している。

石製品

石鍋 (78)　口縁部の破片資料であるが、鍔の残存がないことから森田 A 群の製品と考えられる（森田、1983）。内外面ともに丁寧なヘラ削りによって、器面調整が施されている。

【文献】

森田勉「滑石製容器　－特に石鍋を中心として－」「佛教藝術」148 号　1983　毎日新聞社

275SD035 茶灰色土 (Fig.18)

土師器

小皿 a1(79)　口径 9.2cm、器高 1.05cm、底径 7.0cm を測り、底部切り離しは回転ヘラ切りである。

丸底坏 (80)　口縁部の破片資料で、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにできない。

瓦質土器

壺 (81)　底部の破片であり、全形を明らかにし難い。内面には指頭圧痕が残る。

275SD040 茶灰色土 (Fig.19)

土師器

小皿 a1(82)　口径復原できない破片資料で、平底から直線的に外方に開く小皿である。器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにできない。

須恵器

椀 × 皿 (83)　平底で外方に開くものと考えられる。椀である場合、中国地方などからの搬入品と考えられる。

丸底坏 (84 ～ 88)　口径 14.0cm ～ 15.6cm、器高は 87 のみ底部まで残存していることから 3.15cm を測る。器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにし難いが、86 には外面に指頭圧痕が、87 には刷

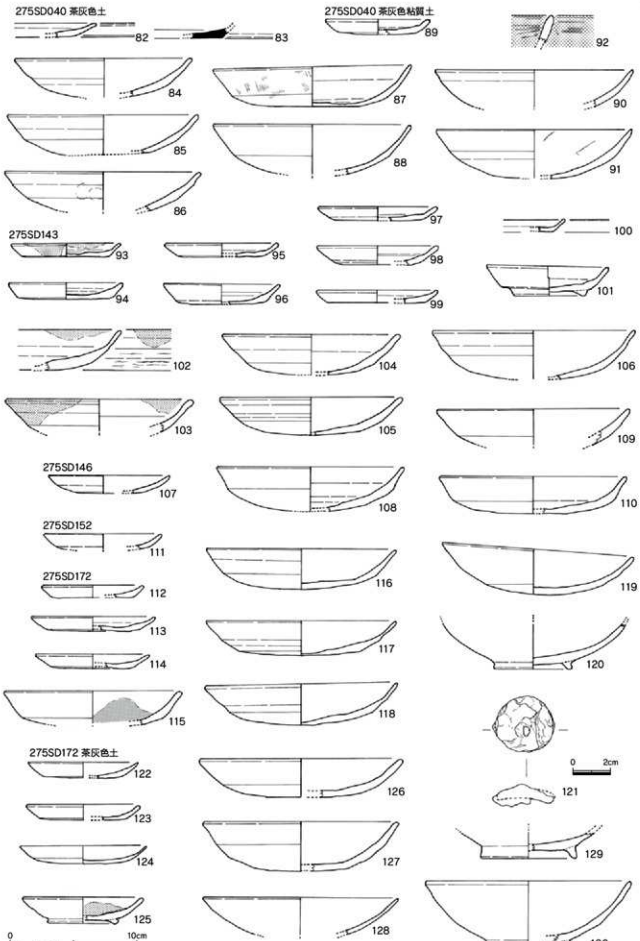


Fig.19 溝（275SD040、SD143、SD146、SD152、SD172）出土遺物実測図（3）（S=1/2、1/3）

毛様の痕跡が観察できる。

275SD040 茶灰色粘質土 (Fig.19)

土師器

小皿 a1(89)　口径 8.0cm、器高 1.05cm、底径 6.1cm を測り、底部は回転ヘラ切りによって処理されている。

丸底坏 (90・91)　口径 15.3cm ～ 15.4cm を測り、86 の内面にはミガキ b 痕跡が観察できる。

黒色土器 B 類

椀 × 鉢 (92)　口縁部の破片資料で、全形を明らかにし難いため、椀ないし鉢とした。内外面を丁寧なミガキ c によって仕上げられている。

275SD143 (Fig.19)

土師器

小皿 a1(93 ～ 100)　口径 8.6cm ～ 9.6cm、器高 1.1cm ～ 1.65cm、底径 6.5cm ～ 7.8cm を測る。底部切り離しは、いずれも回転ヘラ切りによって仕上げられている。93 は口縁部内外面に油煙が付着している。

小皿 c1(101)　口径 9.6cm、器高 2.3cm、高台径 5.5cm を測る。内外面ともに回転ナデによって仕上げられ、断面三角形の高台が貼付されている。

丸底坏 (102 ～ 106)　105 のみ底部まで残存していることから a 類と考えられる。口径 14.8cm ～ 16.3cm を測る。器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにし難いものの、底部切り離しが分かる個体では、全て回転ヘラ切りであった。

275SD146 (Fig.19)

土師器

小皿 a1(107)　口径 9.6cm、器高 1.4cm、底径 5.6cm を測る小皿で、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

丸底坏 (108 ～ 110)　口径 14.8cm を測る丸底坏で、押し出す前の坏 a の底部稜線の径は、13.1cm を測る。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SD152 (Fig.19)

土師器

小皿 a1(111)　口径 9.2cm を測る口縁部の破片。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SD172 (Fig.19)

土師器

小皿 a1(112 ～ 114)　口径 8.4cm ～ 9.0cm を測る。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

丸底坏 (115 ～ 119)　口径 14.0cm ～ 15.2cm を測り、15.0cm 代のものが優勢。いずれも器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

椀 c(120)　口縁部を欠損するもので、土師質に焼成されている。高台径は 6.2cm を測る。

金属製品

紡錘車 (121)　径 3.1cm、厚さ 1.3cm を測る円盤状のもの。錆に覆われているため、技法や使用痕跡は観察できない。

275SD172 茶灰色土 (Fig.19)

土師器

小皿 a1(122 ～ 124)　口径 8.6cm ～ 10.1cm、器高 1.0cm ～ 1.2cm、底径 6.1cm ～ 8.0cm を測り、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにできないが、123 の底部外面の切り離しは、回転ヘラ切りによって処理されている。

小皿 c1(125)　口径 9.2cm、器高 2.1cm、高台径 5.2cm を測り、断面三角形に近い形状の高台が貼付される。

丸底坏 (126 ～ 128)　口径 15.2cm ～ 15.8cm、器高 3.0cm ～ 3.9cm を測り、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにできない。126・127 は、高台が貼付されていないため a 類。

瓦器

椀 c(130)　口径 16.0cm、器高 5.3cm、高台径 6.0cm を測る。器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにできない。

灰釉陶器

椀 c(129)　高台径 7.2cm を測るもので、体部から上位は欠損している。

c. 土坑出土遺物

275SK019 (Fig.20)

土師器

小皿 1(1)　底部から口縁部にかけての小破片で、口径復原には至らなかった。内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法は明らかにできない。

275SK025 灰色土 (Fig.20)

須恵器

蓋 3(2)　口縁端部の破片で、断面三角形を呈する。

坏 a(3)　底部から体部上位の破片で、内外面を回転ナデによって仕上げ、底部外面には回転ヘラ切り痕跡が観察できる。

275SK096 灰色土 (Fig.20)

白磁

皿 (5)　口縁部の破片資料で、広東系の白磁と考えられるが未分類。

瓦器

椀 c(6)　口径 16.3cm、器高 5.3cm、高台径 7.0cm を測り、丸底坏器形に高台を貼付し瓦質に焼き上げている。椀部分の内外面は丁寧なミガキ c によって仕上げられ、外面のみ黒色化している。

275SK096 茶灰色土 (Fig.20)

土師器

小皿 a1(7・8)　口径 8.8cm・9.2cm、器高 1.15cm・0.95cm、底径 6.6cm・7.1cm を測り、7 は回転糸切りによって切り離されている。8 については、器面摩耗のため不明。

275SK096 暗青灰色粘質土 (Fig.20)

土師器

丸底坏 (9・10)　口径 14.6cm・15.6cm、器高について 9 は、底部欠損のため残存高で 2.6cm、10 は 2.9cm を測る。両者とも底部切り離し処理は、回転ヘラ切りによって処理されている。

皿 (11)　口径 15.4cm、器高 3.4cm、底径 9.7cm を測り、口縁部を一旦外方へ折り曲げ、口縁端部を上方へつまみ上げる形状を持つ。底部外面には、回転ヘラ削り痕跡が観察でき、外面に煤が付着している。

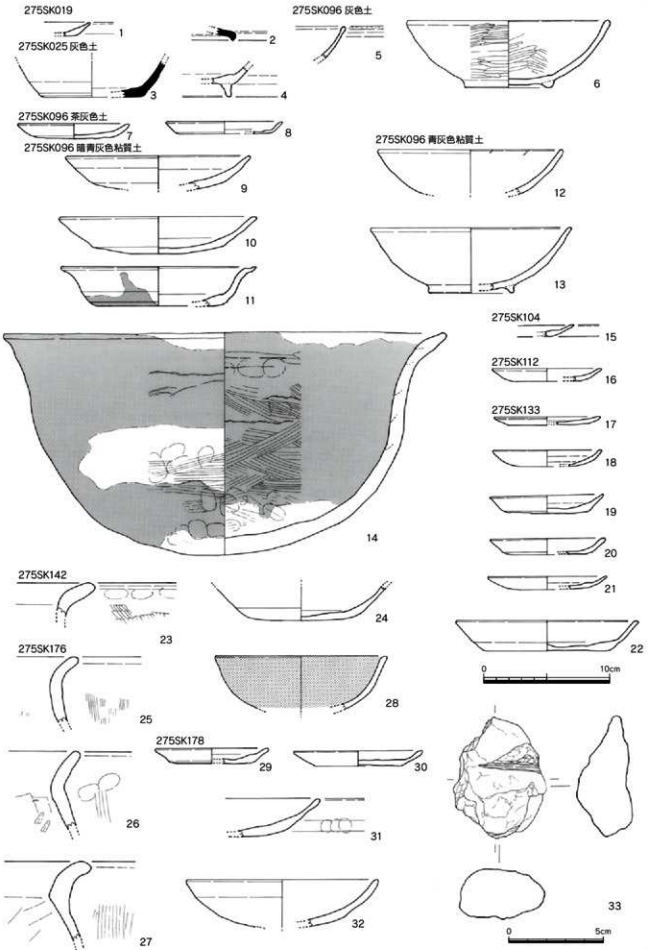


Fig. 20　土坑（275SK019、SK096、SK104、SK112、SK133、SK142、SK176、SK178）出土遺物実測図（S=1/2、1/3）

275SK096 青灰色粘質土 (Fig.20)

土師器

丸底坏 (12)　口径 14.6cm を測り、口縁部内面にミガキ b 痕跡を留めている。

鍋 (14)　口径 35.0cm、器高 17.5cm を測り、底部は丸底に仕上げられている。内外面ともに指頭圧痕をとどめ、ハケにて調整されている。口縁部内面から外面にかけて煤状炭化物が付着し、煮沸具として使用されたことが分かる。

275SK104 (Fig.20)

土師器

小皿 1(15)　底部から口縁部の小破片で、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにできない。

275SK112 (Fig.20)

土師器

小皿 a1(16)　口径 8.1cm、器高 1.0cm、底径 5.3cm を測り、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにできない。

275SK133 (Fig.20)

土師器

小皿 a1(17 ～ 21)　口径 8.4cm ～ 9.4cm、器高 0.7cm ～ 1.55cm、底径 6.2cm ～ 7.3cm を測り、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにし難いものの、底部切り離しが観察できるものは、回転ヘラ切りによって処理されている。

坏 a(22)　口径 14.4cm、器高 2.4cm、底径 10.0cm を測り、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにし難い。

275SK142 (Fig.20)

土師器

甕 a(23)　口縁端部の破片で、外面に指頭圧痕、ハケ調整痕跡をとどめている。

坏 a(24)　底部から体部下位の破片資料で、器面摩耗ながら底部外面に回転ヘラ削り様の痕跡が観察できる。

275SK176 (Fig.20)

土師器

甕 a(25 ～ 27)　口縁部の破片資料で、緩やかな「く」の字口縁のもの (25・26) から、明確な「く」の字口縁のもの (27) の二者がある。25 は、内外面とも口縁部はヨコナデ、体部は縦方向のハケによって仕上げられている。26 ならびに 27 は、体部内面をヘラ削り、口縁部はヨコナデ、体部外面はハケによって仕上げられている。

黒色土器 B 類

椀 (28)　椀部分の破片資料で、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにし難い。

275SK178 (Fig.20)

土師器

小皿 a1(29・30)　口径 9.0cm・10.2cm、器高 1.2cm・1.2cm、底径 6.2cm・7.2cm を測り、底部外面の処理は回転ヘラ切りによって処理されている。

丸底坏 (31・32)　31 は破片資料で、法量が定かではないものの、底部外面は回転ヘラ切りによって処理され、外面に指頭圧痕をとどめている。32 は、口径 15.2cm を測り、器面摩耗のため成形・調整技法を明らかにし難い。

土製品

土壁 (33)　ワラ痕跡が観察できる。

d. その他の遺構出土遺物

275SX026 (Fig.21)

土師器

小皿 2(1・2)　口縁端部内面を凹ませるもので、口縁部のみの破片であるため、法量を定かにできない。また器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX038 灰色粘質土

瓦

丸瓦 (9)　凸面に格子叩き痕跡をとどめる丸瓦。

275SX043 茶灰色粘質土 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(3・4)　口径 10.0cm ～ 10.4cm、器高 1.05cm ～ 1.1cm、底径は両者とも 8.5cm を測る。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

丸底坏 (5 ～ 7)　口径が推定できる 5 ならびに 7 で、15.0cm、15.6cm を測る。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。7 は、口縁部内面は暗褐灰色に変色している。

坏 a(8)　底部が押し出されていないため坏 a とした。底径 9.0cm を測るもので、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX053 (Fig.21)

須恵器

鉢 b(10)　円筒形の形状を呈する鉢 b の口縁部と考えられる。口縁端部内面にやや平坦面を形成している。内面および口縁部外面は回転ナデ、口縁部から体部へ移行する箇所から下位は回転ヘラ削りによって仕上げられている。

275SX056 (Fig.21)

土師器

丸底坏 a(11)　口径復原できない破片資料。口縁端部を欠損している。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX057 (Fig.21)

土師器

丸底坏 (12)　口縁部のみの破片。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX063 (Fig.21)

土師器

器種不明 (13)　坏または皿と考えられる口縁部の破片で、口縁部内面が黒色に変色している。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX106

黒色土器 A 類 (Fig.21)

坏 (14)　口縁端部に沈線を有するもので、外面は摩耗し調整技法を明らかにし難いが、内面にはミガキ c 痕跡が観察できる。搬入品である可能性がある。

小皿 a1(15・16)　15 は、口径 9.6cm、器高 1.7cm、底径 6.8cm を測り、底部外面には回転ヘラ切り痕跡をとどめる。底部外面に変色箇所が観察できる。16 は、口縁部の破片で、内外面が黒色に変

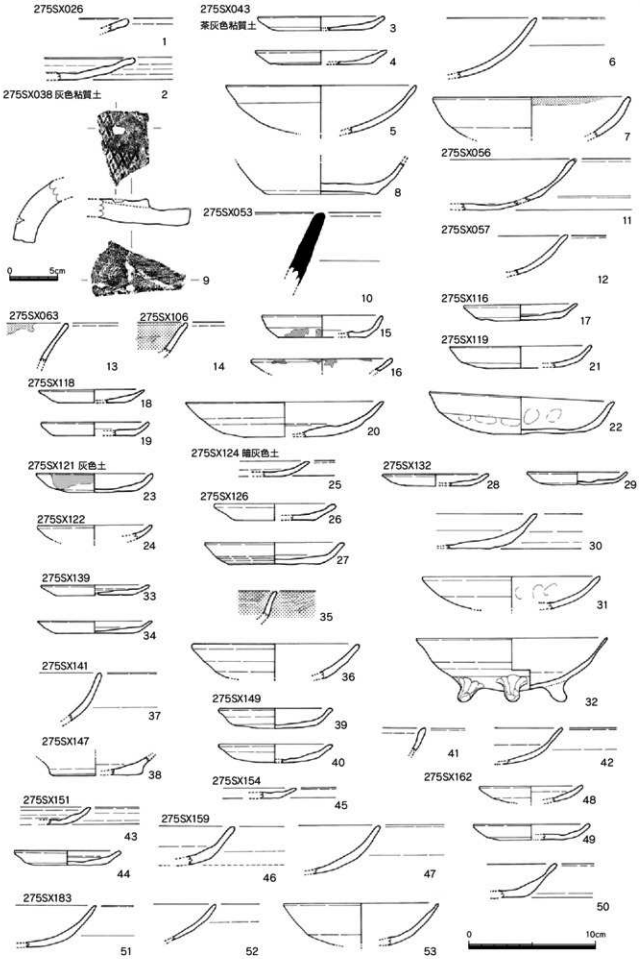


Fig. 21　その他の遺構出土遺物実測図（S=1/3、1/4）

色している。

275SX116 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(17)　口径 9.0cm、器高 1.25cm、底径 7.0cm を測り、底部内面をわずかに押し出すことにより、やや丸底風の仕上げとなっている。口縁部内外面ともに回転ナデ。底部外面の切り離し処理については、器面摩耗のため不明。

275SX118 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(18・19)　口径は両者とも 8.6cm、器高 1.0cm・1.05cm、底径 5.9cm・6.3cm を測る。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

丸底坏 a(20)　口径 15.6cm、器高 2.75cm、底径 9.7cm を測り、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX119 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(21)　口径 11.2cm、器高 1.2cm、底径 9.2cm を測り、底部外面に回転ヘラ切り痕跡が観察できる。体部から口縁部にかけては回転ナデ調整される。

丸底坏 a(22)　口径 14.6cm、器高は器体の歪から 2.4cm ～ 3.4cm を測り、底部内外面に指頭圧痕をとどめている。

275SX121 灰色土 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(23)　口径 9.0cm、器高 1.5cm、底径 6.3cm を測り、底部外面に板状圧痕が観察できるものの、切り離し処理については明らかにし難い、内面および口縁部外面に煤状の炭化物が付着している。

275SX122 (Fig.21)

土師器

小皿 1(24)　口径 9.0cm を測る口縁部の破片。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX124 暗灰色土 (Fig.21)

土師器

小皿 1(25)　口縁部を直線的に引き出すもので、底部外面は回転ヘラ切りによって処理されている。

275SX126 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(26・27)　口径 9.6cm・11.0cm、器高 1.3cm・1.7cm、底径 6.3cm・7.0cm を測り、26 は底部外面に回転ヘラ切り痕跡をとどめている。27 は、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX132 (Fig.21、Pla.6-1)

土師器

小皿 a1(28・29)　口径 8.4cm・8.0cm、器高 0.9cm・1.0cm、底径 4.8cm・6.2cm を測る。29 の底部外面には板状圧痕が観察できるが、両者とも器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

丸底坏 (30・31)　口径復原ができる 31 は、14.0cm を測る。30 は内外面ともに回転ナデによって

仕上げられ、底部外面には回転ヘラ切り痕跡が観察できる。31 は、底部内面に押し出しの際の指頭圧痕が観察できる。

脚付坏 (32)　口径 15.0cm、器高 5.0cm、脚端部間の径は 8cm を測る。丸底坏に 3 つの脚を指頭圧によって貼付したもの。坏部の調整は、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX139 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(33・34)　口径 8.6cm・9.0cm、器高 0.8cm・1.0cm、底径 5.9cm・6.1cm を測り、33 は、底部外面に板状圧痕をとどめ、内外面ともに回転ナデ、底部内面に不定方向のナデ痕跡が観察できる。34 は、内面に回転ナデののち、底部は不定方向のナデ痕跡をとどめるものの、外面は器面摩耗のため不明。

丸底坏 (36)　口径 13.2cm を測り、底部と体部の境界が不明瞭となっていることから丸底坏と判断した。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

黒色土器 B 類

椀 (35)　口縁部の破片で、皿の可能性も残る。内外面にミガキ c 痕跡が残る。

275SX141 (Fig.21)

瓦器

椀 (37)　口縁部の破片資料で、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX147 (Fig.21)

土師器

坏 (38)　円盤状の底部を有するもので、内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難いものの、底部外面には板状圧痕が観察できる。

275SX149 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(39・40)　口径は両者とも 9.0cm、器高 1.55cm・1.4cm、底径 6.9cm・6.7cm を測る。内外面共に回転ナデ、底部外面には板状圧痕が観察できる。

坏 × 丸底坏 (41)　口縁端部の破片。器種を特定できていない。

丸底坏 (42)　底部から口縁部にかけての破片資料。器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX151 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(43・44)　法量が復原できる 44 は、口径 8.4cm、器高 1.15cm、底径 6.6cm を測り、底部外面は回転ヘラ切り。43 は、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX154 (Fig.21)

土師器

小皿 (45)　底部から口縁部の破片資料で、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX159 (Fig.21)

土師器

丸底坏 (46・47)　いずれも法量復原ができない破片資料で、器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

275SX162 (Fig.21)

土師器

小皿 a1(48・49)　口径 8.2cm、9.2cm、器高 1.4cm・1.25cm、底径 6.2cm・7.1cm を測り、いずれも内面に回転ナデ痕跡が観察できるが、外面は器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

丸底坏 (50)　底部外面に回転ヘラ切り痕跡が観察できるもので、底部から口縁部までの破片資料。

275SX183 (Fig.21)

土師器

丸底坏 (51 ～ 53)　口径が復原できる 53 は、口径 13.3cm を測る。いずれも器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

(2) 第 2 面遺構

a. 掘立柱建物

275SB195 (Fig.22)

土師器

皿 (1)　底部から口縁部にかけての破片資料で、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

須恵器

坏 c(2)　口径 13.0cm、器高 4.2cm、高台径 9.0cm を測り、底部からやや上方に立ちあがる体部形態を有する。

275SB385 (Fig.22)

須恵器

蓋 1(3)　口縁部の破片で全形を明らかにし難いものの、形態から小型の蓋と考えられる。

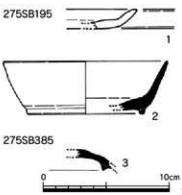


Fig.22　掘立柱建物
(275SB195m・o、275SB385g)
出土遺物実測図 (S=1/3)

b. 井戸出土遺物

275SE055 暗茶色土 (Fig.23)

土師器

坏 a(1)　口径 13.0cm、器高 3.05cm、底径 6.8cm を測り、底部から体部への移行は緩やかである。底部外面は、回転ヘラ切りによって処理。

275SE055 暗灰色粘質土 (Fig.23)

土師器

坏 (2・3)　高台の有無については不明。両者とも内面には回転ナデ痕跡が観察できるが、外面は器面摩耗のため成形・調整痕跡を明らかにすることはできない。

椀 c1(4・5)　やや高い高台を貼付している。底部外面には回転ヘラ切り痕跡をとどめる。色調は、橙色系の色を呈する。

黒色土器 A 類

椀 (6)　直線的に外方へ開く体部形態を有するもので、内面にはミガキ c 痕跡が観察できる。

275SE055 黒灰色粘土 (Fig.23)

土師器

坏 (7 ～ 12)　法量が確認できる 9 ～ 12 は、口径 11.6cm ～ 12.6cm、器高 2.65cm ～ 3.15cm、底径 6.6cm ～ 7.6cm を測り、いずれも底部から体部への移行は屈曲を伴う。色調は、白灰色系の色を

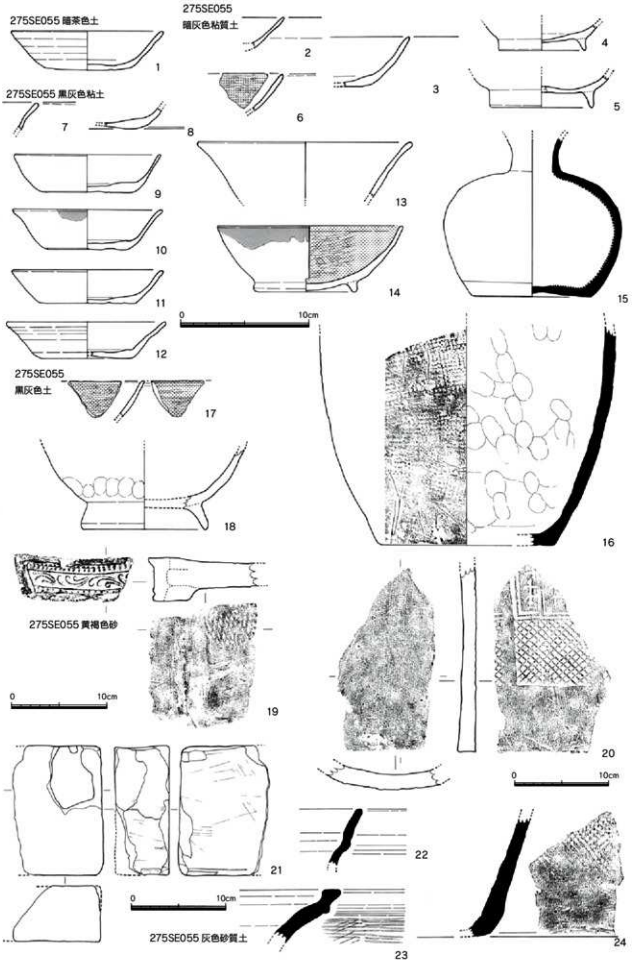


Fig. 23　井戸（275SE055）出土遺物実測図（1）（S=1/3、1/4）

呈する。

小鉢 (13)　口径 17.0cm を測り、先述した坏と比べ、やや大振りであることから小鉢とした。器面摩耗のため成形・調整痕跡を明らかにすることはできない。

黒色土器 A 類

椀 c1(14)　やや内湾気味の体部形態を有し、内面から口縁部外面までを黒色化している。口径 14.0cm、器高 5.2cm、高台径 8.2cm を測る。内面はミガキ c によって仕上げられている。

須恵器

壺 (15・16)　15 は、薬壺形を有するもので、底部外面には回転ヘラ切り痕跡が残り、体部外面下位に回転ヘラ削り痕跡をとどめる。他の部位は回転ナデによって仕上げられている。

16 は、長胴の壺で壺 d×f と推定される。体部外面には細かい格子叩きが、下位には回転ヘラ削り痕跡が観察できる。内面は当て具痕と考えられる凹凸痕が多く観察できる。

275SE055 黒灰色土 (Fig.23)

土師器

椀 c1(18)　高い高台を有するもので、金属器模倣の土師器椀を考えられる。一方で、体部外面には指頭圧痕をとどめ、精製品であるはずの金属器模倣系にしては粗い。高台径は、10.0cm を測る。

275SE055 黄褐色砂 (Fig.23)

瓦

軒平瓦 (19)　瓦当文様から、均等唐草文、上外区に珠文であることから軒平瓦 668 型式 (九州歴史資料館、2000) であると考えられる。瓦凸面には格子叩き痕跡が残る。

平瓦 (20)　凸面に文字叩きが判読でき、「平井」と読め、格子叩きの種別から、文字瓦 901A 型式と考えられる (九州歴史資料館、2000)。

土製品

塼 (21)　長方形を呈する無文塼で、14.0cm×9.0cm×6.0cm を測る。表面は不定方向のナデによって仕上げられている。

275SE055 灰色砂質土 (Fig.23・24)

土師器

甕 a(24-29・30)　口縁部の破片で、体部内面を斜め上方へヘラ削りし、外面は縦方向のハケ調整を行う。体部外面に煤状炭化物が付着している。

黒色土器 A 類

椀 2(24-25)　丸い椀部形態のもので、口径 16.4cm を測り、内面にミガキ c 痕跡をとどめる。内面および口縁部外面にかけて黒色化している。

須恵器

壺 (23-22・24)　22 は、二重口縁風の形状を呈し、壺 d×f の口縁と考えられる。24 は、体部外面に格子叩き痕跡を有し、体部下位は回転ナデによって仕上げられている。

甕 (23-23、24-28)　23 は、二重口縁風の形状を有する大型の甕の口縁部。外面には平行叩き痕跡が観察できる。28 は、体部破片ではあるが、炭化物を含み、断面色調が灰黄白色であることから荒尾産須恵器と考えられる。

緑釉陶器

椀 (24-26・27)　26 は、口縁部の破片で、内外面に細かい磨き痕跡が観察できる。27 は、断面台形の高台で、高台脇まで施釉されている。

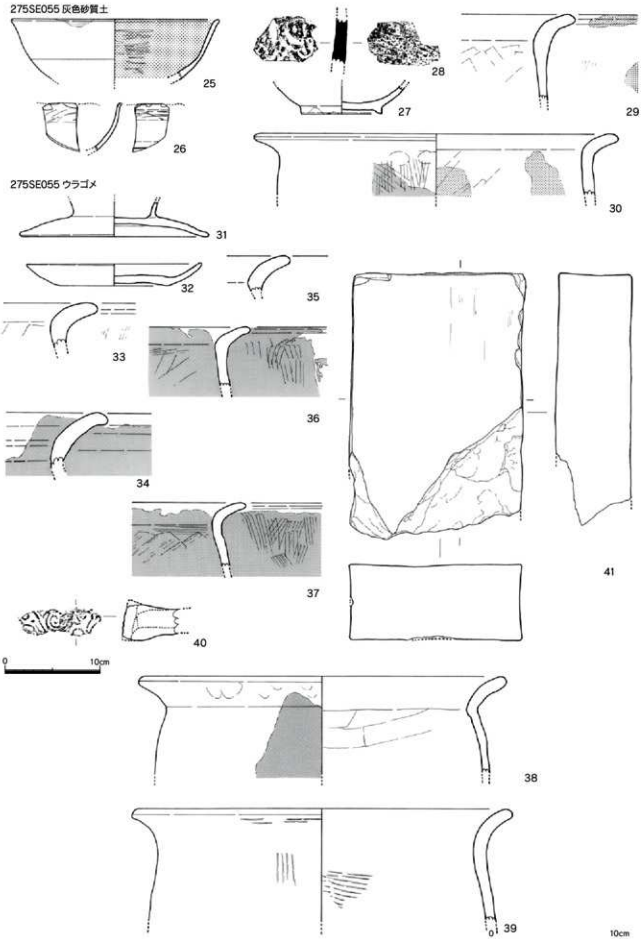


Fig. 24　井戸（275SE055）出土遺物実測図（２）（S=1/3、1/4）

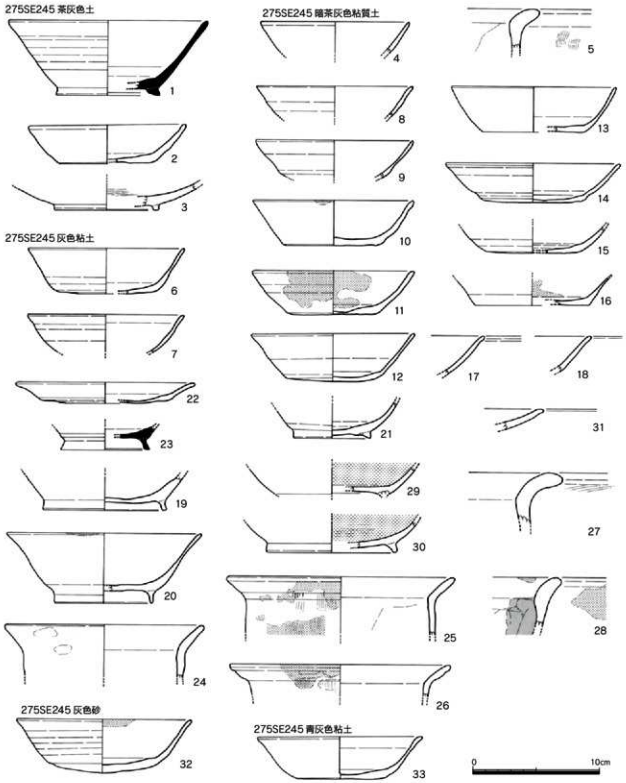


Fig.25　井戸（275SE245）出土遺物実測図（3）（S=1/3）

275SE055 ウラゴメ (Fig.24)

土師器

蓋 b4(31)　高い高台を貼付する皿の可能性もあるが、口縁端部が外方へ開くこと、天井部外面も切り離し処理が観察できないほど、丁寧に回転ナデ調整によって処理されていることから蓋として報告し

た。口径 15.0cm、器高 4.0cm、高台径 7.0cm を測る。

皿 a(32)　口径 13.3cm、器高 1.7cm、底径 8.6cm を測り、底部外面は回転ヘラ切り痕跡をとどめる。

甕 a(33 ～ 39)　頸部を「く」字形に曲げ、体部内面をヘラ削り、体部外面をハケによって調整する。口縁部は多くの場合、ヨコナデによって調整している。多くは、口縁部外面から下位に煤状炭化物が付着している。

瓦

軒平瓦 (40)　瓦当部分の破片で、全形が判然としないため瓦分類を明らかにし難い。瓦当部分と平瓦部分の接合痕跡が残る。

土製品

塼 (41)　無文塼で、21.0cm×13.5cm×6.0cm を測る。表面には不定方向のナデ痕跡が観察できる。

275SE245 茶灰色土 (Fig.25)

須恵器

坏 c(1)　口径 15.8cm、器高 5.9cm、高台径 8.2cm を測り、体部外面下位を回転ヘラ削りする他は、回転ナデによって仕上げられている。底部から直線的に上外方へ開く体部形状を有する。

土師器

坏 a(2)　口径 12.4cm、器高 3.05cm、底径 7.6cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

緑釉陶器

皿 (3)　断面正方形の高台を貼付し、内面をミガキ c によって仕上げている。

275SE245 暗茶灰色粘質土 (Fig.25)

土師器

坏 (4)　口径 11.7cm を測るもので、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

甕 a(5)　頸部を「く」字形に曲げるもので、体部内面はヘラ削り、外面は縦方向のハケによって仕上げている。口縁部は内外面ともにヨコナデ。

275SE245 灰色粘土 (Fig.25)

須恵器

坏 c(23)　外方へやや張り出す高台形状を有し、底部外面には回転ヘラ切り痕跡と考えられる跡が観察できる。他の部位は、回転ナデ調整。

土師器

坏 a(6 ～ 18)　口径 12.2cm ～ 13.3cm、器高 2.6cm ～ 3.6cm、底径 7.2cm ～ 8.0cm を測る。底部から体部の境界が明瞭なものと不明瞭なものが混在しているが、後者の量が優勢。11 のように体部色調が変色しているものも散見される。17 ならびに 18 は、高台が貼付されている可能性はある。

椀 c1(19 ～ 21)　全形が分かる 20 の法量は、口径 15.5cm、器高 5.5cm、高台径 7.8cm を測り、貧弱な高台形状を有している。21 は、椀部がやや丸みを帯びている。

皿 a(22)　口径 14.2cm、器高 1.65cm、底径 10.1cm を測り、やや外方へ押し出されたような底部形状を有している。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

甕 a(24 ～ 28)　頸部を「く」の字形に曲げるもので、体部内面は縦ないしは横方向のヘラ削り、体部外面は縦方向のハケによって調整されている。口縁部外面や体部外面に黒斑が観察できる。

黒色土器 A 類

椀 c1(29・30)　直線的に外方へ開く椀部形状を有するものと考えられ、器面摩耗が著しいながら内面にミガキ c の痕跡が確認できる。

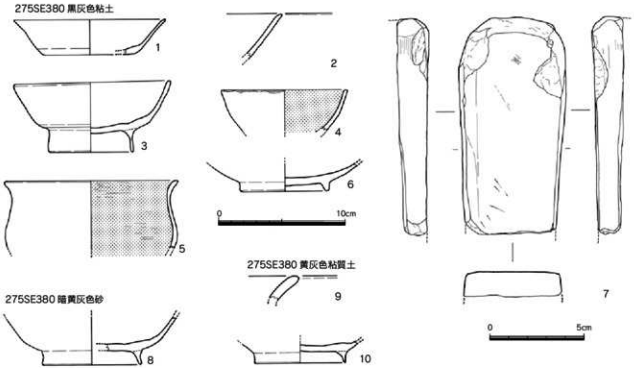


Fig.26　井戸（275SE380）出土遺物実測図（4）(S=1/2、1/3)

緑釉陶器

皿(31)　口縁部のみの破片で、内外面ともに風化による剥落がかるが施釉されている。

275SE245 灰色砂 (Fig.25)

土師器

坏a(32)　口径 13.8cm、器高 4.3cm、底径 8.3cm を測り、底部外面は回転ヘラ切り。底部から体部への移行は緩やか。

275SE245 青灰色粘土 (Fig.25)

土師器

坏a(33)　口径 13.0cm、器高 3.4cm、底径 7.2cm を測り、底部外面は回転ヘラ切り。底部から体部への移行は、明瞭に屈曲している。

275SE380 黒灰色粘土 (Fig.26)

土師器

坏a(1･2)　口径 12.0cm、器高 2.8cm、底径 7.3cm を測り、底部から体部への移行部分に稜を有す。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。2 は、底部欠損のため、高台が貼付されたものである可能性は残る。

椀c1(3)　口径 12.2cm、器高 5.5cm、高台径 6.8cm を測り、やや高い高台が貼付される。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

黒色土器 A 類

椀(4)　内面から口縁部外面にかけて黒色化されている。口径は、10.0cm を測る。

甕(5)　やや緩やかな外反口縁を有し、内面を黒色化するとともにミガキｃ痕跡をとどめている。

緑釉陶器

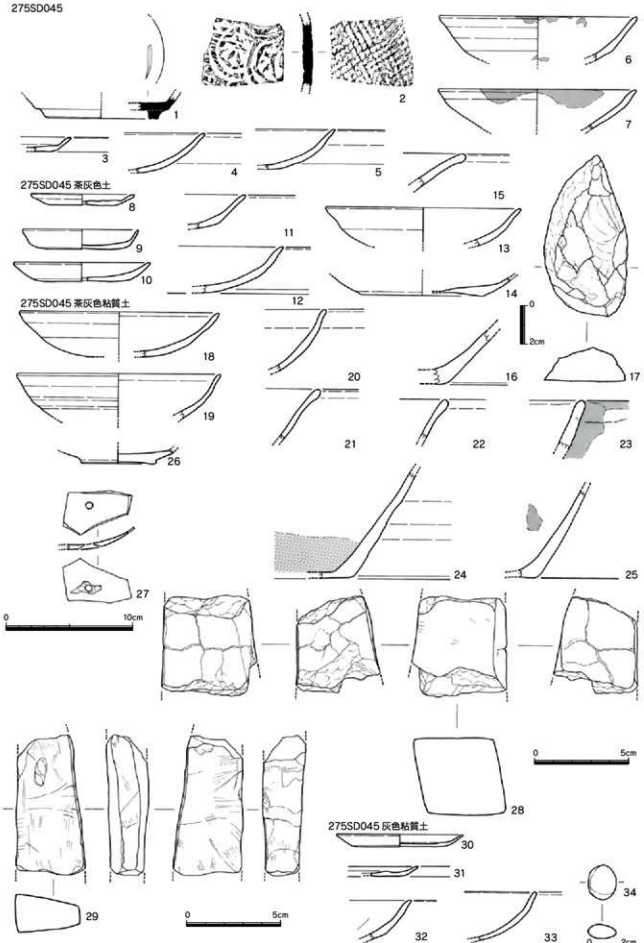


Fig. 27　溝（275SD045）出土遺物実測図（1）（S=1/2、1/3）

皿 (6)　削り出し高台の皿で、高台外面から底部外面を除く内外面を施釉している。

石製品

砥石 (7)　細粒砂岩製のもので、割れている部分以外は全て研ぎ面として利用されている。

275SE380 暗黄灰色砂 (Fig.26)

土師器

椀 c1(8)　やや貧弱な高い高台を貼付し、高台径は 7.8cm を測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SE380 黄灰色粘質土 (Fig.26)

土師器

椀 c1(10)　高台から底部の破片で、外上方へ直線的に開く体部へと続くものと判断される。高台径、7.2cm を測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

甕 (11)　頸部を「く」の字に屈曲させる甕と推定される。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

c. 溝出土遺物

275SD045 (Fig.27)

須恵器

坏 c(1)　断面台形を呈する高台が貼付されるもので、底部内面に重ね焼き時に溶着したと考えられる高台破片が観察できる。

甕 (2)　甕体部の破片で、「車輪文」当て具痕跡が内面に残されている。

土師器

小皿 a1(3)　底部から口縁部にかけての破片で、法量推定は困難。底部内面には不定方向のナデ痕跡、口縁部内外面は回転ナデ調整によって仕上げられている。なお、底部外面の処理は器面摩耗のため不明。

丸底坏 (4 ～ 7)　口径が推定できる 6・7 は、いずれも口径 15.6cm を測る。5 は内面に指頭圧痕、6 および 7 には黒色の付着物が観察できる。

275SD045 茶灰色土 (Fig.27)

土師器

小皿 a1(8 ～ 10)　口径 8.2cm ～ 10.8cm、器高 0.9cm ～ 1.6cm、底径 5.5cm ～ 8.0cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

丸底坏 (11 ～ 13)　口径が復原できる 13 は、口径 15.0cm を測る。いずれも、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

坏 a(14)　平底の底部で、底部外面の切り離し処理が器面摩耗のため明らかにし難い。底径 9.6cm を測る。

鍋 (15・16)　15 は口縁部の破片、16 は底部の破片で、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

石製品

スクレイパー (17)　サヌカイト製で、図面左側に刃部を有している。

275SD045 茶灰色粘質土 (Fig.27)

土師器

丸底坏 a(18 ～ 20)　口径が推定できる 18・19 は、口径 15.8cm・16.2cm を測る。20 は、内面にミガキ b 痕跡が観察でき、さらに外面には煤状炭化物が付着している。

鍋 (21 ～ 25)　やや外方に開く口縁部形態を持つもので、底部は平底。器面摩耗のため、成形・調整痕跡を明らかにすることはできないが、25 の内面には煤状炭化物が付着している。

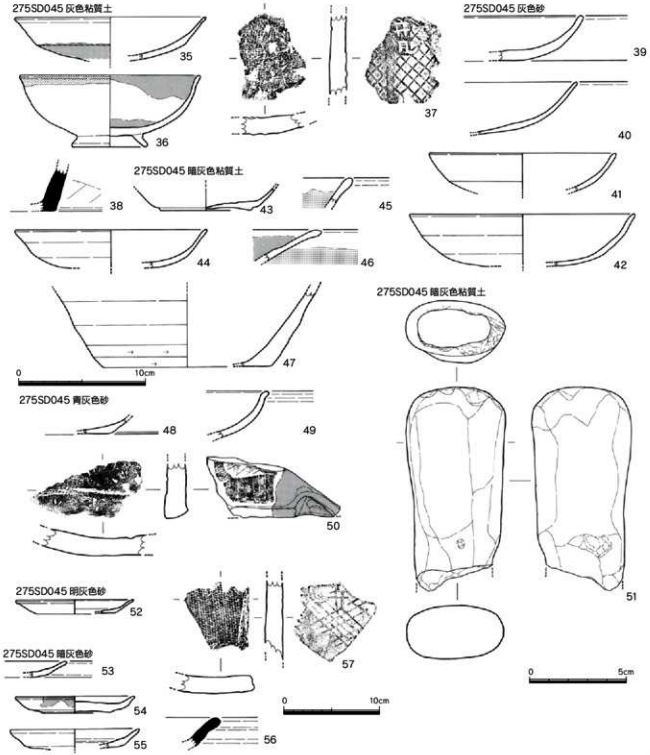


Fig. 28　溝（275SD045）出土遺物実測図（2）（S=1/2、1/3、1/4）

穿孔土器 (27)　丸底坏の底部破片と推定されるもので、内面から外面にむけて穿孔したと考えられる。

緑釉陶器

皿 (26)　円盤状高台を有するもので、底部は回転ヘラ削りによって作りだされている。高台脇にミガキｃ痕跡が観察できる。

石製品

砥石 (28・29)　いずれも砂岩製の砥石。欠損している部分以外は全て研ぎ面として利用している。

275SD045 灰色粘質土 (Fig.27)

土師器

小皿 a1(30・31)　法量が推定できる 29 は、口径 10.0cm、器高 1.0cm、底径 7.0cm を測る。いずれも、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

丸底坏 (32・33)　口縁部の破片資料。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

石製品

碁石 (34)　粘板岩製で、色調は黒色

275SD045 灰色粘質土 (Fig.28)

須恵器

壺 (38)　壺底部の破片と考えられ、体部と底部の境界外面を回転ヘラ削りしている。

土師器

丸底坏 (35)　口径 15.2cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。底部外面に煤状炭化物が付着。

黒色土器 A 類

椀 c2(36)　口径 14.4cm、器高 5.6cm、高台径 6.0cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。なお椀部内面から口縁部外面にかけて黒色化し、煤状炭化物片が付着している。

瓦

平瓦 (37)　凸面に格子叩きを施すもので、「□井瓦？」と印刻する。文字瓦 901B 型式 (九州歴史資料館、2000)。

275SD045 灰色砂 (Fig.28)

土師器

丸底坏 (39 ～ 42)　法量が推定できる 41 ならびに 42 は、14.8cm、17.8cm を測り、42 は大振りのもの。41 は、内面にミガキ b ならびに底部外面に回転ヘラ切り痕跡をとどめている。他の資料は、いずれも器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SD045 暗灰色粘質土 (Fig.28)

土師器

小皿 a(43)　平底で底部切り離し痕跡が回転糸切であるもので、底径 8.0cm を測る。

丸底坏 (44)　口径 15.2cm を測るものの、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

器台 (46)　口縁部のみの破片で、全形・法量が定かではない。内面に煤状炭化物が付着している。

甕 (45)　鍋の可能性がある。口縁部内面が茶灰色に変色している。

鉢 (47)　平底のもので、体部外面下位を回転ヘラ削りによって器面調整している。

275SD045 青灰色砂 (Fig.28)

土師器

坏 × 皿 (48)　底部の破片資料であり、器種特定に至らない。底部外面処理は、回転糸切り。

丸底坏 (49)　口縁部がやや外反することを勘案すると、高台が貼付される椀の可能性もある。内面はミガキ b、外面には回転ナデ痕跡が観察できる。

瓦

平瓦 (50)　凸面に格子叩き様の痕跡が観察できる。凸面部分に煤が付着している。

275SD045 暗灰色粘質土 (Fig.28)

石製品

叩き石 (51)　凝灰岩製のもので、欠損部分以外に叩いた使用痕跡が観察できる。

275SD045 明灰色砂 (Fig.28)

土師器

小皿 a1(52)　口径 9.4cm、器高 1.1cm、底径 6.0cm を測る。内外面ともに回転ナデ、底部内面には不定方向のナデが観察できる。

275SD045 暗灰色砂 (Fig.28)

須恵器

壺 (56)　二重口縁様を呈する壺口縁部と考えられる。

土師器

小皿 a1(53 ～ 55)　法量が推定できる 54 ならびに 55 は、口径 9.5cm・10.2cm、器高 1.3cm・1.5cm、底径 5.6cm・7.9cm で、底部切り離し処理が明らかな 54 は、回転糸切り。

瓦

平瓦 (57)　凸面に格子叩きと「井」文字が観察でき、文字瓦 901H 型式と考えられる (九州歴史資料館、2000)。

275SD050 (Fig.29)

須恵器

盤 (2)　獣脚様の形状を呈し、大型の盤に貼付されている。不定方向の強いナデによって成形され、わずかに残る盤底部内面はヨコナデによって処理されている。脚端部が欠損しているため、爪の有無は不明。

緑釉陶器

椀 (1)　外方に張り出す高台を貼付するもので、内外面に施釉。高台径 7.4cm を測る。

275SD050 茶灰色土 (Fig.29)

土師器

小皿 a(3)　底部外面を回転ヘラ切りするもので、口径 8.4cm、器高 1.0cm、底径 7.1cm に復原できる。

275SD050 茶灰色粘質土 (Fig.29)

土師器

椀 c1(4)　高台部分を欠損するもので、口径 13.6cm を測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

緑釉陶器

椀 × 皿 (5)　高台から底部にかけての破片で、高台畳付から底部外面を除く全面に施釉。

灰釉陶器

壺 (6)　肩部を屈曲させるもので、内外面に回転ナデ痕跡が観察できる。

瓦

軒丸瓦 (7・8)　いずれも瓦当のみの破片資料で、7 は単弁 - 素文であることから 058a 型式、8 は複弁でその外に珠文が巡ることから 278 型式と考えられる (九州歴史資料館、2000)。

275SD050 黄灰色粘質土 (Fig.29)

須恵器

壺 (9)　外方へ開く頸部から口縁部をやや肥厚させるもので、胎土、形態的特徴から篠産須恵器と考えられる。

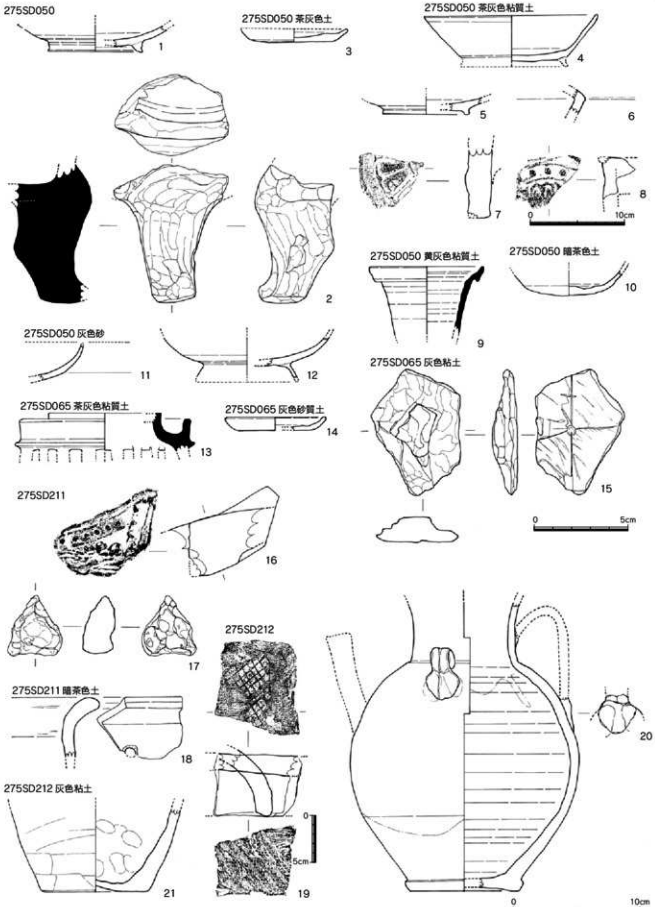


Fig.29　溝（275SD050、SD065、SD211、SD212）出土遺物実測図（3）（S=1/2、1/3、1/4）

275SD050 暗茶色土 (Fig.29)

土師器

坏a(10)　やや丸みを帯びた底部形状を呈する。底部外面の処理は、器面摩耗のため不明。

275SD050 灰色砂 (Fig.29)

土師器

丸底坏 (11)　口縁端部ならびに底部を欠損するもので、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

椀c2(12)　やや高い高台を貼付するもので、形状から金属器模倣の土師器椀。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SD065 茶灰色粘質土 (Fig.29)

須恵器

円面硯 (13)　陸部分ならびに脚を欠損するもので、透かしを入れる脚がつづくものと考えられる。外面は回転ナデであるが、海部分や内面は不定方向のナデによって仕上げられている。

275SD065 灰色砂質土 (Fig.29)

土師器

小皿a1(14)　口径8.0cm、器高1.1cm、底径6.0cmを測り、底部外面に板状圧痕を観察できるが、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

石製品

再加工品 (15)　石鍋の破片を再加工したもので、「バレン状」石製品と呼称されるものである。紐的な形状部分に穿孔がなされ、平滑面には「十」字様の線刻が観察できる。

275SD211 (Fig.29)

瓦

軒平瓦 (16)　瓦当部分の破片で、上外区に連珠文、脇区に鋸歯文、偏行唐草が観察でき、560Ba'型式と考えられる(九州歴史資料館、2000)。

金属製品

鉄滓 (17)　3.2cm×2.9cm×1.5cmを測る。

275SD211 暗茶色土 (Fig.29)

土師器

甕 (18)　頸部を緩やかに外方へ曲げるもので、頸部に穿孔がある。口縁部内面にハケ調整の痕跡が観察できる。

275SD212 (Fig.29)

瓦

丸瓦 (19)　凸面に格子叩き、凹面に布痕をとどめている。

青磁

水注 (20)　円盤状高台を有する越州窯系青磁Ⅱ系の水注。把手、注ぎ口、口縁部が欠損している。体部外面下位まで施釉し、内面は頸部で釉がとまっている。

275SD212 灰色粘土 (Fig.29)

須恵器

壺 (21)　平底で長胴の壺と考えられ、体部外面を回転ヘラ削りによって調整し、内面には当て具痕と考えられる凹凸が観察できる。

275SD215 (Fig.30)

須恵器

甕 (1)　甕体部の破片で、内面に乳白色の付着物が観察できる。

盤 (2)　盤に貼付される獣脚。不定方向の強いナデによって成形されている。

緑釉陶器

椀 × 皿 (3)　高台から底部の破片資料で、底部内面に「×」様の線刻がある。底部外面は回転ヘラ削り、他は内外面ともに回転ナデ調整。

灰釉陶器

椀 × 皿 (4)　高台から底部の破片資料で、体部内外面のみ施釉。

瓦

丸瓦 (5)　瓦当部分の破片で、小破片のため分類を明らかにすることはできなかった。

土製品

鞴羽口 (6)　円筒形の羽口部分で、手づくねによる成形。表面に金属などの付着物は観察できていない。

275SD220 (Fig.30)

土師器

小皿 a1(7)　口径 10.2cm、器高 1.0cm、底径 7.2cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

土製品

瓦玉 (8)　全面をすり減らして成形したもので、瓦を再利用している。

石製品

石鍋 (9)　四角形の把手をつくり出すもの（A 群）で（森田、1983）、細かい削りによって成形されている。外面には煤状炭化物が付着している。

[文献]

森田勉「滑石製容器　－特に石鍋を中心として－」『佛教藝術』148 号　1983　毎日新聞社

275SD246 (Fig.30)

土師器

坏 (10)　直線的に外方へ開く形状を示すもので、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

椀 c2(11)　外方へ張り出す高台を貼付するもので、器面摩耗のため成形・調整痕跡は明らかにできない。

緑釉陶器 (Pla.5-2)

皿 (12)　3 つの獣脚を貼付し皿部口縁が外方へ屈曲するものと考えられる。獣脚は、皿部に貼付され、形状は削りによって成形されている。

275SD247 (Fig.30)

土師器

坏 a(13)　口径 12.6cm、器高 3.5cm、底径 8.0cm を測り、底部外面は回転ヘラ切り、底部から体部への移行は緩やかである。

甕 a(14)　外方へ口縁部を曲げるもので、体部内面はヘラ削り、外面はハケによって調整されている。口縁部内外面ともにヨコナデ。

鉢 (15)　口縁端部のみの破片であることから器種特定には再考する必要がある。器面摩耗のため成形・調整痕跡は明らかにできない。

須恵器

壺 (16)　双耳壺と考えられ、耳部分はナデによって成形・調整されている。外面には平行叩き痕が、

内面には同心円当て具痕が観察される。

緑釉陶器

椀 (17)　外方へ張り出す高台を貼付し、底部内面にはミガキ c が確認できる。底部外面以外は施釉されている。

石製品

石鍋 (18)　滑石製石鍋の破片で、内外面に器面成形のための細かい削り痕跡が観察できる。

275SD250 (Fig.30)

土師器

甕 (19)　口縁部の破片で、外面に指頭圧痕が観察できる。

土製品

瓦玉 (20)　瓦側面を打ち掻きによって成形したもの。

275SD255 (Fig.30・31)

土師器

小皿 a1 (21)　底部から口縁部にかけての破片資料で、法量推定はできなかった。器面摩耗のため成形・調整痕跡は明らかにできない。

坏 a(22・23)　口径 12.0cm・13.0cm、器高 4.1cm・2.8cm、底径 7.6cm・7.8cm を測る。底部外面はいずれも回転ヘラ切り。底部から体部への移行形状は、22 は緩やか、23 は屈曲している。

椀 c1 (24・25)　24 は口径 12.6cm を測る坏部破片。25 は高台径 6.4cm を測る。いずれも直線的に外方へ開く体部形態を有する。

甕 a(26 ～ 30)　口縁部の破片から体部上位まで残存する破片資料で、頸部を「く」字形に屈曲させ、体部内面はヘラ削り、外面をハケによって調整する。29 は、口縁部内外面に黒斑が、30 には口縁部外面に煤状炭化物が付着している。

鉢 (31)　外方へ大きく開くもので、甕と比べ精製された印象があったため鉢とした。内面に黒斑がある。口縁部内外面ともに回転ナデ、体部内面は横方向の削りによって仕上げられている。

須恵器

盤 (32・33)　大型の盤に貼付される獣脚。強い不定方向のナデによって成形されていが、獣脚としての形状からは程遠く、形骸化している感がある。

黒色土器 A 類

椀 (34･36)　口縁部の破片資料で、34 は器面摩耗のためミガキ痕跡の状態を明らかにし難いものの、36 は内面に細いミガキ c、外面を削りによって調整していることなどから、畿内産の黒色土器と考えられる。

坏 (35)　底部から体部下位の破片資料で、内面に粗いミガキ c 痕跡が残る。

甕 (37)　頸部を「く」」字形に屈曲させるもので、内面を黒色化し、横方向のミガキ c によって光沢を持たせている。頸部外面にはハケ工具の当たり痕跡が残る。

黒色土器 B 類

椀 (38)　丸い形態の椀。器面摩耗が著しいが、底部内面にミガキ c 痕跡が残る。

緑釉陶器

椀 (39 ～ 45)　削り出し高台 (41・43) や内面にミガキ c を有するもの (40) がある。42 は特徴から近江産と考えられる。45 は見込み部分に重ね焼き時の高台の付着痕跡が残る。

灰釉陶器

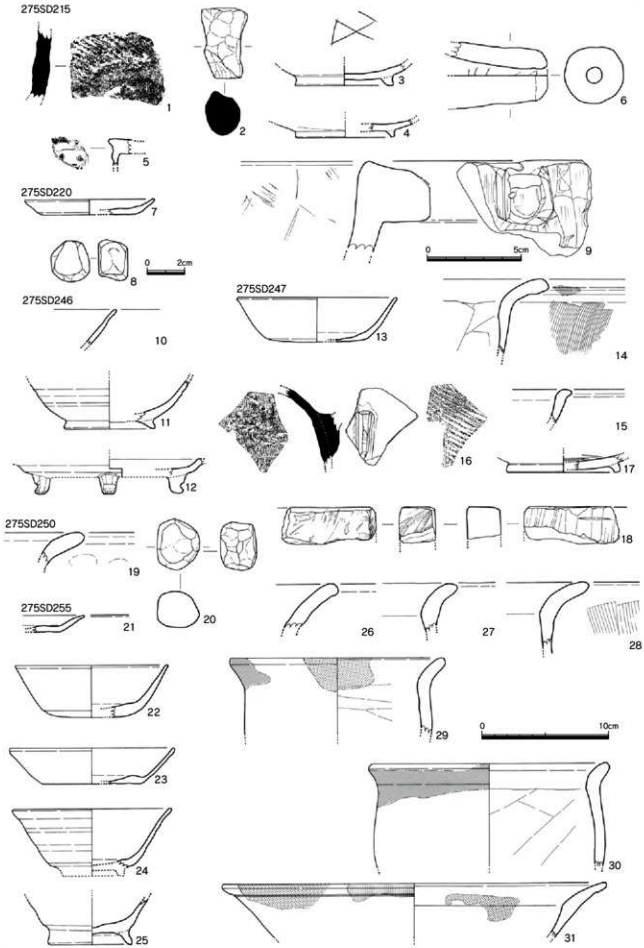


Fig. 30　溝（275SD215、SD220、SD246、SD247、SD250、SD255）出土遺物実測図（4）（S=1/2、1/3、1/4）

皿 (46)　断面「三日月」状の高台形状を有し、高台脇は回転ヘラ削り、他の部位は回転ナデによって仕上げられている。内面に施釉。

石製品

硯 (47)　滑石製のもので、脚付の風字硯と考えられる。

瓦

軒平瓦 (48)　瓦当部から平瓦部分が僅かに残るもので、型式を明らかにし難い。平瓦凸面には細かい格子叩き痕跡がある。

275SD260 (Fig.31)

須恵器

坏 c4(50)　高台の断面形状が三角形を呈するもので、形骸化した高台。外方へ大きく開く体部へとつづく。

甕 (49)　体部の破片で、外面は平行叩き、内面に「車輪文」当て具痕跡がある。

土師器

甕 b(54)　口径 27.4cm を測るもので、丸底。体部内面は縦方向の削り、外面は叩きの後ナデによって器面調整が図られている。口縁部内面に黒斑がある。

緑釉陶器

椀 (51 ～ 53)　円盤状高台のもの (51)、蛇の目高台のもの (52・53) がある。52 は見込み部分にミガキ c 痕跡が観察できる。いずれも京都産と考えられる。

275SD260 茶灰色粘質土 (Fig.32)

土師器

坏 a(55・56)　法量が明らかな 56 は、口径 13.6cm、器高 3.3cm、底径 7.7cm を測り、両者とも底部外面に回転ヘラ切り痕跡が観察できる。

甕 a(57)　口径 27.0cm を測るもので、頸部を「く」の字形に屈曲させる。体部内面はヘラ削り、外面はハケによって器面調整し、口縁部内外面ともにヨコナデ。口縁部外面に暗褐灰色に変色した箇所がある。

瓦

軒丸瓦 (58)　瓦当のみの小破片で、型式を特定することができない。

土製品

瓦玉 (59)　瓦断面を打ち掻きにより成形し、その後擦り行為によって形状を整えている。

275SD260 灰色粘土 (Fig.32)

須恵器

壺 (61)　体部下位から底部にかけての破片資料で、外面には平行叩き痕が、内面は当て具痕跡をナデ消している。火膨れによる凹凸が目立つ。体部下位の底部との境界部分は回転ヘラ削りによって仕上げられている。

土師器

坏 (60)　口縁部のみの破片で、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SD260 灰色砂 (Fig.32)

土師器

坏 a(62)　口径 11.2cm、器高 3.2cm、底径 7.2cm、底部外面は回転ヘラ切り痕跡が残る。底部から体部への移行は緩やか。

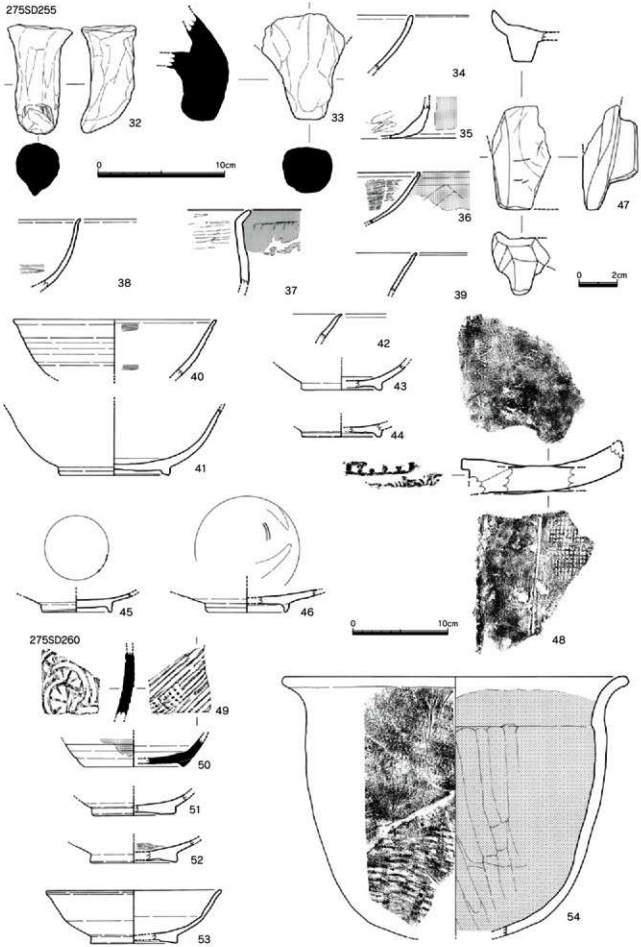


Fig.31　溝（275SD255、SD260）出土遺物実測図（5）（S=1/2、1/3、1/4）

瓦

軒丸瓦 (64)　複弁でかつ外区に連珠文をめぐらすもので、225 型式と考えられる (九州歴史資料館、2000)。

石製品

砥石 (63)　粘板岩製で、欠損箇所以外は全て使用痕跡が観察できる。

275SD265 (Fig.32)

石製品

石鏃 (65)　サヌカイト製で、細かい打ち掻きによって成形されている。重量は、1.0g を量る。

275SD265 茶灰色粘土 (Fig.32)

灰釉陶器

椀 × 皿 (66)　高台から底部の破片資料で、高台脇から内面にかけて施釉。

275SD265 灰色砂 (Fig.32)

須恵器

壺 (70)　双耳壺と考えられるもので、強い不定方向のナデによって貼付されている。外面は平行叩き、内面には当て具痕と考えられる凹凸が顕著に残る。

盤 (71)　大型の盤の脚で、強い不定方向のナデによって獣脚様の形状を作りだしている。獣脚の爪までの表現はなされていない。

土師器

蓋 (67)　口縁端部をわずかに凹ませるもので、小皿 2 の可能性もある。

甕 a(68・69)　頸部を「く」の字形に屈曲させるもので、68 は体部内面をヘラ削りし、頸部外面に指頭圧痕を多くとどめる。69 は、体部内面を横方向のハケ調整を行い、外面は縦方向のハケ調整によって仕上げている。一般的には、このような内面ハケ甕は、筑後南部地域に平安前期以降流布してくるもので、地域色「復興」の甕として考えている。

黒色土器 A 類

椀 (72・73)　内面黒色化するもので、内面にミガキ c 痕跡が観察できる。

緑釉陶器

椀 (74)　蛇の目高台を削り出しによって形づくるもので、京都産緑釉陶器と考えられる。

石製品

石鏃 (75・76)　75 はサヌカイト製、76 は黒曜石製で、重量は 75 が 0.8g、76 が 1.0g を量る。

管玉 (77)　2.2cm×0.8cm を測り、0.1cm の穿孔がある。碧玉製。

275SD265 明灰色砂 (Fig.32)

須恵器

坏 c(78)　断面四角形の高台から、やや外開きに体部へ移行する。

土師器

皿 (79)　口縁部から底部の破片資料。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

甕 a(80)　口縁部から頸部にかけての破片資料で、頸部内面下位はヘラ削り、外面にはハケ調整痕跡をとどめる。頸部外面には煤状炭化物が付着している。

d. 土坑出土遺物

275SK192 (Fig.33)

須恵器

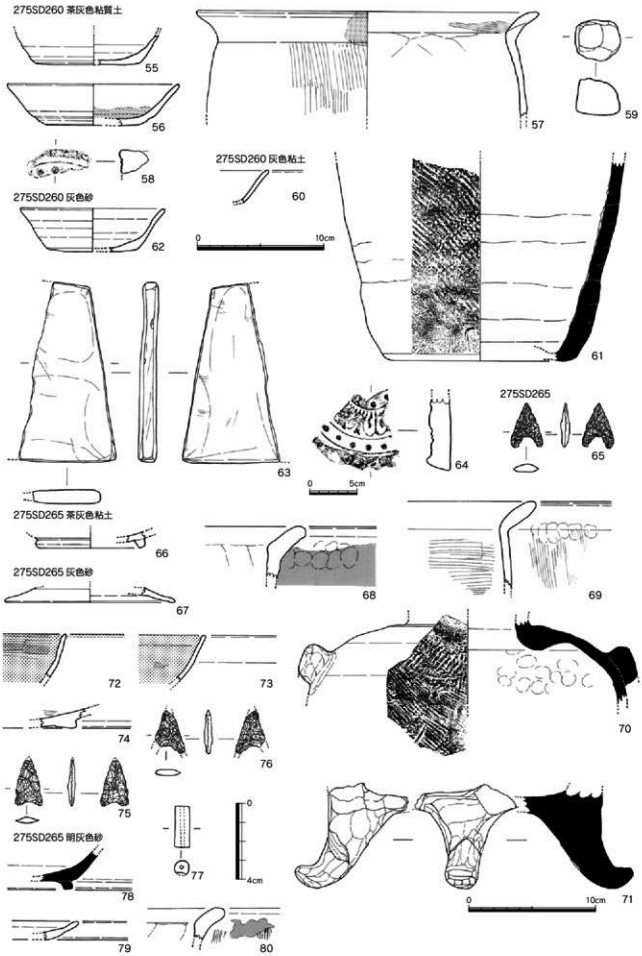


Fig. 32　溝（275SD255、SD260）出土遺物実測図（5）（S=1/2、1/3、1/4）

壺(4)　肩部の破片資料で、体部外面に格子叩き、内面には当て具痕と考えられる凹凸が残る。肩部上位は回転ナデ。

土師器

椀c1(1)　口径15.0cm、器高5.5cm、高台径8.0cmを測り、直線的に外方へ開く体部形態を有する。

甕(3)　頸部を「く」字形に屈曲させるもので、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

黒色土器A類

椀c(2)　断面台形の高台からやや内湾しつつ外方へ開く体部へ移行する。内面にはミガキc痕跡をとどめる。高台径は、10.1cmを測る。

瓦器

椀(5)　内湾する体部形態をもつ。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SK229 (Fig.33)

土師器

甕(11)　頸部から口縁部の破片で、頸部内面下位にヘラ削り痕跡が、頸部外面にはハケ痕跡が観察できる。

275SK244 (Fig.33)

土師器

椀c1(6)　断面四角形のしっかりした高台から直線的に外方に開く体部形態へ移行する。高台径は6.5cmを測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

甕a(7)　頸部から口縁部の破片で、頸部内面下位は横方向のヘラ削り、外面にはハケ痕跡が観察できる。頸部が一部黒色に変色している。

黒色土器A類

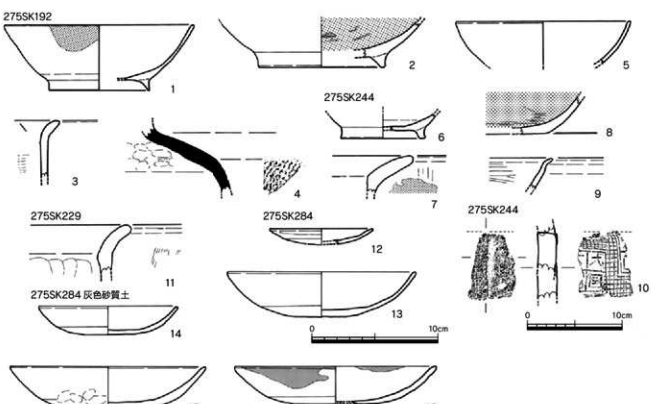


Fig. 33　土坑（275SK192、SK229、SK244、SK284）出土遺物実測図（S=1/3、1/4）

鉢 (8)　平底の底部から内湾気味に開く体部へと移行する。内面にミガキｃ痕跡が残る。

緑釉陶器

椀 (9)　口縁部をやや外反させるもので、内面にミガキｃの痕跡が観察できる。

瓦

平瓦 (10)　凸面に格子叩きと「大国」の文字が判読できる。凹面には布痕跡。907 型式と考えられる（九州歴史資料館、2000）。

275SK284 (Fig.33)

土師器

小皿 a1(12)　口径 8.2cm を測り、底部内面を不定方向のナデによって押し出している。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

丸底坏 (13)　口径 15.0cm、器高 3.6cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SK284 灰色砂質土 (Fig.33)

土師器

丸底坏 (14 ～ 16)　14 は口径 11.3cm、器高 2.3cm を測り、他の二者とはやや小ぶりである。15 おおよび 16 は、口径 15.4cm･16.0cm、器高 3.45cm･3.0cm を測り、両者とも回転ヘラ切り。15 は、底部外面に指頭圧痕をとどめ、16 は口縁部内外面に煤状炭化物が付着している。

e. 窯出土遺物

保存されることを前提としたため、完掘していない。

275SX060 黄灰色土 (Fig.34)

土師器

小皿 a1(1)　底部から口縁部の破片資料で、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。窯本体に使用されている瓦が格子叩きであり、瓦の存続時期と考え併せる必要がある。

275SX060 灰色粘質土 (Fig.34)

土師質土器

こね鉢 (2)　内面をハケによって調整するもので、東播磨系須恵器こね鉢の模倣形態と考えられる。当該資料については上位からの混入資料と考えられる。

f. その他の遺構出土遺物

275SX184 (Fig.34)

土師器

小皿 a1(3・4)　底部から口縁部までの破片資料で、法量をつかむことはできなかった。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

丸底坏 (5)　口径 13.6cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SX191 (Fig.34)

土師器

甕 (6)　口縁部の破片。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

黒色土器 A 類

椀 c1(7)　断面台形の高台を有し、直線的に外方へ開く体部へと移行する。内面を黒色化しているが、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SX194 (Fig.34)

土師器

坏 (8)　直線的に外方へ開く口縁部破片で、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SX197 (Fig.34)

土師器

坏 a(9)　口径 10.9cm、器高 3.1cm、底径 7.6cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SX201 (Fig.34)

土師器

丸底坏 (10)　口径 15.6cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SX204 (Fig.34)

土師器

丸底坏 (11)　口縁部の破片せ、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SX206 (Fig.34)

土師器

小皿 a1(12)　口径 9.0cm、器高 1.15cm、底径 7.4cm を測る。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

丸底坏 (13・14)　口縁部のみの破片。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SX207 (Fig.34)

石製品

スクレイパー (15)　黒曜石製で、図上左右に刃部が想定できる。

275SX223 (Fig.34)

金属製品

用途不明 (16)　鉄片で用途は不明。

275SX226 (Fig.34)

石製品

用途不明 (17)　欠損部分以外は、自然面をとどめている。砥石とも考えられるが、明瞭な擦り痕跡が観察できなかったことから用途不明とした。

275SX233 (Fig.34)

土師器

丸底坏 a(18)　口径 14.7cm、器高 3.9cm を測る。体部下位外面には指頭圧痕をとどめている。

275SX241 (Fig.34)

黒色土器 A 類

椀 (19)　口縁部の破片で、内面にわずかにミガキ c 痕跡 b が観察できる。

275SX243 (Fig.34)

土師器

坏 a(20)　口径 12.0cm、器高 3.9cm、底径 7.6cm を測り、底部内外面が黒灰色に変色している。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

甕 (22・23)　頸部から口縁部の破片資料で、口縁部内外面にヨコナデ痕跡をとどめている。

黒色土器 A 類

椀 c(21)　細い高台からやや内湾気味に体部へ移行するものと考えられる。底部外面に板状圧痕が観察できる。

275SX291 (Fig.34)

土師器

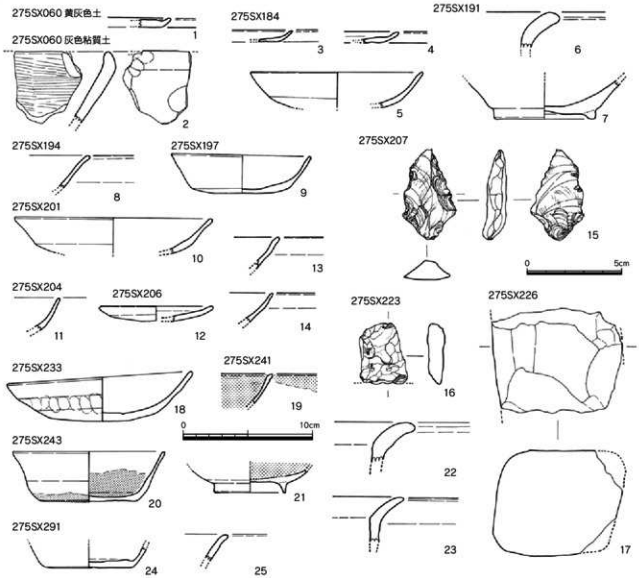


Fig. 34　その他の遺構（275SX060、SX184、SX191、SX194、SX197、SX201、SX204、SX206、SX207、SX223、SX226、SX233、SX241、SX243、SX291）出土遺物実測図（S=1/2、1/3）

坏a(24)　底部破片で、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

緑釉陶器

椀(25)　やや外反する口縁部の破片で、内外に施釉している。

(3) 第３・４面遺構

a. 道路

275SF270 (Fig.35)

須恵器

壺(1)　双耳の部分と考えられ、表面に指頭圧痕が残されている。

土師器

甕(2)　口縁部のみの破片で、頸部を「く」の字形に屈曲させる。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

黒色土器A類

椀(3)　高台から底部の小破片で、見込部分に煤状炭化物が付着している。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SF270 下層 (Fig.35)　275SF270 礫下層から出土した波板状圧痕出土遺物。

須恵器

坏c(4)　高台から底部の小破片。高台は、断面正方形を呈している。

甕(5～9)　いずれも口縁部の小破片。7は外面に指頭圧痕をとどめ、土師器甕様の形態を有する。

壺(10)　外方へ広く立ち上がる口縁部形態を有するもので、平安期の所産と考えられる。

土師器

坏(11・12)　11は口縁部の破片、12は高台から底部の破片で、内外面ともに回転ナデにて仕上げている。

瓦

軒丸瓦(13)　瓦当のみの破片で、145b型式と判断される（九州歴史資料館、2000）。

石製品

砥石(14・15)　いずれも砂岩製のもので、残存部分全てに使用痕が観察できる。

b. 溝出土遺物

275SD275 (Fig.36)

土師器

坏(1)　直線的に外方へ開く口縁部形態を有する。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

甕(2)　やや器厚が厚いもので、頸部から緩やかに外方へ口縁部を曲げている。内面は口縁部近くま

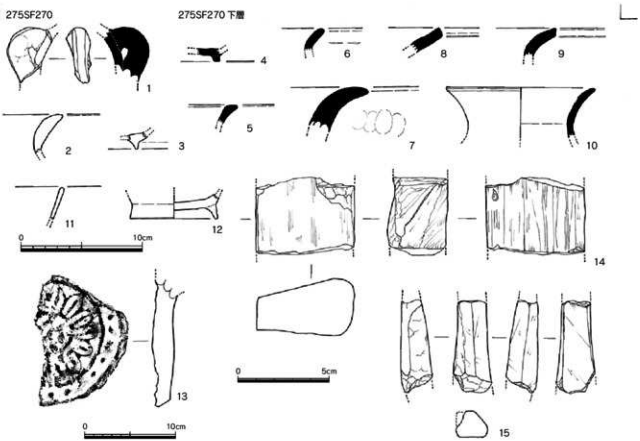


Fig.35　道路（275SF270）出土遺物実測図（S=1/2、1/3、1/4）

でヘラ削りしている。

黒色土器A類

椀c1(3)　断面略台形の高台から直線的に外方へ開く体部へとつづく。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SD275 黄灰色粘質土 (Fig.36)

土師器

椀c1(4)　やや細みの高台から直線的に外方へ開く体部形状を示す。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SD275 茶灰色砂質土 (Fig.36)

瓦

平瓦(5)　凸面に「平井」の文字を記すもので、文字瓦901A型式(九州歴史資料館、2000)。

275SD280 (Fig.36)

黒色土器A類

椀(6～8)　6は、口縁部のみの破片であるが、直線的な体部を有する椀c1と推定する。7ならびに8は、高台から底部の破片。

275SD281 (Fig.36)

土師器

坏(9)　直線的に外方へ開く口縁部の破片。

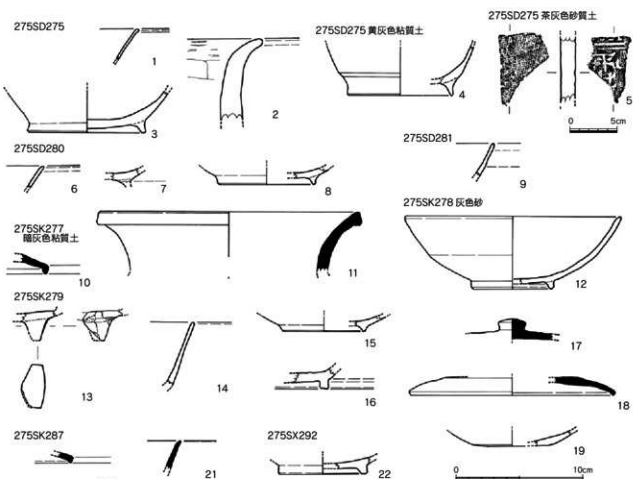


Fig.36　3・4面検出遺構出土遺物実測図 (S=1/3、1/4)

c. 土坑出土遺物

275SK277 暗灰色粘質土 (Fig.36)

須恵器

蓋 3(10)　断面三角形を呈する口縁部形態。内外面ともに回転ナデ。

甕 (11)　外方に大きく開き、口縁部を外方に肥厚させている。

275SK278 灰色砂 (Fig.36)

瓦器

椀 c(12)　口径 17.1cm、器高 5.8cm、高台径 6.6cm を測り、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

275SK279 (Fig.36)

緑釉陶器

椀 × 皿 (15)　内外面ともに回転ナデ痕跡をとどめる。畳付以外は、全面施釉。

灰釉陶器

硯 (13)　脚部のみの破片。不定方向のナデによって硯部と接合している。

椀 (16)　断面正方形の高台を貼付し、残存部分からは内面のみ施釉。

青磁

椀 (14)　直線的に外方へ開く体部形態を有する。素地、釉調から越州窯系青磁 I 類に入る。

275SK279 暗灰色粘土 (Fig.36)

須恵器

蓋 c(17)　ボタン状に形骸化したツマミ。器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

蓋 3(18)　断面三角形を呈する口縁部形態を有し、内外面ともに回転ナデによって仕上げている。

土師器

坏 d(19)　底部から体部下位の破片資料で、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

d. その他の遺構出土遺物

275SX287 (Fig.36)

須恵器

蓋 3(20)　断面三角形を呈する口縁部形態を有する蓋。

坏 (21)　直線的に外方へ開く口縁部破片。

275SX292 (Fig.36)

緑釉陶器

椀 (22)　削り出し高台で、高台脇から内面にかけて施釉。

(4) 土層出土遺物

暗灰色粘質土 (Fig.37)

土師器

坏 a(1)　口径 12.9cm、器高 4.5cm、底径 7.45cm を測る。底部内面に指頭圧痕を多くとどめ、丸底化する意図がうかがえる。底部外面は、回転ヘラ切り。口縁部内外面が黒色化している。

茶色砂質土 (Fig.37)

黒色土器 A 類

椀 (3)　直線的に外方へ開く口縁部形態を有し、口縁部外面から内面を黒色化している。

甕 (2)　頸部を緩やかに外反させるもので、内面は器面摩耗のため調整技法を明らかにできない。外

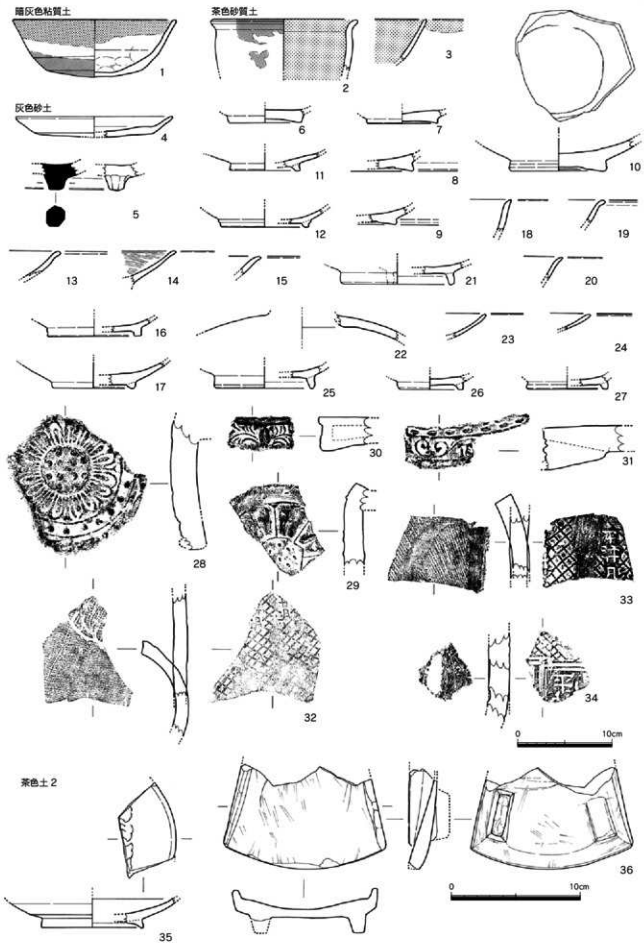


Fig. 37　土層出土遺物実測図（1）（S=1/3、1/4）

面は回転ナデによって仕上げられ、煤状炭化物が付着している。

灰色砂 2

須恵器

器種不明 (5)　短脚の脚が貼付されるもので、全形を知りえないため、脚数を明らかにできない。強いナデによって器体へ貼付している。

土師器

皿 a(4)　口径 12.4cm、残存高 1.6cm、底径 9.4cm を測り、底部外面に板状圧痕が観察できる。

緑釉陶器

椀 × 皿 (6・7・11・12・16)　6 および 7 は、円盤状高台のもので、底部削り出し高台。11・12・16 は輪高台のものである。

皿 (13・14)　いずれも口縁部の破片で、14 は内面にミガキ c 痕跡が観察できる。

椀 (8 ～ 10・15・17 ～ 21)　8 ～ 10 は蛇の目高台を回転ヘラ削りによって作りだしている。15 は、椀としたが、傾きから皿の可能性も残す。17・21 は輪高台のもので、18 ～ 20 は口縁部のみの破片資料である。

壺 (22)　肩部上位の破片で、外面は施釉、内面に回転ナデ痕跡が観察できる。

灰釉陶器

皿 (23・24)　いずれも口縁部の破片資料で、23 は口縁部下位を回転ヘラ削りする。内外面ともに施釉されている。

椀 × 皿 (25 ～ 27)　輪高台を呈するもので、高台脇から内面にかけて施釉されている。

瓦

軒丸瓦 (28・29)　いずれも瓦当のみの破片で、28 は 223a 型式、29 は単弁で 020Bb 型式と考えられる (九州歴史資料館、2000)。

軒平瓦 (30・31)　瓦当の破片で、30 は 662 型式、31 は 635C 型式と考えられる。

丸瓦 (32)　凸面に文字「□井瓦？」と判読でき、格子叩きであることから文字瓦 901C 型式（九州歴史資料館、2000)。

平瓦 (33・34)　凸面に文字「平井瓦？」と判読でき、格子叩きであることから文字瓦 901B 型式に、34 は同様に 901A 型式に該当する（九州歴史資料館、2000)。

茶色土 2 (Fig.37、Pla.6-2)

緑釉陶器

皿 (35)　内面に花文を線刻するもので、断面三角形の輪高台を貼付する。特徴から東海系の緑釉陶器と考えられる。

石製品

硯 (36)　長方形を呈する脚を二つ作りだす風字硯。海部には擦ったあとが残る。滑石製。

明灰色砂 (Fig.38)

石製品

石鏃 (1)　サヌカイト製の石鏃で、重量 0.6g を量る。

灰色砂 1 (Fig.38)

弥生土器

壺 (2・3)　2 は、「レンズ」状の飛び出した底部形状をとり、器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。なお、外面に煤状炭化物が付着している。3 は、直口縁の壺で、頸部内面に粘土紐痕が残り、口縁部か

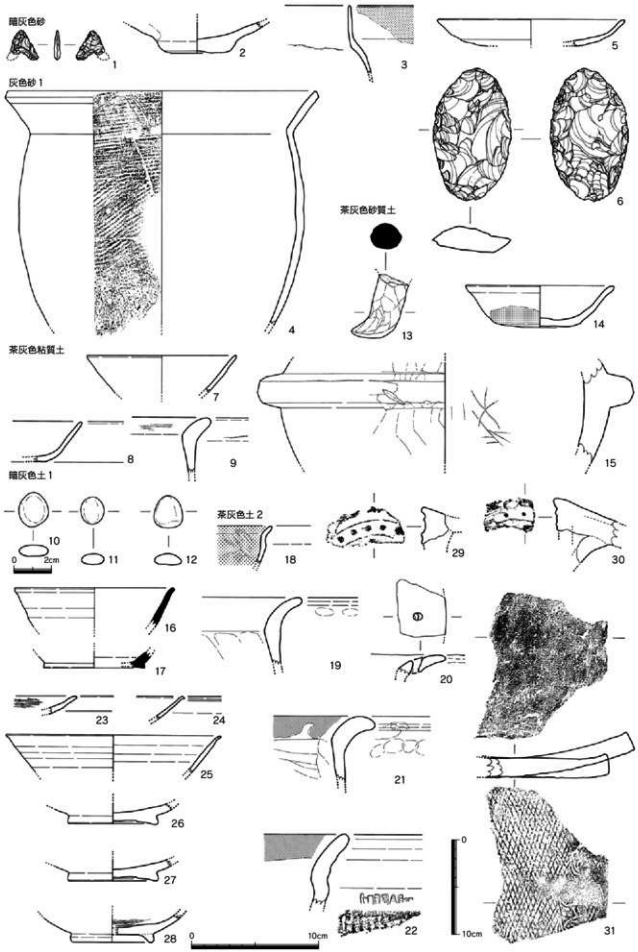


Fig.38　土層出土遺物実測図（2）(S=1/2、1/3、1/4)

ら頸部外面が黒色に変色している。

甕 (4)　頸部「く」の字を呈するもので、外面には平行叩き痕跡が観察できる。内面は器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

石製品

スクレイパー (6)　長軸長 7.1cm、短軸長 4.1cm、厚さ 1.2cm を測り、図上左右に刃部を形作る。

土師器

丸底坏 (5)　口径 14.2cm を測り、底部外面に回転ヘラ切り痕跡が残る。

茶灰色粘質土 (Fig.38)

土師器

坏 (7･8)　7 は口径 11.0cm を測り、直線的に外方へ開くもので器面摩耗のため成形・調整痕跡は不明。

甕 (9)　頸部「く」の字形を呈する甕で、口縁部内面には横方向のハケ痕跡が観察できる。また頸部外面には、粘土紐痕跡が残る。

暗灰色土 1 (Fig.38)

石製品

碁石 (10 ～ 12)　径 1.3cm ～ 1.5cm を測るもので、河原石を転用し、10 はチャート製、11 は砂岩、12 は蛇紋岩製。色調は、10 が橙色、11 は茶灰色、12 は青灰色。

茶灰色砂質土 (Fig.38)

須恵器

盤 (13)　大型の盤に貼付される獣脚で、強いナデによって成形されている。

土師器

坏 a(14)　口径 11.8cm、器高 3.3cm、底径 6.2cm を測り、底部外面に回転ヘラ切り痕跡が観察でき、底部外面に黒斑が残る。底部から体部への移行は、緩やか。

石製品

石鍋 (15)　口縁部よりやや下がった箇所に鍔を巡らすもので、内外面に細かい削り痕跡が観察できる。

茶灰色土 2 (Fig.38)

須恵器

坏 (16・17)　16 は、口径 12.6cm を測り、やや外反気味に開く口縁部形態を有する。17 は、円盤状高台を呈し、底部外面に回転糸切り痕跡を有する。産地不明ながら、大宰府近郊での生産窯が検出されていないことから、搬入品と考えられる。

土師器

甕 (19 ～ 22)　19・21 は、頸部を「く」の字に屈曲させる甕で、体部内面下位をヘラ削りによって仕上げているものである。頸部外面には指頭圧痕が観察できる。20 は、口縁部のみの破片であるが、穿孔が施される。22 は、体部内面をヘラ削りしているが、体部外面に格子叩き痕跡があり、煎熬土器と考えられる。21・22 には、外面に煤状炭化物が付着している。

黒色土器 A 類

椀 (18)　内湾する体部から、大きく外反する口縁部へと移行するもので、内面をミガキ c によって仕上げる。

緑釉陶器

皿 (23)　口縁部のみの破片で、内面にミガキ c、外面は回転ヘラ削り痕跡が観察できる。釉薬は内外

全面にかかる。京都系緑釉陶器。

椀 (25 ～ 27)　25 は、外方に大きく開く口縁部形態を有し、口縁端部をわずかに外反する。内外面ともに回転ナデによって仕上げられており、濃緑色の釉薬であることから近江産緑釉陶器と考えられる。26・27 は、回転ヘラ削りによって蛇の目高台を成形するもので、内外全面に釉薬が掛けられている。京都系緑釉陶器と考えられる。

灰釉陶器

皿 (24)　口縁端部をわずかに外反させるもので、内外面ともに回転ナデならびに施釉。

椀 (28)　外方に張り出す貼り付け高台で、底部外面の処理として回転糸切り痕跡が観察できる。見込部分以外は施釉されている。

瓦

軒丸瓦 (29・30)　いずれも外区の連珠文が観察できるのみで、型式特定まで至っていない。30 は、瓦当と丸瓦の接合痕跡が観察できる。

平瓦 (31)　凸面に「月？（賀？）」の文字を印刻するもので、細かい格子叩き痕跡をとどめる。分類については不明。

暗茶色土 (Fig.39)

須恵器

坏 c(2)　高い高台を貼付し直線的に外方へ開く口縁部形態を有する。

壺 (1)　二重口縁を呈するもので、口縁部内面に付着物が観察できる。

瓦質土器

椀 (3)　平底のもので、内湾気味に外方へ開く口縁部形態をとるものと考えられる。

瓦

軒丸瓦 (4)　瓦当のみの破片で、複弁の軒丸瓦。

黒褐色土 (Fig.39)

土師器

甕 (5)　緩やかに外方へ開く口縁部形態を有するもので、内外面ともにヨコナデによって仕上げている。内面には煤状炭化物が付着している。

黒色土器 A 類

椀 (6)　断面三角形の高台を貼付し、器厚が極めて薄い。内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。器厚から搬入品と考えられる。

緑釉陶器

小椀 (7)　円盤状高台を有するもので、底部外面に回転糸切り痕跡をとどめる。底部外面以外は施釉。

灰釉陶器

椀 (8)　やや「三日月」状に屈曲した高台を有する。内外面ともに回転ナデ。

褐釉陶器

椀 (9)　口縁部の破片で、内外面を施釉。内面には釉ダレが観察できる。

瓦

平瓦 (10)　文字瓦で、「平井」を陽刻する。901C 型式 (九州歴史資料館、2000)。

茶橙砂質土 (Fig.39)

緑釉陶器

椀 (11)　高台から体部下位の小破片で、高台畳付部分に回転ヘラ削り痕跡が観察できる。畳付以外

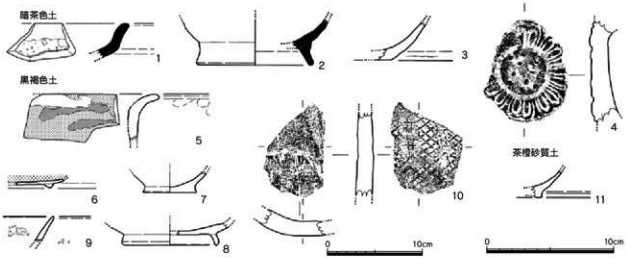


Fig. 39　土層出土遺物実測図（3）(S=1/3、1/4)

は全面施釉。

黄色土 (Fig.40)

土師器

丸底坏 (1・2)　体部下位から口縁部にかけての破片資料で、内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

須恵器

こね鉢 (3)　外方へ大きく開く体部から口縁部に外方の平坦面を形成するもので、内面はハケ様の調整痕跡を不定方向のナデによって消している。外面は回転ナデ調整。

灰色粘土 1 (Fig.40)

土師器

丸底坏 (4)　口径 15.8cm を測るもので、内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

灰色砂質土 (Fig.40)

土師器

小皿 a1 (5)　やや底部が押し出されるもので、内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

丸底坏 (6)　口縁部の破片で、内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

灰色粘質土 (Fig.40)

土師器

丸底坏 a(8)　口径 13.8cm、器高 2.6cm を測り、内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。ただし、底部外面に板状圧痕が観察できる。

瓦器

椀 (7)　口縁端部が、やや外反するもので、外面にわずかにミガキ c 痕跡が観察できる。

灰茶色粘質土 1 (Fig.40)

灰釉陶器

椀 (9)　内湾気味に底部より立ち上がり、外方へ開く口縁部へと続く。内外面ともに回転ナデ調整の後、施釉。

鉢 (10)　底部から体部下位の破片で、内面は回転ナデ、外面は回転ヘラ削り調整。

黄灰色土 (Fig.40)

須恵器

こね鉢 (11)　口縁部の破片で、外傾する口縁端部形状を呈し、内外面ともに回転ナデ調整を施す。

黒色土器 B 類

硯 (13)　陸部と海部の境界部分の破片で、円面硯状を呈するものと考えられる。内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

黄茶色土 (Fig.40)

陶器

椀 (14)　体部下位の破片で、高台が付くものと考えられる。内面ならびに体部上位は施釉。素地や釉調から瀬戸産と考えられる。

灰色土 1 (Fig.40)

灰釉陶器

椀 (15)　直線的に外方へ開くもので、口縁部内面下位から施釉され、口縁部外面の釉薬は剥離しているが、外面は全面施釉されている。

石製品

碁石 (16)　川原石を転用し、緑色片岩製の碁石で、色調は白黄色。

水滴 (19)　滑石製で、径 2.0cm 前後の円形の受け部を２個抉り出しによって形づくっている。

茶灰色土 1 (Fig.40)

須恵器

蓋 b3(18)　環状のつまみを有するもので、断面三角形の口縁部形態を呈している。内外面ともに回転ナデ調整。

こね鉢 (19)　口縁端部の破片で、外傾する口縁端部形態を呈する。

盤 (20)　獣脚が貼付される盤で、盤部の基本成形は回転ナデによって成形されている。獣脚が貼付される箇所には、貼付のための強い不定方向のナデ痕跡が残されている。

土師器

小皿 a1(21 ～ 24)　口径 9.6cm ～ 10.0cm、器高 1.1cm ～ 1.3cm、底径 7.0cm ～ 8.3cm を測る。回転ヘラ切り痕跡をとどめ、板状圧痕が観察できるものがある。

丸底坏 (25)　口径 14.6cm、器高 3.6cm を測り、内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。口縁部外面下位が黒色に変色している。

脚付椀 (26)　３つの脚を貼付するもので、脚部の貼付のために不定方向のナデ痕跡が観察できる他は内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

黒色土器 A 類 (27)　口径 16.5cm、器高 5.6cm、高台径 7.4cm を測り、体部内面下位にミガキ c 痕跡をとどめている。形状からみると瓦器椀的である。

緑釉陶器

椀 (28)　口縁端部の破片。濃緑色の釉薬を内外面に施すことから近江産緑釉陶器と考えられる。

小椀 (29)　円盤状高台を有し、底部切り離しは回転糸切り。底部外面以外は施釉。

灰釉陶器

椀 (39・31)　30 は口縁部の破片資料。内外面ともに回転ナデの後、施釉。31 は底部の破片資料で高台が付くと判断できる。底部外面は回転ヘラ削り。内面には施釉が確認できる。

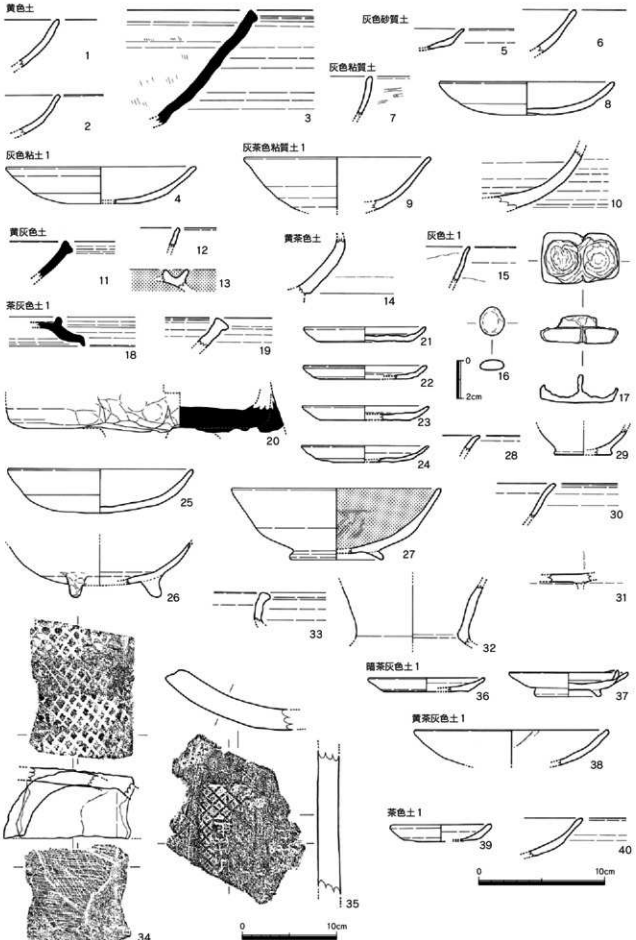


Fig. 40　土層出土遺物実測図（4）（S=1/2、1/3、1/4）

壺 (32)　頸部から口縁部下位の破片で、外方に大きく開く。外面に施釉痕跡が観察できる。

白磁

壺 (33)　口縁部をやや肥厚させるもの。内外面に施釉。

瓦

丸瓦 (34)　凸面に細かい格子叩きをとどめる。凹面にはやや粗い布痕跡が観察できる。

平瓦 (35)　文字瓦で、陰刻で「平井」と読める。901B 型式 (九州歴史資料館、2000)。

暗茶灰色土 1 (Fig.40)

土師器

小皿 a1(36)　口径 9.2cm、器高 1.1cm、底径 6.5cm を測り、底部外面には回転ヘラ切り痕跡が観察できる。

耳皿 (37)　口縁部をつまみによって耳を形成する。内外面ともに回転ナデ調整で、見込部分には不定報告のナデ痕跡がある。

黄茶灰色土 1 (Fig.40)

土師器

丸底坏 (38)　口径 15.4cm を測り、口縁部内面にミガキ b 痕跡が観察できる。

茶色土 1 (Fig.40)

土師器

小皿 a1(39)　口径 8.0cm を測る破片で、内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

丸底坏 (40)　口縁部の破片資料。内外面ともに器面摩耗のため成形・調整技法については明らかにし難い。

5．小結

a. 掘立柱建物群

調査区内で、占有面積 50 ㎡を超えると考えられる掘立柱建物が 2 棟、大型の掘方を有する総柱建物 1 棟、占有面積 10 ㎡以下の小規模建物が 3 棟検出できた。隣接する調査区では、長大な掘立柱建物が検出され、かつ大宰府官衙域に匹敵する優品的な遺物が出土することから、「客館」ではないかと考えられた。建物の規則性、占有面積の大きさから、当該調査区で検出した掘立柱建物も、大宰府官衙域にある建物規模に匹敵し、隣接する長大な建物群に付帯するものとして考えて大過ないものと考えられる。その時期であるが、遺構の前後関係から 275SD050 や 275SD212 の埋没時期から平安前期末以前の時期が想定できる。

西日本鉄道㈱との協議により、保存にむけた合意が得られたため掘立柱建物の柱穴調査は一部柱穴の土層観察に留めた。建替え、部分修理など詳細を検討していく必要がある (太宰府市、2008)。

[文献]

「大宰府条坊跡　37」太宰府市の文化財第 101 集　2008　太宰府市教育委員会

b. 窯

調査区壁面に窯壁と考えられる立ち上がりが確認でき、かつ焼壁的部分が黄灰色に変色しかつ「骨材」として格子叩きを有する瓦が転用されている。さらに、報告文にも記したが遺構長軸方向に平行にロストル様の構造物も付帯していることから、調査区西側に焚口ならびに焼成部を有する平窯の可能性が高い遺構として捉えた。遺構構築時期については、「骨材」として取り込まれた格子叩きのある瓦が手掛

かりとなるが、遺構の前後関係からは、275SD050 に切られており、平安前期末以前として捉えておく。

当該遺構が平窯とすれば、大宰府における検出例は、水城跡に次いで 2 例目ということになる (太宰府市教委、2003)。

【文献】

『水城跡　2』太宰府市の文化財第 67 集　2003　太宰府市教育委員会

c. 条坊痕跡

道路側溝と考えている 275SD045・050・065 と 275SD045-050 間の空間の堆積物から考えると、大きく二時期に分けることができる。一つは、平安前期末埋没と、今一つは平安後期である。同様な傾向は報告文にも記したが、条坊域内で確認される二時期であり、当該調査区においても同様の傾向を確認できた。したがって、275SD045 と 275SD050 の二つの溝が等しく、同一時期施工の条路側溝であるとは考えられず、先に 275SD050 を南側々溝とする条路が施工され、275SD215 など間の空間の堆積が終了した後、275SD045 が掘削されたものと考えられる。これは、平安前期埋没の井戸 275SE380 を切る形で 275SD045 が形成されていることからも、道路側溝形成以前に井戸が機能していたことが分かる。

この 275SD045 に対する南側の側溝が十分検討できていないことから、周辺調査成果と併せて再検討が必要となってくる。

また、坊路として認識した 275SF270 他は、自然地形からの制約によって、条坊内に通有な道路側溝に挟まれた空間として認識できず、西側々溝と「波板状」小穴の連続による東側境界を認識したにとどまった。なお、ここで確認した坊路の北側には現在も道路があり、旧地形に大宰府条坊痕跡が刻まれている根拠ともなり得る。

主要遺構の時系列上の位置について、切り合い関係、出土遺物から導き出せる形成、埋没時期をもとに Fig.41 に示しておく。参考にされたい。

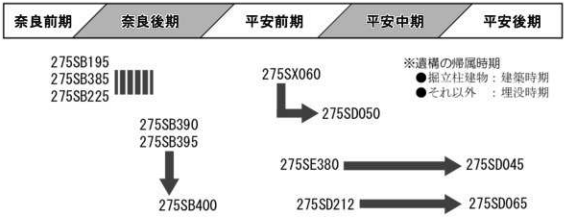


Fig. 41　主要遺構の前後関係

Tab. 1-1　大宰府条坊跡第 275 次調査遺構番号台帳 (1)

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋土状況(古→新)	遺構間切合	時　期	地区番号	面
1	275SD001	溝		灰色土	S-5→S-1 S-1→S-166	平安後期	C10～11	1
2		pit群	西隣のpit柱穴に	茶色土			C13	1
3		pit群		茶色土		平安後期～	F11～12	1
4		pit		灰色土	S-4→S-6		F11	1
5	275SE005	井戸		暗灰色土(炭含む)→暗茶色土→茶灰色土	S-5→S-1	平安後期	C10～11	1
6		pit		黒色粘土	S-4→S-6	平安後期～	F11	1
7		pit群		茶色土		平安後期～	C12	1
8		pit		灰色土(砂質)		平安後期～	F11	1
9		土坑		灰色土			D-E13	1
10		土坑		灰色土→茶色土	S-10→S-15		E10	1
11		土坑		灰色土		平安後期～	B12～13	1
12		pit群		茶色土		古代～	E13	1
13		pit		茶色土			C13	1
14		pit群		茶色土			B11～12	1
15	275SD015	溝		灰色土→茶灰色土		平安後期	D～J6～13	1
16		pit		灰色土		古代～	C12	1
17		pit群		茶色土			A13	1
18		pit		灰色土			C11	1
19	275SK019	土坑		茶色土		平安後期～	C11	1
20	275SD020	溝		灰色砂質土→茶灰色土			D～F8～9	1
21		溝	s-36と同一	茶色土		古代～	B～D12	1
22		溝		茶色土		平安後期	C13	1
23		溝		灰色土		古代～	D11～12	1
24		溝		茶灰色土		平安～	C～D13	1
25	275SK025	土坑		灰色砂質土→茶色土→茶灰色土			C9～10	1
26	275SX026	小穴		茶色土			C～D12	1
27		pit		灰色土		古代～	D12	1
28		溝		灰色土		平安～	E11～12	1
29		pit		暗茶色土		平安～	B11	1
30	275SD030	溝		茶灰色土→灰色土(黒色B)	S-30→S-20	平安後期	H～K7～11	1
31		溝		茶色土			E～G13～14	1
32		溝		灰色土	S-40→S-32	平安後期	B8～12	1
33		溝		茶色土		古代	C12	1
34		小穴	柱穴?	茶色土		奈良	E13	1
35	275SD035	溝		茶灰色土(茶色粒状)		平安後期	H～K5	1
36		溝	s-21と同一?	黒色粘土(Gライン北)→灰色土			E～H12	1
37		小穴	柱穴<S-195j	灰色土		古代～	E12	1
38	275SX038	小穴	柱穴a　柱痕(灰色粘質土) 柵列	茶色土		古代～	C13	1
39		小穴	柱穴(柱痕有)<S-195h	茶色土			E13	1
40	275SD040	溝		茶灰色土			A～C6～13	1
41		小穴	柱穴(柵列?)	灰色土		平安～	E11	1
42		溝		灰色土			B11	1
43	275SX043	小穴	柱穴?	茶灰色粘質土		古代～	G13	1
44		小穴	柱穴h　柱痕(暗灰色粘土) 柵列	暗茶灰色土		古代～	F13	1
45	275SD045	溝		暗灰色砂→灰色砂(明灰色)→灰色砂質土→灰色粘質土→茶灰色粘質土		平安後期	N～O5～12	2
46		小穴	柱穴	茶色土			F13	1
47		小穴	柱穴(柱痕有)<S-195i			古代～	E13	1
48		小穴	柱穴(柱痕有)<S-195g				F13	1
49		小穴				平安前期～	E13	1
50	275SD050	溝	(14条路南側溝)	灰色土→茶灰色粘質土		平安前期	K～L13	2
51		小穴?				平安後期～	E11	1
52		小穴		灰色土			E11	1
53	275SX053	小穴	柱穴(茶色土) 柱痕(灰色粘土)			平安後期～	C～D13	1
54		小穴				平安後期～	F11	1
55	275SE055	井戸		灰色砂質土→暗茶色土		平安前期(9期)	P9～10	2
56	275SX056	小穴		灰色土			F11	1
57	275SX057	小穴		灰色土		平安後期	F11	1
58		小穴		灰色土		平安後期～	F11	1
59		溝		茶色土		平安中期	C12	1

Tab. 1-2　大宰府条坊跡第 275 次調査遺構番号台帳（2）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋土状況（古→新）	遺構間切合	時　期	地区番号	面
60		焼成遺構（窯）	上位からの遺物の混入あり			平安	K13	2
61		小穴	柱穴?-S-195f	灰色土			G13	1
62		小穴群		灰色土			G～H11～12	1
63	275SX063	小穴群		灰色土			A10～12 B9	1
64		小穴		灰色粘質土			C12	1
65		溝		灰色粘質土		平安後期	D～B6	2
66		小穴群		灰色土		平安後期	D12	1
67		溝		灰色土		平安前期～	B～C8	1
68		小穴群		灰色土		平安前期～	F～G9	1
69		小穴		灰色土		平安前期～	H12	1
70		溝		茶灰色土→黒褐色土			D～E4	2
71		土坑	カクラン?	黒灰色		平安前期～	H10	1
72		土坑	カクラン?	黒灰色		現代	H11	1
73		小穴		茶色土		平安前期～	B10	1
74		土坑		灰色土		平安後期	D9	1
75	275SF075	（路盤）溝	（波板状凹凸面S-80などを総称する。	黄茶灰色土	S-15→S-220 →S-75	古代	D5	2
76		小穴		灰色土		平安後期～	C～D9	1
77		土坑		茶色土	S-20→S-77	平安後期～	D～E8～9	1
78		小穴	柱穴b柱痕(灰色粘質土) 柵列	茶色砂質土			C13	1
79		土坑		灰色土		平安前期～	B～C12～13	1
80		（路盤）溝	（波板状凹凸面）	黄茶灰色土			D5	2
81		性格不明		茶色土			C～D9～10	1
82		溝		灰色砂質土		平安前期～	I～J13	1
83		小穴	柱痕跡	灰色粘土		古代～	I13	1
84		土坑	柱穴の可能性	灰色土→灰黄色粘土 灰色土	S-225d	平安前期～	I13	1
85		（路盤）溝	（波板状凹凸面）	黄茶灰色土			E5	2
86		小穴	柱穴c柱痕(灰色粘質土)柵列	茶灰色土			D13	1
87		小穴	柱穴d柱痕(灰色粘質土)　柵列	灰色土			E13	1
88		小穴	柱穴e柱痕(灰色粘質土)　柵列	茶灰色砂質土		平安前期～	E13	1
89		小穴	柱穴f柱痕(灰色粘質土)　柵列	黄灰色土			E13	1
90		（路盤）溝	（波板状凹凸面）	黄茶灰色土			E5	2
91		小穴	柱穴g柱痕(灰色粘質土)　柵列	暗茶灰色土		古代～	F13	1
92		小穴	柱穴i柱痕(灰色粘質土)　柵列	灰色土			G13	1
93		小穴群		茶灰色土		平安後期～	G～I12	1
94		土坑		灰色粘土→灰色砂質土			H9	1
95		（路盤）溝	（波板状凹凸面）	黄茶灰色土		古代	E5	2
96	275SX096	土坑		青灰色粘質土→灰色土→茶灰色土(炭化物混入)			J12	1
97		土坑		灰色粘土→茶灰色土	S-96→S-97		J12	1
98		柱穴?		茶灰色土			H10	1
99		小穴	（柱穴?）	灰色粘土→茶灰色土		平安前期～	I11	1
100		（路盤）溝	（波板状凹凸面）	黄茶灰色土			E5	2
101		溝		灰色土		平安後期	J10～12	1
102		土坑		灰色土			J～K13	1
103		土坑	カクラン	灰色土			J12	1
104	275SK104	土坑		灰色土		平安後期	I12	1
105		（路盤）溝	（波板状凹凸面）	黄茶灰色土			F5	2
106	275SX106	小穴群		暗灰色土(炭化物多混)			K～L12	1
107		カクラン					K～L13 M11～12	1
108		溝		暗茶色砂質土		平安中期～	J～K13	1
109		小穴群		暗茶灰色土		平安中期～	J～K12	1
110		（路盤）溝	（波板状凹凸面）	黄茶灰色土			F5	2
111		小穴群		灰色土		平安後期	I8	1
112	275SK112	土坑		暗灰色土(炭化物多混)			K～L12	1
113		土坑		茶灰色土			K12	1
114		小穴群		暗灰色土(炭化物・焼土多混)		平安後期	K9～10	1
115		（路盤）溝	（波板状凹凸面）	黄茶灰色土			F4	2
116	275SX116	小穴群		暗灰色土(炭化物・焼土多混)			K～L10～11	1
117		土坑		茶灰色土(炭化物・焼土多混)		平安後期	K～L12～13	1
118	275SX118	小穴		暗灰色土(炭化物・焼土混)		平安後期	M13	1

Tab. 1-3　大宰府条坊跡第 275 次調査遺構番号台帳（3）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋土状況（古→新）	遺構間切合	時　期	地区番号	面
119	275SX119	小穴群		暗灰色土(炭化物・焼土混)		平安後期	L～M10～11	1
120		(路盤)溝	(波板状凹凸面)	黄茶灰色土			G4	2
121	275SX121	小穴		灰色土(掘過ぎ)→暗灰色土(炭・焼土混)		平安後期	L11	1
122	275SX122	小穴		灰色土			L10	1
123		小穴		灰色土(掘過ぎ)→暗灰色土(炭・焼土混)			L11	1
124	275SX124	小穴		灰色土→暗灰色土		平安後期	M10～11	1
125		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			G4	2
126	275SX126	小穴		暗灰色土(炭・焼土混)		平安後期	K9	1
127		土坑		暗灰色土(炭・焼土混)		平安～	L10	1
128		土坑		灰色土		平安～	L～M10	1
129		小穴群		暗灰色土(炭・焼土混)		平安後期	M12	1
130		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			G4	2
131		小穴群		暗灰色土(炭・焼土混)			N12	1
132	275SX132	小穴		暗灰色土(炭・焼土混入)			N12	1
133	275SK133	(小)土坑		暗灰色土(炭・焼土混入)		平安後期	N13	1
134		小穴		暗灰色粘質土(炭・焼土混入)			N13	1
135		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			G4	2
136		小穴		暗灰色粘質土(炭・焼土混入)		平安後期	N13	1
137		小穴		暗灰色土(炭・焼土混入)			N13	1
138		小穴群		暗灰色土(炭・焼土混入) 焼土塊多く混入		平安後期	N13	1
139	275SX139	小穴群		暗灰色土(炭・焼土多量入)		平安後期	L9	1
140		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			G4	2
141	275SX141	小穴群		暗灰色土(炭・焼土混入)			K11	1
142	275SK142	土坑		灰色土			M9	1
143		溝状遺構		暗灰色土(炭・焼土多量充填)			L～M10	1
144		小穴群		暗灰色土(炭・焼土混入)			N12	1
145		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土		平安中期	G～H4～5	2
146	275SD146	溝状遺構		灰色土(炭・焼土混入)		平安後期	N12	1
147	275SX147	小穴		灰色土(炭・焼土混入)		平安～	M13	1
148		小穴		灰色土			L13	1
149	275SX149	小穴群		暗茶色土		平安後期	O11	1
150		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			H4	2
151	275SX151	小穴群		暗灰色土(炭・焼土混入)		平安後期	N11	1
152	275SD152	溝状遺構群		灰色土		平安後期(現代混り)	N～O9～10	1
153		小穴群		灰色土			P～Q10	1
154	275SX154	小穴群		暗灰色土(炭・焼土混入)			P～Q10～11	1
155		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			H4	2
156		土坑		灰色粘質土			Q10	1
157		小穴		暗茶灰色土			P8～9	1
158		小穴		暗灰色土(炭・焼土混入)		平安後期	O11	1
159	275SX159	小穴		灰色土		平安後期	O11～12	1
160		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			H4	2
161		カクラン					O10	1
162	275SX162	小穴群		暗茶灰色土			L～M9	1
163		小穴群		灰色土		平安～	B8	1
164	275SK164	大型土坑		黄茶色土→明黄灰色砂質土 茶灰色土		13c末～	B～C5	1
165		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土		古代	H4	2
166		土坑		明黄灰色砂質土			C6	1
167		小穴	(南北に等間隔に1/9基並ぶ)	暗茶色土			D6	1
168		溝		灰色砂質土		平安～	E～F8	1
169		溝状遺構		灰色土→暗茶灰色土			D7	1
170		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			I3	2
171		小穴群		暗茶灰色土(炭混入)		平安後期	H～I7～8	1
172	275SD172	溝		灰色粘質土→暗茶色土		平安後期	N～P6～10	1
173		土坑		暗茶色土			Q11	1
174		土坑		暗茶灰色土	S-55		P9～10	1
175		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土		古代	I3	2
176	275SK176	土坑		暗茶色土			O～P8	1
177		小穴		暗茶灰色砂質土			P8	1
178	275SK178	土坑		暗茶灰色土(炭化物混入)			M8～9	1
179	275SE179	井戸		黄茶色粘質土→茶灰色砂質土→茶灰色土			M5	1
180		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			H4	2

Tab. 1-4　大宰府条坊跡第 275 次調査遺構番号台帳 (4)

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋土状況（古→新）	遺構関切合	時　期	地区番号	面
181		溝		暗茶色土		平安後期	P11	1
182		土坑		灰色土	S-182→S-40→S364	平安後期	B5・B6	1
183	275SX183	小穴	S-35底で検出	茶灰色土		平安後期	G5	1
184		小穴群		灰色粘質土		平安後期	L～M9～13	2
185		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			I3	2
186	275SK186	土坑		灰色粘質土(炭化物混入)			K～L10	2
187		小穴群		灰色粘質土		平安後期	N10～12	2
188		小穴群		灰色粘質土			K8～10	2
189	275SK189	土坑	勾玉	灰色粘質土		平安後期	L7～8	2
190		(路盤)溝	(波板状凹凸面遺構)	黄茶灰色土			D5	2
191		小穴群		暗茶灰色土		平安前期	P10～11	2
192	275SK192	土坑(柱穴)		暗茶灰色土		平安前期末(Ⅷ期)	O～P10	2
193		小穴群		暗茶色土		不明	K10・K12	2
194		小穴群		暗茶色土		平安前期末	O11・P11	2
195	275SB195	掘立柱建物				奈良前半	E～G9～13	2
196		小穴群		暗茶色土		平安前期	O7・O8・P8	2
197	275SX197	小穴群		暗茶色土		平安前期(VII期)	O9・P9・O10	2
198		小穴群		灰色粘土		平安前期	N8・N10	2
199		小穴群		暗茶灰色土		平安	C12・D13	2
200・a		(路盤)溝		茶灰色粘質土			G7	2
201	275SX201	小穴群		灰色砂質土		平安後期	D6・E6	2
202		小穴		灰色土			C9	2
203		小穴群		灰色土		平安後期	C9～10	2
204	275SX204	小穴群		灰色粘土		平安後期	I7・I8	2
205・b		(路盤)溝		茶灰色粘質土			G6～7	2
206	275SX206	小穴群		灰色粘質土		平安後期	F6・F7・G6・G7	2
207	275SX207	小穴		灰色土			D7	2
208		土坑		黄灰色土→暗茶色土			D7	2
				暗茶色土		古代		
209		溝		灰色土→暗茶灰色土→黄茶色粘質土		平安	C7・D7	2
210・C		(路盤)溝		茶灰色粘質土			G6～7	2
211	275SB211	溝		灰色土→暗茶灰色粘質土 暗茶色土			C7・D7	2
212	275SB212	溝		茶灰色土→暗茶灰色粘質土 灰色粘土		平安前期～	C～G7	2
213		小穴		茶灰色土		不明	D7	2
214		土坑		灰色土			D7	2
215	275SB215	溝		明灰色砂			K8～13	2
216		小穴		灰色土		古代	J10	2
217		小穴		灰色土		古代	H8	2
218		小穴		灰色粘質土		平安後期	F7	2
219		小穴群		灰色砂質土			G8	2
220	275SB220	溝		灰色粘土(黄色土ブロック混入)		平安後期	D～G5	2
221		不明遺構		暗茶灰色土(炭化物多混入)		奈良	E6	2
222		溝		暗茶灰色粘質土礫敷(一部)		平安前期	E6・F6	2
223	275SX223	小穴		灰色粘質土			F6	2
224		溝		暗茶色砂質土(堅くしまる)礫敷(一部)			E～G5～6	2
225	275SB225	掘立柱建物	柱穴a～j				H～I12～13	2
226	275SX226	小穴		灰色粘土		平安後期	M13	2
227		土坑		茶色砂			E8	2
228		溝		茶灰色土		古代～	J7	2
229	275SK229	土坑		黄茶灰色土(炭化物少量混入)→灰色粘土		平安前期	I7	2
230		柱穴?		暗茶灰色土(黄色粘土φ5ブロック,炭化物少量混入)		平安前～	H9	2
231		小穴		灰色粘質土		平安前期	D13	2
232		小穴		灰色土			E7	2
233	275SX233	小穴		灰色土		平安後期	E8	2
234		小穴群		灰色砂			D8	2
235		柱穴?		茶灰色砂質土(黄色粘土ブロック)		古代	G9	2
236		小穴群		灰色粘質土		平安前期	M～N12～13	2
237		小穴		灰色粘質土		平安前期	M11	2

Tab. 1-5　大宰府条坊跡第 275 次調査遺構番号台帳（5）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋土状況（古→新）	遺構間切合	時　期	地区番号	面
238		土坑		灰色粘質土		平安前期	M11	2
239		土坑				平安前期	M9	2
240		柱穴?		灰色粘質土(黄色粘土ブロック)			E10	2
241	275SX241	小穴		暗灰色粘土		平安前期	M9	2
242		小穴		灰色粘土		古代	N8	2
243	275SX243	小穴群		暗灰色土		平安前期	M～N5～7	2
244	275SK244	土坑		暗灰色粘質土(炭化物混入)			L～M6～9	2
245	275SE245	井戸		茶灰色土(炭化物少量混入)		平安前期(Ⅷ期)	E11	2
246	275SD246	溝		明灰色砂			L～N2	2
247	275SD247	溝		暗灰色土(炭化物混入)		平安前期	M～N4	2
248		溝		黄茶色砂質土			L2	2
249		小穴群		灰色粘土			M～N9	2
250	275SD250	溝		暗灰色土(炭化物混入)			L～N4～6	2
251		小穴		暗茶色粘土			M4	2
252		小穴		暗茶灰色砂質土			C13	2
253		小穴		灰色砂質土			J11	2
254		土坑		黄茶色砂			M11	2
255	275SD255	溝		灰色砂質土		平安中期	L～M6～13	2
256		小穴		青灰色粘質土			M12	2
257		土坑		黒灰色粘土		平安～	L13	2
258		小穴群		暗茶色土			N12	2
259		小穴		暗茶色土		平安前期～	N11	2
260	275SD260	溝		灰色砂→茶灰色粘質土		平安前期	M7～13	2
261		土坑		暗茶灰色土			N11	2
262		小穴群		暗茶色土			N8	2
263		小穴		灰色粘土			N8	2
264		小穴		灰色粘土		平安前期～	N9	2
265	275SD265	溝		明灰色砂→茶灰色粘土		平安前期	L7～13	2
266		小穴		灰色粘土		平安～	N11	2
267		溝		暗灰色粘質土			N10	2
268		土坑		暗灰色粘土(炭化物混入)			K13	2
269		小穴		暗灰色粘土(炭化物混入)			K13	2
270	275SF270	礎-瓦敷遺構				平安前期	C～G6～7	3-4
271		溝		明灰色砂		奈良後半	M～N4～5	3-4
272		溝		明灰色砂			K～N3～6	3-4
273		小穴		暗灰色粘質土			N12	2
274		小穴		暗灰色粘質土		平安前期～	M5	3-4
275	275SD275	溝		灰色細砂→灰茶色粘質土		平安前期	K8～13	3-4
276		土坑		暗灰色粘土			L2～3	3-4
277	275SK277	土坑		暗灰色粘土→青緑灰色土			I4	3-4
278	275SK278	土坑		暗灰色粘質土→灰色砂		平安前期	L4～5	3-4
279	275SK279	土坑		暗灰色粘土→茶灰色粘質土→灰色砂			M～N3	3-4
280	275SD280	溝状遺構		灰色砂		平安前期		3-4
281	275SD281	溝		明灰色砂		平安前期	L～M3～4	3-4
282		溝		明灰色砂			J5～6	3-4
283		小穴		暗灰色土		平安前期	J13	2
284		土坑		灰色砂質土				2
285		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			H6	3-4
286		小穴		暗茶灰色土			B6	2
287	275SX287	小穴群		暗灰色砂質土		奈良末～平安前期	M13	3-4
288		小穴群		暗灰色砂質土		奈良後半	M11	3-4
289		小穴群		明灰色砂		平安前期	J6	3-4
290-b		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土		平安前期	H5	3-4
291	275SX291	小穴群		暗茶色土		平安前期	P10	2
292	275SX292	小穴群					K6	3-4
293		小穴群		灰白色砂			L11	3-4
294		(路盤)溝	(波板状遺構)				I3	2
295-c		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			H5	3-4
296		(路盤)溝	(波板状遺構)				J3	2
297		(路盤)溝	(波板状遺構)				I2	2
298		(路盤)溝	(波板状遺構)				I3	2
299		(路盤)溝	(波板状遺構)				I2	2
300-d		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			H5	3-4
301		(路盤)溝	(波板状遺構)				I2	2
305-e		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			H5	3-4

Tab. 1-6　大宰府条坊跡第 275 次調査遺構番号台帳（6）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋土状況（古→新）	遺構間切合	時　期	地区番号	面
310・f		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I5	3・4
315・g		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I5	3・4
320・h		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土		古代	I5	3・4
325・i		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I5	3・4
330・j		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I5	3・4
335・s		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I～J4	3・4
340・K		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I5	3・4
345・θ		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I5	3・4
350・m		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I5	3・4
355・n		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土		古代	I～J5	3・4
360・o		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			I～J5	3・4
365・P		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土		古代	J4～S	3・4
370・q		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			J4	3・4
375・r		(路盤)溝	(波板状遺構)	暗灰色土			J4	3・4
380	275SE380	井戸		暗灰色土(枠内) (裏込土)黄灰色粘質土		平安前期末(V期)	O9	2
385	275SB385	掘立柱建物	柱穴a～j　3間×5間	灰色粘質土			H～I7～10	2
390	275SB390	掘立柱建物	柱穴a～f　2間×1間				H～I7～8	2
395	275SB395	掘立柱建物	柱穴a～e　1間×2間				H～I9～10	2
400	275SB400	掘立柱建物	柱穴a～f　1間×2間				H～I9	2
410		波板状遺構		灰色砂		平安前期	J2	2
415		波板状遺構		明灰色砂		平安前期	J2	2
420		波板状遺構					J2	2
425		波板状遺構					J2	2
430		波板状遺構					J2	2
435		溝					M10～I3	3・4
440		溝					M10～I3	3・4

Tab. 2　条 275 次　座標計測値一覧

		桁行長【m】	梁行長【m】	平均柱間【m】 桁行	平均柱間【m】 梁行	桁行方向
1	SB195	11.63	6.05	2.33	2.01	座標軸にほぼ沿う
2	SB225	4.56	－	1.52	－	N0° 15'16"E
3	SB385	9.34	5.99	1.87	1.99	座標軸にほぼ沿う
4	SB390	3.52	2.10	1.76	2.10	N0° 22'55"E
5	SB395	3.70	2.00	1.85	2.00	座標軸にほぼ沿う
6	SB400	3.62	2.11	1.81	2.11	座標軸にほぼ沿う

		測点1【m】 座標X	測点1【m】 座標Y	測点2【m】 座標X	測点2【m】 座標Y	溝方向	政庁南門中点・政庁中軸線からの距離【m】
1	SD045	西端55860.5729	西端-44686.1882	東端55799.868	東端-44667.1479	N92° 7'13"E	906.9315
2	SD050	西端55788.7198	西端-44685.9139	東端55788.5482	東端-44682.9048	N93° 15'50"E	918.5899
3	SD065	南端55766.9230	南端-44668.3783	北端55770.1777	北端-44668.0328	N6° 3'34"E	161.9241 ※
4	SD215	西端55792.1580	西端-44689.5962	東端55790.6836	東端-44677.9227	N97° 11'55"E	915.8427
5	SD275	西端55790.3867	西端-44688.0103	東端55789.2657	東端-44677.9345	N96° 20'54"E	917.4293

※政庁中軸線からの距離

Tab. 3-1　大宰府条坊跡　第275次調査　出土遺物一覧表 (1)

S-1 灰色土

須恵器	甕	
土師器	丸底坏　椀 c　小皿 a1　煮沸具	
黒色土器 B	破片	
須恵質土器	椀	
白磁	椀 : IV(1)	
	他 : 華南 (1)　破片	
瓦類	破片	
金属製品	鉄滓	
石製品	破片 (チャート)	

S-1

須恵器	甕　鉢	
土師器	丸底坏 a　煮沸 (炊) 具	
白磁	椀 : VI-a(1)	
瓦類	丸瓦	

S-2

須恵器	甕　供膳具	
土師器	甕　供膳具	

S-3

土師器	供膳具	

S-4

土師器	供膳具	
瓦類	破片	

S-5 暗灰色粘土

土師器	供膳具	
瓦類	文字瓦 (901L)	

S-5 青灰色粘土

須恵器	甕	

S-5 青灰色粘質土

須恵器	大甕　壺	
土師器	丸底坏　椀 c　甕	
瓦類	平瓦 (格子目叩、縄目叩)	
石製品	焼石	
その他	獣化物　古式土師器	

S-5 暗青灰色粘土

須恵器	甕　壺	
土師器	丸底坏 a　椀 c　小皿 a1(ヘラ)	
黒色土器 B	破片	
白磁	他 : 水注 (1)	
瓦類	丸瓦 (文字瓦 902H)	
土製品	埋鎮	
その他	種子 (桃)　獣骨	

S-5 茶灰色粘質土

須恵器	蓋 1　蓋 3　甕	
土師器	丸底坏 a(ヘラ)　器台	
瓦類	丸瓦　平瓦 (縄目叩、格子目叩)	

S-5 灰色粘土

土師器	供膳具	

S-5 灰色粘質土

土師器	丸底坏 a　小皿 a1　器台	
越州窯系青磁	椀 : I-5(1)	
白磁	椀 : IV-1c(1)	
瓦類	平瓦 (格子目叩、縄目叩)　丸瓦　軒平瓦 (601A)	
その他	古式土師器 : 滑坏	

S-5 黒色土

土師器	丸底坏　煮沸具 (角閃石)	

S-5 黒褐色土

土師器	丸底坏 a(ヘラ)　小皿 a1(ヘラ)	
瓦類	平瓦	

S-5 灰色土

須恵器	大甕	
土師器	供膳具	
瓦類	平瓦 (格子目叩)	

S-5 暗茶色土

須恵器	坏 e　甕　壺 d×f　こね鉢 (+瓶 (i))	
土師器	丸底坏 a　小皿 I　こね鉢	
黒色土器 B	椀　椀 c	
越州窯系青磁	椀 : I(1)	
灰釉陶器	椀　鉢	
須恵質 (輸入)	胡麻系無釉陶器	
弥生土器	高坏	
瓦類	平瓦 (格子目叩、縄目叩)　丸瓦 (縄目叩)	
石製品	石鏃	
土製品	焼土	

S-5 暗灰色土

須恵器	甕　供膳具	
土師器	丸底坏 a(ヘラ)　小皿 a1　煮沸具	
黒色土器 A	破片	
瓦類	丸瓦	

S-6

土師器	供膳具	

S-7

土師器	丸底坏　煮沸具	
黒色土器 B	破片	

S-8

須恵器	坏 e　甕　鉢 b	
土師器	破片	

S-9

土師器	丸底坏	

S-10 灰色土

須恵器	甕　壺	
土師器	破片	

S-11

須恵器	蓋 4	
土師器	煮沸具　供膳具　破片	
瓦類	丸瓦	

S-12

土師器	破片	
弥生土器	甕	

S-13

土師器	煮沸具	

S-14

須恵器	甕	
土師器	供膳具　煮沸具	

S-15

須恵器	甕	
土師器	丸底坏 a(ヘラ)　煮沸具	

S-15 灰色粘土

白磁	椀 : IV-1a(1)	

S-15 灰色粘質土

土師器	丸底坏　丸底坏 a(ヘラ)　小皿 a1	
瓦類	椀 c	

Tab. 3-2　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (2)

S-15 灰色土

須恵器	蓋3　坏a　坏c　甕　甕（須恵片付着）　供膳具	
土師器	丸底坏a　椀c　小皿a1　煮沸具	
黒色土器A	破片	
越州窯系青磁	椀：I-5(1)	
灰釉陶器	壺	
白磁	椀：V(1)	
	皿：II-1a(1)　VI-1a(1)	
瓦類	平瓦（格子目叩）　破片（縄目叩）	
石製品	剥片（黒曜石）　砥石	

S-15 茶灰色土

須恵器	蓋3　甕　甕b　壺	
土師器	丸底坏a(ヘラ)　椀c　小皿a1　甕　煮沸具	
黒色土器A	破片	
瓦器	椀c	
越州窯系青磁	椀：I(1)	
白磁	椀：V(1)	
	皿：広東(1)	
中国陶器	他：C群(1)	
須恵質（輸入）	新羅土器；壺	
弥生土器	破片	
瓦類	平瓦（縄目叩）　破片	
石製品	破片（チャート）	
土製品	瓦玉	

S-16

須恵器	甕	
土師器	供膳具	

S-17

土師器	供膳具　煮沸具	

S-18

土師器	供膳具	

S-19

須恵器	甕	
土師器	小皿1　供膳具	

S-20 茶灰色土

須恵器	蓋　蓋3　坏a　甕　供膳具	
土師器	蓋3　坏c　丸底坏a　小皿a1(ヘラ)	
白磁	椀：IV(1)	
	他：広東(1)　破片	
瓦類	平瓦（格子目叩）　破片（格子目叩）	
その他	炭化物	

S-20 灰色土

土師器	坏d	
須恵質（輸入）	朝鮮系無釉陶器；破片 (1)	

S-20 灰色粘土

須恵器	蓋3	
土師器	小皿a1(ヘラ)　煮沸具	
瓦類	破片	

S-20 灰色砂質土

土師器	供膳具	
瓦類	破片	

S-21

須恵器	供膳具	
土師器	供膳具	

S-21 茶色土

須恵器	供膳具	
土師器	煮沸具	

S-22

土師器	煮沸具（白雲母）　供膳具	

S-22 茶色土

土師器	丸底坏	

S-23

須恵器	甕　供膳具	
瓦類	破片	

S-24

須恵器	蓋4　甕　破片	
緑釉陶器	破片	
瓦類	丸瓦（縄目叩）	

S-25 茶色土

須恵器	坏a	
土師器	丸底坏　煮沸具	
瓦類	破片	

S-25 灰色土

須恵器	蓋3	
土師器	坏c　煮沸具	

S-26

須恵器	蓋3	
土師器	小皿a2	
金属製品	鉸具	

S-27

須恵器	破片	
土師器	供膳具	

S-28

須恵器	甕　供膳具	
土師器	供膳具	

S-29

土師器	供膳具	

S-30

須恵器	坏c　甕　供膳具	
土師器	丸底坏　供膳具	
白磁	皿：未分類 (1)	
須恵質（輸入）	朝鮮系無釉陶器；破片 (1)	

S-30 灰茶色土

須恵器	蓋3　甕	
土師器	坏c　丸底坏a(ヘラ)　小皿a1　煮沸具	
越州窯系青磁	椀：I-1b	
白磁	椀：II-1(1)	
	皿：VI(4)	
	他：鉢 II(鉄絵)(1)　無文 (1)	
瓦類	丸瓦（格子目叩）　破片（格子目叩）	

S-30 茶灰色土

須恵器	坏c　甕　壺	
土師器	丸底坏	
瓦器	椀	
白磁	皿：華南系 (1)	
中国陶器	他：C群 (1)	

S-30 灰色土（黄色土ブロック）

須恵器	大甕	
土師器	丸底坏a(ヘラ)　椀c　小皿a1　煮沸具	
黒色土器B	破片	
越州窯系青磁	椀：I(1)	
灰釉陶器	皿	
白磁	椀：V-b(1)	
	皿：VI(3)	
瓦類	平瓦（縄目叩）	

Tab. 3-3　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (3)

S-30 灰色粘質土

須恵器	供膳具	
土師器	小皿 1	
瓦類	丸瓦（縄目叩）	

S-30 灰色粘土

瓦器	椀 c	

S-31

須恵器	坏 c　甕	
土師器	供膳具　煮沸具	

S-31 茶色土

須恵器	坏 c　大甕	
土師器	椀 c　把手　煮沸具	

S-32 灰色土

須恵器	甕	
土師器	丸底坏	

S-32

須恵器	甕	
土師器	坏　供膳具　煮沸具	

S-33 茶色土

土師器	破片	

S-34

須恵器	坏 c　甕	
土師器	煮沸具	

S-35 茶灰色土

須恵器	甕　壺　供膳具	
土師器	丸底坏 a（ヘラ）　小皿 a1（ヘラ）　煮沸具	
白磁	椀：IV(2)　広東 (1)　華南 (3)	
	皿：椀 × 皿　華南 (1)	
	他：広東 (1)　破片	
瓦類	平瓦（格子目叩、縄目叩）　丸瓦	
石製品	石鏃（滑石）　砥石（粘板岩）　円礫（緑色片岩）	
土製品	紡錘片　瓦玉	

S-35

須恵器	坏 c　甕　壺	
土師器	丸底坏 a（ヘラ）　小皿 a1（ヘラ）　煮沸具	
黒色土器 B	椀 c　破片	
白磁	椀：IV(1)　IV-1a(1)　V(2)　V-1(1)　華南 (1)	
	皿：VI(2)　華南 (1)　椀 × 皿（華南）(1)	
	他：華南 (2)　破片（広東）(2)	
中国陶器	壺：耳壺 (1)	
	他：A 群 (1)　B 群 (1)	
瓦類	平瓦（縄目叩）　丸瓦（格子目叩、縄目叩）　破片（格子目叩）	
石製品	砥石（砂岩）　石鏃再加工品（滑石）	
土製品	瓦玉	

S-36 灰色土

須恵器	甕	
土師器	椀 c　煮沸具　供膳具	
黒色土器 A	椀 c	
瓦類	平瓦（破片）	
その他	石炭	

S-36 黒色粘土

須恵器	供膳具	
土師器	煮沸具	

S-37

土師器	煮沸具	

S-38

須恵器	供膳具	
土師器	供膳具	
瓦類	破片	

S-38 灰色粘質土

土師器	供膳具	
瓦類	丸瓦（格子目叩）	

S-39

土師器	破片	

S-40 茶灰色土

須恵器	坏 c　皿　壺　蓋（肥後）	
土師器	丸底坏 a　椀 c　小皿 a1　甕　器台	
黒色土器 A	破片	
越州窯系青磁	椀：I(1)	
白磁	椀：IV(3)	
	他：破片（華南）(1)	
中国陶器	他：B 群 (1)	
瓦類	平瓦（格子目叩、縄目叩）	

S-40 茶灰色粘質土

土師器	丸底坏 a　小皿 a1	
黒色土器 B	破片	
瓦類	椀（補強）	
白磁	椀：VI-1(1)　華南 (1)	
瓦類	平瓦（縄目叩）　軒丸瓦（瓦当欠損）	

S-41

土師器	供膳具	
中国陶器	他：B 群 (1)	
瓦類	平瓦（縄目叩）　丸瓦	

S-43 茶灰色粘質土

須恵器	蓋 3　甕	
土師器	坏 a（イト）　丸底坏 a　椀 c　小皿 a1　高坏　鍋	
黒色土器 A	供膳具	
中国陶器	他：B 群 (1)	
瓦類	平瓦（縄目叩）　丸瓦	

S-43

須恵器	供膳具	
土師器	椀 c　煮沸具	

S-44

須恵器	甕	
土師器	煮沸具　供膳具	

S-44 暗灰色粘土

土師器	破片	

S-45

須恵器	坏 c　甕　供膳具	
土師器	丸底坏 a（ヘラ）　小皿 a1	
黒色土器 A	椀 c	
越州窯系青磁	椀：I(1)	
瓦類	平瓦（縄目叩）　丸瓦（格子目叩）	
金属製品	鉄滓	

S-45 茶灰色土

須恵器	蓋 c　甕　壺	
土師器	坏 a（イト）　丸底坏　丸底坏 a　椀 c　小皿 a1　鍋	
黒色土器 A	破片	
黒色土器 B	椀 c	
中国陶器	他：B 群 (1)	
瓦類	平瓦（格子目叩）　破片（縄目叩）	
石製品	破片（サヌカイト）	

Tab.3-4　大宰府条坊跡　第275次調査　出土遺物一覧表(4)

S-45 茶灰色粘質土

須恵器		蓋　坏　坏c　甕
土師器		坏a　坏a(イト)　坏c　丸底坏　丸底坏(穿孔)　丸底坏a　椀c
		高坏　器台　鉢　鍋　煮沸具
黒色土器A		鉢
黒色土器B		椀　椀c　破片
越州窯系青磁		椀:I1(1)
緑釉陶器		皿(京都系)
白磁		椀:I1(1)　IV-1a(1)
		他:輦南(1)
瓦類		平瓦(格子目叩、縄目叩)　丸瓦　破片
石製品		砥石(砂岩)
その他		炭化物

S-45 明灰色砂

須恵器		蓋3　坏　甕　壺
土師器		坏c　丸底坏　椀c　器台　甕a　鍋
黒色土器A		破片
越州窯系青磁		椀:I-2a ウ(1)
白磁		椀:輦南(1)
		他:輦南(1)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩)　文字瓦(901HC)
その他		鉱滓

S-45 灰色砂

須恵器		坏　甕　壺
土師器		坏(赤彩り)　丸底坏a1　椀c
黒色土器A		破片
越州窯系青磁		椀:I-1b(1)
瓦類		平瓦(縄目叩)

S-45 灰色粘質土

須恵器		蓋1　蓋3　蓋4　坏a　坏c　高坏　甕　壺　鉢　こね鉢　把手
土師器		坏a　丸底坏a　丸底坏a(ヘラ)　椀c　小皿a1　器台　鉢
		煮沸具
黒色土器A		椀c
黒色土器B		椀c
越州窯系青磁		椀:I1(1)
		皿:I1(1)
高麗青磁		椀:I11-2A(1)
灰釉陶器		椀
白磁		椀:I1(1)
瓦類		平瓦　平瓦(格子目叩、縄目叩)　丸瓦　丸瓦(格子目叩)　文字瓦(901b)
石製品		碁石

S-45 青灰色砂

須恵器		坏c　壺
土師器		坏a(イト)　丸底坏　椀c　煮沸具
黒色土器A		破片
越州窯系青磁		椀:I-2イ(1)
白磁		椀:I-2(1)
瓦類		平瓦　丸瓦　丸瓦(格子目叩、縄目叩)

S-45 暗灰色砂

須恵器		甕　壺　鉢
土師器		丸底坏　椀c　小皿a1
黒色土器A		椀c
越州窯系青磁		椀:I(1)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩)　丸瓦(格子目叩)
その他		鉱滓

S-45 暗灰色砂質土

須恵器		甕
土師器		坏c　丸底坏　甕　鉢
越州窯系青磁		椀:I(1)
白磁		椀:輦南(1)
瓦類		平瓦(縄目叩)　丸瓦(縄目叩)
石製品		砥石　礫(焼石)
その他		炭化物

S-45 暗灰色粘質土

須恵器		坏　甕
土師器		坏a(イト)　丸底坏a　鉢　煮沸具
黒色土器B		椀c
瓦類		破片(縄目叩)

S-46

土師器		煮沸具

S-47

須恵器		坏
土師器		供膳具

S-48

黒色土器A		破片

S-49

土師器		破片

S-50

須恵器		蓋1　坏c　甕　壺　鉢　脚付盤
土師器		坏a　椀c1　甕　鉢　煮沸具
黒色土器A		椀c
越州窯系青磁		椀:I1(1)　II(1)
灰釉陶器		椀　破片
瓦類		平瓦(格子目叩)　丸瓦(縄目叩)　破片(格子目叩)　博
金属製品		紙滓

S-50 茶灰色土

須恵器		甕
土師器		椀c　小皿a1
黒色土器A		椀c
越州窯系青磁		椀:I(1)
白磁		他:輦南(1)
瓦類		平瓦(縄目叩)

S-50 茶灰色粘質土

須恵器		蓋3　坏c　甕　甕b　壺c
土師器		坏　坏a(ヘラ)　高坏　椀c2　甕　壺　煮沸具
黒色土器A		椀c　甕
越州窯系青磁		椀:I(3)　I-1a(1)　I-5(1)　I-b(2)　I-1b(1)
		他:I(3)　鉢II(1)
灰釉陶器		壺
白磁		椀:広東(1)
		皿:VI-b(1)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩)　軒丸瓦　破片(格子目叩、縄目叩)
金属製品		鉄滓
石製品		碁石

S-50 灰色砂

須恵器		坏c　甕　壺　供膳具
土師器		椀c2　供膳具　煮沸具
黒色土器A		破片
瓦類		丸瓦　破片(縄目叩)

S-50 灰色土

須恵器		甕　壺
土師器		椀c　小皿a　煮沸具
瓦類		平瓦(格子目叩)　丸瓦(縄目叩)

S-50 暗茶色土

須恵器		甕　壺
土師器		椀c　丸椀a　煮沸具(角閃石)

S-50 明灰色砂質土

須恵器		甕　壺a×c
瓦類		丸瓦　破片(格子目叩)

Tab. 3-5　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (5)

S-50 黄灰色粘質土

須恵器	蓋3 蓋c 甕 壺 壺(藤)	
土師器	椀c	
黒色土器A	破片	
越州窯系青磁	椀:I-2a ゥ (1) II(1)	
瓦類	平瓦(格子目叩)	

S-50 茶灰色砂質土

須恵器	蓋 皿 甕
土師器	煮沸具
越州窯系青磁	椀:II-2(1)
緑釉陶器	皿
瓦類	平瓦(縄目叩) 丸瓦(格子目叩)

S-51

土師器	坏a(イト) 丸底坏 煮沸具
白磁	他:水注(1)

S-52

須恵器	甕
土師器	丸底坏
黒色土器B	破片

S-53

須恵器	甕
土師器	破片

S-54

土師器	小皿a

S-55 暗茶色土

須恵器	坏c 甕 壺
土師器	坏a(ヘラ) 坏c 高坏 椀c 甕
黒色土器A	坏d 椀c
黒色土器B	椀c
越州窯系青磁	椀:I(1) II(3)
白磁	椀:I-1(1)
瓦類	平瓦(格子目叩) 丸瓦(格子目叩)
土製品	焼土塊

S-55 ウラゴメ

須恵器	甕 壺
土師器	蓋bl 坏 皿a 甕 甕a(雲母) 甕b 鉢
黒色土器A	椀 椀c1
瓦類	平瓦(格子目叩,縄目叩) 丸瓦(格子目叩,縄目叩) 軒平瓦(637) 軒平瓦(668) 無(素)文塼
木製品	板材

S-55 灰色砂質土

須恵器	坏c 高坏 甕b 甕b(肥後) 壺(自色付着物アリ) 壺d×f
土師器	椀c 甕a
黒色土器A	椀 大椀c
越州窯系青磁	椀:I(1)
緑釉陶器	椀
瓦類	平瓦(縄目叩) 丸瓦(格子目叩) 破片(縄目叩)
その他	古式土師器;壺 二重口縁壺

S-55 暗灰色粘質土

須恵器	蓋3 甕
土師器	坏a 椀c1
黒色土器A	椀

S-55 黒灰色土

土師器	大椀c2
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	椀:I(1)
瓦類	丸瓦

S-55 黒灰色粘土

須恵器	甕 壺
土師器	坏a(ヘラ) 煮沸具
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀:I-2a ゥ (1) II-2(1) 他:I(1)
緑釉陶器	椀

S-55 黄褐色砂

瓦類	文字瓦(901A)

S-56

越州窯系青磁	他:II(1)

S-57

土師器	丸底坏 煮沸具

S-58

土師器	供膳具

S-59

須恵器	甕
土師器	破片
黒色土器A	破片

S-60

須恵器	甕
瓦類	平瓦(格子目叩)

S-60 茶灰色土

須恵器	甕
土師器	煮沸具
瓦類	破片

S-60 黄灰色土

須恵器	甕
土師器	坏 椀c 小皿a1 煮沸具
越州窯系青磁	椀:I(1) I-2ゥ(1)
瓦類	平瓦 破片(格子目叩)

S-61

土師器	丸底坏a 煮沸具
金属製品	鉸洋

S-62

須恵器	甕
土師器	煮沸具 供膳具
瓦類	破片(格子目叩)

S-63

須恵器	供膳具
土師器	煮沸具
その他	古式土師器;高坏

S-64

土師器	破片

S-65 灰色粘質土

須恵器	蓋c 皿 甕
土師器	丸底坏 煮沸具
黒色土器A	椀 椀c
瓦質土器	こね鉢
白磁	椀:II(1)
中国陶器	他:青磁(1)
瓦類	平瓦(縄目叩) 丸瓦 丸瓦(格子目叩)
金属製品	鉸洋
土製品	焼土塊

S-65 灰色粘土

須恵器	甕 壺
土師器	椀c
石製品	石鍋加工品(滑石)

Tab. 3-6　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (6)

S-65 茶灰色粘質土

須	恵	器	甕　壺　円面硯
土	師	器	供膳具
越州窯系青磁			椀：I(1)
灰	釉	陶	器	椀
瓦		類	丸瓦　破片

S-65 茶灰色砂質土

須	恵	器	甕
土	師	器	椀 c　器台　供膳具　煮沸具
瓦		類	平瓦（格子目叩）　丸瓦（格子目叩）

S-66

土	師	器	椀 c　煮沸具
中	国	陶	器	他：A 群 (1)

S-67

土	師	器	供膳具

S-68

須	恵	器	蓋 3
土	師	器	破片

S-69

土	師	器	煮沸具　供膳具

S-70 黒褐色土

白		磁	皿：VI(1)
中	国	陶	器	耳壺 (1)
瓦		類	破片

S-70 茶灰色土

須	恵	器	蓋 c　甕

S-71

土	師	器	供膳具

S-72

須	恵	器	供膳具
土	師	器	供膳具
国	産	磁	器	壺
瓦		類	破片　破片（燻し）

S-73

土	師	器	破片

S-74 灰色土

須	恵	器	甕
土	師	器	供膳具
瓦		類	平瓦（格子目叩）

S-75a

須	恵	器	甕
土	師	器	煮沸具
瓦		類	破片

S-76

須	恵	器	甕　小壺
瓦		類	破片

S-77 茶色土

土	師	器	丸底坏 a
須	恵	質	土	器	こね鉢

S-79

須	恵	器	供膳具
土	師	器	供膳具　煮沸具

S-80b

土	師	器	破片

S-80b 灰色粘質土

須	恵	器	壺

S-81

須	恵	器	甕　壺　供膳具
土	師	器	丸底坏
瓦		類	破片

S-82

須	恵	器	甕　壺
土	師	器	破片

S-82 灰色砂質土

須	恵	器	甕
土	師	器	供膳具

S-83

須	恵	器	供膳具

S-84

須	恵	器	蓋 1
土	師	器	供膳具

S-84 灰色土

土	師	器	供膳具

S-85c

土	師	器	破片

S-88

土	師	器	坏 a

S-90d

土	師	器	煮沸具
そ	の	他	獣骨

S-91

須	恵	器	壺
土	師	器	供膳具

S-92

そ	の	他	炭化物

S-93

須	恵	器	蓋 3　甕　供膳具
土	師	器	丸底坏　供膳具
黒	色	土	器 A	椀

S-94 灰色粘土

須	恵	器	蓋 3　甕
土	師	器	椀 e　供膳具　煮沸具
黒	色	土	器 A	破片
白		磁	椀：広東 (1)
瓦		類	破片（格子目叩）

S-95e

須	恵	器	壺
土	師	器	破片
瓦		類	破片

S-96 茶灰色土

須	恵	器	小壺 3　甕
土	師	器	丸底坏　小皿 a1　供膳具
白		磁	皿：11-1a(2)　VI-2(1)
瓦		類	平瓦（格子目叩）　丸瓦（格子目叩）　破片（縄目叩）

S-96 灰色土

須	恵	器	蓋 1　甕
土	師	器	丸底坏
瓦		器	破片
越州窯系青磁			椀：I(1)
白		磁	皿：11-1(2)　VI(2)　華南 (1)

Tab. 3-7　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (7)

S-96 青灰色粘質土

土　師　器		丸底坏
瓦　　器		椀 c
白　　磁		椀：IV-1c(1)

S-96 暗青灰色粘質土

須　恵　器		坏 c　甕
土　師　器		丸底坏 a　椀 c　煮沸具

S-97 灰色粘質土

須　恵　器		蓋 3　坏 × 皿
土　師　器		丸底坏 a　煮沸具

S-97 灰色粘土

土　師　器		供膳具　把手

S-98 茶灰色土

土　師　器		供膳具　煮沸具

S-99 灰色粘土

土　師　器		供膳具

S-99 茶灰色土

土　師　器		供膳具
黒　色　土　器	A	破片

S-101

須　恵　器		蓋 3　坏 c
土　師　器		丸底坏　器台　甕 b
黒　色　土　器	A	椀 c　破片
黒　色　土　器	B	破片

S-102

須　恵　器		蓋 3　甕
土　師　器		椀 c　供膳具　煮沸具

S-103

須　恵　器		破片
黒　色　土　器	A	椀 c
瓦　　器		平瓦（縄目叩）

S-104

須　恵　器		甕
土　師　器		小皿 a1　煮沸具

S-105g

瓦　　器		破片

S-106

須　恵　器		甕
土　師　器		丸底坏　椀 c　小皿 a1
瓦　　器		破片
越 州 窯 系 青 磁		椀：I(1)
白　　磁		皿：VI(1) 他：壺 (1)　破片（華南）(1)
土　　製　　品		焼土塊

S-107

須　恵　器		甕
土　師　器		椀 c　煮沸具
瓦　　器		破片

S-108

須　恵　器		甕
土　師　器		供膳具
黒　色　土　器	A	破片
越 州 窯 系 青 磁		他：破片 I(1)

S-109

須　恵　器		蓋 3
土　師　器		供膳具
黒　色　土　器	A	破片

S-111

土　師　器		丸底坏

S-112

須　恵　器		蓋 3　坏 c　坏 × 皿　壺
土　師　器		丸底坏　椀 c　小皿 1　煮沸具
黒　色　土　器	A	破片
越 州 窯 系 青 磁		他：破片 I(1)
白　　磁		椀：華南 (1) 他：破片（広東）(1)

S-113

土　師　器		破片
越 州 窯 系 青 磁		椀：II(1)
瓦　　器		丸瓦

S-114

須　恵　器		甕
土　師　器		丸底坏　煮沸具
瓦　　器		平瓦（縄目叩）
土　　製　　品		焼土塊

S-116

須　恵　器		甕
土　師　器		小皿 a1　供膳具　煮沸具
越 州 窯 系 青 磁		椀：I(1)
瓦　　器		破片（格子目叩）
土　　製　　品		焼土塊

S-117

須　恵　器		甕
土　師　器		丸底坏　煮沸具
黒　色　土　器	A	椀 c
金　属　製　品		鉸具

S-118

須　恵　器		甕　供膳具
土　師　器		丸底坏 a　小皿 a1（ヘラ）
黒　色　土　器	A	椀 c
白　　磁		椀：II(1)　V-1(1)
土　　製　　品		焼土

S-119

土　師　器		丸底坏 a　煮沸具
石　　製　　品		砥石
土　　製　　品		焼土

S-121 灰色土

土　師　器		小皿 a1
土　　製　　品		焼土

S-122

土　師　器		丸底坏　小皿 1　煮沸具

S-124 暗灰色土

須　恵　器		甕
土　師　器		丸底坏 a　小皿 a1　煮沸具
土　　製　　品		焼土

S-126

土　師　器		丸底坏 a　小皿 a1
土　　製　　品		焼土

S-127

土　師　器		供膳具　煮沸具

S-128

須　恵　器		甕　壺
土　師　器		小皿 a　煮沸具
土　　製　　品		焼土

Tab. 3-8　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (8)

S-129

須恵器	甕	
土師器	丸底坏a　煮沸具　供膳具	
黒色土器A	坏c	
瓦類	破片	

S-131

土師器	供膳具　煮沸具	
瓦類	破片	

S-132

土師器	丸底坏a　小皿a1	
黒色土器A	椀	
白磁	椀：蓮南 (1)	
瓦類	丸瓦	

S-133

須恵器	甕	
土師器	丸底坏a　小皿a1	
白磁	皿：IT-a(1)	

S-134

土師器	供膳具	
白磁	椀：IV(1)	
土製品	焼土	

S-135m

須恵器	甕	
土師器	供膳具　煮沸具	
瓦類	破片（縄目叩）	

S-136

土師器	小皿1	
白磁	皿：VI-1b(1)	

S-137

土師器	供膳具	

S-138

須恵器	壺	
土師器	丸底坏a　椀c　小皿a1　供膳具	
越州窯系青磁	坏：II(1)	
土製品	焼土塊	

S-139

土師器	丸底坏　椀c　小皿a1　煮沸具　供膳具	
黒色土器A	破片	
黒色土器B	破片	
瓦類	破片	

S-140n

土師器	破片	
越州窯系青磁	椀：I-5(1)	

S-141

土師器	供膳具	
瓦器	椀	
中国陶器	他：C群 (1)	

S-142

須恵器	甕	
土師器	丸底坏a　甕	
国産磁器	破片（混入）	

S-143

土師器	坏c　坏d　丸底坏a　小皿a1（ヘラ）　器台　鍋	
中国陶器	壺：耳壺 (1)	
	他：B群 (3)	
土製品	焼土塊	

S-144

土師器	供膳具	
土製品	焼土塊	

S-145o

須恵器	甕	
黒色土器B	破片	

S-146

土師器	丸底坏a　小皿a1	
黒色土器B	破片	
白磁	椀：IV(1)　蓮南 (1)	

S-147

須恵器	甕	
土師器	坏（円盤状高台）　椀c　甕	
越州窯系青磁	他：破片 II(1)	
土製品	焼土塊	

S-148

土師器	破片	
瓦類	破片	

S-149

須恵器	甕	
土師器	小皿a1　煮沸具	

S-150p

土師器	破片	
瓦類	破片（縄目叩）	

S-151

須恵器	供膳具	
土師器	小皿a1　煮沸具	
黒色土器A	椀	

S-152

須恵器	甕	
土師器	丸底坏　小皿a1　煮沸具	
越州窯系青磁	他：水注 (1)	
国産陶器	椀	
白磁	椀：II(2)	
	他：蓮南 (1)	

S-153

須恵器	甕	
土師器	椀c　煮沸具（角閃石）	
越州窯系青磁	他：破片 I(1)	
緑釉陶器	椀	
瓦類	破片（縄目叩）	
土製品	焼土塊	

S-154

須恵器	蓋3　坏	
土師器	丸底坏　小皿a1　供膳具	
白磁	椀：II(1)　V-2a(1)　蓮南 (1)	
瓦類	破片	
土製品	焼土塊	

S-155g

須恵器	甕	
土師器	椀c　破片	
瓦類	破片	

S-156

須恵器	坏c　甕	
土師器	供膳具　煮沸具	
瓦類	破片	

Tab. 3-9　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (9)

S-157

須恵器	壺
土師器	椀 c
越州窯系青磁	他：破片 I(1)
その他	古式土師器：甕

S-158

須恵器	破片
土師器	丸底坪　煮沸具

S-159

土師器	坪 c× 皿 c　丸底坪　小皿 a1　煮沸具
瓦類	破片（縄目叩）
土製品	焼土塊

S-161

須恵器	甕
土師器	丸底坪　煮沸具

S-162

土師器	丸底坪　小皿 a1
黒色土器 A	甕
越州窯系青磁	椀：I(1)

S-163

須恵器	破片
土師器	破片

S-164 茶灰色土

龍泉窯系青磁	他：破片 (1)

S-164 黄茶色土

須恵器	甕
土師器	丸底坪　器台　供膳具
龍泉窯系青磁	椀：I-2(1)　II-b(1)　破片 (1)
白磁	椀：V-1(1)
	皿：II-4(1)　IX-2(1)
瓦類	平瓦（縄目叩、格子目叩）　軒丸瓦

S-165S

須恵器	甕
土師器	煮沸具　破片
瓦類	丸瓦

S-166

越州窯系青磁	椀：I-1a(1)
瓦類	破片（縄目叩）

S-166 明灰色土

土師器	供膳具
瓦類	破片（縄目叩）

S-167 灰色土

土師器	破片

S-168

土師器	供膳具　煮沸具

S-169

須恵器	供膳具
瓦類	破片

S-170t

須恵器	甕
土師器	破片
瓦類	破片

S-171

須恵器	破片
土師器	丸底坪 a　小皿 a1　煮沸具

S-172 灰色砂質土

白磁	椀：II-3a(1)

S-172 茶灰色土

須恵器	蓋 c　坪　坪 c　甕　壺
土師器	丸底坪 a　小皿 a1　煮沸具
黒色土器 A	椀 c
黒色土器 B	椀 c　椀 c(油煙付着)　破片
瓦器	椀 c
越州窯系青磁	椀：I(2)
龍泉窯系青磁	椀：I(1)
灰釉陶器	椀　破片
白磁	椀：II(2) 墨書「□岡」　華南 (2)
	皿：VI(1)
瓦類	平瓦（縄目叩）　丸瓦（格子目叩）　破片

S-172

須恵器	蓋 3　坪 c× 皿 c　甕　壺
土師器	丸底坪 a　椀 c　小皿 a1　甕　甕 b　煮沸具
黒色土器 A	椀 c　破片
黒色土器 B	椀 c
瓦器	椀 c
越州窯系青磁	椀：I(4)
	他：破片 I(2)
白磁	椀：II-5(1)　IV(2)　IV-1(1)　IV-1a(1)　IV-1b(1)
	V(1)
	華南 (1)
瓦類	丸瓦（格子目叩）　破片（縄目叩、格子目叩）
金属製品	鉱滓　鉄製品（用途不明）

S-173

須恵器	甕　壺
土師器	甕　供膳具　煮沸具

S-174

須恵器	甕　壺
土師器	小皿 a　甕（角閃石）
黒色土器 A	椀 c
越州窯系青磁	他：破片 I(1)　破片 II(1)
瓦類	平瓦（縄目叩）

S-175u

須恵器	甕
土師器	破片
瓦類	破片（縄目叩）

S-176

須恵器	椀 c　甕
土師器	甕
黒色土器 A	椀 c
黒色土器 B	椀
越州窯系青磁	椀：I(4)　I-1(1)
弥生土器	甕
瓦類	平瓦（格子目叩）　丸瓦（格子目叩）

S-177

土師器	煮沸具　供膳具
瓦類	破片

S-178

土師器	丸底坪 a　小皿 a1（ヘラ）
黒色土器 B	椀
瓦器	椀
白磁	椀：II(1)
瓦類	破片
土製品	焼土塊

S-179 黄茶色粘質土

須恵器	甕（焼台付着）　壺

Tab. 3-10　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (10)

S-179 茶灰色砂質土

須恵器	蓋 3	甕　小壺　壺
土師器	坏 a	
黒色土器 A	破片	
黒色土器 B	把手	
その他	獣骨	

S-179

須恵器	蓋 e	甕　壺 e
土師器	煮沸具	
越州窯系青磁	椀：II(1)	
白磁	他：華南 (1)	
瓦類	平瓦	

S-181

須恵器	甕　壺	
土師器	高坏　椀 c　小皿 a1　煮沸具	
黒色土器 A	椀 c　破片	
越州窯系青磁	椀：II-2(1) 他：破片 II(1)	
緑釉陶器	破片（近江）	
瓦類	平瓦（格子目叩）　丸瓦（格子目叩）破片（格子目叩）	

S-182

須恵器	高坏　甕　破片	
土師器	丸底坏 a　小皿 a1（ヘラ）	
瓦類	丸瓦（格子目叩）	

S-183

土師器	丸底坏	

S-184

須恵器	供膳具　破片	
土師器	丸底坏 a　小皿 a1	
黒色土器 A	椀 c	
白磁	椀：華南 (1)	
瓦類	破片	
土製品	焼土塊	

S-185

須恵器	甕	
土師器	供膳具　煮沸具	
金属製品	用途不明（新期混入）	

S-186

土師器	供膳具	
黒色土器 A	椀 c	
土製品	焼土塊	
その他	骨　古式土師器	

S-187

須恵器	甕　供膳具	
土師器	丸底坏　把手	
黒色土器 A	椀	
須恵質（輸入）	朝鮮系無釉陶器：壺	
土製品	焼土塊	

S-188

須恵器	壺	
土師器	小皿 1　煮沸具　供膳具	

S-189

須恵器	蓋 3　高坏　甕	
土師器	供膳具（漆付着）	
黒色土器 A	椀 c　破片	
白磁	他：破片（華南）(1)	
瓦類	平瓦（縄目叩、格子目叩）	
石製品	勾玉（めのう）	

S-191

須恵器	坏 c　甕	
土師器	椀 c　甕　供膳具　煮沸具	
黒色土器 A	椀 c1	
瓦類	平瓦（格子目叩）　丸瓦	

S-192

須恵器	蓋 3　蓋 4　甕　壺	
土師器	椀 c1　甕 a　煮沸具	
黒色土器 A	椀 c　椀 c1　椀 2	
白磁	他：II(1)	
瓦類	破片（縄目叩）　破片	

S-193 暗茶色土

土師器	供膳具	

S-194

須恵器	甕	
土師器	甕　煮沸具　供膳具	
黒色土器 A	椀 c	
越州窯系青磁	椀：II(1)	
瓦類	破片	

S-195e

須恵器	坏 e	

S-195f

土師器	煮沸具	

S-195m

土師器	坏	

S-196

須恵器	蓋 3　甕	
土師器	椀 c　甕 b	
瓦類	破片	

S-197

須恵器	甕	
土師器	坏 a　椀 c1	

S-198 灰色粘土

須恵器	甕　盤	
土師器	供膳具	
黒色土器 A	椀 c	
土製品	焼土塊	

S-199

土師器	供膳具	
瓦類	平瓦（格子目叩）	

S-200a

須恵器	破片	
土師器	破片	
瓦類	破片（格子目叩）	

S-201 灰色砂質土

須恵器	破片	
土師器	丸底坏　煮沸具	
黒色土器 A	破片	
瓦類	平瓦（縄目叩）	

S-202

石製品	剥片（黒曜石）	

S-203

土師器	丸底坏 a　供膳具	

S-204

須恵器	甕　供膳具	
土師器	丸底坏	

Tab. 3-11　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (11)

S-205b

須恵器	甕　壺
土師器	破片
緑釉陶器	破片
瓦類	破片

S-206

須恵器	坏 a　甕
土師器	坏 c　丸底坏
黒色土器 B	破片
瓦類	丸瓦

S-207

石製品	剥片 (黒曜石)

S-208 暗茶色土

須恵器	甕　壺
土師器	破片

S-209

須恵器	甕
土師器	椀 c　煮沸具
瓦類	破片

S-209 暗茶色土

須恵器	甕　壺
土師器	煮沸具
黒色土器 A	椀 c
瓦類	平瓦
その他	骨

S-210c

須恵器	甕
土師器	壺
黒色土器 A	椀 c
瓦類	破片 (格子目叩)

S-211 暗茶色土

須恵器	甕　高台
土師器	甕
黒色土器 A	破片
瓦類	破片

S-211

須恵器	破片
土師器	椀 c　煮沸具　破片
黒色土器 A	破片
越州窯系青磁	椀 :I-2(1)
瓦類	平瓦 (縄目叩)　丸瓦　軒平瓦 (560　8-a')
金属製品	鉄滓
石製品	碁石

S-212

須恵器	甕
土師器	甕
黒色土器 A	椀 c　破片
越州窯系青磁	他 : 水注 (II 系)(1)
瓦類	平瓦 (格子目叩)
土製品	羽

S-212 灰色粘土

須恵器	甕　壺
土師器	椀 c
越州窯系青磁	椀 :I-2a ウ 他 :I1(1)
瓦類	平瓦 (格子目叩)

S-213

須恵器	壺
土師器	破片

S-214

須恵器	甕
土師器	煮沸具　供膳具
黒色土器 A	椀 c
瓦類	破片 (格子目叩)

S-215

須恵器	蓋 3　蓋 c　坏　坏 c　甕　壺 (内部に白色物付着) 供膳具 脚部
土師器	椀 c　椀 c1　高坏　甕　供膳具　把手
黒色土器 A	椀 c　破片
黒色土器 B	破片
越州窯系青磁	椀 :I(6)　I1(2)　I1-2(1) 他 :I(2)
緑釉陶器	椀
灰釉陶器	皿
白磁	椀 :I-2(1)　広東 (1)
瓦類	平瓦 (縄目叩、格子目叩)　丸瓦　丸瓦 (縄目叩、格子目叩) 軒丸瓦　破片 (縄目叩、格子目叩)　塼 (無文)
石製品	碁石
土製品	フイゴ羽口
その他	骨骨

S-215 灰色砂

須恵器	甕
土師器	煮沸具　供膳具
瓦類	破片 (格子目叩)

S-215 灰色粘土

須恵器	甕

S-216

須恵器	甕　供膳具
土製品	フイゴ羽口

S-217

土師器	供膳具

S-218

土師器	丸底坏 a

S-219

須恵器	破片
土師器	丸底坏

S-220

須恵器	甕　壺
土師器	椀 c　小皿 a1　器台　破片
黒色土器 A	破片
越州窯系青磁	椀 :I-2b
瓦類	平瓦 (格子目叩、縄目叩)　丸瓦　破片 (縄目叩)
石製品	石鏃 A 群　碁石
土製品	瓦玉

S-221

須恵器	坏 c　甕　壺
土師器	坏　供膳具
瓦類	破片 (縄目叩)

S-222

土師器	椀 c　煮沸具
越州窯系青磁	椀 :I(1)
灰釉陶器	壺?
瓦類	丸瓦 (縄目叩)

S-223

金属製品	破片

Tab. 3-12　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (12)

S-224

須恵	器	坏 c　甕
土師	器	供膳具
瓦	類	破片
木製	品	炭化物

S-225a

土師	器	坏

S-225d

須恵	器	壺
土師	器	破片
木製	品	柱

S-225g

須恵	器	供膳具　破片
土師	器	破片
石製	品	剥片（黒曜石）

S-225h

須恵	器	鉢

S-225j

土師	器	破片
白	磁	椀：草南（1、混入）

S-226

土師	器	丸底坏
瓦	類	破片（縄目叩）
石製	品	砥石

S-227

土師	器	供膳具

S-228

須恵	器	蓋（古墳時代）
土師	器	供膳具　煮沸具
瓦	類	丸瓦

S-229

土師	器	椀 c　甕
黒色土	器 A	破片

S-229 黄茶灰色土

黒色土	器 A	椀 c
瓦	類	破片（縄目叩）

S-230

土師	器	供膳具

S-231

土師	器	坏　煮沸具

S-232

土師	器	供膳具
瓦	類	丸瓦

S-233

土師	器	丸底坏 a

S-234

土師	器	供膳具

S-235

黒色土	器 A	破片

S-236

須恵	器	蓋 4　壺
土師	器	椀 c1　煮沸具
黒色土	器 A	破片

S-237

須恵	器	甕
土師	器	供膳具
黒色土	器 A	破片

S-238

須恵	器	蓋 3　甕
土師	器	坏　甕 a

S-239

須恵	器	甕
土師	器	甕
黒色土	器 A	椀 c
瓦	類	丸瓦（格子目叩）

S-241

須恵	器	甕
黒色土	器 A	破片
緑釉陶	器	破片
瓦	類	丸瓦（格子目叩）
木製	品	炭化木

S-242

土師	器	供膳具　煮沸具

S-243

須恵	器	甕
土師	器	坏 a　甕
黒色土	器 A	椀 c
越州窯系青磁		椀：I(1)
瓦	類	丸瓦（格子目叩）

S-244

須恵	器	蓋 c　坏 c　甕　壺
土師	器	甕
黒色土	器 A	椀 c　鉢　破片
緑釉陶	器	椀
瓦	類	平瓦（格子目叩、縄目叩）　文字瓦 (907)　破片（縄目叩）
木製	品	炭化物

S-245 茶灰色土

須恵	器	坏 c　皿 a　甕
土師	器	坏 a　甕 a
緑釉陶	器	皿
瓦	類	平瓦（縄目叩）　破片（格子目叩）
その	他	種子

S-245 暗茶灰色粘質土

土師	器	坏 a　甕
瓦	類	平瓦（縄目叩）

S-245 灰色粘土

須恵	器	蓋 3　坏 c　壺
土師	器	坏 a　椀 c　椀 c1　皿 a　甕 a　甕 a（角閃石）
黒色土	器 A	椀 c
緑釉陶	器	皿
瓦	類	平瓦（縄目叩）　丸瓦（縄目叩）

S-245 灰色砂

土師	器	坏 a（ヘラ）　供膳具　煮沸具

S-245 青灰色粘土

土師	器	坏 a（ヘラ）

S-245 青灰色シルト

須恵	器	甕
土師	器	供膳具
瓦	類	破片（縄目叩）

Tab. 3-13　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (13)

S-246

須恵器	甕 壺	
土師器	椀 c(龠摩?) 甕	
黒色土器A	破片	
越州窯系青磁	椀:I(1)	
緑釉陶器	脚付皿 破片	

S-247

須恵器	甕 壺(耳付)	
土師器	椀 c 煮沸具	
黒色土器A	椀 c	
越州窯系青磁	椀:I-5(1)	
緑釉陶器	椀 破片	
瓦類	平瓦(格子目叩) 丸瓦(格子目叩)	
石製品	石鍋	
土製品	焼土塊	

S-248

須恵器	壺	
土師器	供膳具 煮沸具	
瓦類	破片	

S-249

須恵器	甕	
土師器	供膳具 煮沸具	
黒色土器A	椀 c	

S-250

須恵器	蓋3 甕 壺	
土師器	甕	
黒色土器A	椀 c	
越州窯系青磁	他:破片 II(1)	
瓦類	丸瓦	
土製品	瓦玉	

S-251

須恵器	蓋 c 甕	
土師器	供膳具 煮沸具	
土製品	焼土塊	
木製品	破片	

S-252

土師器	供膳具	
瓦類	丸瓦(縄目叩)	

S-254

須恵器	坏 c 甕	
土師器	坏 a 椀 c 煮沸具	
黒色土器A	椀 c	
越州窯系青磁	他:I(1)	
瓦類	丸瓦(破片)	

S-255

須恵器	蓋1 蓋3 蓋 c 坏 c 甕 甕 b 壺 壺 e 鉢 脚脚	
土師器	坏 皿 a 甕 甕 a(角閃石、在地) 甕 b(角閃石)	
黒色土器A	坏 椀 椀(龠内) 椀 c 大椀 c 甕	
黒色土器B	椀	
越州窯系青磁	椀:I(6) I-1(2)(1) I-2(1) I-5(1) I-b(1) 他:I(2) 未分類(1)	
緑釉陶器	椀 皿 破片	
灰釉陶器	皿 破片	
白磁	椀:I(1)	
瓦類	平瓦(縄目叩) 丸瓦(格子目叩、縄目叩) 軒平瓦 軒平瓦(未分類)	
石製品	硯(滑石) 基石	
土製品	塩	
その他	獣骨	

S-255 黒灰色粘土

須恵器	甕 壺	
土師器	煮沸具 供膳具	
越州窯系青磁	椀:I(1)	
瓦類	破片(縄目叩)	

S-255 明灰色砂

須恵器	甕	
土師器	甕 供膳具	
越州窯系青磁	椀:I-3(1) II-2(1)	
瓦類	破片(縄目叩)	

S-256

須恵器	蓋3 甕 壺	
土師器	供膳具 煮沸具	

S-257

須恵器	蓋3 甕	
黒色土器A	破片	
瓦類	平瓦	

S-258

須恵器	坏 甕	
土師器	煮沸具 供膳具	
緑釉陶器	椀	

S-259

土師器	坏 煮沸具	

S-260

須恵器	蓋3 坏 c 甕 壺 壺 d×f	
土師器	坏 a 椀 e 甕 b 把手	
黒色土器A	椀	
越州窯系青磁	椀:I(1)	
緑釉陶器	椀	
縄文土器	破片	
瓦類	平瓦(縄目叩) 丸瓦 丸瓦(縄目叩、格子目叩) 破片(縄目叩、格子目叩)	
土製品	塩	

S-260 灰色砂

須恵器	甕 壺 d×f	
土師器	坏 a 甕 b	
黒色土器A	椀 c	
白磁	椀:I(1)	
瓦類	丸瓦(格子目叩) 軒丸瓦	
石製品	硯石	

S-260 灰色粘土

須恵器	坏 甕 壺(白色物付着)	
土師器	椀 c 甕 甕(角閃石、在地)	
黒色土器A	破片	
越州窯系青磁	椀:I(1)	

S-260 茶灰色粘質土

須恵器	坏(漆付着) 坏 c 高坏 甕 壺 鉢	
土師器	坏 a 高坏 椀 c1 皿 a 甕 a 把手	
黒色土器A	椀 c	
越州窯系青磁	椀:I-1(1)	
瓦類	平瓦(格子目叩) 丸瓦(格子目叩) 軒丸瓦	
土製品	瓦玉	

S-261

須恵器	蓋3 坏 c 甕	
土師器	供膳具 破片	
黒色土器A	椀 c	
瓦類	丸瓦 破片(縄目叩)	

S-262

須恵器	甕	
土師器	椀 c2 煮沸具	

Tab. 3-14　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (14)

S-263

須恵器	甕	供膳具
土師器		供膳具

S-264

須恵器	甕	
黒色土器A	破片	

S-265

須恵器	蓋3 蓋c 坏c 甕 壺	供膳具
土師器	坏a 椀c 甕 煮沸具 煮沸具 (角閃石、在地)	
黒色土器A	椀c 破片	
越州窯系青磁	椀:I-2(1) 他:I(2)	
瓦類	平瓦 (格子目叩) 丸瓦 (格子目叩)	
石製品	石鏃 (黒曜石) 剥片 (黒曜石)	

S-265 明灰色砂

須恵器	坏c 甕 壺	
土師器	皿 甕	
瓦類	平瓦 (縄目叩)	

S-265 灰色砂

須恵器	蓋1 蓋3 蓋c 甕 甕b 壺d 獣脚	
土師器	椀c 皿 甕 瓶	
黒色土器A	椀 椀c 椀:I(2) II(1)	
越州窯系青磁	坏:I-1(1) 壺:壺× 水注 I(1)	
緑釉陶器	椀× 蓋 破片	
瓦類	平瓦 (縄目叩、格子目叩) 丸瓦 (格子目叩)	
石製品	管玉? 石鏃 (黒曜石) 剥片 (黒曜石)	

S-265 灰色粘質土

須恵器	破片	
土師器	甕	
黒色土器A	椀c	
瓦類	丸瓦 (縄目叩)	

S-265 茶灰色粘土

須恵器	坏c 甕 鉢b	
土師器	椀c 甕b 煮沸具	
黒色土器A	椀c	
灰釉陶器	破片	
瓦類	平瓦 (格子目叩) 丸瓦 (格子目叩)	

S-266

須恵器	破片	
土師器	供膳具	
黒色土器A	椀	
瓦類	丸瓦 (格子目叩)	
木製品	炭化物	

S-267

須恵器	甕	
土師器	供膳具 瓶	
黒色土器A	椀c	
黒色土器B	破片	

S-268

須恵器	甕 鉢	
土師器	供膳具 煮沸具	
黒色土器A	椀	
越州窯系青磁	他:II(1)	
瓦類	破片	

S-269

須恵器	甕	
土師器	供膳具	
越州窯系青磁	椀:II-2(1)	
瓦類	破片	

S-270

須恵器	坏 坏c 甕 壺 壺d 壺d×f	
土師器	高坏 甕	
黒色土器A	椀c	
越州窯系青磁	椀:I-1(1) II(1) 皿:I-2(1)	
瓦類	平瓦 (縄目叩、格子目叩) 丸瓦 (格子目叩)	
金属製品	鉄滓	
石製品	砥石 石斧 剥片 (黒曜石)	

S-271

須恵器	蓋1 蓋3 坏c 甕 壺	
土師器	皿 煮沸具	
瓦類	破片	
その他	獣骨	

S-272

須恵器	蓋3 坏c 甕	
土師器	供膳具	
越州窯系青磁	椀:II-1(1) 他:II(2) II(1)	
瓦類	平瓦 平瓦 (縄目叩) 丸瓦 破片 (格子目叩)	

S-273

土師器	煮沸具	
木製品	炭化物	

S-274

土師器	煮沸具 供膳具	

S-275

須恵器	蓋3 坏 甕	
土師器	坏 坏c 甕 煮沸具	
黒色土器A	椀c1	
越州窯系青磁	他:II(1)	
白磁	椀:I-4(1)	
瓦類	平瓦 (縄目叩)	
木製品	炭化物	

S-275 黄灰色砂質土

須恵器	甕 坏c 高坏 壺	
土師器	椀c1 甕	
黒色土器A	破片	
越州窯系青磁	他:II(1) II(2)	
瓦類	平瓦 (格子目叩)	
石製品	剥片 (黒曜石)	
土製品	カマ壁	

S-275 茶灰色砂質土

須恵器	甕 壺	
土師器	供膳具	
瓦類	文字瓦 (901)	

S-275 灰色砂質土

須恵器	坏 甕	
土師器	坏	
瓦類	平瓦 (縄目叩)	

S-275 明灰色砂

須恵器	甕	
土師器	煮沸具	
越州窯系青磁	椀:II(1)	
瓦類	破片 (縄目叩)	
金属製品	鉄滓	

S-275 暗灰色粘質土

須恵器	蓋3 坏c 壺	
瓦類	平瓦 (縄目叩)	
その他	獣骨	

Tab. 3-15　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (15)

S-278

須恵器		坏c　甕（在地、荒尾）
土師器		甕　把手
黒色土器A		鉢
瓦類		平瓦（縄目叩、格子目叩）　丸瓦（縄目叩）

S-279

須恵器		蓋3　蓋c　甕　壺　壺a×c
土師器		高坏　甕　供膳具
黒色土器A		椀c　破片
緑釉陶器		椀　皿
灰釉陶器		椀　碗
瓦類		平瓦（縄目叩）　丸瓦（縄目叩）

S-279 暗灰色粘土

須恵器		蓋1　蓋3　坏c　高坏　坏身（古墳）　甕　甕（漆付着）　壺
		壺d
土師器		坏　坏d　煮沸具
瓦類		平瓦（縄目叩）　丸瓦（格子目叩）

S-280

須恵器		蓋c　坏c　皿a　高坏　甕　壺
土師器		坏a　煮沸具
黒色土器A		椀c
瓦類		平瓦（縄目叩、格子目叩、破片）
その他		獣骨

S-281

須恵器		坏　甕
土師器		坏

S-282

須恵器		蓋3　蓋c　壺　鉢
土師器		供膳具　煮沸具
瓦類		平瓦（縄目叩、格子目叩）

S-283

土師器		供膳具
黒色土器A		破片

S-284

須恵器		甕
土師器		丸底坏a　小皿a1
瓦類		丸瓦（格子目叩）

S-284 灰色砂質土

須恵器		甕
土師器		丸底坏a

S-286

土師器		破片

S-287

須恵器		蓋3　坏　甕
土師器		供膳具

S-288

須恵器		坏c　壺d×f
土師器		供膳具
土製品		鞴

S-289

須恵器		甕　壺
土師器		甕　供膳具
黒色土器A		椀c　甕

S-291

須恵器		坏c　甕　壺　鉢　破片
土師器		坏a　甕　破片
黒色土器A		椀c　破片
緑釉陶器		破片
瓦類		平瓦　丸瓦（格子目叩）　破片（格子目叩）

S-292

須恵器		甕
土師器		煮沸具
黒色土器A		椀c
越州窯系青磁		椀：I-1(1) 他：I(1)
緑釉陶器		椀×皿
瓦類		平瓦（格子目叩）

S-293

須恵器		甕　壺
土師器		供膳具　煮沸具
黒色土器A		椀c
越州窯系青磁		他：II(1)

S-293 灰白色砂

須恵器		甕
土師器		供膳具

S-294

土師器		破片

S-296

瓦類		破片

S-297

土師器		破片

S-320h

須恵器		甕
土師器		破片
瓦類		破片（格子目叩）

S-325i

須恵器		壺
土師器		破片

S-350m

須恵器		甕
瓦類		破片
その他		獣骨

S-355n

須恵器		甕
瓦類		破片
土製品		焼土塊

S-360o

須恵器		甕
越州窯系青磁		坏：I(2) 他：I(1)
瓦類		平瓦（格子目叩）　破片
その他		獣骨

S-365p

須恵器		坏　坏c　甕　壺a×c
越州窯系青磁		椀：I-1(1)
瓦類		平瓦（縄目叩）

S-370q

須恵器		甕
土師器		供膳具
その他		獣骨

S-375r

須恵器		破片
瓦類		破片（格子目叩）

S-380

土師器		椀c　煮沸具
黒色土器A		破片

Tab. 3-16　大宰府条坊跡　第275次調査　出土遺物一覧表(16)

S-380(枠内)黒灰色粘土

須恵器	蓋c 壺	
土師器	坏a 椀c1 煮沸具	
黒色土器A	椀 甕	
越州窯系青磁	椀:I(1)	
緑釉陶器	椀	
瓦類	平瓦(格子目叩) 硯片	
石製品	砥石(砂岩)	

S-380(枠内)暗黄灰色砂

土師器	椀c1

S-380(裏込土)黄灰色粘質土

土師器	椀c 煮沸具

S-385g 灰色粘質土

須恵器	蓋I

S-400a

土師器	供膳具

S-405

須恵器	甕 供膳具
土師器	供膳具
瓦類	平瓦(縄目叩) 丸瓦(格子目叩)

S-405 灰色砂

須恵器	蓋3 坏c 小坏c 甕 壺
土師器	椀c 煮沸具
黒色土器A	椀c
越州窯系青磁	椀:I(3) I-1(1) II-1(1) 他:I(3)
長沙窯系青磁	壺(1)
灰釉陶器	皿
白磁	他:I(1)
瓦類	軒丸瓦(145) 破片(格子目叩、縄目叩) 塼
石製品	砥石

S-410

瓦類	破片

S-410 灰色砂

須恵器	坏c 甕 壺
土師器	坏 煮沸具
黒色土器A	破片

S-415

瓦類	破片

S-415 明灰色砂

須恵器	蓋3 甕 壺
土師器	坏a 坏c 甕

S-420

須恵器	甕 壺b 壺e
土師器	椀c 煮沸具
越州窯系青磁	椀:II-2(1) 他:I(1) II(1)
瓦類	平瓦(格子目叩、縄目叩、平行叩)

S-430

瓦類	破片

S-450

須恵器	甕 壺
土師器	煮沸具

灰色砂質土(1面)

須恵器	蓋3 甕 壺
土師器	小皿a1
瓦器	椀
越州窯系青磁	椀:II(1)
瓦類	破片

暗茶灰色土1(1面)

須恵器	甕 壺
土師器	丸底坏a 耳皿 甕
瓦器	椀
越州窯系青磁	椀:II(1)
白磁	椀:IV-1a(1)
中国陶器	他:破片B群(1)
瓦類	丸瓦(格子目叩)
土製品	焼土塊

黄色土(1面)

須恵器	坏 甕 壺
土師器	丸底坏a 椀c 小皿a1
黒色土器A	椀c 破片
越州窯系青磁	椀:I(1) IV-1(1)
須恵質土器	こね鉢(東播)
白磁	皿:IX(1)
瓦類	平瓦(縄目叩)
土製品	焼土塊

灰色粘土1(1面)

須恵器	甕 壺
土師器	丸底坏a
越州窯系青磁	椀:I-2a ク(1)
白磁	椀:V(1) V-2b(1)
瓦類	破片(格子目叩)

黄灰色土(1面)

須恵器	蓋 坏c 甕 壺
土師器	丸底坏a 小皿a1 煮沸具
黒色土器B	椀
越州窯系青磁	壺:壺×水注I系(1)
龍泉窯系青磁	椀:II-b(1)
須恵質土器	こね鉢(東播)
灰釉陶器	破片
国産陶器	甕
白磁	椀:II(1) IV(1) IV-a(1) V(1) V-2(2) 皿:II-a(1) IV(4) IX(1) 他:破片(輪削)(1)
瓦類	平瓦(格子目叩) 丸瓦(格子目叩)

灰色粘質土1(1面)

須恵器	坏c 甕
土師器	坏 丸底坏a 甕 小壺
黒色土器A	破片
瓦器	椀 椀c
越州窯系青磁	他:破片I(1)
白磁	椀:II(1) II-4(1) IV(4) V(1) V-1a(1) V-2b(3) 広東(2) 輪削(2) 皿:II-a(1) VI(3) 広東(1) 他:鉢(鉄絵)(1) 破片広東(2)
中国陶器	他:C群(1)
瓦類	平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦(格子目叩)
石製品	石鏃(滑石)

Tab. 3-17　大宰府条坊跡　第275次調査　出土遺物一覧表 (17)

灰色土1(1面)

須恵器		甕 壺 こね鉢(器) 供膳具
土師器		坏c 丸底坏a 椀c 小皿a1 甕 煮沸具
黒色土器A		椀c
黒色土器B		椀c
瓦器		椀
越州窯系青磁		椀:I(1)
越州窯系青磁		他:破片I(4)
灰釉陶器		椀
白磁		椀:II(4) IV(3) V-1(1) 広東(1) 華南(1)
		皿:II-a(1) VI(1)
		他:破片(華南)(1)
中国陶器		他:C群(2)
瓦類		平瓦 丸瓦(格子目叩) 破片(格子目叩)
石製品		小型容器(滑石製石鍋加工品)
土製品		焼土塊

茶灰色土1(1面)

須恵器		蓋3 蓋b 蓋c 坏c 甕 壺 壺b 脚付盤
土師器		蓋3 丸底坏a(ヘラ) 脚付丸底坏 椀c 小皿a1
		甕 甕b
		供膳具 煮沸具 器台
黒色土器A		椀c 破片
黒色土器B		椀
瓦器		椀c
越州窯系青磁		椀:I(2) I-1(1) I-1b(2) II(1) II-2(1) IV(1)
		坏:II(1)
		他:破片I(5)
龍泉窯系青磁		椀:III-2(1)
高麗青磁		椀:III-1(1)
瓦質土器		こね鉢×すり鉢
緑釉陶器		椀 破片
灰釉陶器		蓋 椀×皿 壺
白磁		椀:II(1) IV(2) IV-1c(3) V(1) V-1a(3) 華南(8)
		皿:VI-1b(1)
		他:壺(2) 破片(広東)(3) 破片(華南)(6) 水注(1)
中国陶器		壺:(1) 耳壺(1)
		他:B群(1) C群(1)
朝鮮系無釉陶器		壺×壺
弥生土器		壺(中期)
瓦類		平瓦(縄目叩) 丸瓦(縄目叩、格子目叩)
		文字瓦(901B,901Fa) 破片 破片(縄目叩、格子目叩)
土製品		焼土塊
その他		獣骨

灰茶色粘質土1(1面)

須恵器		甕
土師器		坏a 煮沸具
越州窯系青磁		椀:II-2(1)
灰釉陶器		椀 大椀
白磁		他:水注×壺(1)(華南)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦(格子目叩)

茶色土1(1面)

須恵器		坏c 高坏 壺
土師器		丸底坏a 小皿a1 器台 煮沸具
龍泉窯系青磁		椀:I(1)
高麗青磁		椀:III-1(1)
白磁		椀:IV(3)
朝鮮系無釉陶器		壺×壺(1)
瓦類		平瓦(格子目叩)

黄灰色砂質土1(1面)

須恵器		甕 供膳具
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦

明黄灰色土1(1面)

須恵器		甕
瓦類		丸瓦

黄茶色土1(1面)

須恵器		蓋3 甕
土師器		丸底坏 供膳具
越州窯系青磁		他:破片I(2)
瀬戸		天目椀
白磁		椀:V(1) V-1(3) 華南(1)
		他:破片(華南)(1)
青白磁		皿(1)
中国陶器		他:破片C群(1)
瓦類		破片(格子目叩)
金属製品		鉄滓

黄茶灰色土1(1面)

須恵器		蓋3 甕 供膳具
土師器		丸底坏 煮沸具 供膳具
黒色土器B		破片
白磁		椀:IV(1) VIII(1)
		他:壺(1) 破片(華南)(1)
瓦類		平瓦(格子目叩) 丸瓦(格子目叩)

明灰色砂1(2面)

須恵器		蓋3 坏c 甕 壺
土師器		椀c 甕 煮沸具
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦
石製品		石臼(サヌカイト)

黒褐色土(2面)

須恵器		坏c 甕 壺(白色物付着) 壺d×f
土師器		坏a 椀c 甕
黒色土器A		椀c(在地、畿内)
越州窯系青磁		椀:I(2) I-1(1) II-2(2)
		坏:II(2)
		他:I(4)
緑釉陶器		小椀 破片
灰釉陶器		破片
瓦類		丸瓦(格子目叩) 文字瓦(901c)

灰色粘土2(2面)

須恵器		蓋3 坏c 甕 壺
土師器		甕b
緑釉陶器		椀
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦 丸瓦(格子目叩)

灰色砂1(2面)

須恵器		蓋3 坏 坏c 甕 壺 供膳具
土師器		椀c1 坏(漆付着、高坏) 坏a(ヘラ) 丸底坏a 甕 甕b
黒色土器A		椀c1 椀c2
越州窯系青磁		椀:I(1)
		他:壺×水注I系(1)
弥生土器		甕 壺
瓦類		平瓦(縄目叩) 丸瓦 丸瓦(縄目叩)
石製品		砥石 スクレイパー(黒曜石) 剥片
その他		獣骨 古式土師器;壺

灰色砂質土2(2面)

須恵器		坏c 甕 壺
土師器		甕
黒色土器A		椀c
瓦類		平瓦(格子目叩) 破片
石製品		剥片(黒曜石)

灰色砂質土3

須恵器		蓋3 坏c 壺 甕
土師器		坏c 椀c 皿 高坏 煮沸具
瓦類		平瓦(縄目叩) 丸瓦(縄目叩)
金属製品		鉛滓

Tab. 3-18　大宰府条坊跡　第275次調査　出土遺物一覧表 (18)

明灰色結土 (2面)

須恵器		坏c 皿 甕 壺 脚鉢
土師器		煮沸具
黒色土器A		椀c
黒色土器B		椀e
越州窯系青磁		椀:I-12ヲ(1) I-2ヲ(1) II-2b(1) II-2(2)
		他:破片I(1)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦(縄目叩、格子目叩)
		軒丸瓦(未分類)
その他		古式土師器:器台

明灰色土1(2面)

須恵器		坏c 高坏 甕 鉢
土師器		椀c 皿a 甕 鍋
黒色土器A		椀 椀c
越州窯系青磁		椀:I(7) I-2aヶ(2) I-1b(2)(2)
		壺:I系(1)
		他:壺×水注I系(2) 破片I(18)
白磁		他:壺×水注I(広東)(2)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦(格子目叩)
石製品		碁石 石鍋(滑石)
その他		獣骨

暗茶灰色土2(2面)

須恵器		蓋 蓋c 坏c 甕 甕b 壺d
土師器		椀c 椀c2 甕 甑
黒色土器A		椀c
黒色土器B		椀c
越州窯系青磁		椀:I-2イ(1) I-2aヶ(1) II-1(1)
緑釉陶器		破片
白磁		椀:IV-1a(1)
		皿:VI(1)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦(格子目叩、平行叩)
		破片
金属製品		釘(鉄製品)
石製品		用途不明(加工品、滑石) 剥片(黒曜石)

暗茶色土(2面)

須恵器		蓋3 坏c 椀 椀c 甕 甕b 壺 壺a×c 壺d×f
		鉢b 盤
土師器		坏a 椀c 大椀c 皿a 小皿a1 甕a 甕b 煮沸具
黒色土器A		坏d 椀c 皿
越州窯系青磁		椀:I(4) I-5(2) II(4) II-2(2)
		他:破片I(1) 破片II(1)
緑釉陶器		破片
白磁		他:破片(華南)(1) 水注(1)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦 丸瓦(格子目叩)
		軒丸瓦(285B)
石製品		石鍋(滑石) 砥石(細粒砂岩)

茶灰色土2(2面)

須恵器		蓋3 蓋(古墳) 坏a 坏c 皿 高坏 甕 大甕b
		壺 壺e
		壺(穿孔) 壺d 壺d×f 三ね鉢 こね鉢(種)
土師器		坏 坏a 坏c 坏d 椀c 椀c1 椀c2 皿a 高坏
		甕
		甕(在地) 甕(穿孔) 甕b 甑 把手 煮沸具
		煮沸具(角閃石)
黒色土器A		椀c 甕
黒色土器B		椀e
越州窯系青磁		椀:I(3) I-1(3) I-1a(1) I-5(3) II-2(2) II(3)
		I-2(1)
		壺:壺×水注II(2)
		他:破片I(4) 破片II(3)
緑釉陶器		椀(近江、京都)
灰釉陶器		椀
白磁		椀:IV-1(1) XI-2(2) 華南(1)
		他:華南(1) 破片
中国陶器		壺:壺
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩、文字瓦) 丸瓦 軒平瓦(未分類) 軒丸瓦(未分類) 塼
		丸瓦(縄目叩、格子目叩)
金属製品		鉄滓 釘(丸釘)
石製品		石鍋(滑石製、用途不明) 剥片(黒曜石)
その他		獣骨 破片:縄文土器

茶褐砂質土(2面)

須恵器		坏c 甕 壺
土師器		煮沸具
黒色土器A		椀 椀c
越州窯系青磁		椀:I(2) II(1)
		他:破片I(2)
緑釉陶器		椀
白磁		皿:華南(1)
瓦類		平瓦(格子目叩) 丸瓦(格子目叩)
石製品		碁石

茶灰色砂質土(2面)

須恵器		蓋c 坏c 高坏 甕 脚鉢
土師器		坏a(ヘラ) 煮沸具
黒色土器A		破片
越州窯系青磁		椀:I(2) I-2aヶ(1)
白磁		椀:華南(2)
		他:破片(華南)(1) 破片(1)
染付(輸入)		碗×壺(1) チュ陶
瓦類		平瓦(格子目叩) 破片(縄目叩)
石製品		石鍋B群(滑石)
土製品		鞴

黄茶色土2(2面)

瓦類		破片(格子目叩)

暗茶色砂質土(2面)

須恵器		坏c 甕 甕b 壺
土師器		破片
越州窯系青磁		椀:II(1) II-2(1)
瓦類		丸瓦 破片(格子目叩)

茶灰色粘質土(2面)

須恵器		甕 壺
土師器		坏a 椀c 甕b 甕(角閃石)
黒色土器A		椀c
越州窯系青磁		椀:II-1
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩)

明灰色砂2(3・4面)

須恵器		蓋3 蓋c 小坏c 坏c 甕 甕b 壺
土師器		椀c 椀c2 皿a 甕
黒色土器A		椀c
黒色土器B		椀e 破片
越州窯系青磁		椀:II(2) II-2(2)
		他:破片I(1)
白磁		他:水注×壺:広東(1)
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 丸瓦(縄目叩、格子目叩)
		軒丸瓦

灰色砂2(3・4面)

須恵器		蓋1 蓋3 蓋a3 蓋e 坏c 坏身(古墳) 皿a 高坏 甕
		甕b 壺 壺a×c 壺d 鉢 硯 タル型瓶 把手
土師器		蓋b 蓋c 坏a 坏d 椀c 皿 皿a 甕 甕(角閃石) 甕a
		甕b 把手
黒色土器A		椀e 椀c2
越州窯系青磁		椀:I(13) I-1(1) I-2(4) I-5(1) II(2) II-2(5)
		他:破片I(5) 破片II(4) 水注I系(1)
長沙窯系青磁		水注(1)
緑釉陶器		椀 椀(種) 椀×皿 皿(種) 破片
灰釉陶器		椀 椀×皿 皿 壺 破片
瓦類		平瓦(縄目叩、格子目叩) 軒平瓦(560、635A、662)
		文字瓦(901A、901B) 破片(縄目叩、格子目叩)
		丸瓦(縄目叩、格子目叩) 軒丸瓦(223a、未分類)
金属製品		鉱滓
石製品		剥片(サヌカイト) 黒曜石
土製品		フイゴ羽口 窯壁
木製品		炭化物
その他		種子 獣骨

Tab. 3-19　大宰府条坊跡　第 275 次調査　出土遺物一覧表 (19)

灰色粘質土 3（3・4 面）

須恵器	坏 c　甕　壺
土師器	甕
黒色土器 A	椀 c
越州窯系青磁	椀：I(1)
弥生土器	大甕
瓦類	平瓦（縄目叩、格子目叩）　丸瓦（格子目叩）

茶色砂質土（3・4 面）

須恵器	蓋 3　蓋 c　坏 c　甕
黒色土器 A	坏　甕
越州窯系青磁	椀：I(1)
瓦類	平瓦（縄目叩）　丸瓦（格子目叩）
石製品	砥石

暗灰色土 2（3・4 面）

須恵器	坏 c　甕
土師器	甕
黒色土器 A	椀 c
黒色土器 B	椀 c
瓦類	丸瓦（格子目叩）　破片（縄目叩）

灰色土 2（3・4 面）

須恵器	蓋 3　坏（古墳）　坏 c　甕　壺
土師器	椀 c
黒色土器 A	椀 c　把手
越州窯系青磁	椀：I(2)　I-2a ゥ (1)
灰釉陶器	壺
瓦類	平瓦（縄目叩、格子目叩）

暗灰色粘質土（3・4 面）

須恵器	蓋 3　坏 c　高坏　甕　壺　小壺
土師器	坏 a（ヘラ）　椀 c　甕
黒色土器 A	椀 c　破片
越州窯系青磁	椀：I(2)　I-3(1)
瓦類	平瓦（縄目叩）　丸瓦（格子目叩）
土製品	焼土塊

黄茶色砂（3・4 面）

須恵器	坏　皿　甕　甕 b　壺
黒色土器 A	椀 c
越州窯系青磁	椀：I-2a ゥ (1)　II-2(1) 他：破片 I(1)
瓦類	平瓦（縄目叩、格子目叩）　丸瓦（格子目叩）

茶色土 2（3・4 面）

須恵器	坏 c　坏身（古墳）　甕　甕（古墳）　壺　鉢 b　把手
土師器	蓋 3　坏 d　椀 c　椀 c1　甕　把手
黒色土器 A	椀 c　椀 c1
緑釉陶器	皿（東海）
瓦類	平瓦（格子目叩）　丸瓦（縄目叩、格子目叩）
石製品	風字硯（滑石）

暗灰色砂（3・4 面）

須恵器	坏 c　甕
土師器	坏 c　煮沸具
黒色土器 A	破片
越州窯系青磁	椀：II(1)
瓦類	破片

暗茶灰色粘質土（3・4 面）

須恵器	甕　壺
土師器	坏

カクラン

須恵器	蓋 1　蓋 3　坏 c　壺
土師器	椀 c　小皿 a1　甕　把手
黒色土器 A	椀 c
越州窯系青磁	椀：I-2(1)
龍泉窯系青磁	椀：I-4(1)
国産陶器	注口付鉢
白磁	椀：IV(3) 他：破片（碁南）(2)
瓦類	丸瓦　破片（格子目叩）
石製品	石鏃（滑石）
木製品	炭化物

試掘トレンチ

土師器	供膳具

表採

須恵器	蓋 c　甕　壺
土師器	丸底坏 a　椀 c　小皿 a1　甕　供膳具　煮沸具
黒色土器 A	椀　椀 c
越州窯系青磁	椀：I(1)　I-2a ゥ (1) 他：破片 I(5)
白磁	皿：VIII(1) 他：破片（碁南）(1)
瓦類	丸瓦（格子目叩）
石製品	剥片（黒曜石）

Z

須恵器	蓋 3　坏　坏 c　甕　壺
土師器	坏　丸底坏　椀 c1　高坏　煮沸具
黒色土器 A	椀 c
越州窯系青磁	他：合子 I 系 (1)
瓦類	平瓦（縄目叩）
その他	種子　炭化物

Tab.4-1　大宰府条坊跡　第275次調査　出土土器供膳具　計測表 (1)

S-1

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 a		R-001		2.3+α			

S-1 灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-002		1.0+α			
	小皿 a1		R-003		1.0+α			
	小皿 a1		R-004	(9.0)	1.25	(7.0)		
	丸底坏		R-001		2.6+α			
	丸底坏		R-005		2.5+α			
	丸底坏		R-006	(16.6)	2.5+α			

S-3 黒褐色土（炭化物含）

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-003	(10.4)	1.1	(7.4)	○	○
	小皿 a1	—	R-004	(10.0)	1.7	(7.2)	○?	—
	小皿 a1	—	R-010	(11.1)	1.4	(7.2)	—	—
	小皿 a1	ヘラ	R-011	(10.4)	1.7	(7.0)	○	—
	小皿 a1	ヘラ?	R-013	(10.0)	1.1	(7.6)	○	○
	小坏 a	ヘラ	R-002	(9.8)	1.75	(7.4)	○	—
	坏		R-005		3.15+α			
	丸底坏	—	R-008	(15.6)	3.3+α	(9.6)	—	—
	丸底坏		R-009		3.5+α			—
	丸底坏 a	—	R-001	(18.2)	4.0	(14.2)	—	○
	丸底坏 a	—	R-006	(15.6)	2.85	(9.1)	—	○
	丸底坏 a	—	R-007	(10.4)	2.1	(9.6)	—	○
	丸底坏 a		R-012	(18.5)	4.05	—		

S-5 暗黒色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-015	(10.0)	1.4	(8.0)	—	—
	坏 a × 皿 a	ヘラ	R-002		1.0+α	(8.0)	○	○
	丸底坏		R-007		2.0+α			
	丸底坏 a	—	R-001	(15.6)	2.5	(12.7)	—	—
	丸底坏 a	—	R-003	(15.0)	3.0	(12.3)	—	—
	丸底坏 a	—	R-004	(15.8)	3.2+α	(12.2)	—	—
	丸底坏 a		R-005	(16.0)	3.55+α	(11.4)		
	丸底坏 a		R-006	(16.0)	3.55+α	(12.0)		
	丸底坏 a	—	R-016	(14.8)	3.4	(10.9)	—	—
黒色土器B	椀 c	—	R-017		2.05+α	(7.0)		

S-5 暗灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(10.6)	1.7	(7.4)	—	—
	小皿 a1	ヘラ	R-002	(9.6)	1.1	(7.2)	○	—
	丸底坏 a		R-003	(13.4)	3.5+α	(10.75)		
	丸底坏 a	ヘラ	R-004		2.9+α		○	—

S-5 暗青灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	ヘラ	R-004	(10.4)	1.1	(8.0)	○	×
	小皿 a1		R-005		1.0+α		—	—
	小皿 a1	ヘラ	R-009	(10.4)	1.1	(7.0)	○	—
	丸底坏		R-006		3.4+α			
	丸底坏		R-007		2.8+α			
	丸底坏		R-008		2.4+α			
	丸底坏		R-010		3.55+α			

S-5 青灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-002		2.8+α			
	丸底坏		R-003		1.9+α			

S-5 黒色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-001	(16.4)	3.5+α	(11.45)		
	丸底坏		R-002	(14.8)	2.5+α			

S-5 茶灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小丸底坏 a	ヘラ	R-001	(11.6)	2.4	(8.0)	○	—
	丸底坏 a	ヘラ	R-002	14.25	3.5	11.85	—	—

S-5 灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a 1		R-002	(10.4)	1.25	(7.5)		
	丸底坏 a		R-001	(15.0)	3.6	10.0		

S-6

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 ?		R-001		1.6+α			

S-14

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 × 坏		R-001		1.8+α			

S-15

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 a	ヘラ	R-001	(15.2)	3.6	(13.0)		
	丸底坏 a	ヘラ	R-002	(15.2)	3.6	(13.6)		

S-15 灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	イトカ?	R-008	(8.0)	1.1	(5.9)	○	○
	丸底坏		R-011	(14.4)	3.05+α			
	丸底坏	—	R-012	(15.8)	3.0+α			
	丸底坏	—	R-013		3.45+α			
	丸底坏 a	ヘラ?	R-001	15.4	2.4			
	丸底坏 a		R-002	15.8	3.3	13.4		○?
	丸底坏 a		R-005	15.6	3.0	12.0		○
	丸底坏 a	ヘラ	R-006	14.6	3.0	10.7		○
	丸底坏 a	ヘラ	R-007	15.0	2.6	11.5		
	丸底坏 a		R-009	15.6	3.5	11.25		
	丸底坏 a	—	R-010	15.2	3.7	12.6		

S-15 茶灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-004	(8.8)	1.3	(7.4)		
	小皿 a1	ヘラ	R-006		1.5+α			
	小皿 a1		R-008	(8.3)	1.2	(6.3)		
	小皿 a1	ヘラ	R-009	(8.3)	1.0	(7.8)		
	小皿 a1		R-010	(9.0)	1.25	(8.4)		
	丸底坏 a	ヘラ	R-001	(14.8)	3.45	(11.8)		○
	丸底坏 a	ヘラ	R-005	14.5	2.8	11.2		
	丸底坏 a	ヘラ	R-007	8.0	3.2+α	12.6		
	丸底坏 a		R-011	(14.8)	3.1+α			
	丸底坏 a	ヘラ	R-012		3.15+α			
	丸底坏 a		R-015	14.8	2.9	12.0		
	丸底坏 a		R-016	14.4	3.0	10.4		
	丸底坏 a		R-017	15.5	3.25	11.15		
	丸底坏 a		R-018	(16.3)	2.9	11.9		○
	椀 c		R-002		1.3+α	(5.8)		
瓦器	椀 c		R-003	(17.0)	5.9	(6.2)		

S-15 灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 a	—	R-002	15.2	3.4～3.7	10.85	—	○

S-15 灰色砂質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(8.6)	1.1	5.65	—	—
	小皿 a1	—	R-002	9.6	1.3	6.8	—	○
	丸底坏 a	—	R-003	14.8	3.5	11.5	—	—

S-19

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 1	—	R-001		1.1+α			

S-20 灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	ヘラ?	R-001	(9.4)	1.2	(7.2)		

S-20 茶灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-001	(9.8)	1.5	(7.6)		
	小皿 a1	ヘラ?	R-002	(9.5)	1.4	(7.5)		
	小皿 a1	ヘラ?	R-004	8.9	1.2	7.4		
	坏 a	ヘラ?	R-005	(15.2)	2.1	(10.0)		
	丸底坏		R-003	(16.6)	3.2+α	(14.3)		

S-25 灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋 2		R-001		1.0+α			
土師器	坏 a × 台脚	ヘラ	R-002		2.9+α	(8.2)	○	
	椀 c		R-003		2.5+α			

S-26

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a2		R-001		1.0+α			
	小皿 a2		R-002		1.75			

S-30

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 × 坏		R-001		3.2+α			

S-30 灰茶色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(8.8)	0.9	(6.2)	—	—
	小皿 a1	—	R-002	(9.8)	1.15	(7.1)	—	—
	小皿 a1	—	R-004	(8.4)	0.95	(6.0)	—	—
	椀		R-003		4.0+α			

Tab. 4-2　大宰府条坊跡　第275次調査　出土土器供膳具　計測表 (2)

S-90 灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	椀c2		R-001	16.3	5.5	7.4		

S-30 灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1		R-001	(8.6)	1.2	(5.9)	○	

S-30 灰色土（黄土？）

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	—	R-002	(9.3)	0.85	(7.0)	—	—
	小皿a1	—	R-002	(10.4)	1.2	(7.6)	—	○
	丸底坏		R-001		2.4+α			
	丸底坏		R-004	(14.9)	3.2+α			

S-35

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1		R-001	(9.0)	1.0	(7.1)		
	小皿a1		R-002	(8.8)	1.5	(7.0)		○
	小皿a1	ヘラ	R-009	(9.4)	1.5+α	(7.8)		
	小皿a1		R-010	(9.0)	1.3	(6.9)	○	○
	坏a	ヘラ	R-006		2.3+α			
	丸底坏		R-007		3.7+α			
	丸底坏		R-011		2.75+α			
	丸底坏a	ヘラ	R-003		2.3+α			
	丸底坏a	ヘラ	R-004	15.5	2.2	12.4	○？	
	丸底坏a		R-005		2.9+α			
	丸底坏a		R-012	(15.6)	2.9	(12.4)		

S-35 茶灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	ヘラ？	R-001	(9.2)	1.05	(7.0)	○	
	丸底坏		R-002		2.8+α			

S-40 茶灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1		R-003	(8.2)	1.25	(6.1)	○	
	丸底坏		R-001	(15.6)	2.9+α			
	丸底坏a		R-002	(15.4)	3.9+α	(13.4)		
黒色土器A	椀（墨内）		R-004		2.1+α			

S-40 茶灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	椀（無人品）		R-007		0.8+α			
土師器	小皿a1		R-004		1.05+α			○
	丸底坏		R-006	(15.4)	3.1+α	(11.8)		
	丸底坏a		R-001	15.6	3.15	12.8		
	丸底坏a		R-002	15.0	3.2+α	12.15		
	丸底坏a		R-003	(15.6)	3.9+α	(12.3)		
	丸底坏a		R-005	(14.0)	2.0+α	(11.4)		

S-43 茶灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1		R-001	(10.0)	1.05	(8.3)		
	小皿a1		R-002	(10.4)	1.1	(8.3)		
	坏a		R-006		2.5+α	(9.0)		
	丸底坏		R-003		4.6+α			
	丸底坏		R-004	(15.6)	2.15+α			
	丸底坏a		R-005	(15.0)	3.75+α	(13.3)		

S-45

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏c		R-006	—	1.7+α	(8.8)		
土師器	小皿a1	—	R-001	—	1.15	—	○	
	丸底坏		R-002	(15.6)	3.5+α	—		
	丸底坏		R-003	(15.6)	3.1+α	—		
	丸底坏		R-004	—	3.2+α	—		
	丸底坏		R-005	—	3.15+α	—		

S-45 茶灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿1	—	R-001	(8.2)	0.9	(5.5)	○？	—
	小皿a1	—	R-002	(9.15)	1.6	7.0	—	—
	小皿a1	—	R-003	(10.8)	1.5	(8.0)	—	—
	坏	イト	R-004	—	1.5+α	(9.6)	—	—
	丸底坏a		R-005	(15.4)	3.0+α			
	丸底坏a	—	R-007	—	3.7	—	○？	—
黒色土器A	椀		R-006	—	2.7+α			

S-45 茶灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿？	—	R-008		1.3+α	—	—	—
	小皿	イト	R-009	—	0.6+α	—	—	—
	丸底坏		R-003	—	4.9+α			
	丸底坏		R-004	—	3.6+α			
	丸底坏		R-005	—	2.3+α			
	丸底坏		R-011	3.3+α	5.0+α	0.15～0.5		
	丸底坏		R-014		3.6+α			
	丸底坏		R-015	16.2	3.6+α			
	丸底坏		R-016	(15.8)	3.55+α	(12.2)		

S-45 灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	—	R-007	—	0.8	—	—	—
	小皿a1	—	R-011	(10.0)	1.0	(7.4)	○	○
	坏	イト	R-002		1.6+α	—	—	—
	坏a	イト	R-003	—	1.0+α	(8.6)	○	—
	丸底坏	ヘラ？	R-001		2.2+α	—	—	—
	丸底坏	—	R-004	(15.2)	3.4+α	11.7	—	—
	丸底坏		R-005	—	3.9+α			
	丸底坏		R-006	—	2.1+α			
黒色土器A	椀c2		R-012	(14.4)	5.65	6.0		

S-45 灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏	ヘラ？	R-001	(14.8)	3.0+α	(11.6)	—	—
	丸底坏a		R-002	—	3.55			
	丸底坏a		R-003	—	4.1+α			
	丸底坏a		R-004	17.8	5.1	(13.0)		

S-45 青灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏	イト	R-001		1.7+α	—		—
	丸底坏		R-003		3.7+α			

S-45 暗灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1		R-001	—	1.2	—	○	—
	小皿a1	イト	R-002	(9.5)	1.3	5.6	—	○
	小皿a1		R-003	(10.2)	1.5+α	(7.9)	—	—

S-45 明灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	—	R-001	(9.4)	1.1	(6.0)	○	—

S-45 暗灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a		R-005	—	1.75+α	(8.0)		
	丸底坏		R-001	(15.2)	3.0+α	—		

S-50 茶灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	ヘラ	R-001		1.1+α	7.1		

S-50 灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-001		2.9+α		○	
	椀c2		R-002		3.5+α			

S-50 暗茶色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a		R-001		2.0+α	(5.0)	○	

S-50 茶灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c1	ヘラ	R-004	12.6	3.5+α		○？	

S-50 暗灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-005		2.4+α			
	椀c		R-003		2.05+α	(6.8)		
	椀c		R-004		2.5+α	(8.2)		
	坏		R-006		3.9+α			
黒色土器A	椀		R-002		2.9+α			

S-55 ﾗﾝﾀﾞﾑ

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	蓋b		R-011	(15.0)	2.8+α			
	皿a	ヘラ	R-006	(13.8)	1.7	8.6	○	—

S-55 灰色砂質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀		R-001	(16.4)	4.8+α			

S-55 黒灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c2	—	R-002		6.3+α	(10.0)	—	—
黒色土器B	椀	—	R-001	—	2.85+α	—		

S-55 暗茶色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a	ヘラ	R-00 1	(12.0)	3.05	(8.8)	○	ヘラ

S-55 黒灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-003	(17.0)	4.5+α	—		
	坏		R-006		1.7+α	—		
	坏		R-007	—	2.2+α			
	坏a	ヘラ	R-001	(12.0)	2.65	7.6	○	—
	坏a	ヘラ	R-002	(11.6)	3.0	7.5	○	—
	坏a	ヘラ	R-003	11.6	3.15	6.6	○	—
	坏a	ヘラ	R-004	12.6	2.9	7.2	○	—
黒色土器A	椀c		R-008	(14.6)	5.2	8.2		

Tab. 4-3　大宰府条坊跡　第275次調査　出土土器供膳具　計測表 (3)

S-96

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 a		R-001		4.0+α			

S-97

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-001		3.1+α			

S-60 黄灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(7.8)	0.7	(6.2)	—	—

S-65 灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-002	(8.0)	1.1	(6.0)		

S-96 茶灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(9.2)	0.95	(7.6)	○	—
	小皿 a1	イト	R-002	(8.8)	1.15	(6.6)	—	—

S-96 暗青灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿	イト	R-003	(15.4)	2.1	(9.7)	○	—
	丸底坏 a	ヘラ	R-001	(14.6)	2.6+α	(10.3)	—	—
	丸底坏 a	ヘラ	R-002	(15.6)	2.9	(10.3)	○	—

S-96 灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
瓦器	椀 c		R-002	(16.0)	5.3	(7.0)		

S-96 青灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-002	(14.6)	3.5+α			
瓦器	椀 c		R-001	(15.8)	5.15	(6.8)		

S-104

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-001		0.9			

S-106

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿Ⅱ(灯明皿)		R-002	(11.2)	1.0+α	—		
	小皿 a1	ヘラ	R-001	(9.6)	1.7	(6.6)	—	—
黒色土器 A	坏		R-003		2.45+α			

S-112

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-001	(8.6)	1.6	(5.2)		

S-116

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(9.0)	1.25	(7.0)	○	○

S-118

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(8.6)	1.05	(6.2)	○	—
	小皿 a1	ヘラ	R-002	(8.8)	1.0	(5.8)	—	—
	丸底坏	—	R-003	(15.4)	2.75	(9.7)	—	—
	丸底坏	—	R-004	(13.8)	2.25+α	(10.4)	—	—

S-119

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 a	—	R-001	14.6	2.45～3.4	12.6	○	—

S-121 灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	9.2	1.5	6.3	○	○

S-122

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 1		R-001	(9.0)	1.15+α			

S-124 暗灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	ヘラ	R-001		1.15		○	—

S-126

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	ヘラ	R-001	11.0	1.7	7.0	○	○
	小皿 a1	ヘラ	R-002	(9.6)	1.2	(6.2)	○	○

S-132

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(8.4)	0.9	—	—	—
	小皿 a1	—	R-002	(8.6)	1.0	(6.2)	—	○
	小皿 a1	—	R-003		0.75		—	—
	小皿 a1	—	R-004		0.9+α		—	—
	坏		R-005		1.6+α			
	坏		R-006		1.75+α			
	坏		R-007		1.15+α			
	坏 × 丸底坏	—	R-010	—	2.2+α	—	—	—
	坏 × 丸底坏	—	R-011	—	1.8+α	—	—	—
	丸底坏	ヘラ	R-012	—	2.55+α	—	—	—
	丸底坏 a	—	R-008	(14.0)	2.55+α	(11.2)	○	—
	丸底坏 a	ヘラ	R-009	—	2.75	—	○	—
	脚付丸底坏	—	R-013	(15.0)	5.0	(9.6)	—	—

S-133

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	9.0	1.55	6.6	—	—
	小皿 a1	—	R-002	(9.4)	1.0	(6.6)	—	—
	小皿 a1	—	R-003	(9.2)	1.25	(7.2)	—	—
	小皿 a1	ヘラ	R-004	(8.4)	0.7	(6.2)	○	—
	小皿 a1	—	R-005	(8.6)	1.3		—	—
	坏 a	—	R-006	(14.4)	2.4	(10.0)	○	—

S-139

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a	—	R-002	(8.6)	0.8	(5.9)	—	○
	小皿 a	—	R-003	(9.0)	1.0	(6.1)	—	—
	丸底坏	—	R-001	(13.2)	2.7+α	9.5	—	—
黒色土器 A	椀		R-004	—	1.15+α	—		

S-141

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀		R-001		3.8+α			

S-142

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a		R-001		2.7+α	(10.4)	○	

S-143

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-001		1.0			
	小皿 a1	ヘラ	R-002	(9.2)	1.65	(7.3)	○	
	小皿 a1	ヘラ	R-003	(9.0)	1.1	(6.7)	○	○
	小皿 a1	ヘラ	R-004	(9.6)	1.0	(7.8)	○	
	小皿 a1	ヘラ	R-005	(9.4)	1.1	(6.7)	○	
	小皿 a1	ヘラ	R-006	(9.6)	1.5	(6.9)	○	
	小皿 a1	ヘラ	R-007	(9.0)	1.3	(7.5)	○	○
	小皿 a1	ヘラ	R-008	8.6	1.05	7.0		
	小皿 c		R-009	9.6	2.3	5.8	○	○
	丸底坏		R-010	(14.8)	2.6+α		○	
	丸底坏 a	ヘラ	R-011	(14.0)	3.2+α	(10.2)		
	丸底坏 a		R-012		2.2+α		○	○
	丸底坏 a		R-013	(16.0)	3.8+α	(12.5)		
	丸底坏 a		R-014	(14.4)	3.0	(11.3)		

S-146

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-006	(9.6)	1.4	(5.6)		
	丸底坏		R-001		2.9+α			
	丸底坏	ヘラ?	R-002	(14.2)	2.8+α			
	丸底坏		R-003	(15.0)	2.8	(12.1)		
	丸底坏 a		R-004	(14.6)	3.5+α	(13.1)		
	丸底坏 a		R-005	(14.8)	2.9	(12.5)		

S-147

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a× 皿 a(搬入)		R-001		1.4+α	(7.2)		○

S-149

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-003	(9.0)	1.55	(6.9)	○	○
	小皿 a1	—	R-004	(9.0)	1.4	(6.7)	○	○
	坏 × 丸底坏	—	R-001		1.3+α			
	丸底坏	—	R-002		2.8+α			

S-151

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-001		1.35+α		○	
	小皿 a1	ヘラ	R-002	(8.4)	1.15	(6.6)	○	○

S-152

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿		R-001	(9.2)	1.2+α			

S-154

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-001		0.8+α		○?	

Tab. 4-4　大宰府条坊跡　第275次調査　出土土器供膳具　計測表 (4)

S-159

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-001		3.75+α			
	丸底坏		R-002		3.05+α			

S-162

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-001	(9.2)	1.25	(3.0)	○	—
	小皿 a1	—	R-002	(8.2)	1.3+α	—	—	—
	丸底坏	ヘラ?	R-003	—	2.7	—	—	—

S-172

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-002	(9.6)	1.1	(7.4)	—	—
	小皿 a1	—	R-007	(8.0)	1.0	(6.6)	—	—
	小皿 a1	—	R-008	(9.0)	1.1	(6.6)	—	—
	丸底坏 a	—	R-001	(15.2)	3.2	11.3	—	—
	丸底坏 a	—	R-003	(15.1)	3.5	9.4	—	○
	丸底坏 a	—	R-004	(15.0)	2.7	8.5	—	—
	丸底坏 a	—	R-005	(15.0)	3.15	12.0	—	—
	丸底坏 a	—	R-009	(14.0)	4.6+α	(11.0)	—	—
	椀 c	—	R-006		3.6+α	6.2	—	—

S-172 黒色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-009	(10.0)	1.4	(8.0)	—	—
	小皿 a1	—	R-010	(8.6)	1.2	(6.1)	—	—
	小皿 a1	イト	R-011	(9.0)	1.2	(7.0)	—	○
	小皿 c1	—	R-001	(9.6)	2.1	(5.6)	○	—
	丸底坏		R-006	—	3.0+α			
	丸底坏	—	R-007	(15.4)	2.9+α	—	—	—
	丸底坏	—	R-008	—	3.05	—	—	—
	丸底坏 a	—	R-003	(16.0)	3.0	(12.4)	○?	—
	丸底坏 a	—	R-004	(15.2)	2.9	(13.2)	—	—
	丸底坏 a	—	R-005	—	4.0+α	1.0	—	—
瓦器	小皿 a1	—	R-012	(13.6)	4.2+α	—	—	—

S-176

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	椀		R-001	(13.6)	4.2+α			

S-178

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	ヘラ	R-001	(10.2)	1.2	(7.0)	—	—
	小皿 a1	ヘラ	R-002	(9.0)	1.2	(6.7)	○	○
	丸底坏 a	—	R-003	(15.2)	3.7+α	(10.6)	—	—
	丸底坏 a	—	R-004	(14.6)	3.1	(11.0)	○	○
	丸底坏 a	ヘラ	R-005	—	3.0+α	—	○	—

S-179 黒灰色土器

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏	—	R-001		2.7+α	—	—	—

S-181

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小坏 a	—	R-001	(9.0)	1.8	(5.0)	—	—
黒色土器A	椀		R-002		3.2+α			

S-182

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	ヘラ	R-001	(9.6)	1.2	(7.4)	○	○
	小皿 a1	ヘラ	R-002	8.6	1.0	6.5	○	—
	小皿 a1	ヘラ	R-003	(9.6)	1.1	(6.8)	○	—
	丸底坏		R-004		3.2+α			

S-183

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-001	(12.2)	3.25+α	(8.4)		
	丸底坏		R-002		3.3+α			
	丸底坏		R-003		2.8+α			

S-184

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001		0.9		—	—
	小皿 a1	—	R-002		0.95+α		—	—
	丸底坏	—	R-003	(13.6)	2.8+α	(10.6)	—	—

S-191

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	椀 c		R-002		2.9+α	(8.0)		

S-192

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀 c	—	R-001	15.0	5.2	8.0	—	—
黒色土器A	椀		R-003	(13.8)	3.45+α			
	椀 c		R-004		3.6+α	(10.1)		

S-194

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-001		2.05+α			

S-195a

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏 c		R-001	(13.0)	4.2	(9.0)		

S-195e

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿		R-001		1.5			

S-197

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a	—	R-001	10.9	3.0	7.6	—	—

S-201 灰色砂質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-001	(15.6)	2.7+α			

S-204

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-001		2.7+α			

S-206

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-003	(9.0)	1.15	(7.4)		
	丸底坏		R-001		2.6+α			
	丸底坏		R-002		2.3+α			

S-210c

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀 c2		R-002	—	1.4+α	—		

S-220

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(10.2)	1.2	(7.2)	—	—

S-233

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 a	ヘラ	R-001	(14.7)	3.4	10.4	—	○

S-241

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	椀		R-001		2.2+α			

S-243

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a		R-003	(12.0)	3.9	(7.6)		
黒色土器A	椀 c		R-004		1.85+α	(5.6)		○

S-244

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	盌	ヘラ	R-002		1.0+α		○	
土師器	坏 c		R-002		2.0+α	(6.8)		

S-245 灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏 c	ヘラ?	R-020		1.85+α		×	
土師器	小皿		R-027		1.6+α			
	小皿		R-028		1.2+α			
	皿 a		R-014	(14.2)	1.65	(10.1)		
	坏		R-010		3.1+α			
	坏		R-011	(12.4)	2.4+α			
	坏		R-022		2.9+α			
	坏 (V1B 縁)		R-012	(12.5)	3.0+α			
	坏 a		R-004		1.2+α	(9.1)		
	坏 a		R-005		1.2+α	(7.4)		
	坏 a	ヘラ	R-006	(12.3)	3.6	(7.2)		
	坏 a		R-007	(12.0)	3.6	(8.1)		
	坏 a	ヘラ	R-008	(13.6)	3.15	(8.4)		
	坏 a	ヘラ	R-024	12.7	3.6	8.0		
	坏 a(V1B 縁)	ヘラ?	R-009	(12.8)	3.5	(7.4)		
	坏 a(V1B 縁)		R-013	12.9	3.2+α	7.4		
	椀		R-001	(12.4)	3.0+α			
	椀 c	ヘラ	R-025		2.7+α	(9.8)	×	○
	椀 c		R-002		2.8+α	(8.2)	○	
	椀 c1		R-021	(15.4)	5.5	7.8		
	椀 c		R-003		2.15+α			
黒色土器A	椀 c		R-026		2.5+α	(10.4)		

S-245 暗黒灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-001	(11.7)	2.5+α			

S-245 黒灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏 c		R-003	(15.6)	5.9	(8.2)		
土師器	坏 a		R-001	12.4	3.05	7.6		

S-245 灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a		R-001	12.6	4.3	8.3		

Tab. 4-5　大宰府条坊跡　第275次調査　出土土器供膳具　計測表 (5)

S-245 黄灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a(VII期)	ヘラ	R-001	13.0	2.4	7.2	○	○

S-246

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-001		2.85+α			
	鍋 c2(輸入)		R-002		3.9+α	(7.2)		

S-247

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a(VII期)	ヘラ	R-002	(12.4)	2.5	(8.0)		

S-255

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-014		1.3			
	坏 a		R-002	(13.0)	2.8	(7.8)		
	坏 a	ヘラ	R-008	(12.0)	4.1+α	(7.6)		
	坏 c		R-009	(12.4)	4.7+α	(6.4)		
	鍋 c1	ヘラ	R-020		3.6+α	6.4		
黒色土器A	坏		R-028		2.7+α			
	鍋(脚内)		R-010		4.0+α			
	鍋(脚内)		R-012		4.3+α			
黒色土器B	鍋		R-013		5.3+α			

S-260

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏 a4	ヘラ	R-003		2.2+α	(7.9)	○	

S-260 灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a(VIII期)		R-001	(11.4)	3.4	(7.2)		○

S-260 灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-001	—	2.6+α	—		

S-260 黒灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a	ヘラ	R-001		2.9+α	(8.8)	○	○
	坏 a		R-002	(13.4)	3.3	(7.7)		

S-265 灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿 4		R-003	(13.4)	1.2+α			
黒色土器A	鍋		R-004		3.5+α			
	鍋 2		R-005		3.7+α			

S-265 明灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	高		R-001		1.45+α			

S-270

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	鍋 × 皿 c		R-003		1.4+α	—	—	

S-275

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-003	—	2.6+α			
黒色土器A	鍋 × 皿 c		R-001		3.4+α	(9.4)	○	

S-275 黄灰色砂質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	鍋 c	—	R-001	—	4.0+α	(8.4)	—	—

S-277 暗灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	皿 3		R-002	—	1.6+α			

S-278 灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
瓦器	鍋 c		R-002	(17.1)	5.6	(6.6)		

S-279 暗灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	皿 3		R-003	(16.3)	2.0			
	皿 c		R-002		1.6+α			
土師器	坏 d	—	R-001		1.3+α	(6.4)	—	—

S-280

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器A	坏		R-003	—	1.8+α			
	鍋 c		R-001		1.4+α	(7.8)		
	鍋 c		R-002		1.3+α	—		

S-281

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-001	—	3.6+α			

S-284

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1		R-002	(8.2)	1.2+α	(6.0)		
	丸底坏		R-001	(15.0)	2.5	10.0		

S-284 灰色砂質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小丸底坏 a		R-001	(11.0)	2.1	(8.2)		
	丸底坏	ヘラ	R-002	(15.4)	3.45	10.8	○	○
	丸底坏	ヘラ	R-003	16.0	3.0	10.1	—	○

S-287

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	皿 3		R-002	—	0.9+α			
	坏		R-001	—	2.4+α			

S-291

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏	—	R-001	—	1.7+α	(7.0)	—	—

S-365-α

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏 × 皿 c		R-002		1.1+α	—		

S-380(移内)黒灰色粘土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-006	—	3.7+α			
	坏 a		R-007	12.7	2.8	7.3		
	鍋 c1		R-001	12.4	5.5	6.8	○?	
黒色土器A	鍋		R-003	(10.0)	3.3+α	—		

S-380(移内)暗黄灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	鍋 c		R-001	—	3.9+α	(7.8)		

S-380(裏込め)黄灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 c		R-001	—	1.8+α	(7.2)		

S-385-α

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	皿 1		R-001	—	1.7+α	—		

S-405 灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 c		R-002	—	2.0+α	(7.2)		

S-410 灰色砂

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏		R-001	—	2.2+α	—		

黄色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-002	—	3.1+α			
	丸底坏		R-003	—	3.8+α			

黄茶灰色土1

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-001	(15.4)	2.8+α			

黄灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-001	—	5.3+α			

灰色砂質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	—	1.45+α	—	—	—
瓦器	鍋		R-002	—	3.4+α			

灰色粘土1

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 a	—	R-001	(15.0)	2.9	(10.6)	—	—

灰色粘質土1

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏 a	—	R-001	(13.8)	2.6	(10.5)	—	○
瓦器	鍋		R-002	—	3.05+α			

灰色砂1

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏	ヘラ	R-001	(14.6)	2.1+α	(11.1)	—	—

灰色砂2

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	皿 a1	—	R-023	(12.4)	1.6+α	(9.4)	○	○

茶色土1

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿 a1	—	R-001	(8.0)	1.3+α	(6.4)	—	—
	丸底坏	—	R-002	—	3.0+α	—	—	—

Tab. 4-6　大宰府条坊跡　第275次調査　出土土器供膳具　計測表 (6)

茶灰色砂質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a		R-003	(11.8)	2.3	6.2		

茶色砂質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器 A	椀		R-002		3.3+α			

茶灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏	ヘラ？	R-002	—	2.2	—		
	坏		R-003	(11.8)	3.0+α			
黒色土器 A	坏 × 椀		R-004		2.9+α			

茶灰色土 1

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋		R-017		2.2+α			
土師器	小皿 a1		R-001	(8.4)	1.3	(7.0)	○	
	小皿 a1	ヘラ	R-007	(9.6)	1.15	7.6)	○	○
	小皿 a1	ヘラ？	R-008	(9.6)	1.1	(8.3)	○	
	小皿 a1		R-009	(5.0)	1.3	(7.8)	○	○
	小皿 a1	—	R-022	(10.0)	1.1	(7.0)	○	○
	丸底坏 × 坏		R-002	(14.4)	2.6+α			
	丸底坏	ヘラ？	R-003	(13.6)	2.4+α	(10.8)		
	丸底坏	ヘラ？	R-004	(14.8)	2.8+α	(11.8)		
	丸底坏 a		R-024	(14.6)	3.5	12.0		
	椀（脚付）		R-005		4.3+α			
黒色土器 A	椀 c2		R-014	(16.5)	5.6	(7.4)		

茶灰色土 2

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏		R-016		4.9+α			
	椀		R-001	(12.6)	3.1+α			
	椀（搬入）	イト	R-015		1.4+α	(8.0)		
黒色土器 A	椀（搬入）		R-002		3.05+α			

暗灰色粘質土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏 a		R-001	12.9	4.5	7.45		

暗茶灰色土 1

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	耳皿	—	R-004	(9.4)	1.9	(5.3)	○	—
	小皿 a1	ヘラ	R-003	(9.2)	1.1	(6.5)	○	○
	丸底坏		R-002	—	2.7+α			
	丸底坏 a	ヘラ	R-001	—	2.55	—	—	—

暗茶色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	椀 c（搬入）	—	R-002		2.7+α	9.2	—	—

黒褐色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	高坏		R-007		3.05+α			
黒色土器 A	椀（脚内）		R-002		0.8+α			

2、大宰府条坊跡第285次調査

（1）調査に至る経緯

この調査は、西日本鉄道株式会社（以下、西鉄とする）の開発計画に伴った事前の緊急発掘調査であり、平成22年10月から24年3月までおこなった。西鉄操車場跡地の調査計画としては最終年度の調査となり、第285次調査は西側の大宰府条坊跡第277次調査の第3区の調査と並行して行った。調査に入る前から西鉄と遺跡の保存について協議が進んでいたため、調査段階で客館に伴う時代の遺構については完全に掘らず、保存をはかるため、部分的な調査とすることを合意して調査をすすめた。

調査面積は1890㎡。調査担当者は、高橋学と白石渓冴（嘱託技師）である。

（2）基本層位

調査地は古代寺院般若寺が存在した般若寺丘陵の西側裾にあたる。調査前は、西鉄の操車場として利用されていた。調査区の半分以上で丘陵基盤となる花崗岩の地山が検出された。この花崗岩地山部は本来、般若寺丘陵から緩やかに伸びてくる丘陵裾だった場所だったと考えられるが、西鉄による削平により、それ以前の土地の利用状況は全く不明である。この花崗岩地山に切り込む穴は、ほぼ西鉄による掘削（攪乱）であった。

遺構は、先述した花崗岩地盤を避けた北西部と南西部に展開する。この範囲は北西側だと、14条路推定部にあたり、南西部は左郭2坊路の推定範囲にあたる。

層位は、現地表面から75㎝ぐらいは近現代の層で攪乱が多い。それ以下、茶色土、灰色土、黄色土、褐色土と確認できた。褐色土の下層の茶灰色土が遺物包含層であり、これを遺構検出土として設定した。調査区南部では表土から150㎝程度掘り下げると遺構面が検出された。

（3）検出遺構

建物

285SB015 (Fig.42、Pla.9-1)

調査区南部に位置する掘立柱建物。東西2間、南北1間が検出されている。建物の主軸の振れは、北辺の桁行から計測すると、N-96°14′-E程度である。調査区外に遺構が展開するため全容は不明だが、検出範囲内では東西3.2m、南北1.97mを測る。柱間は、東西方向が1.6m、南北方向が1.97m。掘方は、直径が0.7～0.8m程度の楕円形を呈す。中央の掘方を束柱と考えると、2間×2間の総柱建物となる可能性が高い。遺構の保存のため南東隅の掘方aに限定して半裁を行い、土層断面の観察と遺物の収集を行った。

掘方aの柱痕は、平面プランが直径0.2m。深さは検出面から0.56mを測る。柱の抜き取り痕跡は確認できない。

出土遺物から8世紀初頭に構築され、8世紀前半には埋没したと考えられる。

285SB020 (Fig.42)

調査区南部に位置する掘立柱建物。東西1間、南北1間を検出しているが、調査区外に遺構が展開するため全容は不明。柱間は東西方向、南北方向ともに1.85mである。建物の主軸の振れは、桁行方向から計測すると、N-92°23′-E程度である。掘方は、0.6～0.8mを測る。遺構の保存のため、北西隅の掘方bのみ半裁した。柱痕は、直径0.27mで検出面からの深さ0.48mを測る。柱の抜き取りは確認できない。

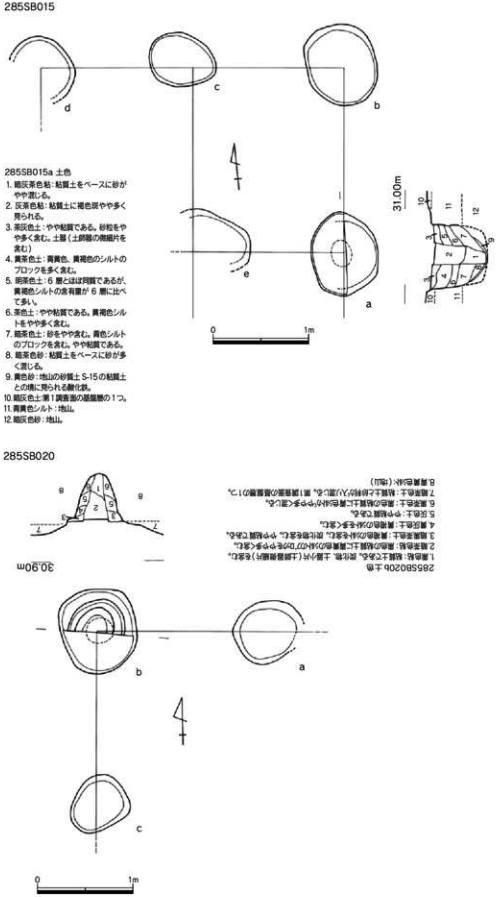


Fig.42　285SB015・020 遺構実測図（1/40）

出土遺物から8世紀代に埋没したことが想定される。

285SB095

(Fig.61)

調査区北部中央に位置する建築物跡。北東側に開口する溝に囲まれた空間の中に、南北1間（柱間4m）×東西2間（柱間1.5m）の柱穴が並ぶ。

近現代の西日本鉄道株式会社関係の遺構である。

溝

285SD002

(Fig.43)

調査区南部に位置する南北溝。東西長0.35m、南北長2.8m、深さは0.03mを測る。南側は調査区外に展開する。南北方向の振れは、真北に対してN -3°30′14.4″-W程度である。

出土遺物から奈良時代に埋没したことが想定される。

285SD005

(Fig.43)

調査区南部に位置する南北溝。東西長0.65m、南北長6m、深さは0.11mを測る。南側は調査区外に展開する。南北方

向の振れは、真北に対してN -1°45′32.4″-E程度である。

この遺構については、調査段階から条坊に伴う溝と推定されたため、一部しか掘り下げていない。土色は、淡灰茶色粘質土、暗灰茶色粘質土。

出土遺物から8世紀代に埋没したことが想定される。

285SD006 (Fig.61)

調査区北部西側に位置する東西方向の溝。東西長1.45m、南北長0.45m、深さ0.07m。出土遺物から遺構の埋没年代はXVIII～XIX期。

285SD010 (Fig.43、Pla.8-1)

調査区南部に位置する南北溝。東西長0.3～0.4m、南北長15.2m、深さは0.05～0.10mを測る。南側は調査区外に展開する。南北方向の振れは、真北に対してN -3°3′21.6″-E程度である。調査区南壁土層で切り合い関係を確認すると、茶灰色土層を切りこむ形で遺構が掘削されている。

出土遺物から平安時代に埋没したことが想定される。

285SD043 (Fig.61、Pla.8-1)

調査区南部西側に位置する南北溝。南北長1.5m、東西長0.25m、深さ0.05mを測る。285SD005に切り込む。出土遺物から奈良時代以降の埋没と考えられる。

285SD070 (Fig.44)

調査区北部に位置する東西方向の溝。東西方向に展開する推定14条路の南側にあたる。東西長8.25m、南北長2.2m、深さは0.2mを測る。遺構の保全のため東側の一部のみを掘り下げた。掘り下げた底は不整形で溝とするにはやや心もとない。また溝の理土には細かい礫が多く検出され、その中には格子目瓦の破片も含まれている。これらは特に堆積土の表面で顕著に確認できる

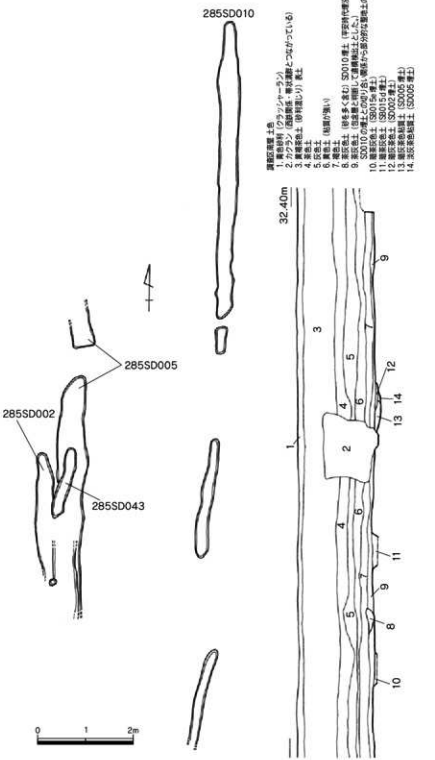


Fig. 43　258SD002・005・010遺構実測図（1/80）、調査区南壁土層図（1/80）

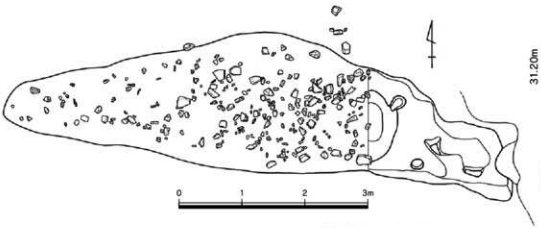


Fig. 44　285SD070 遺構実測図（1/30）

ため、この溝自体が通行に伴う地業の一部で、表面の礫や瓦は路盤の沈み込みを防ぐための工夫の可能性がある。

出土遺物から奈良時代以降に埋没したことが想定される。

井戸

285SE001 (Fig.45)

調査区南部に位置する井戸。東西長 1.4m、南北長 1.42m、深さ 1.35m を測る。南・東側は調査区外に展開する。検出面から 0.45 m掘り下げると、井戸枠を検出した。井戸枠は部分的に倒れこんでおり、正確な数値はわからないが、おおよそ一辺が 0.45 m ほどの平面が方形のプランとみられる。板材は、上部では縦材を使い、下部では横材を使用している。上部の縦板は厚み 4 ㎝ほどの横木で留めている。井戸枠材は全体的に腐食が進んでおり、崩壊して井戸枠内に倒れこんでいる箇所もある。井戸枠内の底面は砂層で、曲物や窪みは確認できなかった。遺構の保存のために、井戸枠内だけの掘削にとどめた。

井戸枠内からの出土遺物は 8 世紀代のため、構築されたのはそれ以前と考えられる。最上層の暗茶褐色土の遺物からみると、井戸が最終的に埋没したのは 12 世紀代である。

285SE025 (Fig.45)

調査区中央に位置する井戸。やや不整円の平面プランを示す。東西長 1.38m、南北長 1.27m、深さ 1.41m を測る。井戸枠は検出されておらず、現状では素掘りの可能性が高い。埋土は茶褐色土。遺物として注目されるものは木製品陽物が出土している。陽物は亀頭部を北に向けており、やや西に振れて検出された。やや前下がりだが水平方向の位置での検出であり、原位置を保っていると想定される。亀頭部は雁首部が上部であった。中ほどより下部に関しては検出時の不手際により部分的に破壊されてしまっており、同遺構掘削時の廃土の中から残片を検出した。遺構検出レベルから、おおよそ 1.2 m の深さで検出しており、井戸の底面 1.35 m より 15 ㎝ほど上層である。堆積層からみると、井戸として使用していく中で底面には泥がたまっていくが、その泥を浚渫せずに、この陽物を使用する行為を行ったと考えられる。水に関わる祭事、もしくは境界のまじない等を執り行ったのではないかと推測する。

出土遺物から 8 世紀後半には埋没したと想定される。

【文献】

水野正好「招福・除災―その考古学―」『国立歴史民俗博物館研究報告第 7 集』1985 国立歴史民俗博物館
春成秀爾「性象徴の考古学」『国立歴史民俗博物館研究報告第 66 集』1996 国立歴史民俗博物館

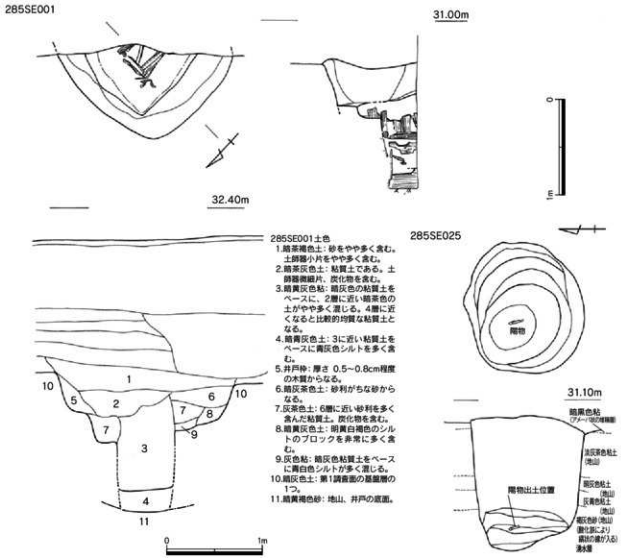


Fig.45　285SE001・025遺構実測図（1/40）

土坑

285SK034 (Fig.61)

調査区南部東側に位置する土坑。南北方向に方形の平面プランを呈す。南北長 1.25m、東西長 0.55m、深さ 0.19m。埋土は茶色土。出土遺物から奈良時代に埋没したと考えられる。土坑の底面に径 10 ㎝程度の円型の小穴が多く確認されている。出土遺物から遺構の埋没は奈良時代と考えられる。

285SK039 (Fig.61)

調査区中央部南側に位置する土坑。平面プランは楕円形。南北長 1.13m、東西長 1.05 m、深さ 0.61 mを測る。出土遺物から奈良時代以降に埋没したと考えれる。

285SK100 (Fig.46)

調査区中部中央に位置する土坑。東西長 2.3m、南北長 2.0m、深さ 1.4 mを測る。平面形は不整方形で、掘方内の東西に段を持ち、底面近くで東西長 1.35m、南北長 1.55m の方形掘方となる。表層の灰色土層のたまりを S-75 として取り上げて、平面のプランを検出すると不整方形が確認できたので、これを

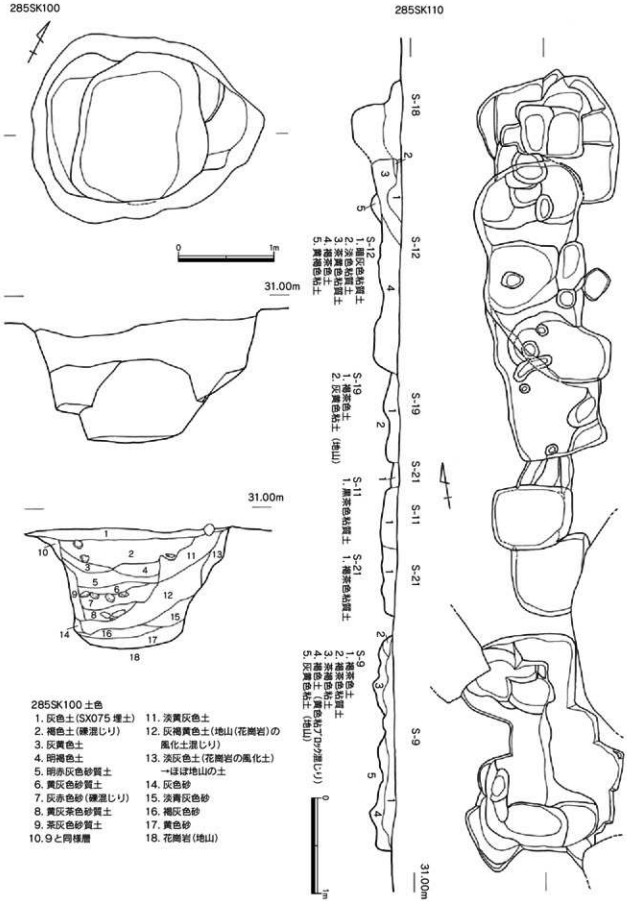


Fig. 46　285SK100・110 遺構実測図（1/40）

SK100 として掘った。土層の観察では、北よりに掘りかえしたような土層の乱れが認められる。遺物の取り上げは、上層を茶色粘、下層が黄茶色土として取り上げた。井戸枠のようなものは確認されていない。

出土遺物から 8 世紀前半に埋没したと考えられる。

285SK110 (Fig.46)

調査区南部東側に位置する。南北方向に列状に土坑が並ぶ。範囲は南北長 8.6m、幅 0.85 ～ 1.5 m、それぞれの土層を見ると、深さ 0.2 ～ 0.5m で、おおよそ 0.2m 程度の浅い掘り込みになっている。主軸は南北軸で、やや東に振れる。遺構の形状と土層の堆積状況から、粘土を取るための粘土採掘土坑群として考えておきたい。

出土遺物から平安時代以降に埋没したと考えられる。

その他の遺構

285SX003 (Fig.61)

調査区北部西側に位置する小穴。直径 0.25m、深さ 0.37 mを測る。285SX004 と切り合い関係にあり、285SX003 が切る。出土遺物から埋没は平安時代以降と考えられる。

285SX004 (Fig.61)

調査区北部西側に位置する小穴。直径 0.5 m、深さ 0.10 m。285SX004 と切り合い関係にあり、285SX004 が切られる。出土遺物から時期区分 C 期と考えられ、12 世紀前半～中頃の埋没と考えられる。

285SX023 (Fig.61)

調査区北部北よりに位置する小穴。直径 0.3 mを測る。

285SX030 (Fig.47)

調査区中央部西側に位置する不整形のたまり状遺構。南北長 2.5 m、東西長 4.5m、深さ 0.13 ～ 0.48m を測る。埋土は赤褐色土→灰色粘質土→灰色土（赤褐色土混じり）と堆積している。出土遺物から遺構の埋没時期は、10 ～ 12 世紀代と考えられる。

285SX035 (Fig.61)

調査区中央部西部に位置するたまり状遺構。285SX030 の南東に位置し、一部切り合い関係にある。285SX030 を 285SX035 が切っている。南北長 4m、東西長 2.8 m、0.1m を測る。埋土は茶褐色土（黄色ブロック混じり）。出土遺物から遺構の埋没時期は 12 世紀以降と考えられる。

285SX038 (Fig.61)

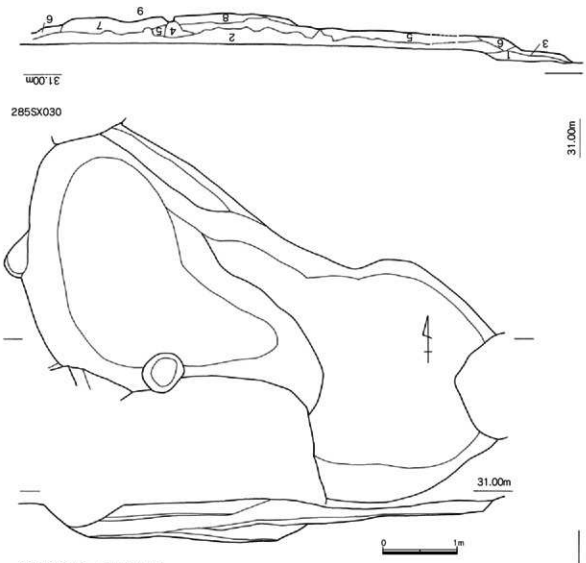
調査区南部東側の小穴。埋土は茶灰色土。安山岩製の石族が出土している。

285SX040 (Fig.47)

調査区北部中央に位置する土器を組み合わせた埋納遺構。花崗岩風化土の地盤に掘りこまれた穴（南北長 1.05m、東西長 0.9 m、深さ 0.28 m）に、甕の底部を合わせ口にして内部にコンクリートブロックを安置していた。その意図は不明だが、使われている甕が小便甕のため、その廃棄に伴った行為の可能性を想定しておきたい。時代は近現代と考えられる。

285SX045 (Fig.61)

調査区北部西側に位置するたまり状遺構。南北長 6m、東西長 9m。茶黄色土除去後に検出した。花崗岩風化土の地山にそって南西から北東に向けて堆積している。そのため条坊路に伴う堆積の可能性も考えられる。遺物は古代から種類が多く出土しているが、新しい要素としては東播系須恵器鉢が出土し



285SX030土色　東西ベルト北壁
1.茶褐色土：南北ベルト1層に同じ(SX035)取り上げ時SX035茶褐色土
2.暗灰色土：南北ベルト2層に同じ。ただし礫はやや多く見られるものの、直径4.0cm程度である。
3.明灰色土：南北ベルト3層に同じ。
4.灰褐色土：5層(灰色粘)と2層(暗灰色土)が入り混じったような土質である。やや粘質である。SX035灰色土
5.灰色粘：南北ベルト5層に同じ。
6.赤褐色土：南北ベルト7層に同じ。
7.茶灰色粘：粘質土である。茶褐色の酸化鉄がヒビ割れ状に流れるのが見られる。
8.青黄色粘：粘質が強い。均質な粘土質である。
9.青黄色土：南北ベルト10層に同じ。地山、シルトである。

遺物取り上げ

285SX040

285SX030土色　南北ベルト東壁
1.茶褐色土：暗褐色のブロック、黄茶色のブロックを多く含む。遺物を多く含む(SX035)
2.暗灰色土：コブシ大よりやや小さい礫を多く含む。しまりやや強い。
3.明灰色土：やや粘質である。遺物を含む。砂粒の粒子が比較的均質である。
4.褐灰色土：しまりやや強い。やや粘質である。
5.灰色粘：粘質である。大礫を含む。褐色土が混じる。
6.黄色粘：やや粘質土である。しまり普通。
7.赤褐色土：粘質土である。
8.褐色土：砂利をやや多く含む。しまりが強い。
9.茶黄色土：第1調査面の基盤層の1つ。黄色の風化礫ブロックを多く含む。遺物をやや多く含む。
10.青黄色土：(地山、シルトである)

灰色土で取り上げ

遺物取り上げ土色 SX035灰色粘

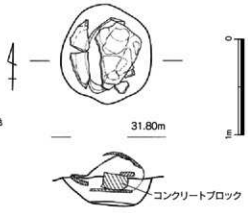


Fig.47　285SX030 遺構実測図（1/50）、SX040 遺構実測図（1/40）

ているため、最終埋没は 13 世紀代と考えておきたい。

285SX048 (Fig.61)

調査区中央部西側に位置するたまり状遺構。南北長 2.05m、東西長 0.3m、深さ 0.09 mを測る。ただし、調査区外に展開するため全容は不明。埋土は灰茶色土の堆積後に黄灰色土が堆積している。出土遺物から埋没は平安時代以降と考えられる。

285SX050 (Fig.48)

調査区北部西側に位置するたまり状遺構。南北長 3.2 m、東西長 1.5 m、深さ 0.08m を測る。丸底坏 a が集中的に出土している。出土遺物から埋没の時期は陶磁器分類 C 期、12 世紀以降と考えられる。

285SX053 (Fig.61)

調査区中部東側に位置する小穴。花崗岩の地山に掘りこまれている。西日本鉄道株式会社に関連する遺物が出土している。

285SX056 (Fig.61)

調査区中部東側に位置する小穴。花崗岩の地山に掘りこまれている。西日本鉄道株式会社に関連する遺物が出土している。

285SX057 (Fig.61)

調査区中部西側に位置する小穴。花崗岩の地山に掘りこまれている。西日本鉄道株式会社に関連する遺物が出土している。

285SX061 (Fig.61)

調査区南部中央に位置する小穴。南北長 0.6 m、東西長 0.5m、深さ 0.12m を測る。埋土は黒茶色土。出土遺物から遺構は、弥生時代後期以降に埋没したと想定される。

285SX062 (Fig.61)

調査区中部東側に位置する小穴。花崗岩の地山に掘りこまれている。西日本鉄道株式会社に関連する遺物が出土している。

285SX064 (Fig.61)

調査区北部北側に位置する堆積層。北部トレンチの断面で検出された。淡黒褐灰色砂の一部。出土遺物から奈良時代に帰属すると思われる。

285SX065 (Fig.49)

調査区北部北側に位置する小穴群。南北方向に南北長 0.18 ～ 0.33m、東西長 0.3 ～ 0.75m、深さ 0.05 ～ 0.1m を測る小穴が 0.45 ～ 0.55m 程度の間隔で 4 つ並んでいる。北から a、b、c、d とする。埋土は灰色砂質土。条坊路に伴う波板状圧痕と考えている。出土遺物から遺構の埋没時期は奈良～平安時代前期と想定できる。

285SX068 (Fig.61)

調査区南部中央に位置するたまり状遺構。暗黒色土を除去すると検出された。埋土は、暗黒色粘土。出土遺物から遺構の埋没は古墳時代以降と想定される。

285SX072 (Fig.61)

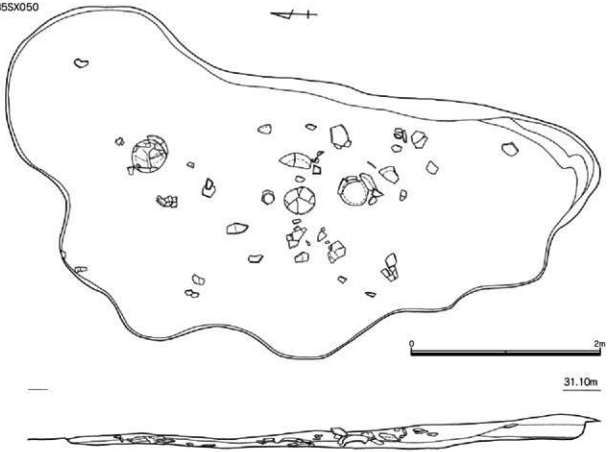
調査区南部西側に位置する小穴。出土遺物から遺構の埋没は古墳時代以降と考えられる。

285SX075 (Fig.61)

調査区南部西側に位置するたまり状遺構。調査区外に伸びる。深さは深いところは 0.17 m程度で、浅い所は 0.03 m しかない。埋土は灰色土。出土遺物から遺構の埋没は 12 世紀代以降と考えられる。

285SX080 (Fig.61)

285SX050



285SX085

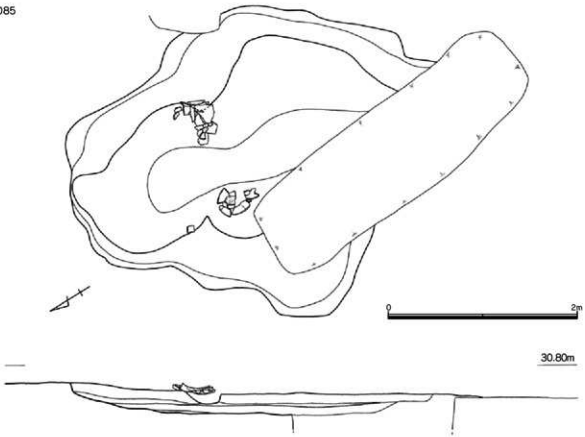


Fig. 48　285SX050・085 遺構実測図（1/20）

調査区南部西側に位置するたまり状遺構。調査区外に伸びる。埋土は灰色土。285SX075と土色や遺構の雰囲気が似ている。出土遺物から遺構の埋没は12世紀代と想定される。

285SX085 (Fig.48)

調査区南部中央に位置するたまり状遺構。南北長2.4m、東西長1.4m、深さ0.19mを測る。埋土は黒色砂。出土遺物から遺構の埋没は古墳時代以降と考えられる。

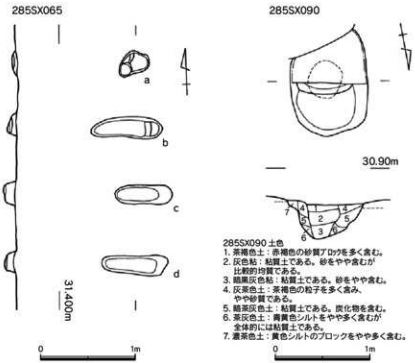


Fig.49　285SX065・090遺構実測図（1/40）

285SX090 (Fig.49)

調査区南部東側に位置する柱穴状の遺構。南北長0.8m、東西長0.82m、深さ0.36mを測る。柱痕は直径0.4m程度。遺構の切り合い関係で、285SE001に切られている。出土遺物から遺構の埋没は奈良時代以降と考えられる。

285SX105 (Fig.61)

調査区北部中央に位置する溝状遺構。幅0.4m程度で直線に掘られており、場所によっては直角に折れ曲がっている。西鉄操車場に伴う配管等の遺構か。出土遺物としては、プラスティックのプレートにマジックで書き込みをしたものが大量に出土している。これに関しては、添付CD内にTab.9-1～5としてデータとして取り上げている。また、空き缶の中に通貨を入れたものも同じ遺構内から出土しており、貯金箱として使用していたと考えている。

調査区トレンチ

調査の終了前に地山層の確認のためにトレンチを入れた。まず、調査区の北部に1つトレンチを設定して地山まで掘りぬいた。このトレンチの目的は条坊路の可能性を確認するため、未掘であった調査区北西部の土層の堆積状況を確認しておくためだった。結果、自然堆積ではない細かな土層の堆積を確認した。現状では条坊路の使用時の堆積だと考えておきたい。調査区南部では地山と想定した層について4ヵ所を掘り下げて遺物の出土状況を確認した。結果、それぞれ調査区南部トレンチ1～4については遺物を確認することはできなかった。

（4）出土遺物

掘立柱建物

285SB015

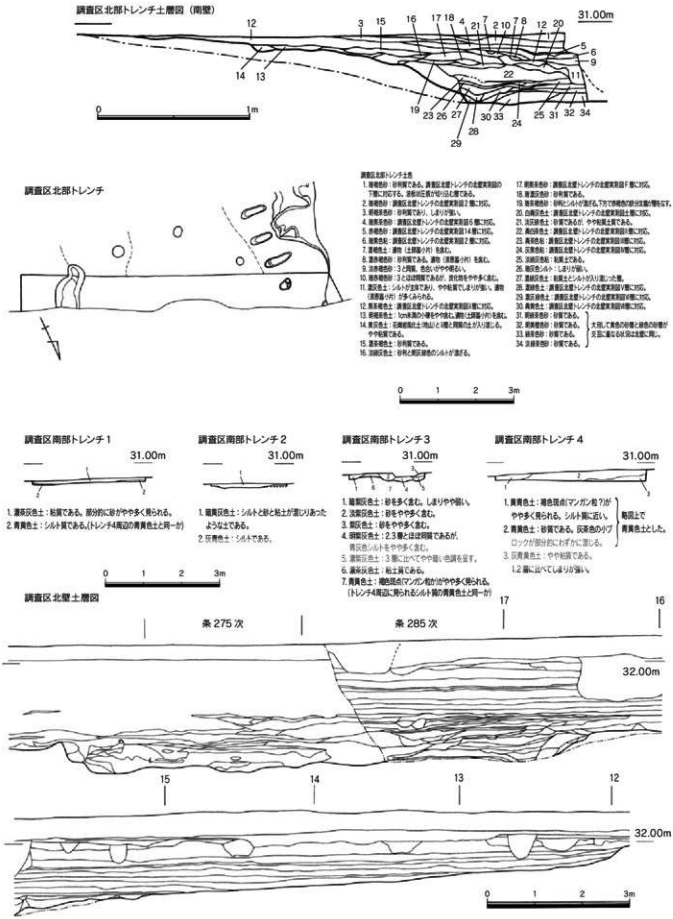
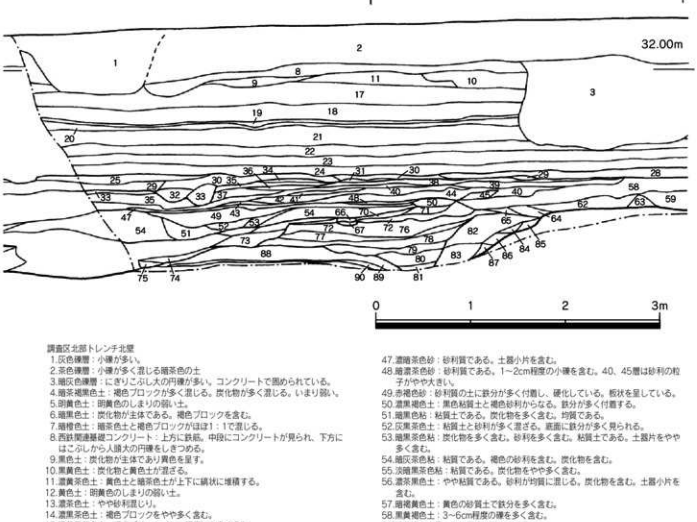


Fig. 50-1　285調査区北部トレンチ土層図（1/25、1/50）、
調査区南部トレンチ1、2、3、4土層図（1/50）、調査区北壁土層図（1/40）



調査区北部トレンチ北壁

1.灰色礫層：小礫が多い。
2.茶色礫層：小礫が多く混じる暗茶色の土
3.褐灰色礫層：にぎりこぶし大の円礫が多い。コンクリートで囲められている。
4.暗茶褐色土：褐色ブロックが多く混じる。炭化物が多く混じる。いまり弱い。
5.明黄色土：明黄色のしまりの弱い土。
6.暗黒色土：炭化物が主体である。褐色ブロックを含む。
7.暗橙色土：暗茶色土と褐色ブロックがほぼ1：1で混じる。
8.西鉄関連基礎コンクリート：上方に鉄筋。中段にコンクリートが見られ、下方にはこぶしから人頭大の円礫もしきつめる。
9.黒色土：炭化物が主体であり黄色を呈す。
10.黒黄色土：炭化物と黄色土が混ざる。
11.濃黄茶色土：黄色土と暗茶色土が上下に縞状に堆積する。
12.黄色土：明黄色のしまりの弱い土。
13.濃茶色土：やや砂利混じり。
14.濃黒茶色土：褐色ブロックをやや多く含む。
15.濃黄黒茶色土：褐色ブロック（1cm程度）を多く含む。
16.褐色土：褐色ブロックを多く含む。やや砂利混じる。
17.灰色大礫層：子どもの頭大の円礫からなる。
18.濃褐茶色土：褐色土由来の土を含む。
19.褐灰茶色土A：土器小片や直径1cm程度の小礫が混じるが、ほぼ均質なとこである。
20.褐灰茶色土B：褐灰茶色土Aとは違う同質であるが、暗褐色堆積層を境にAとBに分離される。
21.暗褐色土A：暗褐色堆積層が密に重複する。
22.暗褐色土B：暗褐色堆積層が多く重複する。21層に比べるとやや粗である。
23.褐灰茶色土C：17層、18層とは違う同質である。
24.暗褐色土C：19層とほぼ同質である。
25.濃灰黒色土：17・18・21層に似るが、灰色の砂利をやや多く含む。またやや粘質である。
26.褐灰色土：灰色の砂利をやや多く含む。やや粘質である。
27.橙色土：褐色ブロックが多く混じる。砂利が多く混じりやや砂質である。
28.暗紫茶色土①：褐色の砂利をベースに、灰色の砂利をやや多く含む。
29.暗紫茶色土②：28層とは違う同質であるが、灰色砂利の含有量がやや多い。
30.灰色砂：灰色の砂利からなる。
31.褐灰色砂：灰色の砂利をベースに、褐色の砂利が混じる。
32.暗褐色砂：砂利質である。
33.黄褐色土：鉄サビが多く付着し硬い。
34.茶灰色砂：灰色の砂利がベースであり、褐色の砂利がわずかに混じる。
35.茶黒灰色砂：褐色の砂利がベースであり、灰色の砂利がわずかに混じる。
36.白灰色砂：灰色の砂利からなる。
37.暗褐色砂：褐色の砂利からなる。一部黄色の砂利が縞状に入る。
38.濃褐色砂：土器微細片を含む。
39.灰茶色砂：灰色の砂利がベースである。
40.茶褐色砂：鉄サビが多く付着し、非常に硬く部分によっては板状になっている。
41.暗黒茶色砂：炭化物を含む砂利からなり、しまりが強い。
42.濃黄茶色砂：砂利質である。
43.黄褐茶色砂：黄色の砂質からなる。
44.明黄褐茶色砂：黄色の砂質と褐色の砂利が交互に縞状に堆積する。
45.濃灰黒茶色砂：砂利質である。
46.褐灰色砂：灰色の砂利質に褐色のラインが横縞状に入る。
47.濃暗茶色砂：砂利質である。土器小片を含む。
48.暗濃茶色砂：砂利質である。1～2cm程度の小礫を含む。40、45層は砂利の粒子がやや大きい。
49.赤褐色砂：砂利質の土に鉄分が多く付着し、硬化している。板状を呈している。
50.濃黒褐色土：黒色粘質土と褐色砂利からなる。鉄分が多く付着する。
51.暗黒色粘：粘質土である。炭化物を多く含む。均質である。
52.灰黒茶色土：粘質土と砂利が多く混ざる。底面に鉄分が多く見られる。
53.暗黒茶色粘：炭化物を多く含む。砂利を多く含む。粘質土である。土器片をやや多く含む。
54.暗灰茶色粘：粘質である。褐色の砂利を含む。炭化物を含む。
55.淡暗黒茶色粘：粘質である。炭化物をやや多く含む。
56.濃茶黒色土：やや粘質である。砂利が均質に混じる。炭化物を含む。土器小片を含む。
57.暗褐黄色土：黄色の砂質土で鉄分を多く含む。
58.黒黄褐色土：3～6cm程度の礫を多く含む。
59.濃黄褐色土①：5cm程度の礫を多く含む。
60.濃黄褐色土②：78層とほぼ同質である。
61.褐黄色土：鉄分を多く含む。
62.茶褐色土：2～6cm程度の礫を多く含む。
63.淡茶褐色土：地山に砂利と小礫が多く混じる。
64.赤黄褐色土：地山由来の花崗岩風化土と青色シルト、鉄分沈殿層が相互になっている。
65.青黄灰色土：青色シルトと地山が混じり、やや粘質である。
66.茶色礫層：2～4cm程度の角礫からなる。
67.黄色砂：0.3～0.4cm程度の砂利からなる。しまりが非常に弱い。
68.黒灰色砂：やや粘質である。土器微細片を含む。炭化物を含む。
69.紫白灰色砂：白色の砂利である。土器小片を含む。
70.濃茶灰色砂：砂利である。
71.明黒茶色砂：やや粒子の大きな砂利からなる。
72.明茶黒色砂：1～2cm程度の小礫をやや多く含む。
73.淡黒褐灰色砂：砂利質である。土器小片を含む。
74.淡茶黄色砂：砂利が縞状に堆積している。
75.濃褐灰色砂：灰色砂と青色シルトが混ざる。土器片を含む。
76.白黄茶色土：粘質である。
77.青白茶色土：粘質土をベースに、シルトが多く混じる。
78.青茶色粘：粘質土である。茶色の砂が2、3条横方向に縞状に入る。
79.灰茶色粘：粘質である。炭化物を含む。1cm前後の鉄サビ状の粒が見られる。
80.濃緑色土：シルトである。やや粘質である。
81.濃灰緑色土：シルトである。80層に比べやや砂質である。
82.青黄色土：シルトである。
83.黄青色土①：シルトである。
84.青灰色土：シルトと花崗岩風化土が混ざる。花崗岩が多い。
85.灰青色土：シルトと花崗岩風化土が混ざる。シルトが多い。
86.黄灰青色土：シルトと花崗岩風化土が混ざる。シルトが多い。
87.明黄青色土：83層のシルトと花崗岩風化土が縞状に斜面に堆積している。花崗岩風化土が多い。
88.青黄色土②：シルトである。88層とほぼ同質である。
89.暗茶色砂：砂質である。
90.黄青色土③：シルトである。83層、88層とほぼ同質である。

Fig. 50-2　285 調査区北壁土層図　詳細（1/20）

285SB015.a 掘方出土遺物 (Fig.51)

土師器

蓋１（1）　口縁部破片。口縁部の内側に退化気味のかえりが付く。

285SB015.b 出土遺物 (Fig.51)

須恵器

蓋（2）　天井部破片。天井部外面はヘラ削りを施す。

高坏（3）　脚部破片。内面に接合痕あり。

285SB015.c 出土遺物 (Fig.51)

須恵器

坏×椀（4）　口縁部破片。残存高 2.0 ㎝。

285SB015.d 出土遺物 (Fig.51)

須恵器

坏（5）　体部破片。外面下部は回転ヘラ削り調整が確認できる。

溝

285SD005 出土遺物 (Fig.51)

土師器

甕（6）　口縁部破片。

285SD006 出土遺物 (Fig.51)

土師器

小皿ａ1（7）　復元口径 8.2 ㎝、高さ 0.9 ㎝、復元底径 6.0 ㎝。表面が摩耗しており調整は不明。XVIII ～ XIX 期。

285SD010 出土遺物 (Fig.51)

土師器

小皿ａ1（8、9）　8 は口縁部の破片。高さ 0.95cm。9 は口縁部の破片。高さ 0.85cm。

甕（10）　口縁部破片。器壁の風化により調整不明。内面に削りによる明瞭な段差は確認できない。

陶器

不明製品（11）　口縁部破片か。復元口径 6.7cm、残存高 2.9cm。内面に接合痕跡あり。口縁内面は回転ナデ調整。外面は施釉している。素地は灰白色で密。釉調は淡緑色の釉が薄く施されている。灰釉系の可能性も考えられる。

土製品

焼土塊（12）　土壁か。色調は暗黄色。胎土は 2mm 以下の白色粒をやや多く含む。焼成はやや不良。

285SD054 出土遺物 (Fig.51)

陶器

壺（13）　上部のみの破片。口縁に片口あり。徳利的なものか。口縁部～外面は施釉している。内面はロクロナデ調整。釉調は赤茶色。薄く施釉。素地は白灰色で密。内面は茶褐色。

285SD070 出土遺物 (Fig.51)

瓦製品

平瓦（14）　凹面布目痕、凸面格子叩き。Ⅱ-c-2 類。側端部は切り離し後、未調整。

井戸

285SE001 暗灰色粘質土出土遺物 (Fig.51)

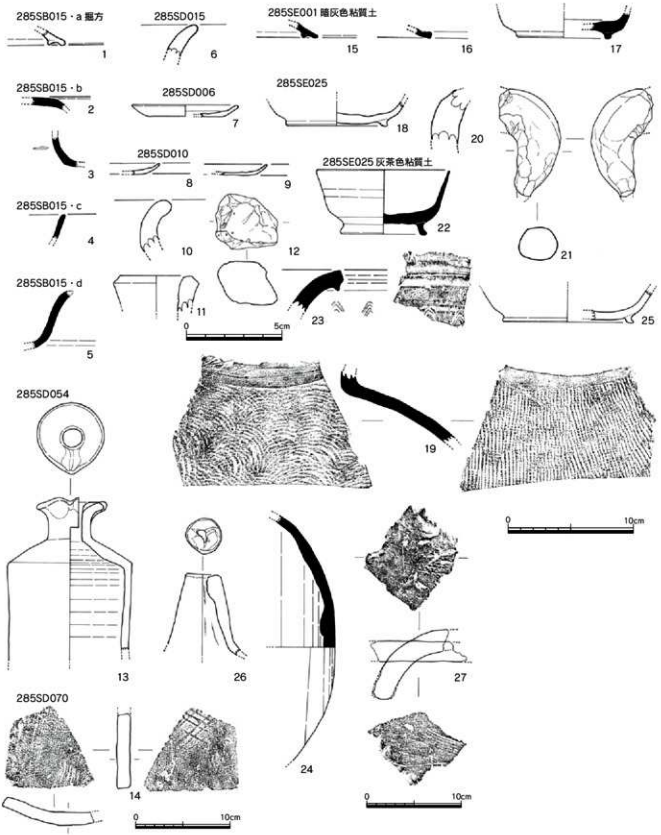


Fig. 51　285SB015、SD005・006・010・054・070、SE001・025 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

須恵器

蓋１（15）　口縁部破片。口縁部内面にかえりがある。かえりの位置は口縁部端部と平行に近い。

蓋３（16）　口縁部破片。

坏ｃ（17）　口縁部を欠く底部～体部破片。残存高 2.1cm、復元底径 7.6cm。高台は台形で貼り付け高台。色調は灰色～灰白色。焼成はやや不良。

285SE025 出土遺物 (Fig.51)

須恵器

坏ｃ× 椀ｃ（18）　底部～体部破片。残存高 2cm、復元底径 8cm。

甕（19）　体部破片。外面は叩き目調整。内面は青海波文の当て具痕。色調は内面・断面が暗灰色～灰色。外面は灰白色。胎土は 1.5mm 以下の白色砂粒をやや含む。焼成は良好。

土師器

器台（20）　口縁部を欠く破片か。色調は淡橙黄色。焼成は不良。

脚（21）　屈曲した脚の一部。残存高 8.5cm。先端を欠く。色調は黄褐色。

285SE025 灰茶色粘質土出土遺物 (Fig.51)

須恵器

坏ｃ（22）　一部欠損するがほぼ完形。復元口径 10.5cm、器高 5.1cm、底径 6.8cm。色調は灰黄色。胎土は 1mm 以下の白色砂粒をやや多く含む。焼成は良好。高台はやや外側に張り長めの貼り付け高台。底部外面にはヘラ切り後未調整の痕跡を確認できる。

甕（23）　口縁部破片。外面に波状文をヘラで刻む。

横瓶（24）　体部破片。色調は内面・断面が赤茶色。外面は灰茶色。内面は回転ナデ調整。

土師器

椀ｃ（25）　残存高 2.6cm、復元底径 10.2cm。高台はやや外に張るが低い。

高坏（26）　脚部。色調は淡橙黄色～淡橙白色。焼成は不良。内面に絞り痕あり。外面に黒斑あり。

瓦類

丸瓦（27）　凸面は縄目叩きがわずかに確認できる。凹面は布目痕。焼成はやや不良で、瓦質。側端部の調整は風化のため不明。

285SE025 暗青灰色粘質土出土遺物 (Fig.52、Pla.11-1)

木製品

陽物（1）　長さ 20.7cm、幅 2.8cm、厚み 2.8cm。検出時に中央部近くが両断されてしまったが、部分的に接合するため本来は完形であったと考えられる。全体に丁寧に削り調整を施し、写実的に仕上

285SE025 暗青灰色粘質土

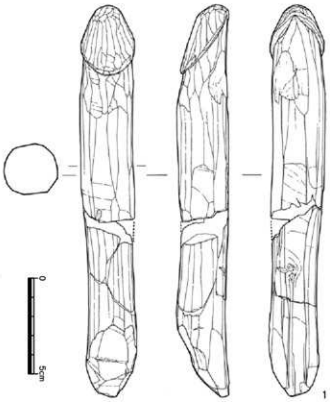


Fig. 52　285SE025 出土遺物実測図（1/2）

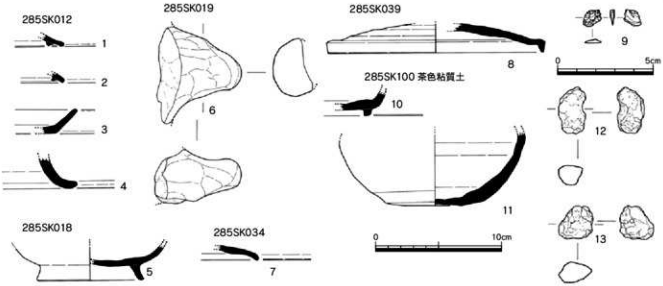


Fig. 53　285SK012・018・019・034・039・100 出土遺物実測図（1/2、1/3）

げている。但し、亀頭部に尿道口の表現はない。根元に近い場所は上部を斜めに削っている。

土坑

285SK012 出土遺物 (Fig.53)

須恵器

蓋１（1、2）　ともに口縁部破片で、口縁内面にかえりを持つ。かえりの位置から、１より２のほうが新しい要素を持つ。

皿ａ（3）　器高 1.9cm。

高坏（4）　脚部の破片。

285SK018 出土遺物 (Fig.53)

須恵器

椀ｃ（5）　残存高 2.7cm、復元底径 8.4m。高台は長く、やや外側に張る。

285SK019 出土遺物 (Fig.53)

土師器

把手（6）　把手の一部。上から見ると三角形で、横からみると反りがあまりない。不定方向のナデ調整で仕上げている。

285SK034 出土遺物 (Fig.53)

須恵器

蓋３（7）　口縁部破片。

285SK039 出土遺物 (Fig.53)

須恵器

蓋３（8）　天井部中心を欠く破片。口縁部は三角形を保つ。天井部は削り調整ではなくナデ調整。

石製品

剥片（9）　石材は黒曜石。

285SK100 茶色粘質土出土遺物 (Fig.53)

須恵器

坏c（10） 底部～体部の破片。高台は貼り付けで、断面がやや崩れた四角形を呈す。

壺（11） 底部～体部の破片。内外面は回転ナデ調整。外面底部から体部への立ち上がり部は、回転ヘラ削り調整。底部はヘラ切り調整後に粗いナデ調整を施す。

金属製品

鉱滓（12、13） 12は表面に気泡が目立つ。色調は黄褐色～灰黒色。重さは3.3g。13の色調は、黄褐色～灰黒色。重さは2.4g。

その他の遺構

285SX003 出土遺物 (Fig.54)

土師器

丸底坏（1） 口縁部破片。内面にミガキb。

小皿a1（2） 口径9.0㎝、器高1.15cm、底径7.5㎝。底部外面を回転ヘラ切り後、板状圧痕あり。XII期。

285SX004 出土遺物 (Fig.54、Pla.12-1)

土師器

坏a（3） 口縁部破片。残存高2.8㎝。

小皿a1（4） 復元口径8.2㎝、器高0.8㎝、復元底径6.4㎝。底部外面調整は不明瞭だが回転ヘラ切りか。

高麗青磁

椀c（5） 復元口径11.0㎝、器高3.5㎝、復元底径5.2㎝。全面施釉下後に、畳付部分の釉を削り取る。釉調は淡緑色の釉を薄く施す。釉自体は不透明で鮮明さを欠き気泡が目立つ。素地は淡灰黄色で2.0mm以下の砂粒をやや多く含む。高台は三日月型で削り出し高台。III-1類。

285SX023 出土遺物 (Fig.54)

土製品

瓦玉（6） 縦2.0㎝、横2.2㎝、厚さ1.4～1.7㎝。色調、外面は安黄灰色、断面は中央部に近いところが黒灰色を呈す。

285SX030 出土遺物 (Fig.54、Pla.11-2)

土師器

小椀c（7） 口径10.4㎝、器高3.6㎝、底径5.0㎝。全体に表面が摩耗して調整は不明。色調は内面が淡茶白色、外面が淡茶橙色。貼り付け高台。

小皿a1（8、9） 8は口径9.6㎝、器高1.1ｃｍ、底径7.65㎝。外面底部は回転ヘラ切り後に板状圧痕を施す。内面に墨書あり。筆先をくるくると回転させたような墨痕が残っているが、文字としては読めない。筆先を整えるための習書か。XI～XII期。9は口径9.85㎝、器高1.7㎝、底径7.8㎝。調整は表面の摩耗のため不明。XI～XII期。

瓦製品

平瓦（10） 凹面は布目痕、凸面は格子目叩き調整。格子目分類ではI-Cc類。側端面は分割裁線が入り、半分ほどは割れたままの未調整である。

土製品

不明品（11、12、13、14） 11は2点の破片から構成されるもので、内側に当たる部分を滑らかに仕上げている。外型にあたる可能性がある。内面見込みにあたる場所のくぼみは、直径5.2cm。12は内面が平滑な破片。やや丸みを帯びている。13は色調が淡灰黄色～黄橙色。胎土は5mm以下の白

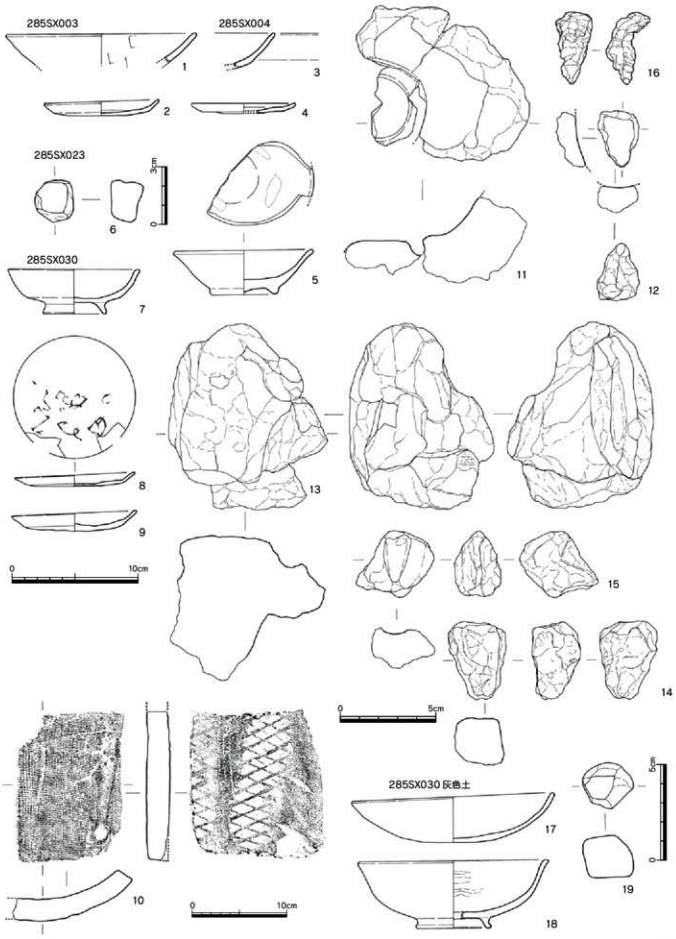


Fig. 54　285SX003・004・023・030 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

色砂粒を多く含む。また 1mm 以下の黒褐色粒を少量含む。部分的に布目痕やナデ調整が確認できる。重さ 398.8g。14 は破片。2 面の加工面は平坦に仕上げている。

土壁（15） 内面の一部が丸く帯状にくぼんでいるため、ここに竹のような部材が当たっていたと想定できる。

金属製品

鉱滓（16） 一部、炉の壁面にあたっていたため平坦である。

285SX030 灰色土出土遺物 (Fig.54)

土師器

丸底坏 a（17） 口径 16.0cm、器高 3.6cm、底径 11.3cm。器壁の調整は摩耗のために不明。外面の切り離し技法はヘラ切りとも見える。XII 期か。

黒色土器

椀 c（18） B 類。復元口径 15.0cm、器高 5.3cm、復元高台径 5.9cm。内面は摩耗しているがミガキ c を施している。貼り付け高台。

土製品

瓦玉（19） 元の瓦の表面以外の 2 面をけずって丸く仕上げている。縦 2.5cm、横 2.7cm、厚さ 2.20cm。

285SX030 灰色粘質土出土遺物 (Fig.55)

須恵器

蓋（1） 復元口径 11.5cm、器高 3.0cm。復元天井径 7.0cm。天井部は回転ヘラ切り。天井部から口縁部にかけては回転ヘラ削り調整で丁寧に仕上げている。焼成は良好。

土師器

皿 a1（2） 復元口径 9.2cm、器高 0.85cm、復元底径 7.2cm。底部回転ヘラ切り。XII 期。

坏 a（3） 底部破片。残存高 1.7cm、底径 8.4cm。器壁は摩耗で不明。

緑釉陶器

椀（4） 底部から体部の破片。前面施釉。釉調色は黄緑色。胎土は乳白色で精良。釉調は半透明で光沢あり。ややムラがある。内底面に沈線あり。削り出し高台 I-C 類。円盤状高台。畿内産（軟質）

瓦類

丸瓦（5） 凹面は風化により調整が不明。凸面は格子目叩き。格子目分類では I-F 類。

平瓦（6、7） 6 の凹面は風化により不明瞭。凸面は風化による調整が不明である。また部分的にナデ消しも行われている。側端面は分割裁線が入り分割されている。分割面の半分は分割時のまま未調整。7 の凹面は布目痕の後にナデ調整。凸面は格子目叩き調整。格子目の分類では、I-Bc 類。焼成はやや不良で瓦質。

土製品

トリベ（8） 片口部。片口の外側は黒色化している。色調は内面が灰色。外面は淡黄色～灰白色。

瓦玉（9） 瓦の面が 1 面残り、その反対の面は欠損している。他の二面はけずって加工して丸みを帯びさせている。

285SX035 茶褐色土出土遺物 (Fig.55)

須恵器

蓋 c（10、11） 10 は擬宝珠状の摘み。11 は扁平な擬宝珠状の摘み。

土師器

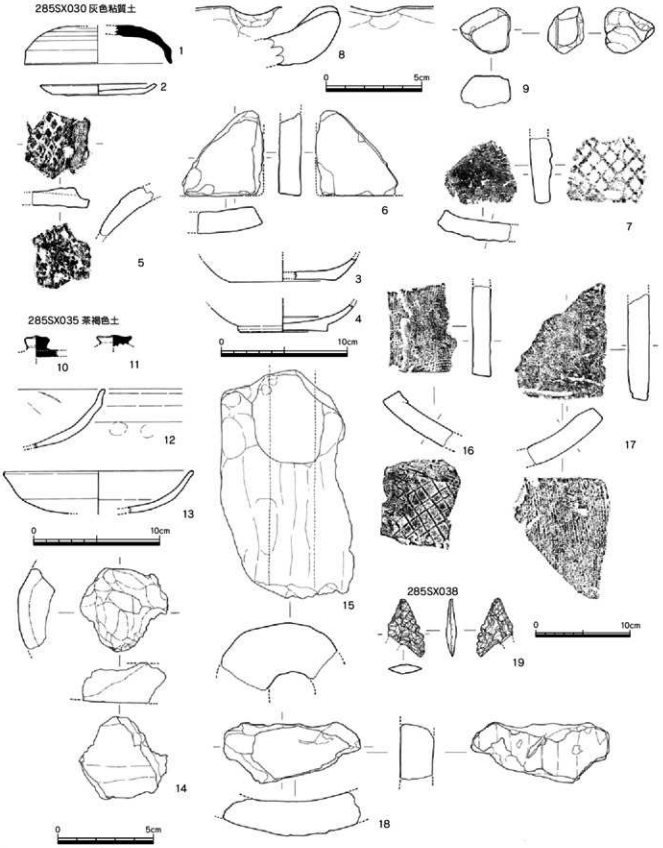


Fig.55　285SX030・035・038 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

丸底坏a（12、13）　12は口縁部から体部の破片。残存高4.6㎝。内面にミガキbを施す。外面には指頭圧痕と底部の押し出し痕がある。13は復元口径15.0㎝、残存高3.3㎝。器壁が風化しており調整は不明瞭。

土製品

フイゴ羽口（14、15）　14は破片。断面の色調は、内面が淡橙色、外面が灰色を呈す。外面には手づくね成形と考えられる調整痕跡が確認できる。15は大き目の破片。縦12.0㎝、横7.0㎝、厚さ2.2～2.9㎝を測る。色調は内面が、淡黄褐色～淡橙色。外面が白褐灰色～褐灰色。断面が白褐灰色～淡橙色～褐灰色。胎土は1mm以下の角閃石を含む。

瓦類

平瓦（16、17）　16は凹面が布目痕、凸面が格子目叩き。叩き目分類では、I-Bb類。側端部は切り離しをした後にナデ調整を施す。端面も同じく切り離し後にナデ調整。17は凹面が布目痕、凸面が縄目叩き。側端面・端面もヘラ切りで切り離しており、凹面側に面取りとして、ヘラ削り調整を施している。焼成はやや良好で瓦質。断面をみると、外面側の色調が白灰色、内部が暗灰色。

石製品

滑石製石鍋（18）　破片。二次加工用の材か。縦3.2㎝、横7.2㎝、厚さ1.7㎝、重さ60.0g。

285SX038 出土遺物 (Fig.56)

石製品

石鏃（19）　縦3.05㎝、横1.9㎝、厚さ0.55㎝。重さ1.7g。茎部を一部欠く。石質は安山岩。

285SX040 出土遺物 (Fig.56)

陶器

甕（1、2）　ともに底部の破片。1は残存高12.9㎝、底径25.2㎝。外底面以外は施釉している。釉は黒褐色。光沢は風化によって鈍くなっており、釉の透明度は低い。素地は色調が淡黄褐色。土師質。胎土は0.1～4mmの白色粒子を大量に含む。内面に褐灰色の付着物があるため、小便甕として使われたものか。2は残存高16㎝、復元底径24.8㎝。底部外面はナデ調整。内面や器壁は回転ナデ調整。外底面を除き施釉される。釉は黒褐色で光沢がある。ただし、風化した箇所は光沢度が下がっている。透明度は低い。素地の色調は淡黄褐色。土師質。内面に付着物が少量確認できる。1と同様の用途か。

285SX045 出土遺物 (Fig.56)

土師器

小皿a1（3）　復元口径9.7㎝、器高1.25㎝、復元底径9.0㎝。器壁は摩耗しているため、調整は明瞭ではないが、外底面は回転ヘラ切りの可能性が指摘できる。

甕（4）　口縁部破片。口縁端部外面が黒茶褐色に変化しており、内面も黒茶灰色に変化している。

須恵質土器

鉢（5）　口縁部破片。色調は内外面ともに灰色。外面口縁端部が暗灰色に焼ける。これは重ね焼きの跡か。胎土は0.1～1mmの白色砂粒子を若干多く含む。細かな炭化物粒子も少量混入。焼成・還元ともに良好。東播系。

瓦類

丸瓦（6）　側端部の破片。破片のため図上の傾きは任意。凹面は布目痕、凸面は格子目叩きで、文字が陽刻される。連続する「平井」である。九歴分類901。側端部は分割裁線が入り割られている。分割した破面は未調整。焼成は良好で、須恵質。

平瓦(7～9)　7は凹面が布目痕。凸面は格子目叩きと文字叩き。文字は「平井」で九歴分類901Mか。

焼成は良好で、須恵質。8 は凹面が布目痕。斜めの糸引き痕もあり。凸面は格子叩きとナデ調整を施す。10 は凹面が風化により調整が不明。凸面が格子目叩き。格子目分類では、I-Bb 類。

土製品

瓦玉(10)　縦 3.2 ㎝、横 3.0 ㎝、厚さ 2.5 ㎝。平面部に縄目叩きが残存する。元の瓦の凸面であろう。もともとの凹面側は磨滅しており、調整は不明。断面は打ち欠いている。

285SX048 出土遺物 (Fig.56)

土師器

小皿 a1（11）　復元口縁 9.2 ㎝、器高 1.45 ㎝、復元底径 7.2 ㎝。底部切り離し技法は不明。板状圧痕あり。

285SX050 出土遺物 (Fig.56)

土師器

丸底坏 a（12 ～ 19）　復元口径 14.4 ～ 16.5 ㎝、器高 2.9 ～ 3.65 ㎝。12 は器形的には坏 a に近いが、底部押し出し技法が使われていることからも丸坏 a の範疇で考えておく。15、19 は内面をミガキ b で調整している。他の個体は磨滅のため不明。19 の底部外面には板状圧痕がある。15、16 は底部切り離しか回転ヘラ切り。また、口縁部に煤か油煙とみられる黒色化した部位が認められる。

金属製品

鉱滓（20）　縦 3.05 ㎝、横 1.9 ㎝、厚さ 1.5 ㎝。色調は茶褐色～黒色。重量は 9.4g。茶褐色部分は錆にも見え、鉄分を含んでいる可能性がある。

285SX053 出土遺物 (Fig.57)

陶器

不明品（1）　残存高 8.9 ㎝。施釉をしている。外面はすべてだが、内面は部分的。内面はロクロナデ調整。釉調は外面に茶褐色の釉を薄く施す。素地は灰黄色で、やや混合物を含む。内面は暗茶色。壺の肩部の一部か。

磁器

懸垂碍子（2）　下部径 22.2 ㎝、上部径 13.4 ㎝、残存高 6.5 ㎝。色調、釉は白緑色。素地は乳白色。素地は精良。焼成は良好。内面と天井部は露胎している。鉄道の架線支持に使用されていたと思われる。

285SX056 出土遺物 (Fig.57、Pla.12-2)

陶器

常滑焼インク瓶（3）　口径 4.2 ㎝、器高 20.2 ㎝、復元底径 9.6 ㎝。器形は寸胴で短く小さな首がつき、インクを注ぐための小さな注口がつく。口縁部は片口となっている。釉は外面～片口内面に薄く鉄釉が施される。釉色は茶色。素地は淡い赤茶色で密。焼成は良好。内面はロクロナデ調整のため轆轤引き成形と考えられる。外面底部近くに直径 1.8 ㎝の円型スタンプが押されている。スタンプの内容は、中央に M の一字があり、そのまわりに「MARUZENINK ★ TOKYO ★」と刻んでいる。底部は約 1/4 しか残っていないため、底部のスタンプは確認できなかった。また、統制番号は確認できなかった。明治時代末期から昭和時代初期の工業製品。

土製品

煉瓦（4）　縦 23.5 ㎝、横 11.2 ㎝、厚さ 6.4 ㎝。ほぼ完形。部分的に煉瓦同士を接合させるためのセメントが付着している。色調は橙褐色。煤が付着している。

285SX057 出土遺物 (Fig.57)

土師器

坏 a（5） 復元口径 15.4 ㎝、器高 2.85 ㎝、底径 11.0 ㎝。底部は回転ヘラ切り後に板状圧痕。底部外面に黒斑あり。XII ～ XIV 期。

285SX061 出土遺物 (Fig.57)

弥生土器

甕（6） 底部破片。残存高 2.3 ㎝、復元底径 3.2 ㎝。外面は刷毛目調整。内面は摩耗により調整不明。色調は内面が淡灰茶色。外面が黒色。平底のため、弥生時代後期か。

285SX062 出土遺物 (Fig.57)

磁器

不明品（7） 碍子関連の遺物か。施釉は外面に施しており、内面は露体。色調は、釉は白灰色で透明。素地は白灰色で精良。釉調は光沢あり、硬質。外面下部には深さ 2mm の楕円状の穴が三ヶ所開けられている。

285SX064 出土遺物 (Fig.57)

須恵器

脚（8） 残存高 2.6 ㎝。脚全面を丁寧な削り調整を施す。色調は灰色～黒灰色。焼成は良好。本体につく部位は剥離している。地面に接している部位は未調整。

285SX068 出土遺物 (Fig.57)

土師器

高坏（9） 脚部。残存高 7.35 ㎝、復元底径は 12.4 ㎝。内外面は刷毛目調整。外面には黒斑が認められる。内面上部には粘土接合痕が確認できる。身の部分は剥離しており不明。

285SX072 出土遺物 (Fig.57)

土師器

甕（10） 復元口径 15.4 ㎝、残存高 11.1 ㎝。口縁部は外反して「く」の字形。外面は叩き調整の後に刷毛目調整。口縁部は刷毛目調整。内面は刷毛目調整の後にナデ調整で工具痕も認められる。

285SX075 出土遺物 (Fig.57)

石製品

石鍋（11） 破片。残存高 1.8 ㎝。石鍋の体部下位にあたる個体と想定できる。下側を再加工して平らにしており、二次加工をしたものと考えられる。

金属製品

鉱滓（12） 壁からの剥離片。炉の壁土が鉱滓に付着している。鉱滓部分は気泡が多い。

285SX080 出土遺物 (Fig.57)

土師器

小皿 a1（13） 復元口径 9.1 ㎝、器高 1 ㎝、復元底径 7.4 ㎝。XII ～ XIII 期か。

285SX085 出土遺物 (Fig.57)

土師器

高坏（14） 口縁部と高台端部が欠損している。残存高 5.1 ㎝。器壁は風化のため調整は不明。身の部分は丸みを帯びている。焼成は不良。

小甕 a（15） 復元口径 20.0 ㎝、残存高 22.8 ㎝。器壁の風化により調整は明瞭ではないが、内面を削り調整、外面を刷毛目調整している。外面には使用時の炭化物が付着している。

鉢（16） 残存高 3.7 ㎝、底径 2.0 ㎝。底部の破片。内外面の調整は風化により不明。外面に黒斑あり。

285SX090 出土遺物 (Fig.57)

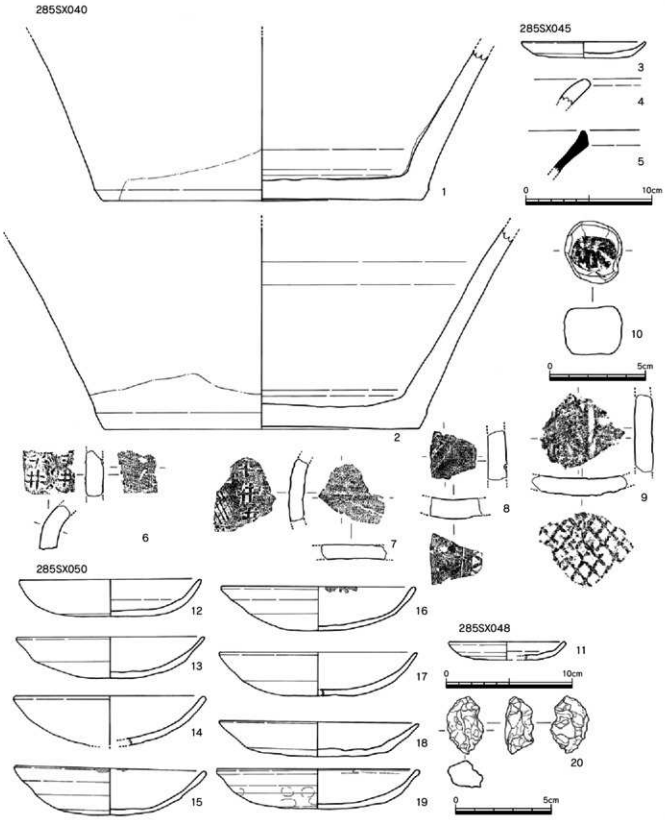


Fig. 56　285SX040・045・048・050 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

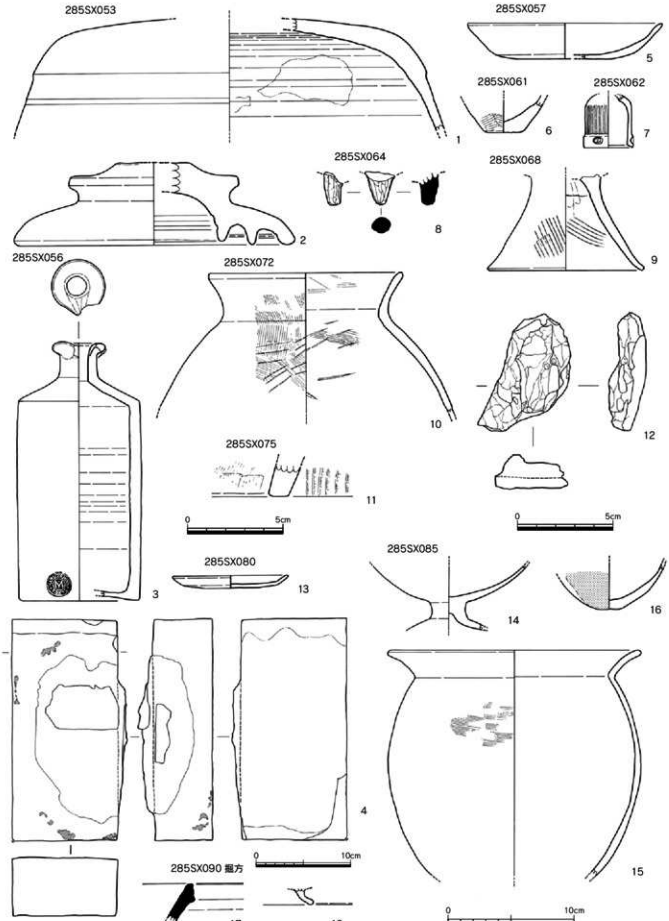


Fig. 57　285SX053・056・057・061・062・064・072・075・080・085・090 出土遺物実測図（1/2、1/3、1/4）

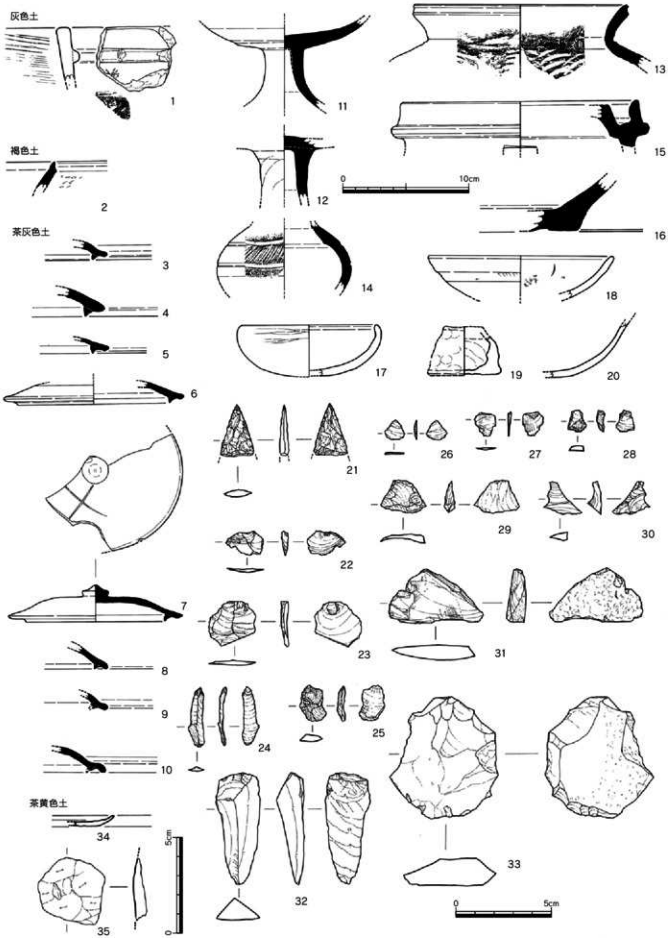


Fig. 58　灰色土、褐色土、茶灰色土、茶黄色土出土遺物実測図（1/2、1/3）

須恵器

甕（17）　口縁部破片。色調は内外面ともに暗灰色。断面は暗灰色～赤茶色とサンドイッチのように胎土の中心が酸化炎焼成になっている。

土師器

高台（18）　高台の破片。残存高 1.2 ㎝。やや高い高台で、外側に大きく張るタイプ。

灰色土出土遺物（Fig.58）

瓦質土器

火鉢（1）　口縁部破片。残存高 4.3 ㎝。内面は刷毛目調整。外面は横ナデ調整。口縁部外面に突帯を貼り付けている。突帯の下にはスタンプが押されており、部分的なため明瞭ではないが、菊花紋の可能性がある。火鉢 A-Ⅲ 類。

褐色土出土遺物（Fig.58）

須恵器

甕（2）　口縁部破片。外面に叩き調整の痕跡あり。焼成良好。還元やや良好。

茶灰色土出土遺物（Fig.58）

須恵器

蓋 1（3 ～ 6、9、10）　すべて口縁部内面にかえりがあるタイプ。3 ～ 6 はかえりが口縁部よりも下半に出るもの。8、9 はかえりの下半が口縁部と並行になるもの。10 はかえりが退化して低くなっているもの。4 の器壁は 6 ～ 7mm で、とても厚い。

蓋 c1（7）　復元口径 11.0 ㎝、器高 2.9 ㎝。摘みは擬宝珠形。天井部は横ナデ調整で、ヘラ記号あり。焼成・還元ともに良好。

高坏（11、12）　11 は残存高 6.9 ㎝。口縁部と脚部端部を欠く破片。12 は残存高 4.9 ㎝。皿底部から脚部にかけての破片。

甕 a（13）　口縁部破片。外面は叩き調整、内面には当て具痕。口縁部にわずかに自然釉が確認できる。焼成・還元共に良好。

壺（14）　口縁部と底部を欠く破片。残存高 5.1 ㎝。外面に斜線状の刷毛目を施す。焼成・還元共に良好。

円面硯（15）　口縁部の破片。脚部の透かしが一部確認できる。復元口径 18.8 ㎝、残存高 3.65 ㎝。胎土は 0.1 ～ 2.0mm の白色粒子を少量含む。きめ細かくて密。焼成・還元ともに良好。

須恵質土器

鉢（16）　底部破片。残存高 4.2 ㎝。内面は表面が摩耗してクレーター状の窪みが確認できる。これは長く使用されていたためと考える。色調は内外面ともに灰色。断面は赤みのある茶灰色。胎土は 0.1 ～ 4mm の白色砂を多く含む。粗い。焼成は良好。

土師器

坏（17）　復元口径 11.4 ㎝、器高 4.05 ㎝。外面の口縁部にミガキの痕跡がある。古墳時代のものか。

丸底坏（18）　復元口径 14.7 ㎝、残存高 3.3 ㎝。底部を欠損する。内面はミガキ b 調整。墨痕あり。器壁がやや厚い。

ミニチュア土器（19）　手づくね成形。内面には粘土紐の成形痕が明瞭に残る。外面には指頭圧痕が多く確認できる。焼成は良好。

黒色土器

椀 c（20）　体部破片。B 類。高台の痕跡あり。

石製品

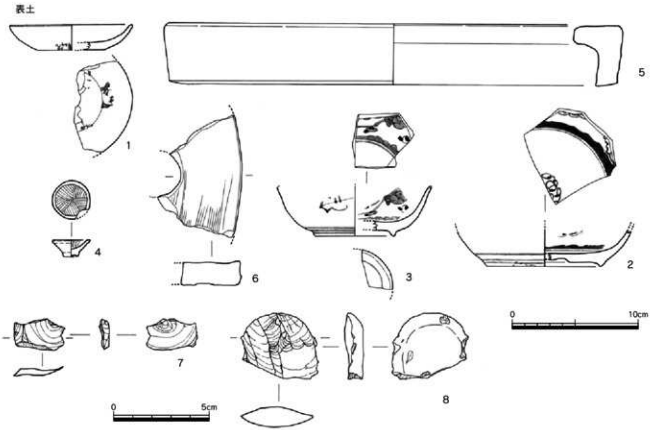


Fig. 59　表土出土遺物実測図（1/2、1/3）

石鏃（21）　縦 2.85 ㎝、横 1.75 ㎝、厚さ 0.45 ㎝、重量 1.8g。茎部に欠損がある。石材は安山岩。

剥片(22 ～ 31)　すべて石材は黒曜石。22 は、縦 1.3 ㎝、横 2.0 ㎝、厚さ 0.25 ㎝、重さ 0.3g。23 は、縦 2.4 ㎝、横 2.4 ㎝、厚さ 0.4 ㎝、重さ 1.7g。24 は、縦 3.1 ㎝、横 0.9 ㎝、厚さ 0.25 ㎝、重さ 0.5g。25 は、縦 1.9m、横 1.4 ㎝、厚さ 0.4 ㎝、重さ 0.6g。26 は、縦 1.1 ㎝、横 1.05 ㎝、厚さ 0.1 ㎝、重さ 0.1g。27 は、縦 1.3 ㎝、横 1.1 ㎝、厚さ 0.15 ㎝、重さ 0.2 g。28 は、縦 11.5 ㎝、横 0.95 ㎝、厚さ 0.4 ㎝、重さ 0.4g。29 は縦 1.7 ㎝、横 2.4 ㎝、厚さ 0.45 ㎝、重さ 1.4g。30 は、縦 1.75 ㎝、横 2.1 ㎝、厚さ 0.5 ㎝、重さ 0.9g。31 は、縦 2.85 ㎝、横 5.0 ㎝、厚さ 0.8 ｃｍ、重さ 11.8g。

剥片（32）　縦 5.9 ㎝、横 2.4 ㎝、厚さ 1.45 ㎝、重さ 13.5g。石材は安山岩。頂部に打突点があり、石材の表面が残っている。縦長剥片か。

スクレイパー（33）　縦 6.3 ㎝、横 5.7 ㎝、厚さ 1.4 ㎝。重量 61.6g。頂部に打突点が確認できる。平らな面は石材そのままで、他の面は打ち割って成形している。石材は安山岩。

茶黄色土出土遺物（Fig.58）

土師器

小皿ａ1（34）　破片。器高 0.9 ㎝。底部は回転ヘラ切り。板状圧痕がわずかに残る。

石製品

石鍋（35）　破片。滑石製石鍋の一部。

表土出土遺物（Fig.59）

土師器

小皿（1） 復元口径 9.6 ㎝、器高 1.95 ㎝、復元底径 5.0 ㎝。ロクロ成形。底部糸切り。外面に墨痕と炭化物が付着している。

肥前磁器

椀(2) 残存高 3.9 ㎝、高台径 6.4 ㎝。内面に花文、外面に草花文を淡青色の呉須により染付けている。圏線は高台部外面に 3 条、高台内に 1 条施す。高台は削り出しで露体している。また高台の畳付部には細かな砂粒が付着しており、重ね焼きの跡と考えられる。

皿（3）

土製品

ミニチュア土器（4） すり鉢。口径 2.0 ㎝、器高 0.9 ㎝、底径 0.75 ㎝。ほぼ完形。型抜き成形した後にナデ調整。色調は内面が淡黄白色、外面が淡黄橙色～一部茶褐色。胎土は、微細な白色粒子、黒色粒子を含む。焼成は良好。

七輪（5、6） 5 は口縁部破片。復元口径は 24.2 ㎝、残存高 3.25 ㎝、色調は淡黄灰色～淡茶色。外面に煤が吸着している。6 は火皿の破片。表面は刷毛目調整の後ナデ調整。

石製品

剥片(7、8) 7 は石材が黒曜石。一部原石の表面を残す。縦 1.6 ㎝、横 2.6 ㎝、厚さ 0.4 ㎝、重さ 1.8g。8 は石材が黒曜石。縦 3.5 ㎝、横 4.1 ㎝、厚さ 1.1 ㎝、重さ 15.7g。原石の面が生きている箇所は丸みを帯びており、反対側の面は加工痕が認められる。上部頂部に打点が確認できる。

（5）小結

前述したとおり、遺構の検出は般若寺西側丘陵裾周辺の北西部と南西部に集中している。左郭 2 坊路に関しては『条坊 44』でもふれられているように推定ラインよりも西側で検出されている。調査区南側で検出されている 285SB015 は西側の条坊跡第 236-1、257 次調査で検出した掘立柱建物群と同じ総柱構成で延長線上にあたり、一連の建物群と考えられる。そのため、左郭 2 坊路に関してはこの掘立柱建物群が廃絶した後に使用されたものと考える。それに関係するのが 285SD002・005（奈良時代）、285SD010(平安時代) と想定できる。当初の左郭 2 坊路は般若寺丘陵の裾に当っていたために、西へずらしたと考えることも可能性であろう。また 14 条路に関しても、北西部の遺構がその状況を示していると考えられるが、遺構の保存のため完全に掘っておらず確たる証左はない。

成果としては、客館時代の区画の東端の状況について一定の理解ができたことがあげられる。

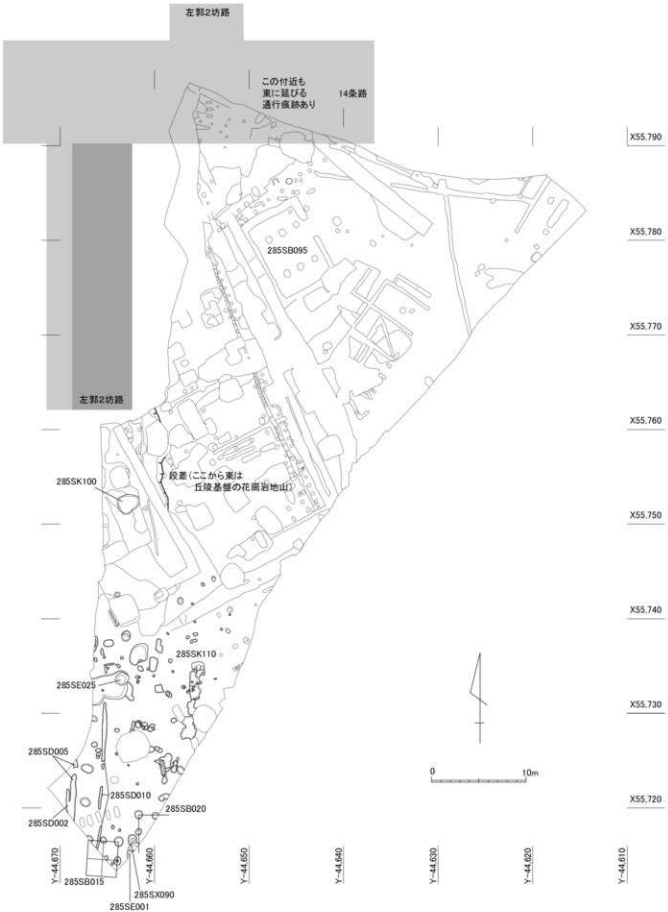


Fig. 60　大宰府条坊跡第 285 次　遺構配置図（1/400）『大宰府条坊跡 44』より一部改変

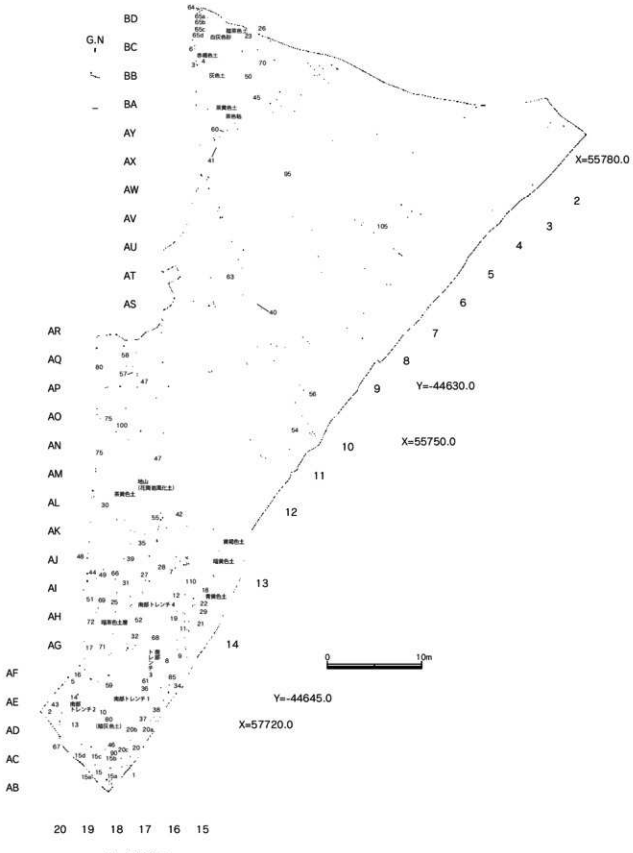


Fig. 61　大宰府条坊跡第 285 次　遺構略測図（1/400）

Tab. 5-1　大宰府条坊跡第285次調査遺構番号台帳（1）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋土状況（古→新）	遺構間切合（古→新）	時　期	地区番号
1	285S0001	井戸	本修理存	茶褐色土←灰色粘土←	90→1	8c～	AB17
2	285S0002	溝	衛北溝	茶色土	5→2→43	奈良	AC20～AD20
3	285S0003	小穴			4→3	平安～（XII期）	BB15
4	285S0004	小穴			4→3	12c前～中頃	BB15
5	285S0005	溝	衛北溝	茶灰色土	5→2→43	奈良	AC19～AE19
6	285S0006	溝	東西溝			XVIII～XIX期	BB15
7		小穴群					AI4,J15
8		撹乱		茶茶色土（砂まじり）、茶色粘土（ブロックまじり）		現代	AF15～AG16
9	285S0110	土坑		暗茶色土	9→8		AF～AG15
10		溝	衛北溝	茶灰色土（砂を多く含む）		～平安	AB18～AG18
11	285S0110	土坑		暗茶色土（黄色粘土ブロックまじり）			AG15
12	285S0110	土坑		暗褐茶色土（黄色粘土ブロックまじり）		8c初頭	AH15
13		土坑		茶灰色土			AD19
14		土坑		茶灰色粘質土			AE19
15	285S0015	礎立柱建物	1間以上×2間以上　総柱か			8c初～前半	AB18
16		小穴群		茶色土			AE19～AF19
17		小穴		灰茶色土			AG19
18	285S0110	土坑	粘土採掘土坑か	茶灰色粘土（黄色ブロックまじり）			AB～AI15
19	285S0110	土坑	粘土採掘土坑か	茶灰色粘土（黄色ブロックまじり）		奈良	AG～AH15
20	285S0020	礎立柱建物	1間×1間以上			～8c代	AC16～AC17
21	285S0110	土坑	粘土採掘土坑か	茶灰色粘土（黄色ブロックまじり）			AG15
22		小穴		灰色粘土			AH15
23	285S0023	小穴		褐色砂		奈良～	BC13
24		土坑		褐色土			AH16
25	285S0025	井戸	木製品（漆塗）出土	茶褐色土←		～8c後半	AH18
26		土坑（畿？）		褐色砂			BC13
27		土坑		褐色粘土			AI17
28		土坑		褐色粘土			AI16
29		小穴群		灰色粘土	29→12		AH15
30	285S0030	たまり×溝		赤褐色土←灰色粘質土←灰色土（赤褐色土混じり）	30→35	10～12c	AK17～AK18
31		たまり状遺構		黄茶色土（うすい堆積）			AI17
32		たまり状遺構群		灰黄茶色砂質土	33→32	奈良～	AF17
33		たまり		赤灰色土	33→32	奈良～	AF17
34	285S0034	土坑		茶色土		奈良～	AE16
35	285S0035	たまり状遺構		茶褐色土（黄色ブロック混じり）	36→35	12c～	AJ17
36		撹乱（廃棄）		黄青色粘土		現代	AE16
37		小穴		灰茶色土	38→37		AD16
38	285S0038	小穴		茶灰色土	38→37		AD16
39	285S0039	土坑				奈良～	AJ18
40	285S0040	撹乱（西鉄開通土残）				近現代	AB15
41		小穴	茶黄色土除去後　検出				AI14
42		たまり					AK16
43	285S0043	溝	S-2溝と土色が似る			奈良～	AD20
44		小穴群		茶色土			AI18～19
45	285S0045	たまり	黄灰茶色土除去後検出		45→50	～13c	BA12～14
46		小穴					AC18
47		衛北溝		灰茶色土	57→47		AK16～AM17
48	285S0048	たまり状		灰茶色土←黄灰色土		平安～	AI19
49		土坑		茶褐色土			AI18
50	285S0050	たまり	丸瓦片を中心に集中		45→50	12c～	BB13
51	285S0051	小溝	固くしまっている S-10の延長の可能性あり	灰色砂			AH18
52		小穴群		茶色土			AH16～AH18
53	285S0053	小穴	西鉄線	明黄色土		現代	AN11
54	285S0054	小溝	西鉄線	明黄色土		現代	AN11～AO11
55		土坑	写真あり			現代	AK16
56	285S0056	小穴	西鉄線			現代	AO11
57	285S0057	たまり	浅い	黄茶色ブロックまじり土	57→47	平安～	AP12
58		たまり		灰色土			AQ17～18
59		小穴		褐色土			AE18
60		溝	S-45層 除去後検出				AX14
61	285S0061	小穴		茶茶色土		弥生後期～	AF17
62	285S0062	小穴	西鉄線	黄色土		現代	AP11
63		撹乱		暗茶褐色土			AS14～AT14
64	285S0064	堆積層	北壁トレンチ検出 砂まじりシルトの層に切り込む	北壁トレンチ　北側面の B層　淡茶褐灰色砂の一部		奈良	BD15
65a～d	285S0065	波板状圧痕	波板状圧痕 a～dと4で検出	灰色砂質土		奈良～平安前期	BC15
66		小穴		茶色土			AI18
67		小穴		灰色粘土	5→67		AC19
68	285S0068	たまり	暗茶色土の下より検出	暗黒色粘土		古墳～	AF16
69		小穴群		明褐色土			AH18
70	285S0070	溝	小礎が集中する東西方向の溝			8c～	BB12～13
71		小穴群	S-59,S-69と接列の可能性あり				AF18～BG18
72	285S0072	小穴				古墳～	AH18
73		欠番					
74		欠番					
75	285S0075	たまり状		灰色土	100→75	12c～	AM18～AO18

Tab. 5-2　大宰府条坊跡第 285 次調査遺構番号台帳（2）

S-番号	遺構番号	種　別	備　考	埋土状況（古→新）	遺構間切合（古→新）	時　期	地区番号
76		欠番					
77		欠番					
78		欠番					
79		欠番					
80	285SX080	たまり状堆積	暗灰色土の一部を S-80 とする。			12c ～	AG18 ～ AQ18
81		欠番					
82		欠番					
83		欠番					
84		欠番					
85	285SX085	たまり状		黒色砂		古墳～	AE16
86		欠番					
87		欠番					
88		欠番					
89		欠番					
90	285SX090	柱痕	掘立柱建物の一部か		90 → 1	奈良～	AB17
91		欠番					
92		欠番					
93		欠番					
94		欠番					
95	285SB095	建物柱（西隅）	北に開口する周溝を伴う 2×1 間			現代	AN12 ～ AT12
96		欠番					
97		欠番					
98		欠番					
99		欠番					
100	285SK100	土坑		茶色粘土く黄茶土	100 → 75	鎌期	AN17 ～ 18
101		欠番					
102		欠番					
103		欠番					
104		欠番					
105	285SX105	撹乱	現代遺物集中溝			現代	AT ～ AV　7 ～ 9
110	285SK110	土坑	粘土採掘用か			平安～	AG15 ～ AI15

Tab. 6　条坊関連遺構任意中点座標値

遺構番号	位置	遺構任意中点座標		政庁跡南門中点からの距離		方位
		X 座標	Y 座標	X 方向（m）	Y 方向（m）	
285SD002	南 P	55,719.400	-44,669.100	-987.713	161.521	N-3° 30′ 14.4″ -W
	北 P	55,721.850	-44,669.250	-985.264	161.347	
285SD005	南 P	55,718.800	-44,668.850	-988.310	161.777	N-1° 45′ 32.4″ -E
	北 P	55,730.200	-44,668.500	-976.907	162.013	
285SD010	南 P	55,715.995	-44,666.005	-991.087	164.650	N-2° 52′ 55.2″ -E
	北 P	55,730.000	-44,665.300	-947.077	164.912	

Tab. 7-1　第285次調査　出土遺物一覧表（1）

S-1 茶褐色土

須恵器	蓋　椀c　高坏
土師器	坏c　丸底坏　破片（赤色系，白色系）
縄文黒耀石剥片	椀；破片（1）

S-1 暗灰色粘

須恵器	蓋1　蓋3　坏a　坏c　高坏　甕

S-1 灰色粘

須恵器	高坏　甕　高台
土師器	破片（赤色系，白色系）

S-2

須恵器	甕

S-3

土師器	小皿a（ヘラ）　丸底坏
石製	他；

S-4

土師器	小皿a1（ヘラ）　丸底坏
縄文黒耀石剥片	椀；III-1-(1)
石製	椀；V(1)　破片（2）

S-5

須恵器	破片
土師器	甕　破片（赤色系）

S-6

須恵器	甕　破片
土師器	小皿a1　甕
瓦類	破片（瓦質）

S-7

須恵器	破片
瓦類	平瓦（無文，瓦質）　平瓦（縄目，瓦質）

S-9

須恵器	坏　甕　破片
土師器	坏
石製	椀；破片（1）
瓦類	平瓦（格子，須恵質）

S-10

須恵器	坏a　坏c　壺
土師器	小皿a　丸底坏　甕
土製品	フイゴ

S-11

土師器	破片
石製	椀；破片（1）

S-12

須恵器	蓋1　皿a　甕　壺
土師器	破片（赤色系，白色系）
石製	皿；破片（1）
瓦類	平瓦（無文，須恵器）

S-13

土師器	甕

S-14

土師器	甕

S-15a

土師器	甕　破片（赤色系）

S-15a 縦方

須恵器	甕
土師器	蓋1

S-15b

須恵器	蓋（ケズリあり）　高坏
土師器	甕　破片（赤色系）

S-15c

須恵器	坏
土師器	破片（赤色系）

S-19

須恵器	甕　破片
土師器	把手
瓦類	平瓦（瓦質）

S-20a

土師器	破片

S-20b

須恵器	破片
土師器	甕　破片（赤色系）

S-20c

土師器	破片

S-21

須恵器	壺　破片
土師器	破片

S-22

土師器	破片

S-23

須恵器	破片
土製品	瓦玉

S-24

須恵器	破片
土師器	破片（赤色系）
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）

S-25

須恵器	坏c　甕
土師器	坏c×椀c　器台　脚
瓦類	破片（瓦質）

S-25 暗青灰色粘

土師器	甕　破片

S-25 暗灰色砂質土

土師器	甕

S-25 灰色粘

須恵器	坏c　蓋　坏c×椀c　甕
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）

S-25 灰茶色粘

須恵器	坏a　坏c　甕　壺
土師器	蓋3　高坏

S-26

土師器	高台　破片（白色系）

S-27

土師器	小皿a
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　平瓦（格子，須恵質）

S-28

須恵器	甕
土師器	破片

S-29

土師器	破片

S-30

須恵器	甕
土師器	小皿a（墨書）　小椀c　破片（白色系）
黒色土器B	椀
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　平瓦（格子，須恵質）　丸瓦（格子，瓦質）
金属製品	紡錘
土製品	砥土

S-30 灰色粘

須恵器	蓋2　坏　甕
土師器	小皿a1（ヘラ）　丸底坏　甕　破片（白色系）
瓦類	平瓦（無文，土師質）　丸瓦（格子、土師質）
石製品	とりべ
土製品	瓦玉

Tab. 7-2　第 285 次調査　出土遺物一覧表（2）

S-15d

須恵器	坏　甕
瓦類	平瓦（縄目、瓦質）

S-16

須恵器	甕
土師器	甕　破片（赤色系）
瓦類	平瓦（縄目、瓦質）

S-17

土師器	破片

S-18

須恵器	器 4　坏 e　破片
土師器	甕　破片（赤色系）

S-30 灰色粘（ベルト北西）

土師器	坏 a
緑釉陶器	椀
瓦類	平瓦（格子、瓦質）

S-30 赤灰色砂（ベルト北西）

土師器	丸底坏 a
瓦類	平瓦（縄目、瓦質）　平瓦（格子、瓦質）

S-30 赤褐色土

須恵器	甕
瓦類	平瓦（格子、土師質）

S-31

須恵器	破片
土師器	甕
瓦類	平瓦

S-32

土師器	甕　破片（白色系）

S-33

土師器	甕

S-34

須恵器	器 3　甕
土師器	破片（赤色系、白色系）

S-35

須恵器	器　破片

S-35 茶褐色土（ベルト南東）

須恵器	器（つまみ）　甕
土師器	丸底坏 a　甕
瓦類	平瓦（縄目、瓦質）　平瓦（格子、瓦質）
石製品	滑石
土製品	フイゴ羽口

S-35 茶褐色土（ベルト南西）

土師器	破片
白磁	椀；IV-1(1)
瓦類	平瓦（格子、須恵質）　平瓦（縄目、瓦質）

S-35 茶褐色土

須恵器	破片
土師器	破片

S-36

須恵器	破片
土師器	甕
金属製品	紙滓

S-37

土師器	破片
石製品	安山岩石鏃

S-39

須恵器	器 3
土師器	破片
石製品	凝灰石

S-40

国産陶器	甕
その他	コンクリート

S-42

土師器	破片

S-30 灰色土

須恵器	器 4　坏 e　甕　高台　破片
土師器	破片
土製品	瓦玉
その他	緑色片岩

S-30 ベルト南西赤灰色砂

須恵器	破片

S-30 灰色土（ベルト南東）

土師器	破片

S-30 灰色土（ベルト北西）

土師器	甕　破片（白色系）
黒色土器 B	椀
瓦類	平瓦（格子、瓦質）　平瓦（格子、須恵器）

S-30

須恵器	甕　破片
土師器	小皿 a　丸底坏 a（ヘラ）　丸底坏（灯明皿か）
白磁	椀；V(1)　V-1a(1)
中国陶器	他；鉢（1）
瓦類	破片（土師質）
金属製品	紙滓

S-31

土師器	破片

S-32

須恵器	破片
土師器	小皿

S-33

国産陶器	甕　壺

S-34

国産陶器	壺

S-35

須恵器	甕　高台
土師器	破片
国産陶器	甕
国産磁器	破片

S-36

国産陶器	壺
国産磁器	破片
その他	ブロック　懸垂錘子

S-37

土師器	坏 a（ヘラ）　丸底坏 a

S-38

須恵器	破片
土師器	破片
瓦類	平瓦（縄目、土師質）

S-39

土師器	破片

S-40

須恵器	甕
土師器	壺
弥生土器	甕（後期）

S-42

国産磁器	不明品

S-43

土師器	破片

S-44

須恵器	鉢

S-45a

土師器	破片

S-45b

須恵器	破片
土師器	破片

S-45c

須恵器	甕
黒色土器 A	破片

Tab. 7-3　第 285 次調査　出土遺物一覧表 (3)

S-43

須恵器	破片
土師器	破片

S-44

土師器	破片（赤色系，白色系）

S-45

須恵器	甕　壺手
土師器	小皿 a（ヘラ）　甕　高台　破片（重枕員）
越州黒系青磁	椀：I(1)
同安黒系青磁	椀：I-1b(1)　破片 (1)
須恵質土器	鉢（東播系）
白磁	椀：IV(1)　V-2b(1)　破片 (1)　破片 (3) 皿：破片 (2)
中国陶器	色：A 群 (1)
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　平瓦（格子，須恵質）　平瓦（格子，土師質） 平瓦（対馬「平井」須恵質）　平瓦（無文，須恵質）
土製品	瓦玉

S-46

須恵器	破片
土師器	破片

S-48

須恵器	甕
土師器	小皿 a（ヘラ）　丸底坏　椀 a× 坏 c

S-49

土師器	破片（赤色系，白色系）

S-75 灰色土

土師器	破片

S-75 茶灰色粘

白磁	椀：IV(1)
瓦類	破片
金属製品	銭滓

S-90

土師器	小皿 a（ヘラ）　丸底坏

S-95

土師器	高坏　鉢

S-96

須恵器	壺 1
土師器	甕

S-96 層方

須恵器	甕
土師器	甕　高台（赤色）　破片

S-100 茶色粘

須恵器	坏 c　甕　壺
土師器	破片
瓦類	丸瓦（無文，瓦質）
金属製品	銭滓

S-100 黄茶色土

土師器	破片

S-105

金属製品	昭和の銭貨　銭を入れる容器
その他	プラスティックラベル（西鉄福岡駅）　電球

北壁トレンチ 白灰色砂

須恵器	坏 c　甕
土師器	坏 c
越州黒系青磁	椀：I(1)　破片 (1)
瓦類	平瓦（格子，須恵質）　平瓦（縄目，瓦質）　破片

北壁トレンチ 灰色砂

須恵器	甕　破片
土師器	破片
越州黒系青磁	椀：

北壁トレンチ 赤褐色砂

須恵器	甕　壺
土師器	甕　高台　破片
黒色土器 A	破片
瓦類	平瓦（格子，須恵質）　平瓦（無文，須恵質）

北壁トレンチ 黒色粘

須恵器	破片
土師器	破片
瓦類	破片

S-65d

須恵器	甕
土師器	破片（重枕員）

S-66

土師器	破片

S-67

土師器	破片

S-68

土師器	高坏　甕

S-69

土師器	破片

S-70

須恵器	坏 c　甕
土師器	高台　破片
瓦類	平瓦（格子，須恵質）　平瓦（格子，土師質）

S-71

土師器	破片

S-72

土師器	甕

S-75

土師器	坏（白色系）　丸底坏 a　破片
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　平瓦（格子，須恵器）　丸瓦（格子，瓦質）
石製品	滑石製

茶灰色土 AB15

須恵器	坏 c　甕
土師器	甕　高台
瓦類	丸瓦（格子，瓦質）

茶灰色土 AB ～ AK12 ～ 19

須恵器	坏　甕
土師器	甕
黒色土器 A	椀
瓦類	丸瓦（不明，瓦質）

茶灰色土 AC12

須恵器	壺
土師器	甕

茶灰色土 AC13

須恵器	甕　壺
土師器	破片
瓦類	破片（瓦質）
石製品	安山岩矢じり

茶灰色土 AC14

須恵器	甕
土師器	丸底坏　破片（白色系）

茶灰色土 AD16

土師器	甕

茶灰色土 AD17

土師器	甕　破片

茶灰色土 AE14

須恵器	甕　小壺　破片
土師器	落つまみ（ボタン）　破片
瓦類	丸瓦（無文，瓦質）

茶灰色土 AE16

須恵器	高台
土師器	甕

茶灰色土 AF15

須恵器	破片
土師器	破片

茶灰色土 AF16

須恵器	甕　壺　破片
土師器	破片
瓦類	平瓦（格子，須恵質）
石製品	黒曜石

茶灰色土 AF18

須恵器	壺 1
土師器	丸底坏 a
白磁	椀：破片 (1)
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　丸瓦（縄目，瓦質）

Tab. 7~4　第 285 次調査　出土遺物一覧表 (4)

北側トレンチ 暗茶色土

須恵器	破片
土師器	破片
瓦類	破片

北側トレンチ 濃青灰色砂

須恵器	破片

トレンチ 3

須恵器	破片
土師器	高坏　破片（赤色系）

茶灰色土

須恵器	蓋 a　坏　甕
土師器	甕　鉢 B　破片
黒色土器 A	破片
瀧泉窯系青磁	椀；
肥前系陶磁器	破片
国産陶器	甕
瓦類	熨し瓦瓦　破片
石製品	赤石

茶灰色土 AA13

須恵器	高台
土師器	甕
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）

茶灰色土 AB12

須恵器	蓋 1
土師器	甕

茶灰色土 AB13

須恵器	坏 c
土師器	破片（赤色系）

茶灰色土 AB14

須恵器	蓋　甕
土師器	破片
国産陶器	破片
瓦類	平瓦（無文，須恵質）

茶灰色土 AB～AJ14~15

須恵器	蓋 3　坏　甕
石器	椀 1
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　丸瓦（縄目，瓦質）

茶灰色土 AI14

土師器	破片

茶灰色土 AI15

須恵器	坏

茶灰色土 AJ16

須恵器	蓋 つまみ（ボタン）　甕
土師器	甕　破片

茶灰色土 AI17

須恵器	蓋 3　坏 c　甕
土師器	破片
石器	椀 II (1)
瓦類	丸瓦（無文，須恵質）
石製品	黒曜石

茶灰色土 AI18

須恵器	坏 a　坏 c
土師器	破片
石製品	黒曜石

茶灰色土 AJ17

須恵器	高坏　甕
土師器	鉢台
石器	椀 II (1) 他；破片 (1)
瓦類	平瓦（縄目，須恵質）　平瓦（縄目，瓦質）

茶灰色土 AJ18

須恵器	蓋（つまみボタン）　蓋 3　坏 c　甕
土師器	小皿 a　小皿
瓦類	平瓦（格子，土師質）　熨し瓦

茶灰色土 AJ16～AL19

須恵器	破片
土師器	破片
肥前系陶磁器	破片
瓦類	熨し瓦

茶灰色土 AG14

瓦類	平瓦（無文，須恵質）

茶灰色土 AG15

須恵器	蓋 1　蓋 a　坏　甕
中国陶器	甕
瓦類	平瓦（縄目，須恵質）

茶灰色土 AG16

土師器	高坏（占墳）　甕

茶灰色土 AG17

須恵器	蓋 1　蓋 3　坏　甕
土師器	高坏　甕
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　平瓦（格子，須恵質）

茶灰色土 AG18

須恵器	破片
製塩土器	破片

茶灰色土 AH14

瀧泉窯系青磁	椀；破片 (1)

茶灰色土 AH15

須恵器	破片
土師器	破片

茶灰色土 AH16

須恵器	坏 c　盌
土師器	甕
黒色土器 A	椀 c
石器	椀；破片 (1)
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）

茶灰色土 AH17

須恵器	蓋 2　蓋 4
石器	椀；
石製品	黒曜石

茶灰色土 AH18

須恵器	坏 c
国産陶器	破片
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　熨し瓦
石製品	安山岩

茶灰色土 AG14

須恵器	蓋　甕
土師器	甕　埋盌　破片

茶灰色土 AG15

須恵器	蓋 1　蓋 3　蓋（つまみ）　坏 a　坏 c　甕　破片
土師器	椀 c　破片
瓦類	平瓦（縄目，須恵質）　平瓦（縄目，瓦質）

茶灰色土 AG17

須恵器	蓋 3
土師器	丸底坏

茶灰色土 AG18

須恵器	甕
土師器	破片
黒色土器 A	高台
肥前系陶磁器	破片

茶灰色土 AP18

土師器	破片
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　丸瓦（無文，瓦質）

茶灰色土 AQ17

土師器	破片

茶灰色土 AQ18

土師器	丸底坏

茶灰色土 AX～BB13～15

須恵器	甕
瓦類	平瓦（無文，須恵質）

茶灰色土 AX15

土師器	破片
国産陶器	破片（黒釉）

茶灰色土 AT13

須恵器	高坏　甕
瓦類	平瓦（縄目，瓦質）　平瓦（無文，須恵質）

Tab. 7-5　第285次調査　出土遺物一覧表（5）

茶灰色土 AK15

須恵器	高坏　甕
土師器	破片
石製	鞆；IV(1)

茶灰色土 AK16

須恵器	破片
瓦類	平瓦（無文、瓦質）
土製品	土玉

茶灰色土 AK17

須恵器	甕　蓋
土師器	皿4　甕
石製	鉈；I-1(1)　破片(1)
瓦類	平瓦（格子、瓦質）　丸瓦（無文、瓦質）
石製品	黒曜石

茶灰色土 AK18

須恵器	甕　破片
石製品	安山岩

茶灰色土 AL16

土師器	破片
瓦類	丸瓦（無文、瓦質）

茶灰色土 AL17

須恵器	坏c
土師器	破片
瓦類	瓦玉　破片

茶灰色土 AL18

須恵器	破片
土師器	破片
黒色土器B	破片
瓦類	平瓦（縄目、瓦質）

茶灰色土 AM16

須恵器	坏e
土師器	破片
瓦類	平瓦（縄目、瓦質）　破片（須恵質）

茶灰色土 AN17

須恵器	蓋
土師器	高坏

茶灰色土 AN18

須恵器	甕
肥前系陶磁器	破片
瓦類	平瓦（無文、瓦質）　丸瓦（格子、須恵質）

茶灰色土 BO13

肥前系陶磁器	破片
国産磁器	椀

茶灰色土 BC12

瓦類	破片

茶灰色土 BC13

須恵器	甕　蓋
土師器	破片

茶灰色土 BC14

須恵器	坏　甕
土師器	丸底坏　高台

暗茶色土

土師器	破片

茶黄色土

須恵器	坏　坏c　甕
土師器	小皿a（ヘラ）
白磁	皿；破片(1)
中国陶器	他；破片(C群)
瓦類	平瓦（無文、須恵質）
石製品	滑石

黄色粘

須恵器	坏a　甕
土師器	甕　大鉢c?
瓦類	丸瓦（格子、須恵質）
土製品	砥土

褐色土

須恵器	甕
土師器	破片
肥前窯系青磁	椀；破片

茶灰色土 AY14

須恵器	高坏　甕　硯（円面硯B-）
土師器	破片
国産陶器	甕
瓦類	平瓦（無文、須恵質）

茶灰色土 BA13

須恵器	甕
白磁	椀；IV(1)
瓦類	平瓦（格子、須恵質）　平瓦（格子、瓦質）

茶灰色土 BA14

須恵器	蓋3　蓋
土師器	小皿a
白磁	椀；
瓦類	平瓦（縄目、瓦質）　丸瓦（無文、須恵質）　丸瓦（格子、須恵質） 破片（格子、瓦質）
石製品	滑石

茶灰色土 BA15

白磁	椀；

茶灰色土 BB11

須恵器	坏
土師器	破片
国産陶器	破片

茶灰色土 BB13

須恵器	坏e　甕
土師器	丸底坏a
白磁	椀；
瓦類	平瓦（格子、須恵質）　平瓦（無文）

茶灰色土 BB-BC13

須恵器	坏　甕
土師器	破片
瓦類	破片

茶灰色土 BB-BC13～15

須恵器	甕
土師器	高台
国産陶器	破片

茶灰色土 BB14

須恵器	蓋c
白磁	椀；
瓦類	平瓦（無文、須恵質）

茶灰色土 BB15

須恵器	蓋1
白磁	椀； 皿；V(1)　VI-1b(1)　破片(1)
瓦類	丸瓦（無文、瓦質）　瓦玉

茶灰色土 BC-BO15

土師器	破片
瓦類	破片

Tab. 7-6　第 285 次調査　出土遺物一覧表（6）

灰色土

黒色土器A	破片
瓦質土器	鍋形鍋？

表土

須恵器	蓋3　蓋 c　坏 c　高坏　つまみ
土師器	小皿 a(ヘラ)　皿(ロクロ)　高坏　高台　把手
瀬戸美濃系青磁	椀：II(1)　破片 (1)
須恵質土器	鉢
瓦質土器	破片
肥前系陶磁器	坏　皿　破片
国産陶器	徳　東江器？　破片（黒釉）
国産磁器	皿　細ハゲ皿　輪花皿　椀　石磁器
白磁	椀：IV(2)　V-2×VI ～VIII-4(1)　破片 (6)
	皿：VI(1)
	他：破片
弥生土器	甕？
瓦類	平瓦（格子、須恵質）　平瓦（縄目、須恵質）　平瓦（縄目、瓦質）
	焼し瓦（近現代）　桟瓦
石製品	黒曜石　黒曜石 core　碁石
土製品	ミニチュア土器　擂鉢　七輪火皿　七輪
その他	緑色片岩　ガラス瓶

カクラン

須恵器	坏 c　甕　破片
土師器	破片
瀬戸美濃系青磁	椀：II-a(1)
須恵質土器	こね鉢
肥前系陶磁器	皿（現代）
白磁	椀：II(1)　IV(1)
中国陶器	他：
瓦類	平瓦（格子、須恵質）　丸瓦（格子、瓦質）
	破片（須恵質、土師質）
その他	片岩

Tab. 8　大宰府条坊跡　第285次調査　出土土器供膳具計測表

A：内底ナデ　B：板状圧痕

S-1 暗灰色粘

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋1		R-002		1.3+α			
	蓋3		R-003		0.7+α			
	坏c		R-001		2.1+α	(7.6)	○?	

S-3

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	ヘラ	R-001	9.0	1.15	7.5	○	○
	丸底坏a		R-002	(15.0)	2.4+α			

S-4

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	ヘラ?	R-001	(8.2)	(0.8)	(6.4)	○?	
	坏a		R-002		2.9+α			

S-6

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	－	R-001	(8.2)	(0.9)	(6.0)	○	－

S-10

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1		R-001		0.95			
	小皿a1		R-002		0.85			

S-12

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋1		R-002		1.0+α			
	蓋1		R-003		0.7+α			
	蓋a		R-001		1.9		○?	
	高坏		R-004		2.4+α			

S-15a 暗灰

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	蓋1		R-001		1.3+α			

S-15b

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋		R-001		1.0+α			
	高坏		R-002		2.4+α			

S-15c

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏×椀		R-001		2.0+α			

S-15d

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	坏		R-001		4.5+α			

S-16

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	椀c		R-001		2.7+α	(8.4)	○	

S-25

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏c×椀c		R-002		2.0+α	(8.0)		

S-25 灰色粘

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	椀c		R-001		2.6+α	(10.2)	○?	

S-25 灰茶色粘

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	小坏c	ヘラ	R-002	(10.5)	5.1	6.8	○	
土師器	高坏		R-003		6.5+α			

S-30

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1		R-001	10.4	3.6	5.0		
	小皿a1（蓋）		R-002	9.6	1.1	7.65		
	小椀c		R-003	9.85	1.7	7.8		

S-30（ベルト北西）灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
黒色土器B	椀c		R-002	(15.0)	5.3	(5.9)		

S-30 灰色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	丸底坏		R-002	16.0	3.6	11.3		

S-30 灰色粘

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋	ヘラ	R-002	(11.5)	3.0	(7.0)	○	×
土師器	小皿a1	ヘラ	R-001	(9.2)	0.65	(7.2)	○	×

S-30（ベルト北西）灰色粘

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a		R-002		1.7+α	8.4		

S-34

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3		R-001		1.1+α		○	

S-35（ベルト南東）高椀色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c（つまみ）		R-006		0.85+α			
	蓋c（つまみ）		R-007		1.6+α			
土師器	丸底坏a		R-001		4.6+α			○
	丸底坏a		R-002	(15.0)	3.3+α			

S-39

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋3		R-001	(17.0)	2.8+α		○	

S-45

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	ヘラ?	R-002	(9.7)	1.25	(9.0)		○

S-48

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	ヘラ?	R-001	(9.2)	1.45	(7.2)	○	○

S-50

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a		R-004	(14.4)	2.9	(9.0)		
	丸底坏a		R-001	15.8	2.5	11.0		
	丸底坏a		R-002	14.8	3.3	11.7		
	丸底坏a		R-003	(15.6)	3.4	(12.0)		○
	丸底坏a		R-005	(15.2)	3.9+α	－		
	丸底坏a		R-006	(16.5)	3.1	(14.2)		○
	丸底坏a	ヘラ	R-007	15.2	2.65	11.5		
	丸底坏a	ヘラ	R-008	15.4	3.5	11.7		○

S-57

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	坏a1	ヘラ	R-001	(15.4)	2.85	11.0	－	○

S-60

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	－	R-001	(9.1)	1.0	(7.4)	○	－

S-65

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	高坏		R-002		5.1+α			

S-100 茶色粘

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋c		R-002		2.0+α		○	

黒土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿（ロクロ）		R-006	(9.6)	1.95	(5.0)		

黒黄色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
土師器	小皿a1	ヘラ	R-001		0.9		○?	○

S-35（ベルト南東）高椀色土

種別	器種		遺物番号	口径	器高	底径	A	B
須恵器	蓋1		R-002		1.2+α			
	蓋1		R-002		1.8+α			
	蓋1		R-014		1.35+α			
	蓋1		R-015		2.3+α			
	蓋1		R-029		2.0+α			
	蓋1		R-020	(14.2)	1.7+α	(9.5)		
	蓋1		R-031		1.5+α			
	蓋c1		R-001	(11.0)	2.9			
	高坏		R-018		6.9+α			
	高坏		R-020		4.9+α			
土師器	丸底坏		R-011	(14.7)	3.3+α			
黒色土器B	椀c		R-005		4.6+α			

V. 調査のまとめ

今回、隣接する調査区第 275・285 次調査の報告を行った。それぞれの成果を簡単にまとめておきたい。まず、第 275 次では、平安時代前期末以前にさかのぼる時期と推定される掘立柱建物が 6 棟検出された。その構成は、占有面積 50 ㎡を越える 2 棟、大型の掘方を有する総柱建物が 1 棟、占有面積 10 ㎡以下の小規模なものが 3 棟である。これらの掘立柱建物群は、時期と配置から西側で明らかになった南・北に連なる 2 棟の大型掘立柱建物に関係する可能性が高いと考えられる。

また珍しい遺構としては、窯が検出された。調査区内では焚き口は確認できないが、平窯である可能性が指摘できる。これが平窯とすれば、水城跡に続く 2 例目となる。

条坊跡の道路に関する遺構も検出された。道路遺構の埋没時期は平安時代前期末と、平安時代後期にわかれる。東側の般若寺丘陵との関係にも注意しながら 14 条路と左郭 2 坊路については今後とも検証が必要である。

第 285 次調査では、調査区の多くが削平された地山であり、そこには西鉄関係の攪乱が多数存在していた。客館の時代に関係するものといえば、調査区南側で検出された掘立柱建物群である。その中でも 285SB015 は総柱建物で、その位置関係から西側の第 236-1・257 次で検出されている掘立柱建物群の延長であり、同じ掘立柱建物群を形成するものと言えよう。第 285 次調査と同じく、ここでも 14 条路と左郭 2 坊路に関係している。調査区南部西側に集中している 285SD002・005・010 等の南北溝群は坊路の影響化にあるものと推定できる。遺構の前後関係をみると、285SB015 以後に坊路は利用されたと考えておく。この場所は左郭 2 坊路の推定路面であることから、遺構の前後関係から当初、左郭 2 坊路は施工されておらず、客館廃絶後に施工された可能性が考えられる。

また、遺物として注目されるものとして、井戸 285SE025 から木製品の陽物が出土している。井戸の中から陽物が出土する推定理由として、井戸が枯れた際に再び水が湧くようにとする祭祀例があげられている。また他には都市部である一定の範囲を区画する境界の祭祀具とも考えられている。大宰府でのこの時代の陽物の類例は少ないので今後とも注目したい。

以上、客館の東側地域での遺跡の状況について報告した。今回の成果を、現在整理作業を進めている未整理の調査区の報告・分析と併せて考えていき、客館の実情に迫っていくため、今後の調査成果の整理・刊行に努めていきたい。

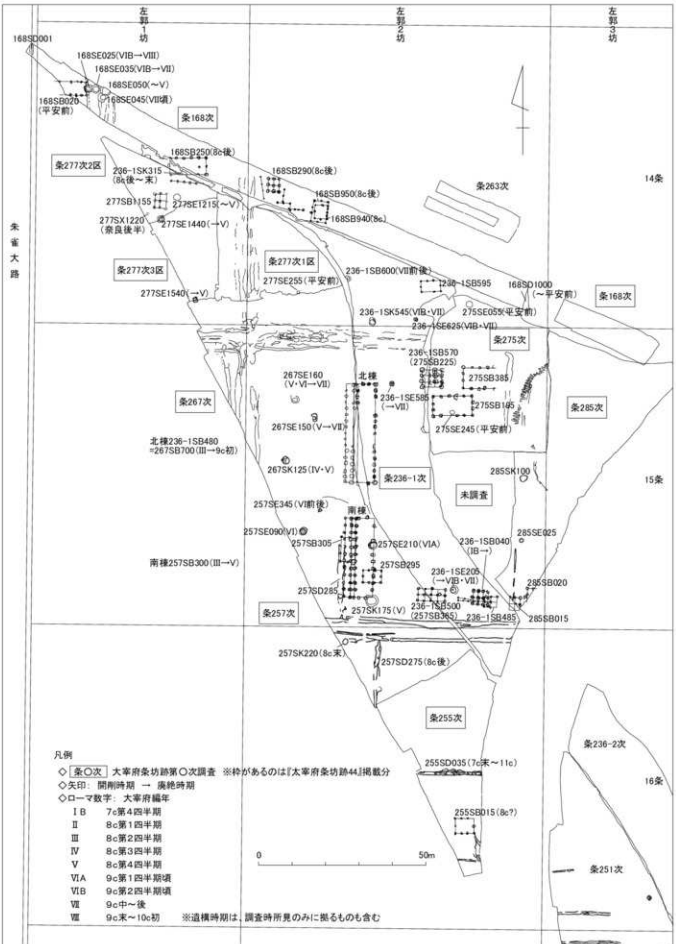


Fig. 62 客館関係主要遺構配置図（本書未掲載分を含む）『大宰府条坊跡 44』より

写　真　図　版

写真図版には、遺構全景と遺物の一部を掲載している。
その他の遺構写真および遺物写真は､附録の CD に収録している。
遺物写真に記載している番号は、Fig 番号 -Fig 内の通し番号となっている。

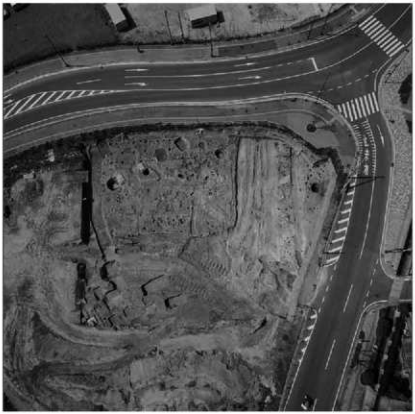
Pla. 1-1　条坊跡第 275 次調査　第 1 面調査区全景（空中写真、南より）

Pla. 1-2 条坊跡第 275 次調査　第 1 面調査区全景（空中写真、上が西）

Pla. 2-1　条坊跡第 275 次調査　第 1 面調査区全景（空中写真、東より）

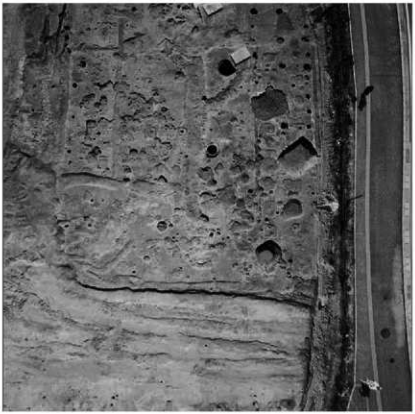
Pla. 2-2　条坊跡第 275 次調査　第 2 面調査区全景（空中写真、南より）

Pla. 3-1　条坊跡第 275 次調査　第 2 面調査区全景（空中写真、東より）



Pla. 3-2　条坊跡第 275 次調査　第 2 面調査区全景（空中写真、上が西）

Pla. 4-1　条坊跡第 275 次調査　第 2 面調査区　条坊跡交差点付近（空中写真、上が西）



Pla. 4-2　条坊跡第 275 次調査　第 2 面調査区　掘立柱建物跡（空中写真、上が南）

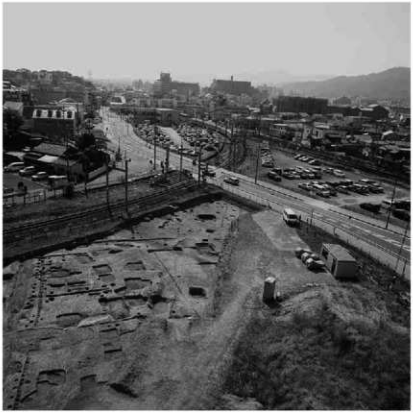
Pla. 5-1　条坊跡第 275 次調査　SD015 灰色粘土（Fig. 18-43）

Pla. 5-2　　条坊跡第 275 次調査　SD246（Fig. 30-12）

Pla. 6-1　条坊跡第 275 次調査　SX132 (Fig. 21-32)

Pla. 6-2　条坊跡第 275 次調査　茶色土２ (Fig. 37-36)

Pla. 7-1　条坊跡第 285 次調査　調査区全景（空中写真、上が東）



Pla. 7-2　条坊跡第 285 次調査　調査区から左郭二坊路を望む（空中写真、上が南）

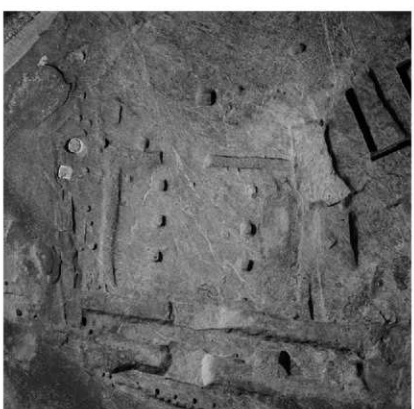
Pla. 8-1　条坊跡第 285 次調査　調査区全景（空中写真、南から）

Pla. 8-2　条坊跡第 285 次調査　現場から般若寺丘陵を望む（空中写真、上が東）

Pla.9-1　条坊跡第 285 次調査　SB015 検出状況（南から）

Pla.9-2　条坊跡第 285 次調査　SK110 検出状況（南から）

Pla. 10-1　条坊跡第 285 次調査　SX065a ～ f 完堀状況（北から）



Pla. 10-2　条坊跡第 285 次調査　SB095 全景（空中写真、上が北東）

Pla. 11-1　条坊跡第 285 次調査　SE025 暗青灰色粘（Fig. 52-1）

Pla. 11-2　条坊跡第 285 次調査　SX030（Fig. 54-8）

Pla. 12-1　条坊跡第 285 次調査　SX003（Fig. 54-5）

Pla. 12-2　条坊跡第 285 次調査　SX056（Fig. 57-3）

報告書抄録

ふりがな	だざいふあとい ち
書名	大宰府跡1
副書名	大宰府条坊跡第275・285次調査
シリーズ名	太宰府市の文化財
シリーズ番号	124集
編著者	高橋　学、中島恒次郎
編集機関	太宰府市教育委員会
所在地	福岡県太宰府市観世音寺1丁目1番1号
発行年月日	2015（平成27）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	条坊 【鎮山推定案】	ふりがな 所在地	コード		座標		調査期間		調査面積 ㎡	調査原因
			市町村	遺跡番号	X	Y	開始	終了		
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第275次	条坊内	太宰府市 朱雀3丁目	402214	210050-275	55788.0	-44667.0	20080806	20090610	1600	共同住宅 商業施設
だざいふじょうぼうあと 大宰府条坊跡　第285次	条坊内	太宰府市 朱雀3丁目	402214	210050-285	55729.0	-44665.0	20101019	20120322	1890	共同住宅 商業施設

所収遺跡名	遺跡種別	時代	主要遺構	主要遺物	特記事項
大宰府条坊跡 第275次	都城	奈良、平安	掘立柱建物 溝、井戸、土坑、道路、窯	土器・陶磁器・瓦・木器・金属器	
大宰府条坊跡 第285次	都城	奈良、平安	掘立柱建物 溝、井戸、土坑	土器・陶磁器・瓦・ 木器（木製陽物）・金属器	

太宰府市の文化財第124集

大宰府跡1

—大宰府条坊跡第275・285次調査—

平成27（2015）年3月31日

編集　太宰府市教育委員会文化財課
発行　〒818-0198
福岡県太宰府市観世音寺1丁目番1号
印刷　大成印刷株式会社
〒812-0892　福岡市博多区東那珂3丁目6-62